〒371 前橋市上泉町664－4
前橋市教育委員会管理部文化財保護
TEL 0272－31－9531

柳久保遺跡群Ⅵ

1988

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

柳久保遺跡群 Ⅵ

―城南住宅団地内造成内発掘調査報告書―

1988

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序　　文

前橋市は上毛三山の一峰赤城山を北に望み、坂東太郎で名高い利根川の清流が市街地の西部を流れる、詩情豊かな県都である。

赤城南麓、前橋台地上には旧石器時代から人々の生活の痕跡を示す遺物が認められ、縄文時代から近代に至るまで、数多くの遺跡が存在する。特に古墳時代には前橋天神山古墳を始め数々の古墳が作られ、東国の中心とも言える文化を築いています。

柳久保遺跡は前橋市工業団地造成組合による城南住宅団地造成に伴う発掘調査である。調査は昭和59年度から行なわれ、昭和62年度が最終年度となります。

本報告書を刊行するにあたり物心両面から援助、協力をいただいた前橋市工業団地造成組合に厚くお礼を申し上げます。

また本発掘調査に際し、山武考古学研究所・所長をはじめ調査担当者・作業員に感謝申し上げます。

本報告書が斯学の発展のため寄与できれば幸いと存じます。

昭和63年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　関口和雄

例　　言

1．本書は、前橋市荒子町に所在する城南住宅団地造成予定地における柳久保遺跡群中鶴谷遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は前橋市工業団地造成組合（管理者　清水一郎）の依頼により前橋市教育委員会指導のもと山武考古学研究所が担当した。

3．現地調査は山武考古学研究所調査研究員千田幸生、肥田順一が行なった。

4．本書の作成、図面整理において郡司勝子、平山史子、増田敏子、福地文子、芦田和義の協力を得た。

5．本書の遺構写真は、千田、肥田が撮影し、遺物写真は千田、調査研究室室長大和久震平が撮影した。

6．墨書土器の赤外線テレビカメラによる撮影は国立歴史民俗博物館歴史研究部の平川南氏にお願いした。

7．本書の編集は千田が行ない平岡和夫が総括した。

8．本書の執筆分担は以下の通りである。

福田紀雄　第Ⅰ章

千田幸生　第Ⅲ章第1、3節　第Ⅳ章　第Ⅴ章　第Ⅵ章Ⅰ

肥田順一　第Ⅱ章　第Ⅲ章第2節　第Ⅵ章Ⅱ

附章は元国立科学博物館研究部の山内文氏に鑑定を依頼し、玉稿を賜った。

9．発掘調査から本書刊行に至るまで、下記の機関に御指導、御助言を賜った。記して感謝の意を表す次第であります。

前橋市教育委員会、前橋市工業団地造成組合

凡　　例

1．本書に使用した遺構番号は現地調査において使用したものをそのまま用いている。このため住居址、井戸には欠番が生じている。

住居址　8・13・19・22・25・34・49・55・59・68号住居址　井戸　7・9号井戸

2．第1図は国土地理院発行2万5千分の1「大胡」を使用した。

3．スクリントーンは遺構で焼土の範囲を示し、遺物で繊維土器の断面、灰釉陶器内黒処理土器を示す。

4．古墳石室は保存されるため、石室展開図に使用してあるスクリントーンは未調査部分を示す。

5．遺物断面の黒塗りは須恵器を示す。

6．挿図中のドットは床着の遺物を示し、●で土器、▲で鉄器、■で石製品を示す。

7．遺物の写真横に付した番号は、挿図中の番号と一致し、写真を割愛した遺物の番号は欠番となっている。

目　　次

本　文　目　次

序　　文

例　　言

凡　　例

第Ⅰ章　調査に至る経違……1

第Ⅱ章　遺跡の位置と考古学的環境……3

第1節　遺跡の位置……3

第2節　考古学的環境……3

第Ⅲ章　調査の概要……5

第1節　調査の方法……5

第2節　調査の経過……5

第3節　土　　層……6

第Ⅳ章　検出された遺構と遺物……7

第1節　縄文・弥生時代の遺構と遺物……7

第1項　土　　坑……7

第2項　遺構外出土遺物……9

第2節　古墳・歴史時代の遺構と遺物……11

第1項　住　居　址……11

第2項　掘立柱建物址……117

第3項　井　　戸……123

第4項　土　　坑……125

第5項　炭　　窯……130

第6項　柵　　列……130

第7項　溝……130

第8項　古　　墳……131

第Ⅴ章　ま　と　め……137

第Ⅵ章　考　　察……139

Ⅰ　集落の変遷について……139

Ⅱ　墨書土器について……141

附　章　科学分析　中鶴谷遺跡出土の木片・種……145

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡……２
第２図　調査区設定図……４
第３図　標準堆積土層……６
第４図　遺跡全測図……折込図
第５図　87号土坑出土遺物……７
第６図　縄文時代試掘抗・土坑……８
第７図　遺構外出土土器……９
第８図　遺構外出土石器……10
第９図　１号住居址・出土遺物……11
第10図　２号住居址……12
第11図　２号住居址出土遺物……13
第12図　３号住居址・出土遺物……14
第13図　４号住居址・出土遺物……15
第14図　５号住居址……17
第15図　５号住居址出土遺物……18
第16図　６号住居址・出土遺物……19
第17図　７号住居址・出土遺物……20
第18図　９号住居址（1）……21
第19図　９号住居址（2）・出土遺物……22
第20図　10号住居址・出土遺物……24
第21図　11号住居址・出土遺物……25
第22図　12号住居址・出土遺物……26
第23図　14号住居址・出土遺物……27
第24図　15号住居址・出土遺物……28
第25図　16号住居址・出土遺物……29
第26図　17号住居址……30
第27図　18号住居址・出土遺物……31
第28図　20号住居址・出土遺物……32
第29図　21号住居址・出土遺物……33
第30図　23号住居址・出土遺物……34
第31図　24号住居址・出土遺物……36
第32図　26号住居址……37
第33図　26号住居址出土遺物……38
第34図　27号住居址・出土遺物……39
第35図　28号住居址……40
第36図　29号住居址・出土遺物……41
第37図　30号住居址……42
第38図　31号住居址・出土遺物……43
第39図　32号住居址・出土遺物……44
第40図　33号住居址……46
第41図　33号住居址出土遺物……47
第42図　35号住居址……48
第43図　35号住居址出土遺物・
　　36号住居址・出土遺物……49
第44図　37号住居址……50
第45図　37号住居址出土遺物（1）……51
第46図　37号住居址出土遺物（2）……52
第47図　38号住居址・出土遺物……53
第48図　39号住居址……54
第49図　39号住居址出土遺物（1）……55
第50図　39号住居址出土遺物（2）……56
第51図　40号住居址・出土遺物……57
第52図　41号住居址・出土遺物……58
第53図　42号住居址……59
第54図　42号住居址出土遺物……60
第55図　43号住居址・出土遺物……61
第56図　44号住居址・出土遺物……62
第57図　45号住居址……64
第58図　45号住居址出土遺物……65
第59図　46号住居址……65
第60図　47号住居址……66
第61図　48号住居址（1）……66
第62図　48号住居址（2）……67
第63図　48号住居址出土遺物（1）……67
第64図　48号住居址出土遺物（2）……68
第65図　50号住居址・出土遺物……70

第66図　51号住居址・出土遺物……71
第67図　52号住居址・出土遺物……73
第68図　53号住居址・出土遺物……74
第69図　54号住居址・出土遺物……75
第70図　56号住居址・出土遺物……75
第71図　57号住居址……76
第72図　57号住居址出土遺物……77
第73図　58号住居址・出土遺物……79
第74図　60号住居址・出土遺物……80
第75図　61号住居址（1）……81
第76図　61号住居址（2）・出土遺物……82
第77図　62号住居址・出土遺物……84
第78図　63号住居址・出土遺物……85
第79図　64号住居址……86
第80図　65号住居址……87
第81図　65号住居址出土遺物……88
第82図　66号住居址・出土遺物……89
第83図　67号住居址・出土遺物……90
第84図　69号住居址……91
第85図　70号住居址・出土遺物……92
第86図　71号住居址・出土遺物……93
第87図　72号住居址・出土遺物……94
第88図　73号住居址……95
第89図　74号住居址・出土遺物……96
第90図　75号住居址……97
第91図　75号住居址出土遺物……98
第92図　76号住居址・出土遺物……99
第93図　77号住居址……99
第94図　78号住居址・出土遺物……100
第95図　79号住居址・出土遺物……101
第96図　80号住居址・出土遺物……102
第97図　81号住居址……103
第98図　81号住居址出土遺物……104
第99図　82号住居址……105
第100図　82号住居址出土遺物……106
第101図　83号住居址……107
第102図　84号住居址……107
第103図　84号住居址出土遺物……108
第104図　85号住居址……108
第105図　86号住居址……109
第106図　86号住居址出土遺物……110
第107図　87号住居址……111
第108図　88号住居址・出土遺物……112
第109図　89号住居址……112
第110図　90号住居址……113
第111図　90号住居址出土遺物……114
第112図　91号住居址・出土遺物（1）……115
第113図　91号住居址出土遺物（2）……116
第114図　1・2号掘立柱建物址……117
第115図　3・4号掘立柱建物……118
第116図　5・6・7号掘立柱建物址……119
第117図　8・9号掘立柱建物址……120
第118図　10・11号掘立柱建物址……121
第119図　12・13号掘立柱建物址……122
第120図　井戸出土遺物……123
第121図　井　　戸……124
第122図　90号土坑出土遺物（1）……127
第123図　90号土坑出土遺物（2）……128
第124図　炭　　窯……130
第125図　柵　　列……130
第126図　古墳全測図……131
第127図　古墳展開図・掘り方……132
第128図　古墳周溝・前庭断面……133
第129図　古墳周溝・石室出土遺物……134
第130図　古墳前庭出土遺物（1）……135
第131図　古墳前庭出土遺物（2）……136
第132図　集落変遷図……138
第133図　Ⅰ～Ⅷ期出土遺物……140
第134図　90号土坑……141
第135図　3・10号井戸出土木片……143

図　版　目　次

図版１－１　調査前全景（南側から）
　　２　確認全景（南側から）
図版２－１　全景南側（東側から）
　　２　終了全景（空撮）
図版３－１　１号住居址
　　２　２号住居址
　　３　３号住居址
　　４　４号住居址
　　５　５号住居址
　　６　６号住居址
　　７　７号住居址
　　８　９号住居址
図版４－１　10号住居址
　　２　11号住居址
　　３　12号住居址
　　４　14・15号住居址
　　５　16号住居址
　　６　17号住居址
　　７　18号住居址
　　８　20号住居址
図版５－１　21号住居址
　　２　23号住居址
　　３　24号住居址
　　４　26号住居址
　　５　27号住居址
　　６　28号住居址
　　７　29号住居址
　　８　30号住居址
図版６－１　31号住居址
　　２　32号住居址
　　３　33号住居址
　　４　35号住居址
　　５　36号住居址
図版６－６　37号住居址
　　７　38号住居址
　　８　39号住居址
図版７－１　40号住居址
　　２　41号住居址
　　３　42号住居址
　　４　43号住居址
　　５　44号住居址
　　６　45号住居址
　　７　46号住居址
　　８　47号住居址
図版８－１　48号住居址
　　２　50号住居址
　　３　51号住居址
　　４　52号住居址
　　５　53号住居址
　　６　54・56号住居址
　　７　57号住居址
　　８　58号住居址
図版９－１　60号住居址
　　２　61号住居址
　　３　62号住居址
　　４　63号住居址
　　５　65号住居址
　　６　66号住居址
　　７　67号住居址
　　８　69号住居址
図版10－１　70・88号住居址
　　２　71号住居址
　　３　72号住居址
　　４　73号住居址
　　５　74号住居址
　　６　75号住居址

図版10－7　76号住居址
8　77号住居址
図版11－1　78号住居址
2　79・80号住居址
3　81号住居址
4　82号住居址
5　83号住居址
6　84・85号住居址
7　86号住居址
8　87号住居址
図版12－1　64・89・90号住居址
2　91号住居址
3　1号掘立柱建物址
4　3号掘立柱建物址
5　5号掘立柱建物址
6　8号掘立柱建物址
7　9号掘立柱建物址
8　10号掘立柱建物址
図版13－1　1号井戸
2　2号井戸断面
3　3号井戸
4　5号井戸
5　6号井戸
6　13号井戸
7　35号土坑
8　72号土坑
図版14－1　64号土坑
2　75号土坑
3　76号土坑
4　78号土坑
5　83号土坑
6　84号土坑
図版14－7　85号土坑
8　87号土坑
図版15－1　90号土坑遺物出土状況
2　90号土坑
3　炭　窯
4　柵　列
5　古墳全景
図版16－1　古墳・石室
2　古墳・周溝北側断面
3　古墳・前庭断面
4　古墳・前庭遺物出土状況（1）
5　古墳・前庭遺物出土状況（2）
6　古墳・石室掘り方
7　古墳・石室奥壁
図版17　2・3・4・5・6・7・9号住居址出土遺物
図版18　11・16・20・21・23・24・26・29・33・35・37号住居址出土遺物
図版19　37・38・39号住居址出土遺物
図版20　39・40・41・42・44・45号住居址出土遺物
図版21　48・50・52・57・60・62・63号住居址出土遺物
図版22　65・74・75・79・82・84・86・91号住居址出土遺物
図版23　住居址出土墨書土器・石製品・鉄製品・木製品
図版24　井戸・土坑出土遺物
図版25　古墳出土遺物
図版26　縄文土器・石器・弥生土器

表　目　次

表1　遺跡地名表……2
表2　縄文時代土坑一覧表……7
表3　1号住居址出土遺物観察表……11
表4　2号住居址出土遺物観察表……12
表5　3号住居址出土遺物観察表……12
表6　4号住居址出土遺物観察表……14
表7　5号住居址出土遺物観察表……16
表8　6号住居址出土遺物観察表……18
表9　7号住居址出土遺物観察表……21
表10　9号住居址出土遺物観察表……23
表11　10号住居址出土遺物観察表……25
表12　11号住居址出土遺物観察表……25
表13　12号住居址出土遺物観察表……26
表14　14号住居址出土遺物観察表……27
表15　15号住居址出土遺物観察表……28
表16　16号住居址出土遺物観察表……29
表17　18号住居址出土遺物観察表……30
表18　20号住居址出土遺物観察表……32
表19　21号住居址出土遺物観察表……33
表20　23号住居址出土遺物観察表……35
表21　24号住居址出土遺物観察表……35
表22　26号住居址出土遺物観察表……38
表23　27号住居址出土遺物観察表……39
表24　29号住居址出土遺物観察表……41
表25　31号住居址出土遺物観察表……43
表26　32・33号住居址出土遺物観察表……45
表27　35号住居址出土遺物観察表……47
表28　36号住居址出土遺物観察表……50
表29　37号住居址出土遺物観察表……52
表30　38号住居址出土遺物観察表……53
表31　39号住居址出土遺物観察表……56
表32　40号住居址出土遺物観察表……57
表33　41号住居址出土遺物観察表……58
表34　42号住居址出土遺物観察表……60
表35　43号住居址出土遺物観察表……62
表36　44号住居址出土遺物観察表……63
表37　45号住居址出土遺物観察表……63
表38　48号住居址出土遺物観察表……69
表39　50号住居址出土遺物観察表……70
表40　51号住居址出土遺物観察表……72
表41　52号住居址出土遺物観察表……72
表42　53号住居址出土遺物観察表……74
表43　54号住居址出土遺物観察表……75
表44　56号住居址出土遺物観察表……75
表45　57号住居址出土遺物観察表……78
表46　58号住居址出土遺物観察表……79
表47　60号住居址出土遺物観察表……81
表48　61号住居址出土遺物観察表……83
表49　62号住居址出土遺物観察表……83
表50　63号住居址出土遺物観察表……86
表51　65号住居址出土遺物観察表……88
表52　66号住居址出土遺物観察表……90
表53　67号住居址出土遺物観察表……90
表54　70号住居址出土遺物観察表……92
表55　71号住居址出土遺物観察表……94
表56　72号住居址出土遺物観察表……95
表57　74号住居址出土遺物観察表……97
表58　75号住居址出土遺物観察表……98
表59　76号住居址出土遺物観察表……99
表60　78号住居址出土遺物観察表……100
表61　79号住居址出土遺物観察表……102
表62　80号住居址出土遺物観察表……102
表63　81号住居址出土遺物観察表……104
表64　82号住居址出土遺物観察表……106
表65　84号住居址出土遺物観察表……108
表66　86号住居址出土遺物観察表……110
表67　88号住居址出土遺物観察表……111
表68　90号住居址出土遺物観察表……114
表69　91号住居址出土遺物観察表……116
表70　井戸一覧表……123
表71　井戸出土遺物観察表……123
表72　古墳・歴史時代土坑一覧表（1）…125
表73　古墳・歴史時代土坑一覧表（2）…126
表74　90号土坑出土遺物観察表……128
表75　柵列（ピット）計測表……130
表76　古墳周溝・石室出土遺物観察表…135
表77　古墳前庭出土遺物観察表……136
表78　墨書土器一覧表……113

第Ⅰ章　調査に至る経緯

昭和57年12月に前橋市工業団地造成組合（管理者　清水一郎）より城南住宅団地造成区内に埋蔵文化財の有無の調査依頼が前橋市教育委員会にあった。そこで教育委員会は昭和58年１月末に城南住宅団地造成予定地内の遺物分布状況の調査を実施した。その結果当該地区の台地上に遺物包蔵地、谷地部分に浅間Ｂ軽石下の水田址が推定された。さらに遺跡の調査範囲を把握するために試掘調査をして、より精度が高い調査計画を策定する必要があった。

試掘調査は前橋市教育委員会の指導のもと前橋市発掘調査団が実施することになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団は試掘調査業務を山武考古学研究所に依頼をし、昭和59年10月から昭和60年２月にかけて実施した。

その結果遺構・遺物の集中地区と遺構の内容・性格等が把握された。試掘調査結果に基づき昭和60年度、昭和61年度、昭和62年度の調査計画が立案された。

本開発地区面積が20haに及ぶため造成計画、造成工区分けに基づき３ヶ年で市教育委員会と前橋市埋蔵文化財発掘調査団（業務実施は山武考古学研究所）が分担調査を実施する。

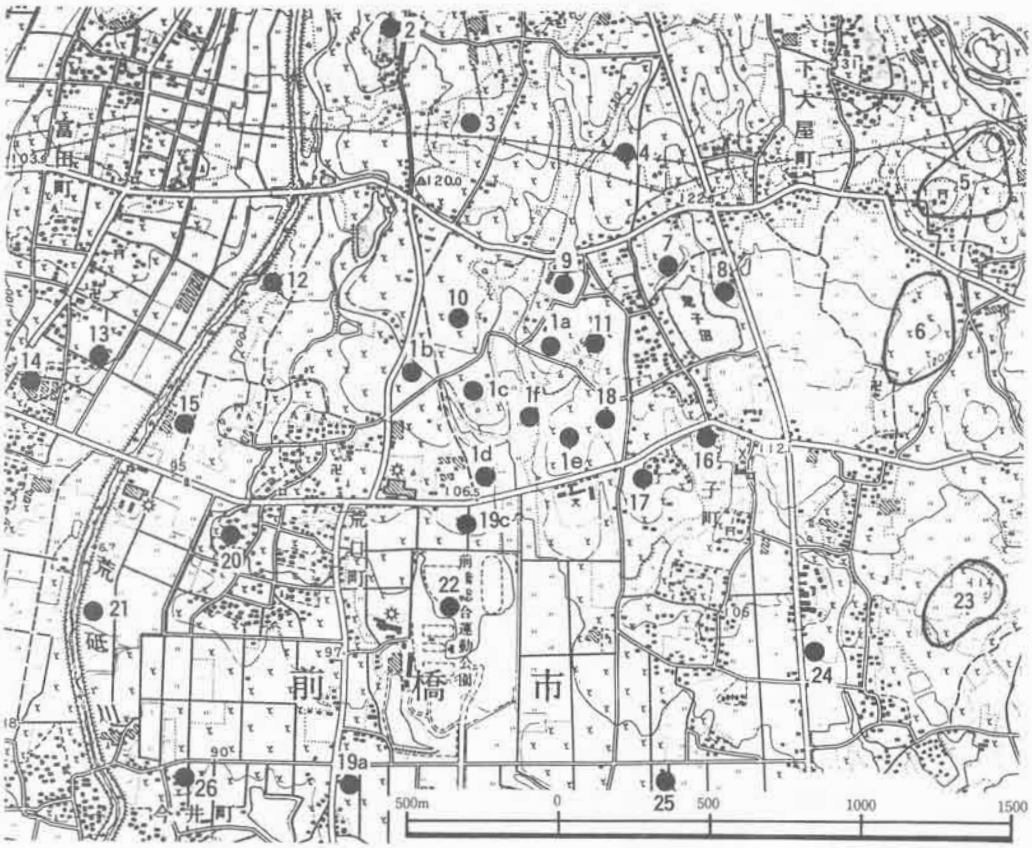
最終年度にあたる昭和62年度は第３工区の北側を山武考古学研究所が実施し、南側を市教育委員会が実施する。

調査組織

団　　長	関口　和雄	（前橋市教育委員会　教育次長）
調査指導	福田　紀雄	（前橋市教育委員会　文化財保護室　室長）
	浜田　博一	（前橋市教育委員会　文化財保護室　係長）
	平岡　和夫	（山武考古学研究所　所長）
	大和久震平	（山武考古学研究所　室長）
調査担当	千田　幸生	（山武考古学研究所　調査研究員）
	肥田　順一	（山武考古学研究所　調査研究員）

発掘作業参加者

阿久沢静　阿久沢福造　新井ヒロ子　飯島キク枝　飯島奈美知　飯島美枝　石関こずえ　石関とく子　井田晃一郎　井田年代　梅沢八重子　大沢一江　大沢光子　大沢やよい　大塚作一　小川悦子　小倉いちの　勝田きみ江　鹿沼さとゐ　神沢方子　木島ヒサ子　小屋たみ子　小屋ハル子　高坂エイ子　高坂花子　高坂やす　高坂やすの　高坂なみ　小林厚　坂巻光江　佐鳥直子　新保永二　新保勝太郎　新保隆　新保富恵　新保昌子　新保まつ　新保松乃　須藤か津ゑ　須藤なを子　須藤理恵野　須藤ハツ江　鳥山初子　蜂須賀もとめ　羽鳥イソヨ　堀越うめ子　堀越くに子　堀越豊　松永シマ子　真庭卯平　真庭とし　森下幸司　山口きく　山田由美子　横沢信子　六本木勝造　六本木とも



第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡

表1　遺跡地名表

No.	遺跡名		概要	No.	遺跡名	概要
1	柳久保遺跡群			12	荒砥諏訪西遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
	a	中鶴谷遺跡	古墳後期～平安集落、古墳。	13	東原遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
	b	諏訪遺跡	溝。	14	宮下遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
	c	柳久保遺跡	先土器、縄文包含層、古墳前期～平安集落。古墳。	15	荒砥宮田遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
	d	下鶴谷遺跡	先土器、縄文包含層・前期住居、奈良集落。	16	荒砥中屋敷遺跡	古墳後期・平安集落
	e	頭無遺跡	先土器、縄文包含層。	17	荒砥下押切遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
	f	柳久保水田址	B軽石下水田。	18	頭無遺跡	平安集落。
2	丸山遺跡		奈良・平安集落他。	19	荒砥大日塚遺跡	a区　古墳後期・奈良・平安集落。
3	新山遺跡		古墳群他。			c区　古墳後期集落他。
4	上西原遺跡		基壇を有する柱穴列と溝、奈良・平安集落。	20	荒口前原遺跡	平安住居他。
5	伊勢山古墳群			21	荒砥北原遺跡	奈良・平安集落他。
6	阿久山古墳群			22	鶴谷遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
7	川龍皆戸遺跡		奈良・平安集落他。	23	立野古墳群	
8	堤東遺跡		奈良平安集落他。	24	荒砥荒子遺跡	古墳後期・奈良・平安集落他。
9	荒子小学校校庭遺跡		古墳後期・奈良集落、須恵窯。	25	荒砥上之坊遺跡	奈良・平安集落他。
10	柳久保遺跡		古墳後期・平安住居、古墳	26	荒砥北三本堂遺跡	古墳後期集落、古墳他。
11	大久保遺跡		奈良・平安集落。			

第Ⅱ章　遺跡の位置と考古学的環境

第1節　遺跡の位置　（第1図）

柳久保遺跡群は前橋市の東部にある荒口町字諏訪、荒子町字柳久保・下鶴谷・中鶴谷・頭無に所在し、西方の市街地には約8㎞、北方の勢多郡大胡町には約2.5㎞、東方の佐波郡赤掘村には約4㎞の距離にある。

本遺跡群の立地する赤城山南麓は緩やかで、広大な裾野地形となり、赤城・榛名・浅間山等の火山灰が風化したローム層によって厚く覆われている。この斜面を荒砥川・神沢川などの多くの中小河川や溜池・沼を水源とした河川が南下して、舌状台地・沖漬地・裾野扇状地を形成している。

本遺跡群は大胡町の千貫沼を水源とする宮川の中流に存在し、遺跡群東側を宮川の開析谷が南北に走る。この本谷と東西に樹枝状に延びる支谷が台地を分断して舌状台地を形成している。これらの台地上に各遺跡が存在する。西側の同一台地上には北に諏訪遺跡、南に下鶴谷遺跡、中央の台地には柳久保遺跡、東側の台地には北に中鶴谷遺跡、南に頭無遺跡がある。また、宮川の沖積地には柳久保水田址が存在する。標高は103ｍ～116ｍである。

中鶴谷遺跡は本遺跡群北東側の舌状台地と台地先端部の沖積地に所在する。標高は台地北東部が115ｍと高く、北から南に緩やかに傾斜するが、台地先端部はやや傾斜を強める。西側斜面は傾斜が強い。沖積地は標高104ｍ～105ｍで、現水田面との標高差がない。台地、沖積地とも近年まで桑畑となっていた。

第2節　考古学的環境　（第1図）

柳久保遺跡群周辺には、旧石器時代から近世に至る多くの遺跡が存在する。また、近年、土地改良事業や大規模な開発事業に伴う発掘調査によって遺跡数も急増している。

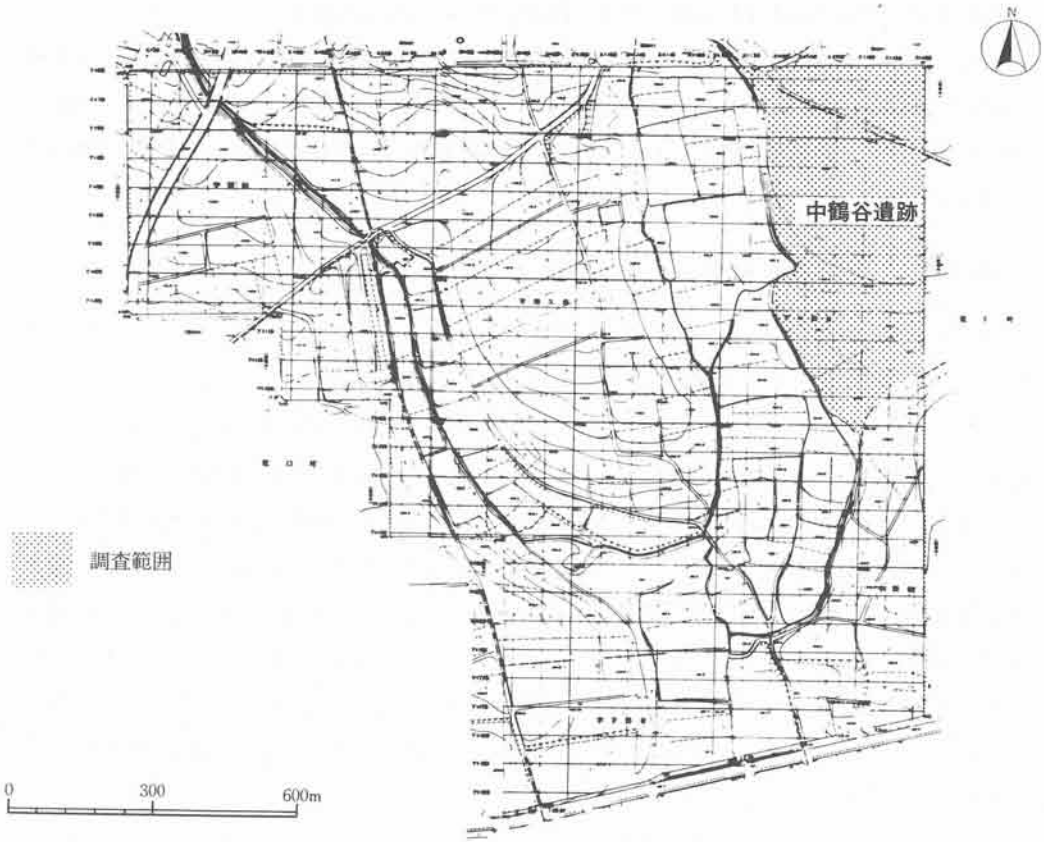
中鶴谷遺跡の調査では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺構を検出したが、ここでは特に遺構の多かった古墳時代、奈良・平安時代を中心に、周辺の遺跡を概観してみたい。

本遺跡群のある荒砥地区は、古墳の多い群馬県下にあっても、有数の古墳密集地域である。遺跡群の東を流れる神沢川流域には、国指定の三二子古墳をはじめ、伊勢山古墳群（5）、阿久山古墳群（6）、立野古墳群（23）などがある。また、西を流れる荒砥川流域にも多くの古墳群が見られる。本遺跡群内でも4基の古墳が調査された。柳久保遺跡（1ｃ）の台地北端で3基、中鶴谷遺跡（1ａ）で、1基である。また、ほ場整備事業に先行して調査された柳久保遺跡（10）でも古墳2基が調査されている。その他、新山遺跡（3）、東原遺跡（13）、荒砥諏訪西遺跡（12）、荒砥宮田遺跡（15）、荒砥北三木堂遺跡（26）があげられる。

一方、古墳時代の集落は縄文・弥生時代と比べると、遺構数が圧倒的に増加する。本遺跡群の中鶴谷遺跡（1ａ）では古墳時代後期の集落、柳久保遺跡（1ｃ）では古墳時代前・中・後期

の集落が検出された。後者のように前・中・後期を通じて人々の生活した遺跡は、鶴谷遺跡(22)、荒砥宮田遺跡（15）があげられる。また、中・後期の遺構の検出された遺跡は、荒砥北三木堂遺跡（26）がある。

奈良・平安時代となると近隣した台地上に多数の集落が出現する。本遺跡群においても中鶴谷遺跡（1ａ）、柳久保遺跡（1ｃ）、下鶴谷遺跡（1ｄ）に集落が作られる。さらに近接する台地上に柳久保遺跡（10)、大久保遺跡（11)、頭無遺跡（18）がある。また荒砥上之坊遺跡（25）では約200軒の住居が調査されており、上西原遺跡（4）では、住居址89軒と、一辺約70ｍの溝で方形に区画された中に、溝と柱穴列によって囲まれた基壇建物跡や掘立柱建物跡が検出され、本地域の発展の様子を窺うことができる。その他に、丸山遺跡（2)、川籠皆戸遺跡（7)、堤東遺跡（8)、荒砥小学校校庭遺跡（9)、荒砥諏訪西遺跡（12)、東原遺跡（13)、宮下遺跡（14)、荒砥宮田遺跡（15)、荒砥中屋敷遺跡（16)、荒砥下押切遺跡（17)、荒砥大日塚遺跡（19)、荒砥北原遺跡(21)、鶴谷遺跡(22)、荒砥荒子遺跡(24)があげられる。また、柳久保水田址(1ｆ)、荒砥諏訪西遺跡（12)、荒砥宮田遺跡（15)、荒砥大日塚遺跡（19）で、浅間Ｂ軽石によって埋没した水田址が検出されている。



第2図　調査区設定図

第Ⅲ章　調査の概要

第1節　調査の方法　（第2図）

今回の本調査は柳久保遺跡群の発掘調査の最終年度にあたり、中鶴谷遺跡（第15地点）の全面調査（21,000㎡）である。

調査グリッドは、公共座標を基準に20×20ｍの大グリッドを設定し、更にその中を４×４ｍの小グリッドに分割した。

表土排土後、確認精査を行ない遺構確認図を製作し、遺構調査を行なった。遺構調査と併行して２×２ｍの縄文包含層及び遺構確認用の試掘グリッドを68ケ所掘り下げた。その結果縄文時代の遺構及び遺物が検出されたグリッドは任意に拡張して調査を行なった。

第2節　調査の経過

中鶴谷遺跡の本調査は、61年度と62年度に分けて実施した。61年度の調査は11月４日から12月24日まで、62年度の調査は４月６日から９月25日までである。

昭和62年11月４日より中鶴谷遺跡北側部分（道路より北側の3,700㎡）の表土排土を開始した。11月中は下鶴谷遺跡（第13地点）、柳久保遺跡（第16地点）と併行して調査を行なった為、表土排土、遺構確認を終了したに留まった。

12月に入り、本格的に中鶴谷遺跡の遺構調査に着手した。中旬には旧石器、縄文包含層の試掘調査を行なったが、関連する遺構及び遺物は検出されなかった。12月24日に全体測量図の作成を終え、61年度の調査を終了した。

62年度は残りの南側部分（道路より南側の17,300㎡）の調査を４月６日より開始した。４月は表土排土、遺構確認を行なった。遺構確認は南側斜面を除いた部分を終えたところで一時中断し、古墳・溝・土坑・炭窯・ピットの遺構調査を行なった。

５月中旬には表土排土、遺構確認が終了し、古墳周溝と重複する64・89・90号住居址を調査した。また５月下旬より他の住居址の調査を開始した。調査は住宅団地造成の工程上、南から北へ進めた。古墳の調査は５月末に終了した。

６・７月は住居址の調査を進め、７月中旬より８月上旬まで旧石器、縄文包含層の試掘を行なった。

８月７日から作業員の人数を減らし、カマドの調査、実測を行なった。８月下旬には中鶴谷遺跡、頭無遺跡（第16地点）の現地説明会を開いた。また、空撮を行なった。

９月上旬は主に実測を行ない、９月中旬から下旬にかけて図面、遺物の整理をして、中鶴谷遺跡の全調査を終了した。

昭和61年度調査（11月４日―12月25日）

表土排土　11月４日―14日

遺構確認　11月17日、27日、28日

遺構調査　12月５日―12月23日

旧石器、縄文包含層の試掘調査　　12月11日、12日

全体測量図作成　　12月23日、24日

昭和62年度調査（４月６日―９月25日）

表土排土　　４月８日―５月１日

遺構確認　　４月10日―４月28日、5月8日、11日、12日

遺構確認図作成　　４月17日、18日、20日

遺構調査　　４月21日―９月８日

旧石器、縄文包含層の試掘調査　　７月16日―８月６日

現地説明会　　８月22日、23日

空撮　　８月28日

全体測量図作成　　９月８日―９月10日

図面、遺物の整理　　９月10日―９月23日

器材搬出　　９月21日

調査終了　　９月25日

第３節　土　　層　（第３図）

調査査区北東側X154．Y75グリッドで観察した。Ⅲ層上面が古墳時代以降の遺構確認面で、Ⅳ層が縄文時代の遺物包含層及び確認面である。

Ⅰ層　黒褐色土　表土。浅間A軽石を少量含む。

Ⅱ層　黒褐色土　浅間C軽石をやや多く含み、榛名山二ツ岳FPを少量含む。

Ⅲ層　暗褐色土　C軽石を少量含む。

Ⅳ層　褐　色土　班状に暗褐色土を含み、少量のローム粒子を含む。

Ⅴ層　明褐色土　ソフトローム層。

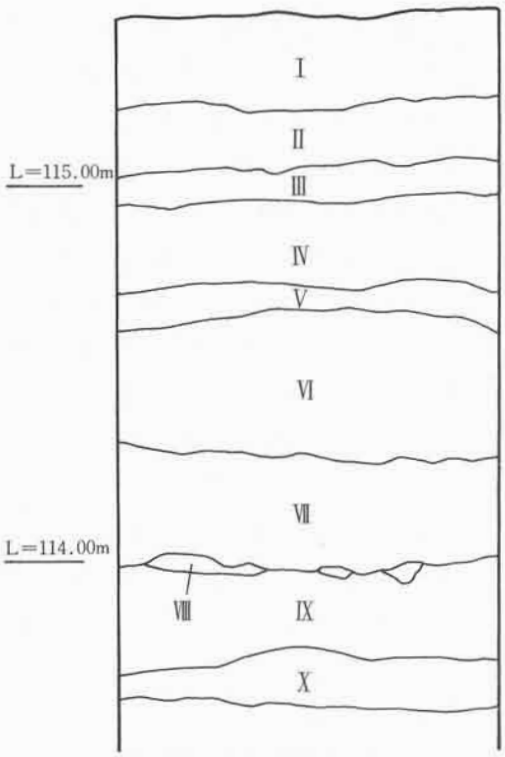
Ⅵ層　黄褐色土　ハードローム層。直径１㎜以下の白色の軽石を含む。

Ⅶ層　黄褐色土　ハードローム層。白色の軽石がⅥ層より少ない。

Ⅷ層　茶褐色土　鹿沼軽石層。

Ⅸ層　黄褐色土　Ⅵ・Ⅶ層よりやや暗いローム層

Ⅹ層　灰褐色土　粘土層



第３図　標準堆積土層

第Ⅳ章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文・弥生時代の遺構と遺物

本遺跡で検出された縄文・弥生時代にかかわる遺構は縄文時代の土坑14基である。14基のうち陥し穴状を呈する土坑が12基、貯蔵穴状を呈する土坑２基である。弥生時代の遺構はない。

遺物は縄文時代前期・中期を中心とする土器片、石器類が大型整理箱２箱分出土し、弥生時代後期の土器片も数点出土している。

第１項　土　　坑　（第６図　図版14　表２）

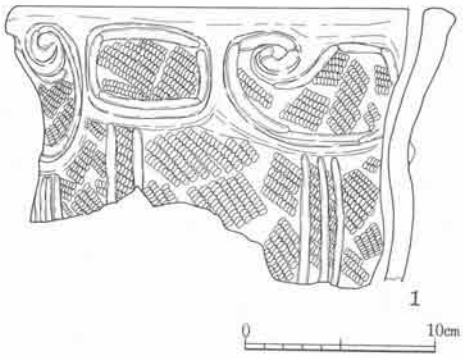
検出された14基の土坑は、主軸方向、位置などに企画性がない。またそれぞれの土坑からは土器片もほとんど出土していない。しかし、古墳時代以降の遺構とは層位が明らかに異なり、縄文時代の土坑と考えられる。尚87号土坑からは中期の土器が出土している。

87号土坑出土遺物（第５図　図版26）

平縁の口縁で楕円形の区画が口縁部に認められる。胴部は巾の狭い懸垂文があり、地文は縄文である。下半部は欠損している。

本坑の覆土上層出土土器で、中期後半加曽利ＥⅢ式土器である。

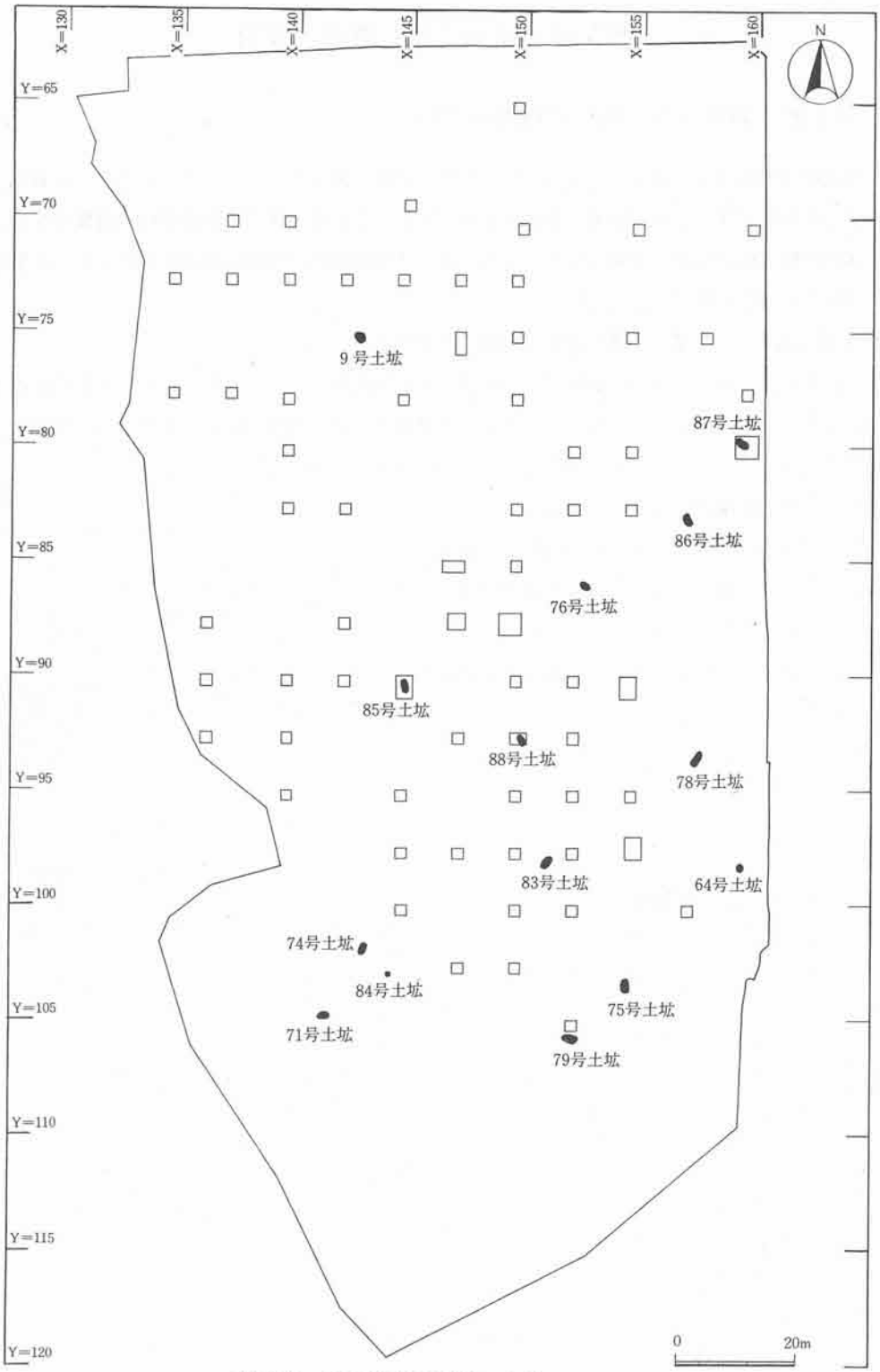
本遺物は本坑に併なうものか不明である。



第５図　87号土坑出土遺物

表２　縄文時代土坑一覧表

番号	検出グリッド	主軸方向	平面形	規模（m）長軸　短軸	深さ(cm)	備　　考
9	X＝142　Y＝ 75	N－68°－W	(楕円形)	1.75×不明	55	試堀坑にかかる。陥し穴状。
64	X＝159　Y＝ 98	－	楕円形	1.36×1.14	71	貯蔵穴状。
71	X＝141　Y＝104	N－79°－E	楕円形	1.99×1.25	93	X＝140　Y＝104にまたがる。陥し穴状。
74	X＝142　Y＝101	N－21°－E	隅丸長方形	1.70×0.70	95	X＝142　Y＝102にまたがる。陥し穴状。
75	X＝154　Y＝103	N－ 6°－W	不整形	2.57×1.34	112	陥し穴状
76	X＝152　Y＝ 86	N－66°－W	楕円形	1.83×1.03	77	ピット2。陥し穴状。
78	X＝158　Y＝ 93	N－31°－E	楕円形	2.63×1.30	185	ピット5。陥し穴状。
79	X＝151　Y＝105	N－68°－W	楕円形	2.39×不明	110	X＝152　Y＝105にまたがる。陥し穴状。
83	X＝150　Y＝ 98	N－48°－E	楕円形	2.86×1.56	125	陥し穴状。
84	X＝143　Y＝102	－	円　形	0.95×0.95	55	X＝144　Y＝103にまたがる。貯蔵穴状。
85	X＝144　Y＝ 90	N－17°－W	楕円形	2.20×1.16	65	陥し穴状。
86	X＝156　Y＝ 83	N－29°－W	楕円形	2.30×1.26	106	陥し穴状。
87	X＝159　Y＝ 79	N－53°－W	瓢箪形	2.53×1.07	128	陥し穴状。中期加曽利Ｅ式土器出土。
88	X＝149　Y＝ 92	N－33°－W	楕円形	2.20×1.10	80	陥し穴状。



第6図　縄文時代試掘抗・土坑

第２項　遺構外出遺物

土　　器　（第７図　図版26）

11片について掲げた。１～10までは縄文土器、11は弥生土器である。

１～３は共に底部片で胎土中に繊維を多量に含む。１・２は尖底、３は上げ底ぎみの平底である。１・２は縄文が施文される。１・２は早期末葉から前期初頭、３は前期前葉と思われる。

４は平縁の口縁で竹管文が描かれる。５はほぼ完形に近く、沈線と地文に撚糸が認められる。４・５共に前期後半の土器で、４は諸磯ａ式、５は浮島Ⅰ式である。

６・７は中期中葉と思われ、６は平縁の口縁部片、７は胴部片である。

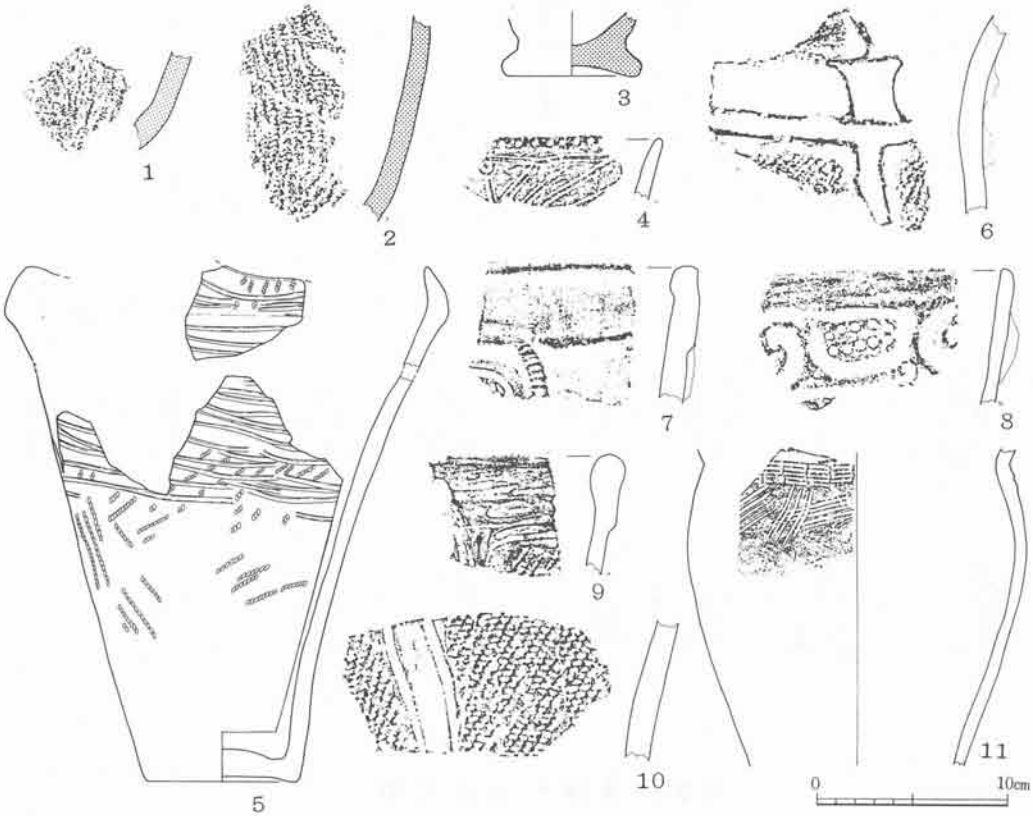
８・９・10は中期後葉加曽利Ｅ式と考えられる。８・10は平縁の口縁部片、９はキャリパー状に広がる胴部片で、加曽利Ｅ式でも後半に位置ずけられる。

11は弥生後期樽式の甕と思われ、頸部に等間隔止め簾状文が認められる。

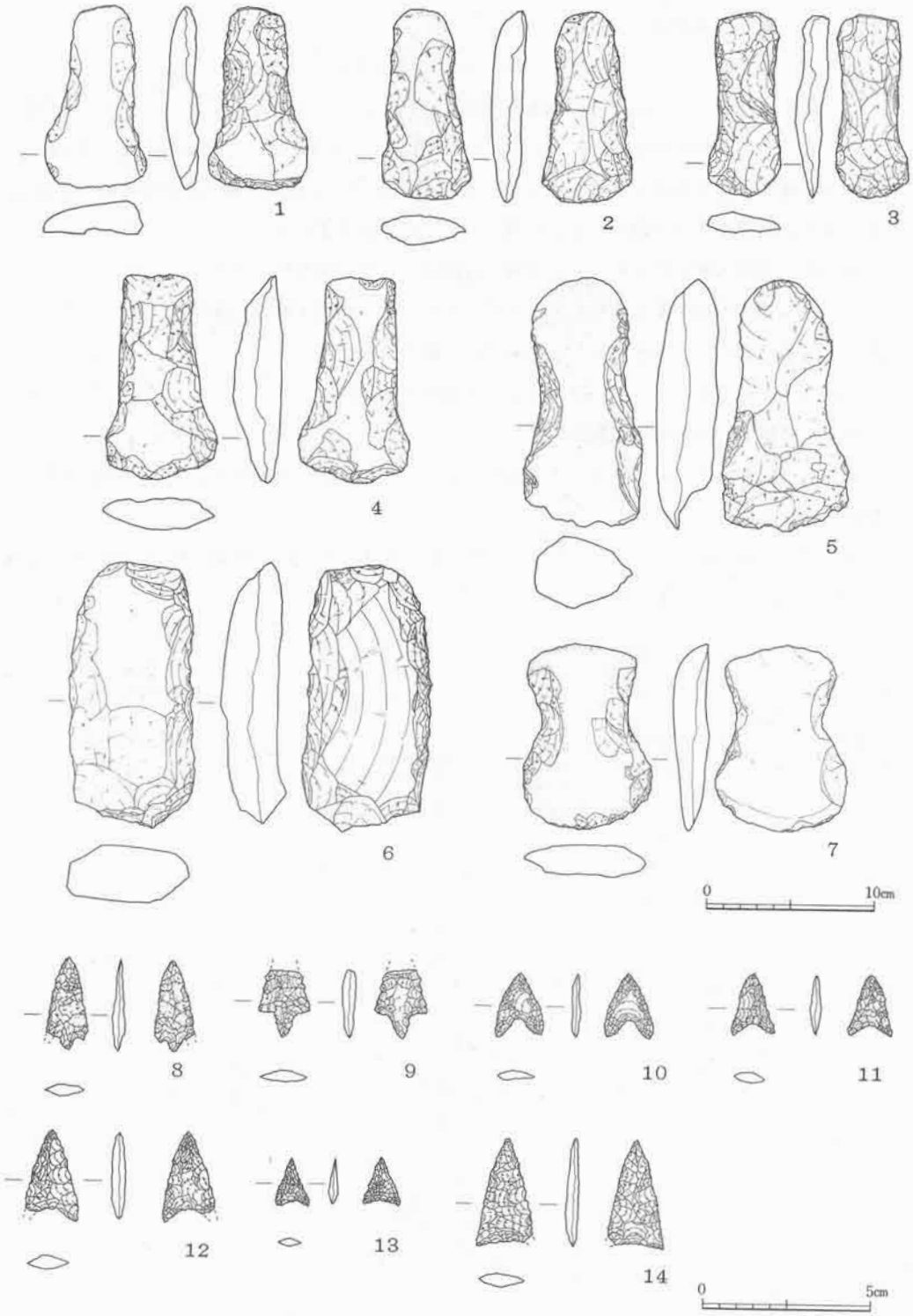
石　　器　（第８図　図版26）

１～７は打製石斧である。１～５は撥形、６は短冊形、７は分銅形を呈する。石材はすべて頁岩と考えられる。

８～14は石鏃である。８・９は有茎で、頁岩製である。10・11は黒曜石製で、10は快りが深い。12～14はチャート製である。



第７図　遺構外出土土器



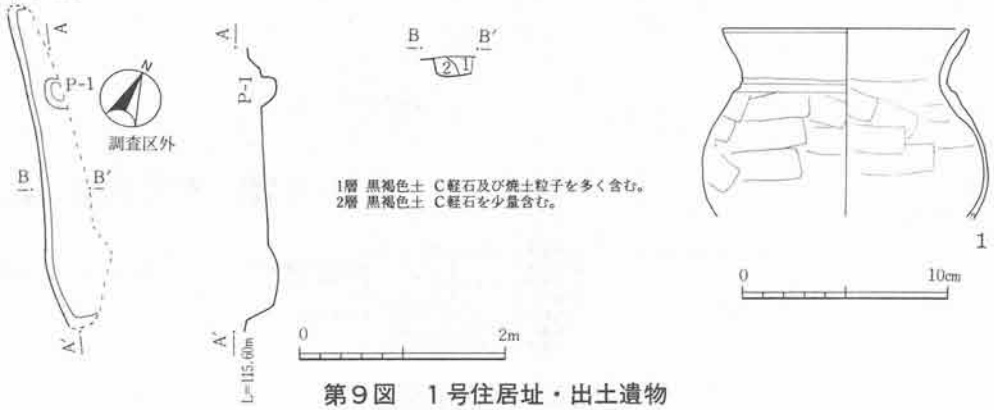
第8図　遺構外出土石器

第2節　古墳・歴史時代の遺構と遺物

住居址81軒、掘立柱建物址13棟、井戸址11基、土坑76基、炭窯1基、溝3条、柵列1列、古墳1基が検出された。各遺構の分布は南東側にやや多く集まる傾向にあり、北西側は少なくなる。

第1項　住　居　址

81軒が検出されている。古墳時代後期後半から平安時代の中頃にかけての集落である。各住居址は古墳時代のものは調査区南側に集まり、奈良・平安時代のものは北西側を除く全体に分布する。



第9図　1号住居址・出土遺物

1号住居址　（第9図　図版3－1　表3）

本址は調査区北東側X153・160、Y62・63グリッドで検出された。南西側を除く3方向が調査区外となっている。平面形、規模、主軸方向とも不明で壁高は20cmを計る。床面は平坦で踏み固めは認められない。

ピットは1基検出されている。壁溝、カマド等は不明である。

遺物は甕の破片が少量出土している。

表3　1号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師小形甕	口縁部 1/3	口径 12.0 残存高 9.3	口縁「く」の字状に外反する。器肉薄い。外面横方向のヘラ削り。内面横方向の削り。	緻密	良好	橙褐色	覆土

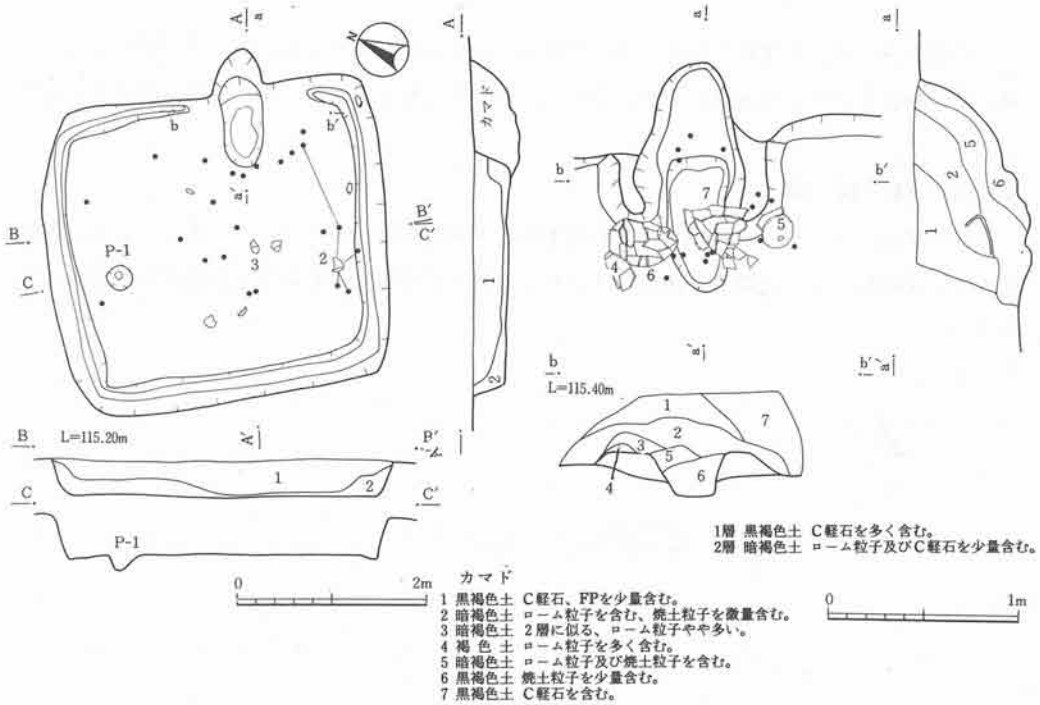
2号住居址　（第10・11図）　図版3－2・17　表4）

本址は調査区北東側X153・154、Y64・65グリッドで検出された。主軸方向はN－58°－Eである。規模は長軸3.5m、短軸3.2mでほぼ正方形を呈する。壁高は40cmを計り、床面は平坦で全体に踏み固めがやや認められる。

ピットは1基検出されている。壁構はカマド付近を除いて全周する。

カマド　東壁中央に位置する。袖は粘土で構築され、壁外への掘り込みは40cmである。

遺物はカマド、床着遺物共にやや多く出土している。



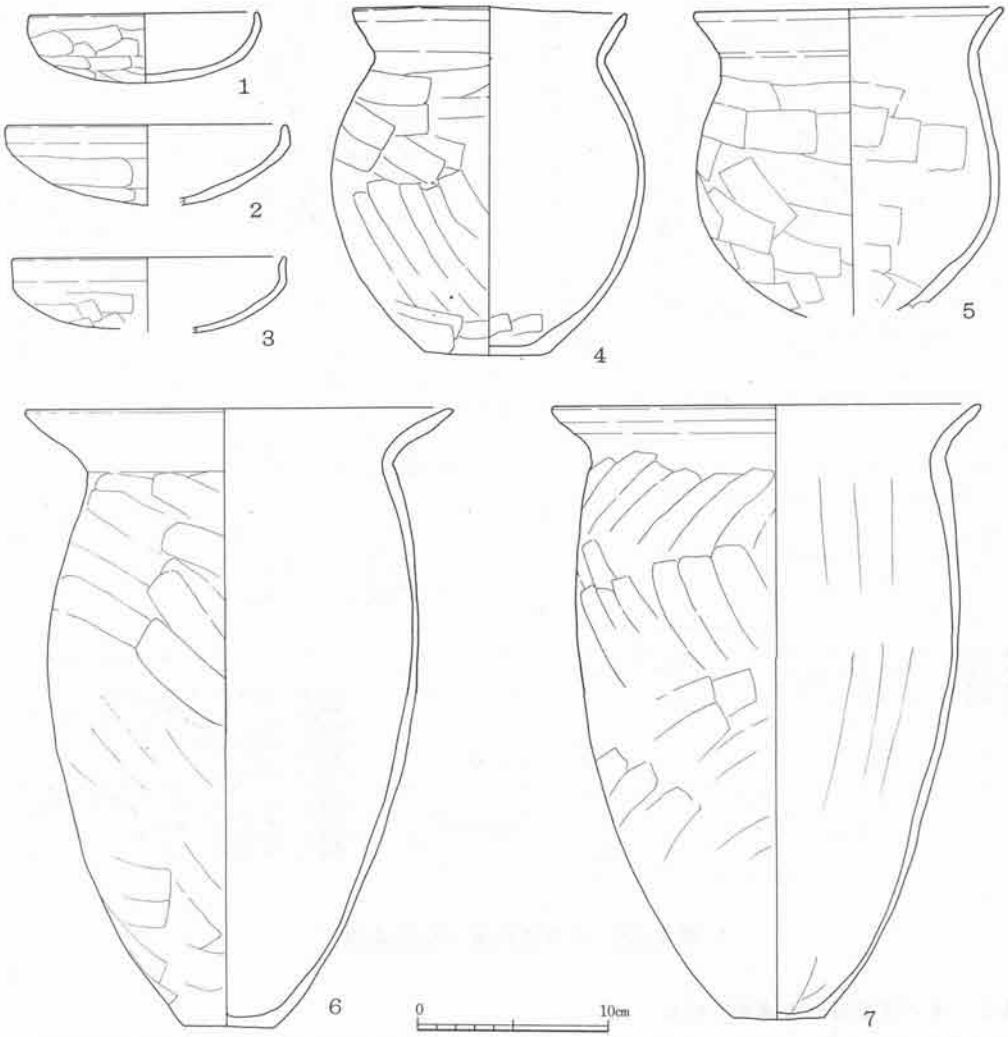
第10図　2号住居址

表4　2号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	完形	口径 12.0 器高 3.6	底部丸底。口縁部内湾ぎみに直立する。外面ナデ、指圧痕。	石英を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	ほぼ完形	口径 14.0 器高 4.7	底部丸底。口縁部弱い稜を持ち、内湾ぎみに直立。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	ほぼ完形	口径 14.4 器高 4.0	底部丸底。口縁部稜を持ち、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師小形甕	1/2	口径 14.4 器高 18.5 底径 6.6	口縁「く」の字状に外反する。外面上部横方向のヘラ削り。胴部は縦方向、底部付近は横方向のヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色 黒斑あり。	カマド
5	土師小形甕	底部欠	口径 16.4 残存高 16.2	口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面削りとナデ。	緻密	良好	橙褐色 黒斑あり。	カマド
6	土師甕	ほぼ完形	口径 22.6 器高 32.8 底径 4.8	口縁外反する。胴中央部ふくらむ。外面上部横方向のヘラ削り。胴部は縦、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	外面橙褐色。内面赤褐色。	カマド
7	土師甕	ほぼ完形	口径 22.7 器高 32.6 底径 4.8	口縁外反する。外面縦、斜方向のヘラ削り。	砂粒をやや多く含む。	良好	橙褐色	カマド

表5　3号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 13.5 器高 3.9	底部丸底。口縁部内湾ぎみに直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	4/5	口径 13.0 器高 3.6	底部丸底。口縁部内湾ぎみに直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着



第11図　2号住居址出土遺物

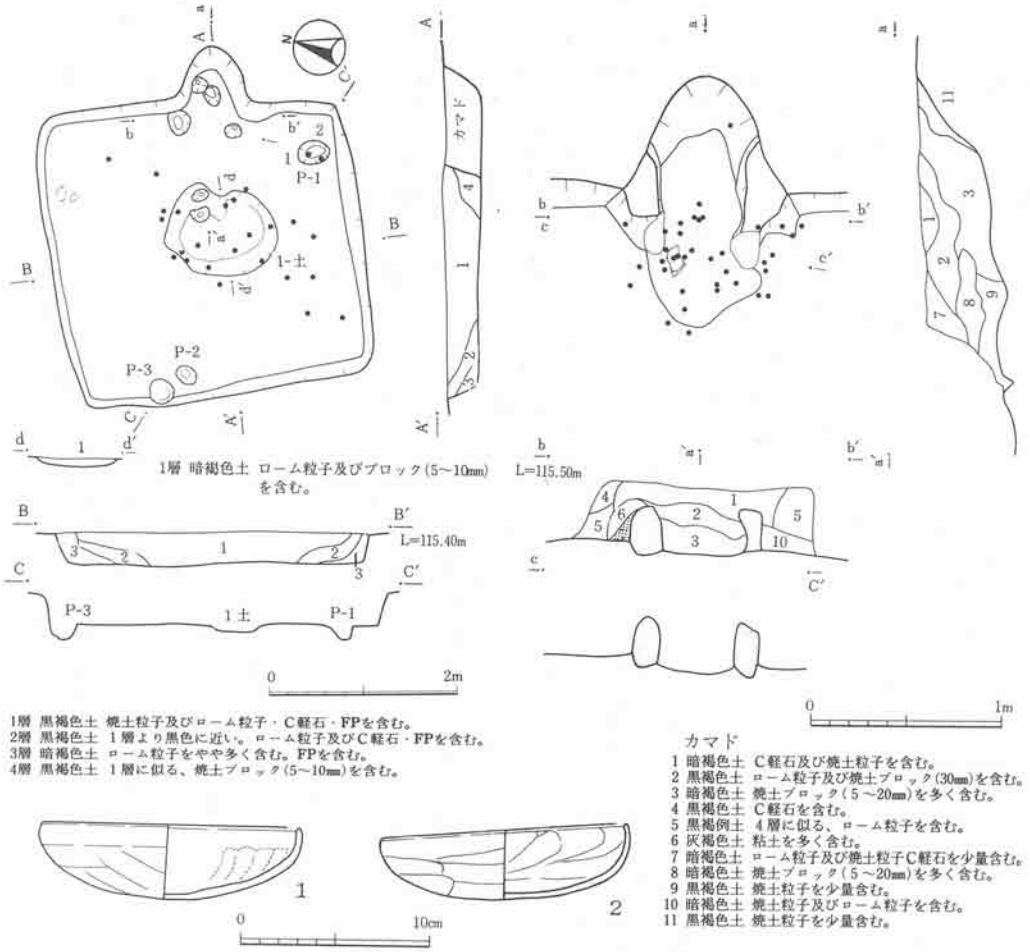
3号住居址　（第12図　**図版**3－3・17　表5）

本址は調査区北東側X158・159、Y65・66グリッドで検出された。主軸方向はN－73°－Eである。規模は1辺3.3mで正方形を呈する。壁高は30cmで、床面は全体に踏み固めが認められる。

ピットは中央に浅い掘り込みのもの1基と、小ピット3基が検出されている。壁高は検出されていない。

カマド　東壁中央に位置する。袖は粘土で構築され、補強材として石を利用している。壁外への掘り込みは55cmである。

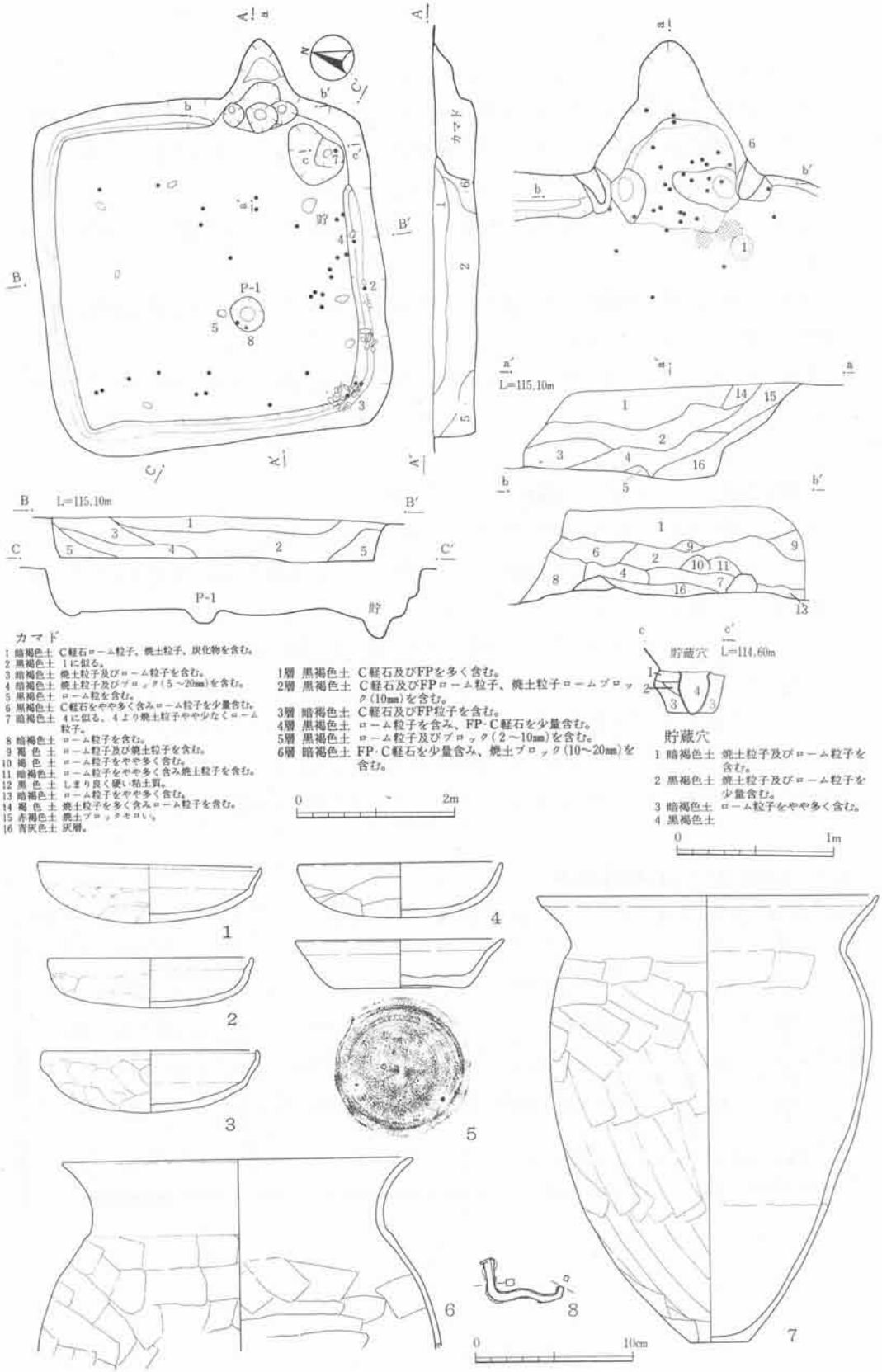
遺物は覆土中にやや多く、床着遺物は少ない。



第12図　3号住居址・出土遺物

表6　4号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 14.2 器高 4.1	底部丸底。口縁部稜を持ち外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	緻密	良好	橙褐色	カマド
2	土師坏	4/5	口径 13.0 器高 3.3	底部平底ぎみになる。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面口縁部の上半のみ横ナデを施し、稜線を境にヘラ削りとなる。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	4/5	口径 13.7 器高 3.5	底部丸底。口縁部指押さえによる弱い稜を持ち外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り、指圧痕。内面ナデ、指圧痕。	砂粒、石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	2/3	口径 13.0 器高 3.5	底部丸底。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	須恵坏	4/5	口径 13.2 器高 3.1 底径 8.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り調整。	石粒を含む。	良好	灰色	床着
6	土師甕	1/5	口径 22.3 残存高 12.3	胴部球形。口縁部外反する。外面胴部横方向のヘラ削り。内面ケズリ後、ナデ。	緻密	良好	外面赤褐色。内面橙褐色。	カマド
7	土師甕	ほぼ完形	口径 22.0 器高 28.8 底径 3.7	口縁部「く」の字状に外反する。器肉やや薄い。外面胴上部横方向の、中部以下縦方のヘラ削り。内面削りとナデ。輪ずみ痕残す。	緻密	良好	橙褐色、黒斑あり	貯蔵穴すす付着
8	鉄製品釘	先端欠		直角に折れている。断面は方形を呈する。全体に錆多く腐食している。				床着



第13図　4号住居址・出土遺物

4号住居址　（第13図　**図版**3－4・17　表6）

本址は調査区北東側X154・155、Y66・67・68グリッドで検出された。南側で6号住居址と近接する。主軸方向はN－81°－Eである。規模は1辺4.4mで正方形を呈する。壁高は55cmで、床面にはやや凹凸が認められ、踏み固めは弱いが認められる。

ピットは1基検出され、南東側には貯蔵穴がある。壁溝はカマドと貯蔵穴部分を除いて認められる。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されているが、依存状態は悪い。壁外への掘り込みは55cmである。

遺物は南側にやや多く集まる。南東側隅角より長さ15cm、幅5cm前後の棒状の石がやや多く出土している。

5号住居址　（第14・15図　**図版**3－5・17　表7）

本址は調査区北東側X157・158、Y67・68・69グリッドで検出された。主軸方向はN－17°－Eである。規模は長軸6.0m、短軸5.7mで方形を呈する。壁高は50cm、床面は平坦で、踏み固めはほとんど認められない。

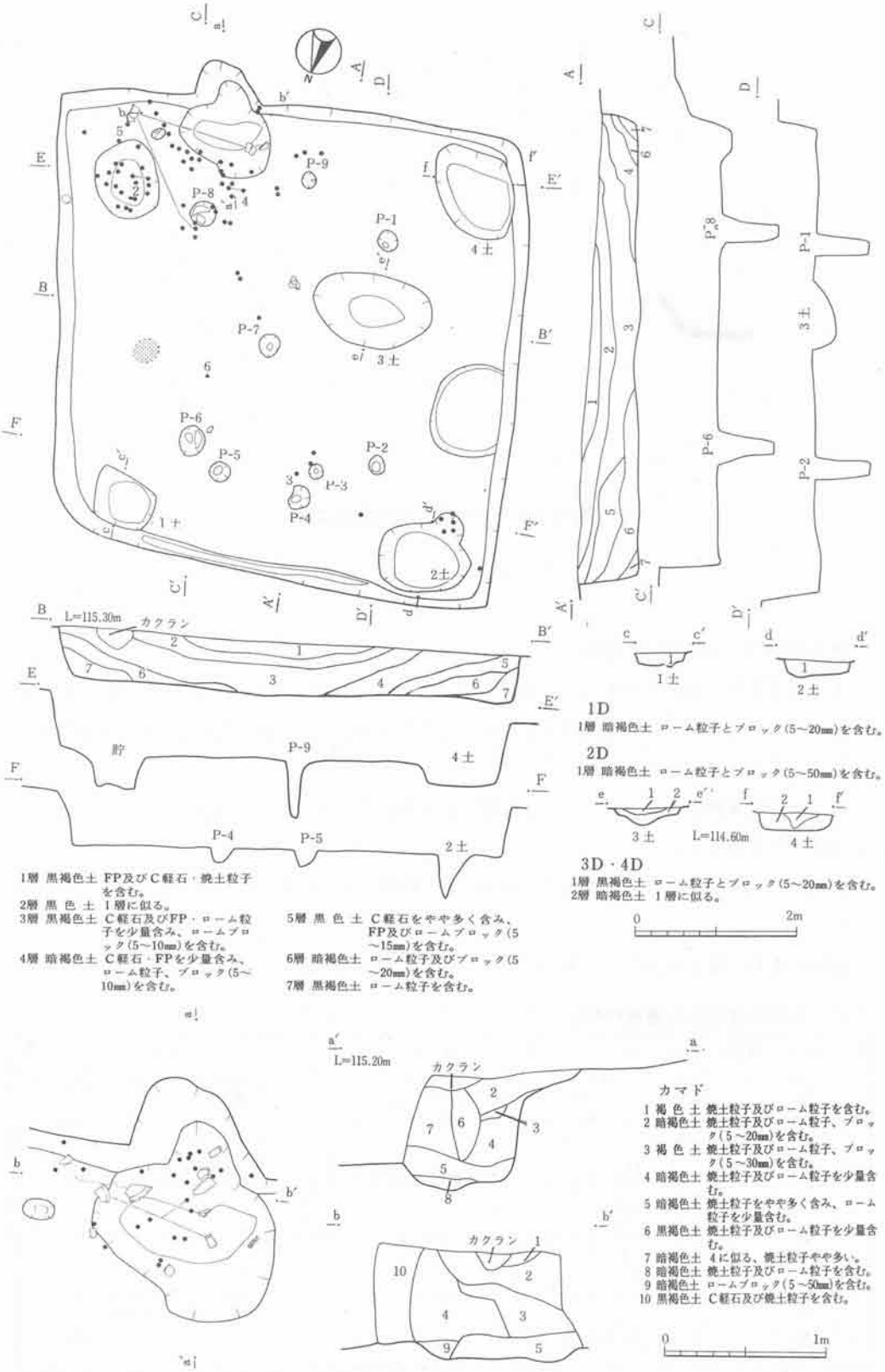
ピットは主柱穴4基、他に6基の計10基が認められ、他に南側壁際に貯蔵穴1基と土坑状の掘り込み5基が検出されている。壁溝は北側のみである。

カマド　南壁東寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは35cmである。カマドや床面の状態からこの住居址は短期間の使用と考えられる。

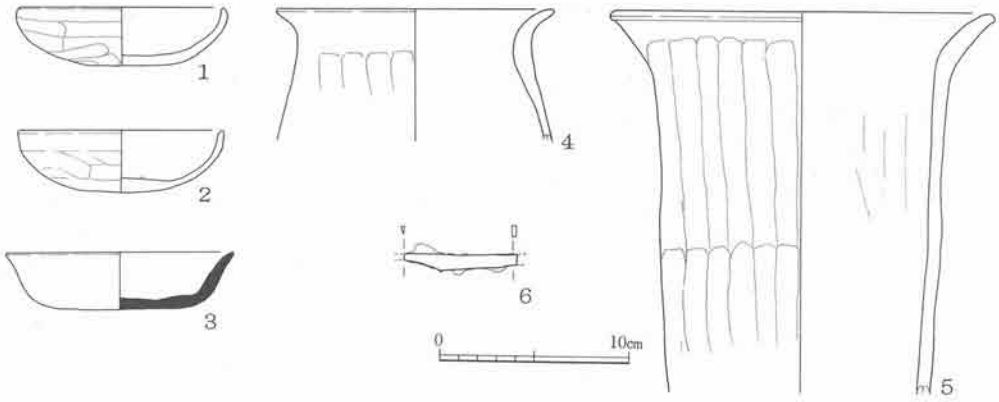
遺物は覆土上層に土器の細片が集中して検出され、床着遺物は比較的少ない。

表7　5号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	完形	口径 10.8 器高 3.1	底部丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	床着
2	土師 坏	1/3	口径 10.6 器高 3.3	底部丸底で肥厚する。口縁部弱い稜を持つ。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴
3	順恵 坏	2/3	口径 11.9 器高 3.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り調整。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	覆土
4	土師 甕	口縁部	口径 14.6 残存高 7.0	小形甕と思われる。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色	カマド
5	土師 甕	口縁部 2/3	口径 19.9 残存高 19.2	長胴甕。口縁部外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ケズリとナデ。	砂粒、石粒を多く含む。	やや不良	褐色	床着
6	鉄製品 刀子	刃身先欠	現存長 6.1	刃の部分内湾ぎみになる。				床着


P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
P-6
P-7
P-8
P-9
1土
2土
3土
4土
L=115.30m
カクラン
貯
L=114.60m
1D
1層 暗褐色土 ローム粒子とブロック(5～20mm)を含む。
2D
1層 暗褐色土 ローム粒子とブロック(5～50mm)を含む。
3D・4D
1層 黒褐色土 ローム粒子とブロック(5～20mm)を含む。
2層 暗褐色土 1層に似る。
1層 黒褐色土 FP及びC軽石・焼土粒子を含む。
2層 黒 色 土 1層に似る。
3層 黒褐色土 C軽石及びFP・ローム粒子を少量含み、ロームブロック(5～10mm)を含む。
4層 暗褐色土 C軽石・FPを少量含み、ローム粒子、ブロック(5～10mm)を含む。
5層 黒 色 土 C軽石をやや多く含み、FP及びロームブロック(5～15mm)を含む。
6層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(5～20mm)を含む。
7層 黒褐色土 ローム粒子を含む。
L=115.20m
カクラン
カマド
1 褐 色 土 焼土粒子及びローム粒子を含む。
2 暗褐色土 焼土粒子及びローム粒子、ブロック(5～20mm)を含む。
3 褐 色 土 焼土粒子及びローム粒子、ブロック(5～30mm)を含む。
4 暗褐色土 焼土粒子及びローム粒子を少量含む。
5 暗褐色土 焼土粒子をやや多く含み、ローム粒子を少量含む。
6 黒褐色土 焼土粒子及びローム粒子を少量含む。
7 暗褐色土 4に似る、焼土粒子やや多い。
8 暗褐色土 焼土粒子及びローム粒子を含む。
9 暗褐色土 ロームブロック(5～50mm)を含む。
10 黒褐色土 C軽石及び焼土粒子を含む。

第14号　5号住居址



第15図　5号住居址・出土遺物

6号住居址　（第16図　**図版**3－6・17　表8）

本址は調査区北東側X154・155、Y68・69グリッドで検出された。主軸方向はN－78°－Eである。規模は長軸5.8m、短軸4.7mで縦長長方形を呈する。壁高は72cmである。床面はほぼ平坦で、踏み固めはやや認められる。

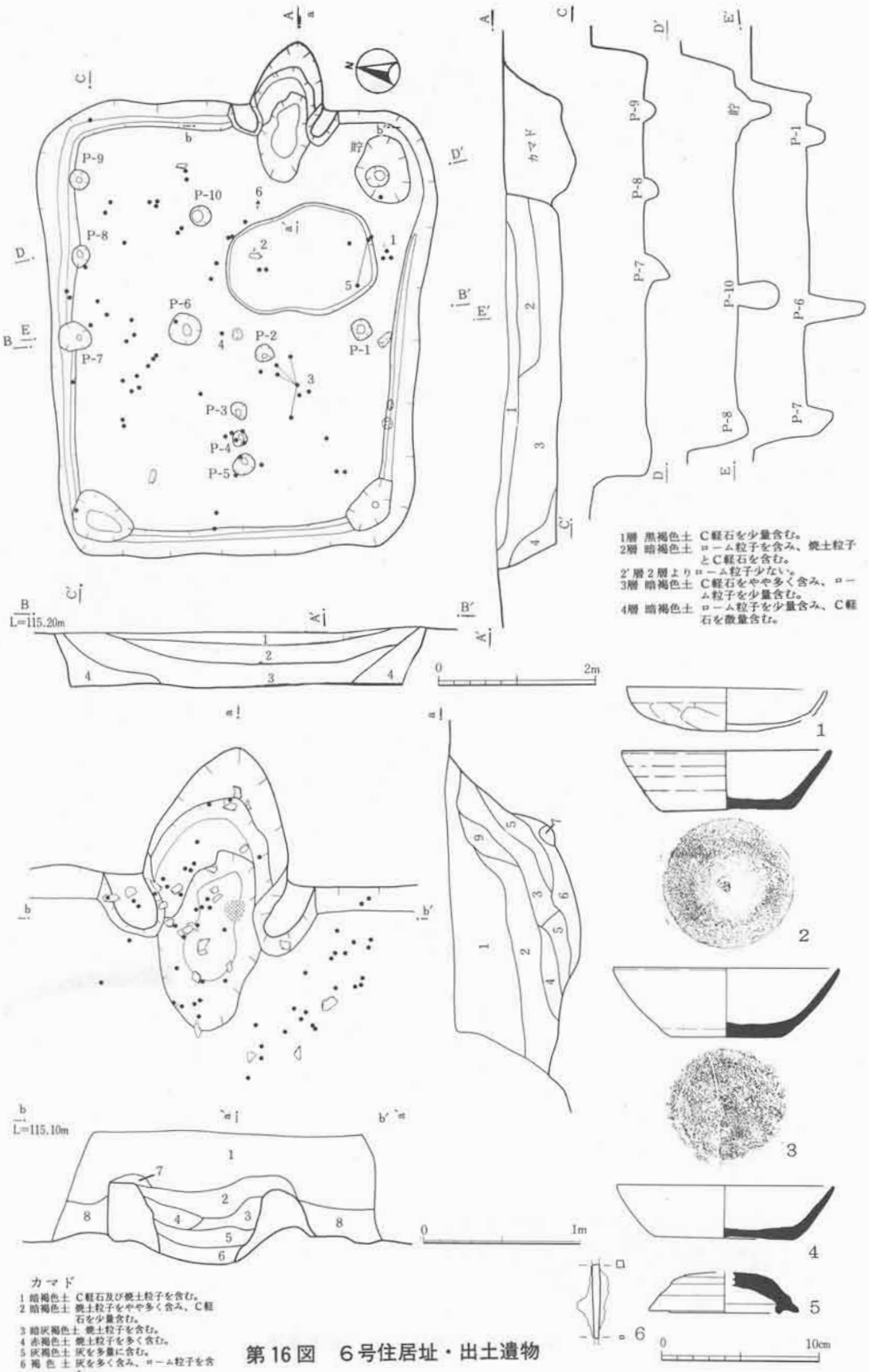
ピットは12基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。壁高はカマド、貯蔵穴付近を除いて全周する。

カマド　東壁中央寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは85cmである。

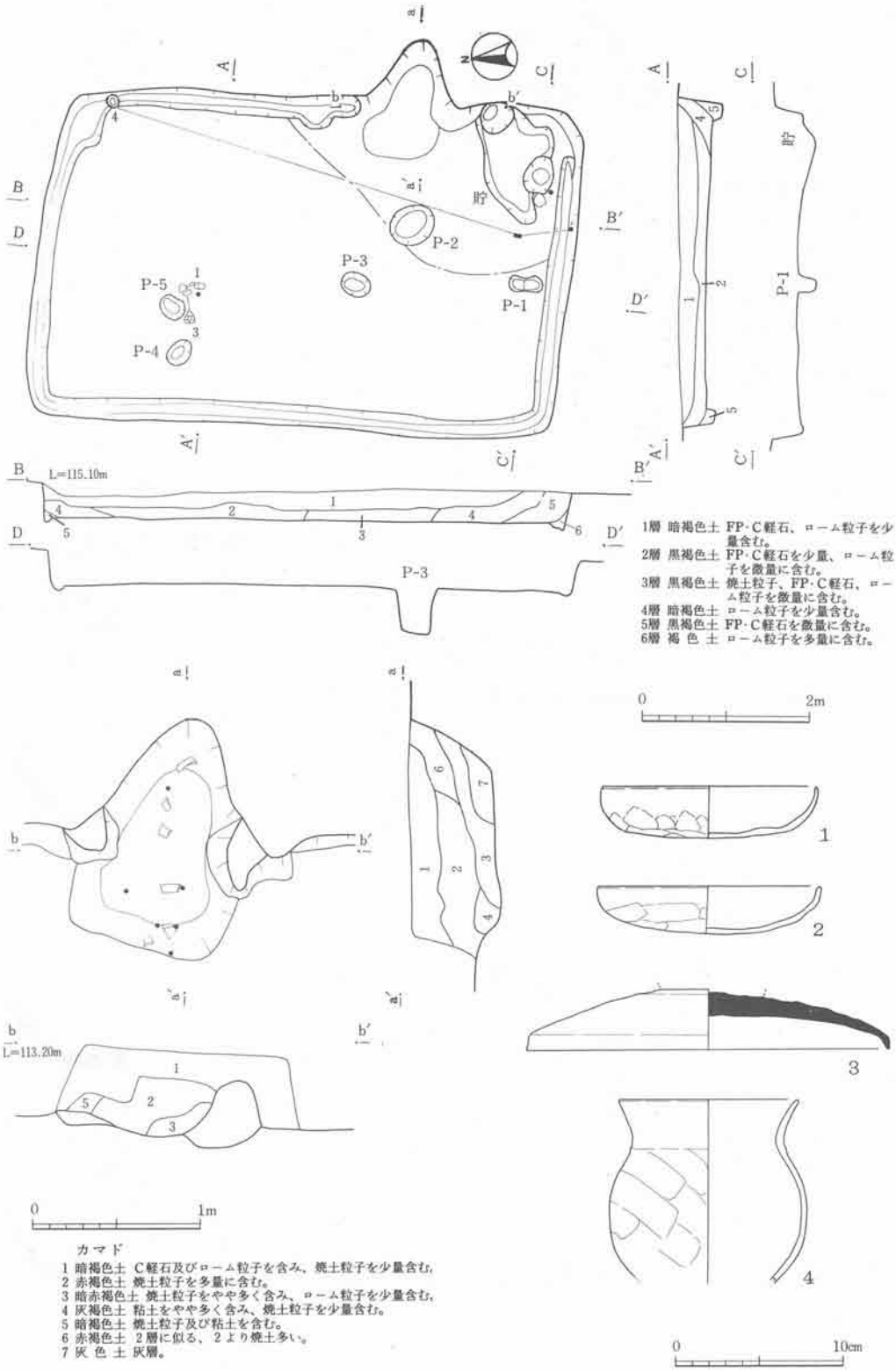
遺物は床着、覆土中共にやや多いが、ほとんどは細片である。

表8　6号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/3	口径 12.7 器高 2.7	底部平底に近くなる。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	須恵坏	完形	口径 13.3 器高 3.8 底径 8.5	口縁部外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
3	須恵坏	2/3	口径 14.4 器高 4.4 底径 7.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	緻密	良好	灰色	床着
4	須恵坏	3/4	口径 13.8 器高 3.4 底径 8.7	口縁部外反。ロクロ整形。底部回転ヘラ削りの後周辺部ヘラ削り調整。	石粒をやや多く含む。	良好	灰色	床着
5	須恵蓋	1/2	底径 9.4	かえりを有する。つまみ不明。ロクロ整形。	緻密	やや不良	外面灰色 内面褐色	覆土
6	鉄製品不明	刀身先，茎部欠	現存長 4.9	断面方形。釘であろうか。				覆土



第16図　6号住居址・出土遺物



第17図　7号住居址・出土遺物

7号住居址　（第17図　図版3－7・17　表9）

本址は調査区東側X158・159、Y76・77グリッドで検出された。主軸方向はN－103°－Eである。規模は長軸6.5m、短軸6.5m、短軸4.0mで横長長方形を呈する。壁高は40cmを計り、床面は平坦で南東部分に硬質部分がある。

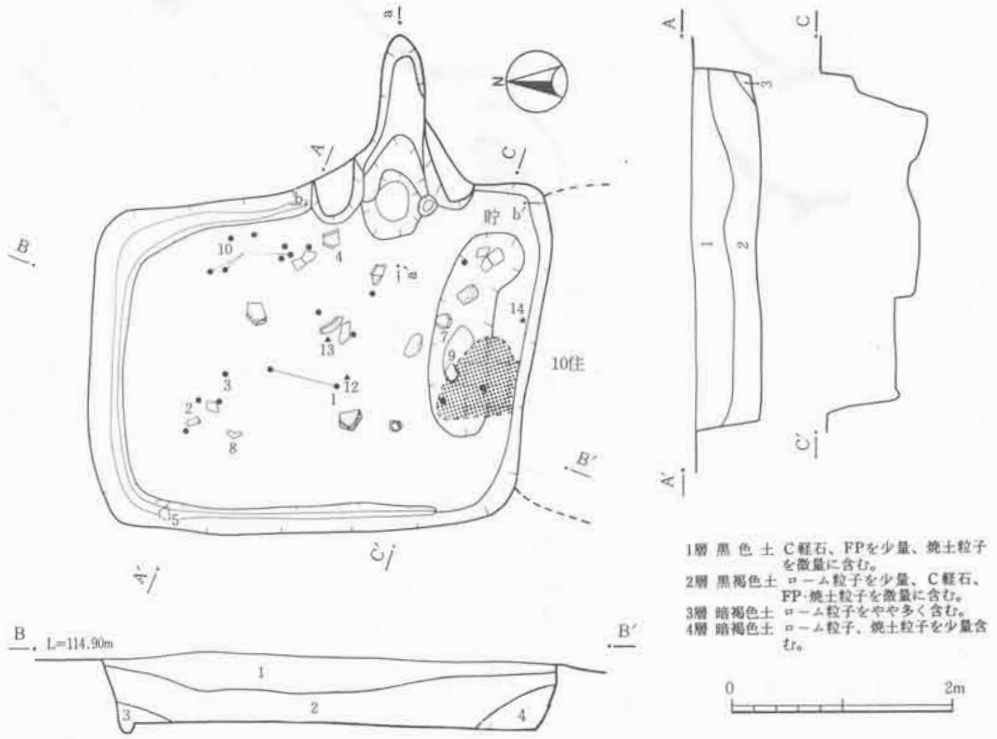
ピットは5基検出されているが、いずれも浅い。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。壁溝はカマド付近を除き全周する。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は依存状態が悪いが、粘土とロームの混合土で構築されている。壁外への掘り込みは70cmである。

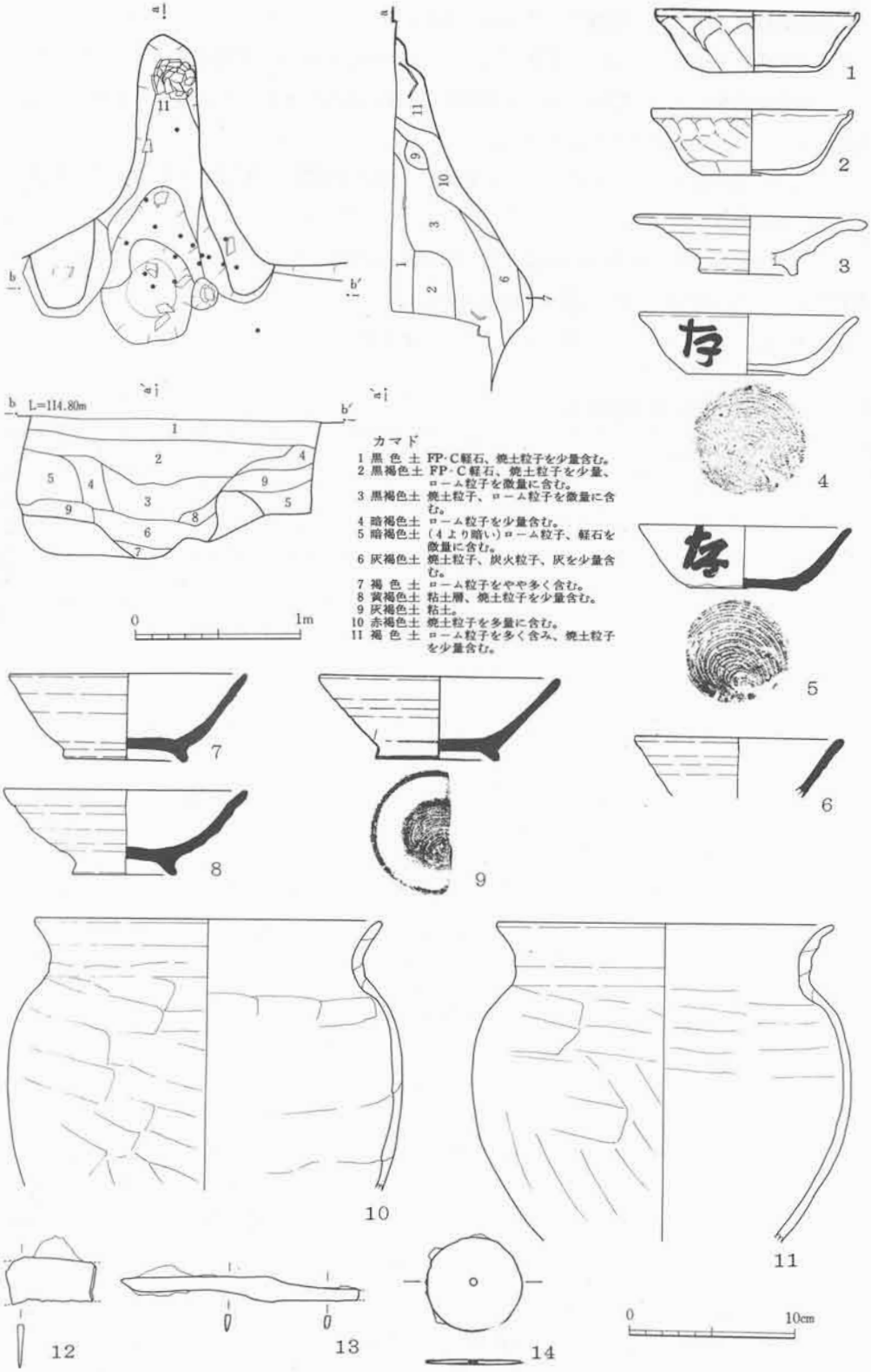
遺物は床着のものは少なく、覆土中にやや多く集まる。

表9　7号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 12.8 器高 3.3	底部平底に近くなる。口唇部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	3/4	口径 13.4 器高 3.2	底部平底に近くなる。口縁部外反ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒少量含む	良好	橙褐色	床着
3	須恵蓋	3/4	口径 21.8 残存高 3.7	つまみ欠損。口縁部かえりなく直角に近く曲がる。外面中程に回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	石粒を含む。	良好	灰色	床着
4	土師小形甕	1/3	口径 10.8 残存高 11.1	口縁部外反する。器肉薄い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	覆土



第18図　9号住居址（1）



第19図　9号住居址(2)・出土遺物

9号住居址　（第18・19図　**図版**3－8・17・23　表10）

本址は調査区東側X156・157、Y77グリッドで検出された。主軸方向はN－90°－Eである。南側で10号住居址と重複し、本址の方が新しい。規模は長軸4.0m、短軸3.1mで方形を呈する。壁高は65cm、床面は北側から南側へ緩く傾斜し、踏み固めは全体にやや認められる。

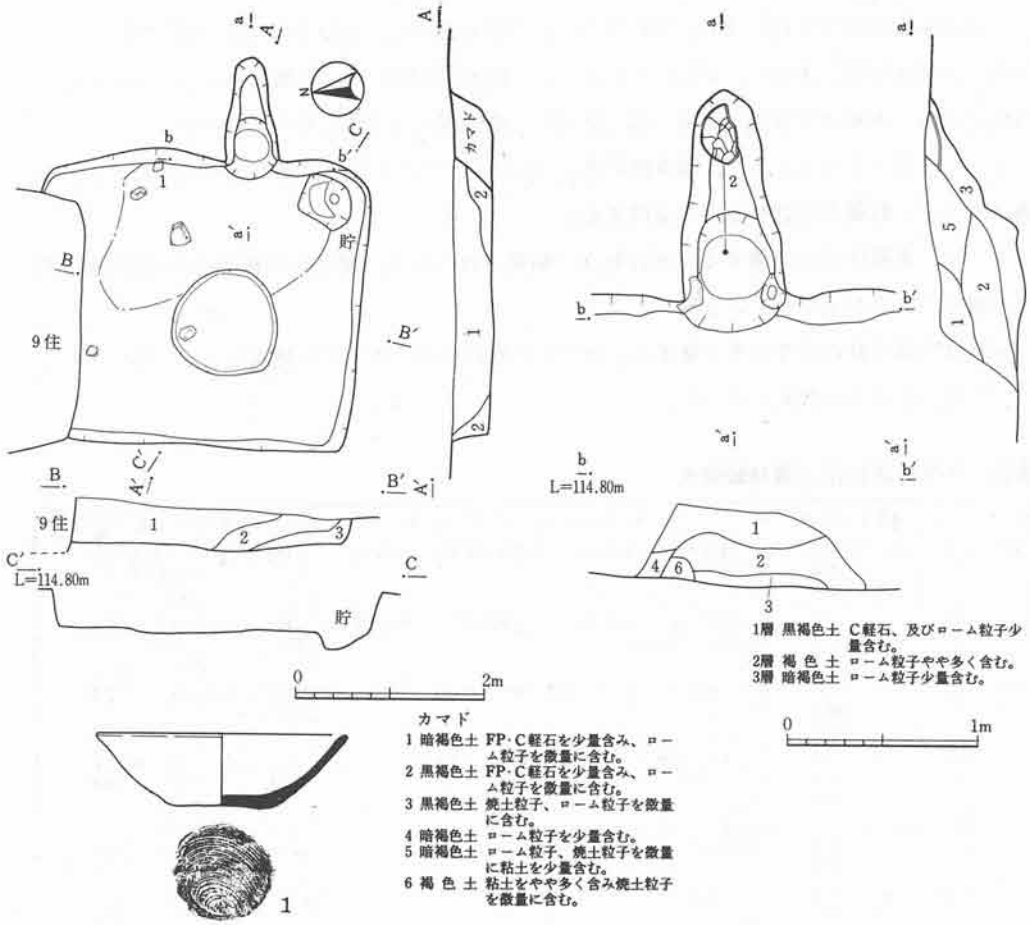
ピットは検出されなかった。南東側壁際には貯蔵穴と思われる、不整な掘り込みがある。壁溝はカマド、貯蔵穴付近を除いて全周する。

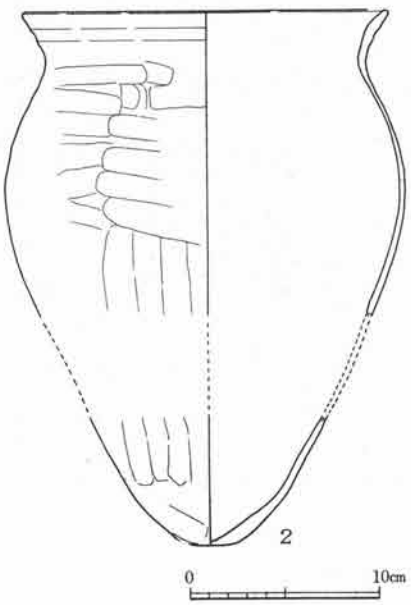
カマド　東壁中央に位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは140cmと長く、緩やかに立ち上がっている。

遺物は貯蔵穴付近にやや多く集まる。カマドの周辺には、カマドの補強材として用いられていたと思われる石が散乱している。

表10　9号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	底部一部欠	口径 12.2 器高 3.7 底径 6.6	底部平底。口縁部外反し、口唇部肥厚する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	二次焼成を受け黒褐色	床着
2	土師坏	1/3	口径 12.1 器高 4.0 底径 5.9	底部平底。口縁部外反し、口唇部肥厚する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色。外部黒斑。	床着
3	土師皿	1/3	口径 14.2 器高 3.5 底径 6.0	口縁部強く外反する。底部の整形不明。内、外面ナデ。付高台。	石粒を少量含む。	良好	褐色	床着
4	須恵坏	3/4	口径 13.2 器高 3.7 底径 7.1	平底、口縁外反する。底部回転糸切り未調整。ロクロ痕。内、外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	灰色。黒斑あり。	床着 墨書
5	須恵坏	ほぼ完形	口径 12.9 器高 3.8 底径 0.3	平底、口縁部外反する。底部回転糸切り未調整。ロクロ痕。内、外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	灰白色。黒斑あり。	床着 墨書
6	須恵坏	口縁部1/4	口径 12.5 残存高 3.6	口縁部外反する。ロクロ整形。内外面ナデ。	緻密	良好	灰色	覆土 墨書
7	須恵椀	4/5	口径 14.3 器高 5.2 底径 7.4	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り、付高台。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
8	須恵椀	1/3	口径 14.7 器高 5.2 底径 6.3	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り、付高台。	石粒を含む。	良好	灰色。黒斑あり。	床着
9	須恵椀	1/3	口径 14.6 器高 5.0 底径 7.4	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り、付高台。	石粒を少量含む。	やや不良	灰褐色	住居址内土坑
10	土師甕	上半部1/2	口径 21.0 残存高 16.5	口縁部「コ」の字状を呈する。外面ヘラ削り。内面上部ヘラ削り。他ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
11	土師甕	上半部	口径 20.4 残存高 19.5	口縁部「コ」の字状を呈する。外面ヘラ削り。内面ヘラ削り、ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
12	鉄製品鎌	先端部欠損	現存長 5.4	基部のみ				床着
13	鉄製品刀子	茎部欠損	現存長 14.6	刀の部分内湾ぎみにすりへっている。				床着
14	鉄製品紡錘車	軸なし	直径 5.8	中央の孔の直径4mm。厚さ2.5mm。水平。				床着





第20図　10号住居址・出土遺物

第10号住居址　（第20図　図版4－1　表11）

本址は調査区東側X156、Y78・79グリッドで検出された。主軸方向はN－102°－Eである。北側で9号住居址と重複し、本址の方が古い。規模は長軸は長軸3.4m、短軸3.1mで方形を呈する。壁高は40cm、床面はほぼ平坦で、カマド付近は良く踏み固められている。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央には浅い土坑状のピットが存在する。壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は石を利用していたと思われ、左袖には石が残っていた。壁外への掘り込みは110cmである。

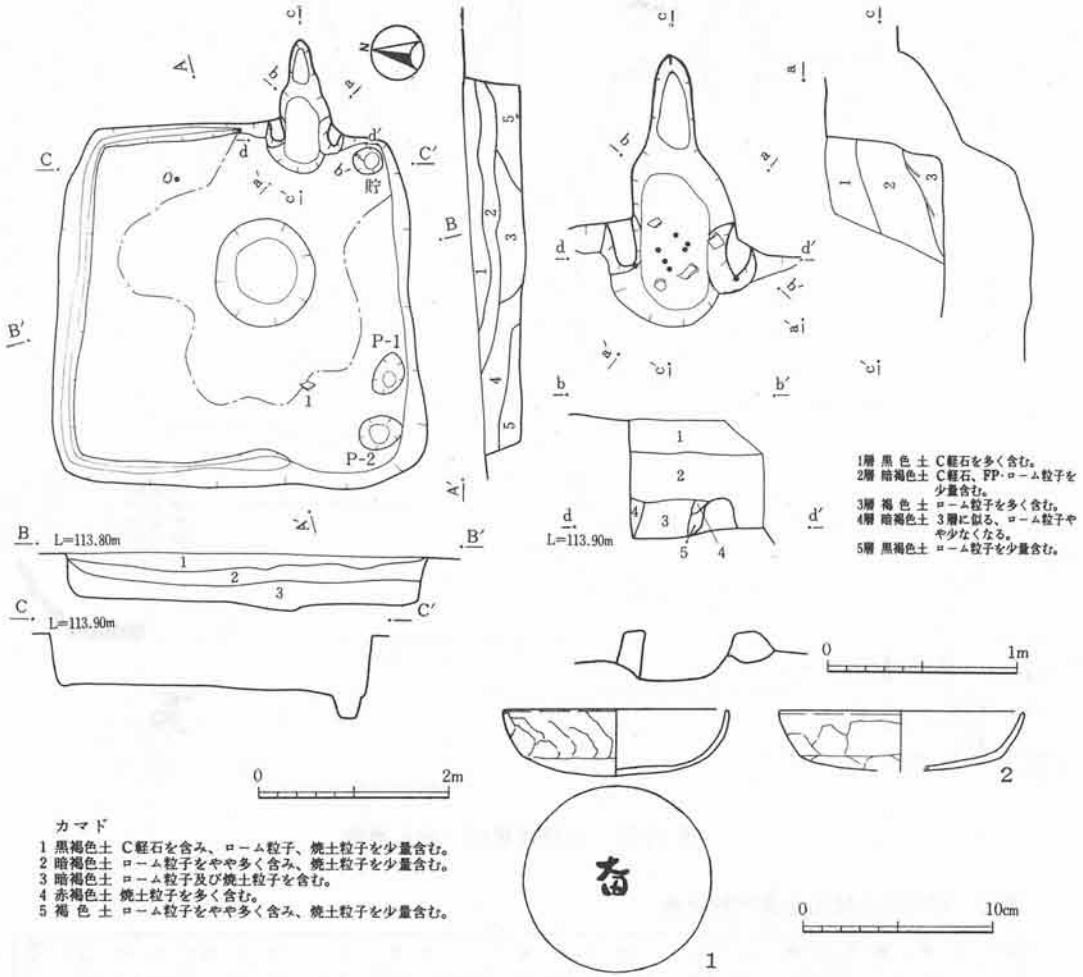
遺物はカマドの煙道部から甕が出土しているが、床着遺物は少ない。

表11　10号住居址遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵 坏	2/3	口径 13.0 器高 3.8 底径 5.1	口縁部直線的に外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。内、外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
2	土師 甕	1/2	口径 19.2 底径 3.0	口縁部外反する。器肉薄く底部すぼまる。外面上部横方向、中部以下縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	カマド

表12　11号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	4/5	口径 11.8 器高 3.5	底部平底に近くなる。口縁部内湾して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着 墨書
2	土師 坏	1/2	口径 12.9 残存高 3.1	底部平底に近くなる。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴



第21図　11号住居址・出土遺物

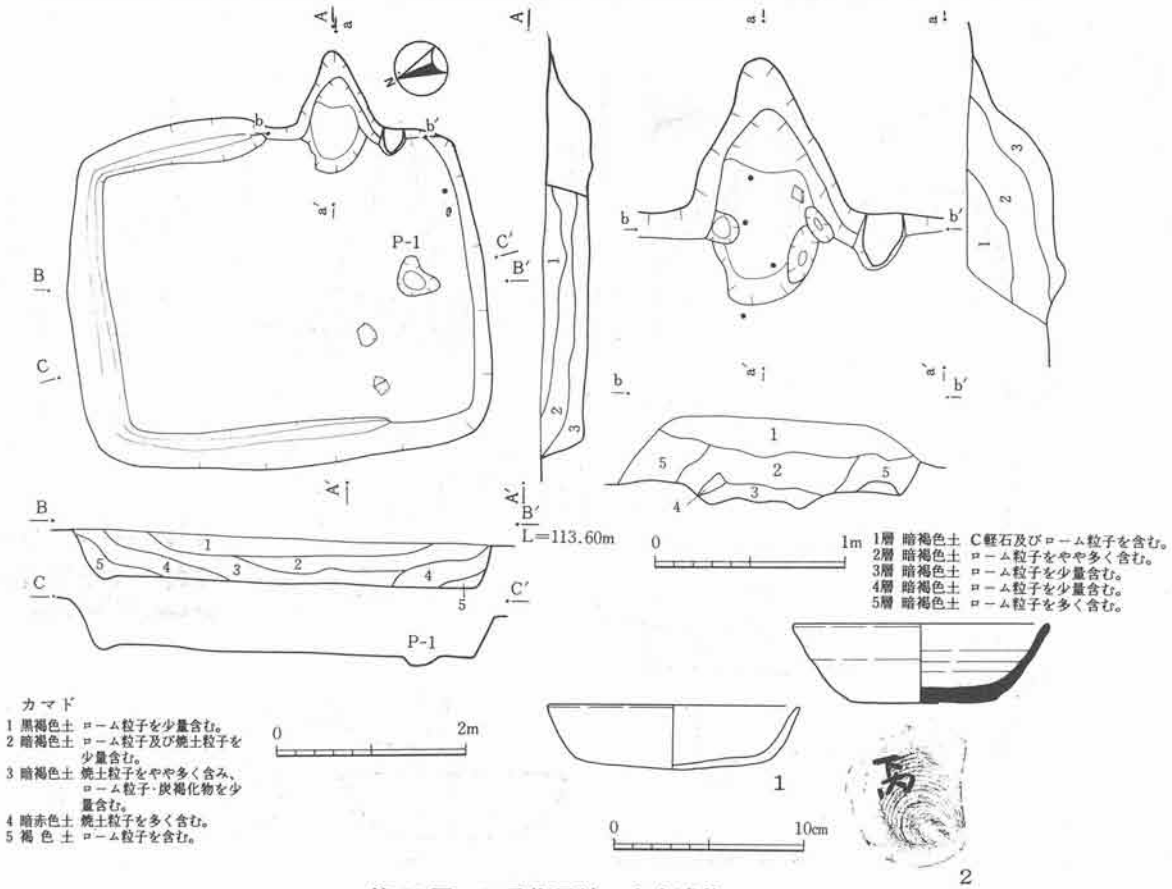
11号住居址　（第21図　**図版**4－2・18・23　表12）

本址は調査区北側中央X142・143、Y77・78グリッドで検出された。主軸方向はN－79°－Eである。規模は長軸3.9m、短軸3.7mで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。

南東側壁際に貯蔵穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁高は北側と西側の一部に認められる。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土とロームの混合土で構築されている。壁外への掘り込みは90cmである。

遺物はほとんど出土していないが、墨書土器が出土している。



第22図　12号住居址・出土遺物

表13　12号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/2	口径 13.2 器高 3.4 底径 10.3	平底。口縁直線的に外反する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色。外面黒斑。	覆土
2	須恵 坏	1/3	口径 13.3 器高 4.2 底径 7.8	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、周縁部ヘラ削り。	緻密	良好	黒褐色	覆土 墨書

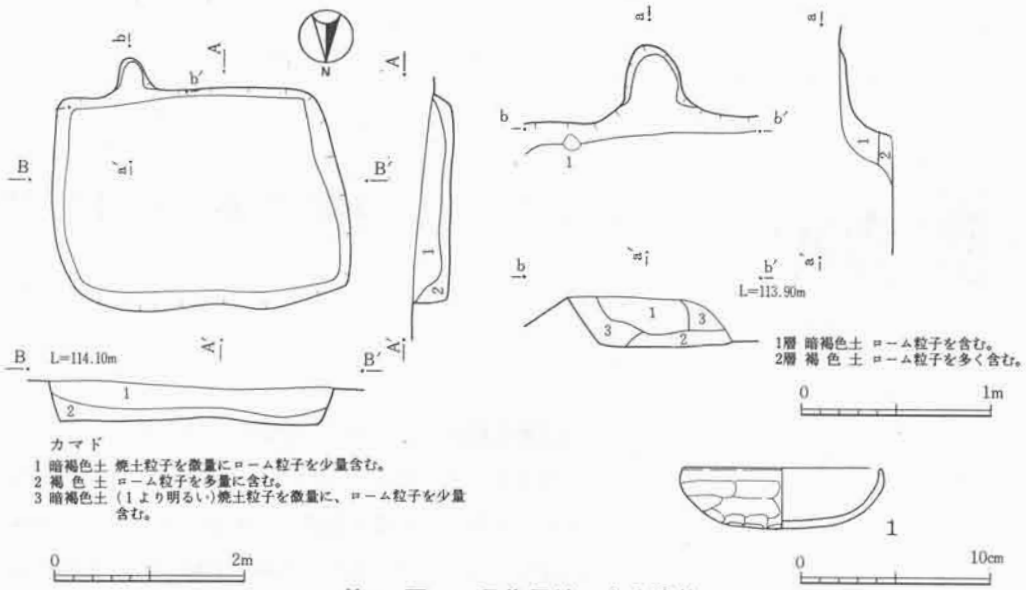
12号住居址　（第22図　図版４－３　表13）

本址は調査区北側中央X143・144、Y78・79グリッドで検出された。主軸方向はN－122°－Eである。規模は長軸4.4ｍ、短軸3.7ｍで方形を呈する。壁高は45cm。床面は平坦で、踏み固めはやや認められる。

ピットは浅いものが１基検出されている。壁溝はカマド付近と南側を除いて検出された。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は流失が激しいが粘土で構築されている。壁外への掘り込みは75cmで、壁はなだらかに立ち上がる。

遺物は床着遺物は１点のみで、カマド、覆土中の遺物も少ない。



第23図　14号住居址・出土遺物

14号住居址　（第23図　図版４－４　表14）

本址は調査区東側X159・160、Y83グリッドで検出された。主軸方向はN－175°－Eである。規模は長軸3.1ｍ、短軸2.3ｍで方形を呈する。壁高は38cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはほとんど認められない。

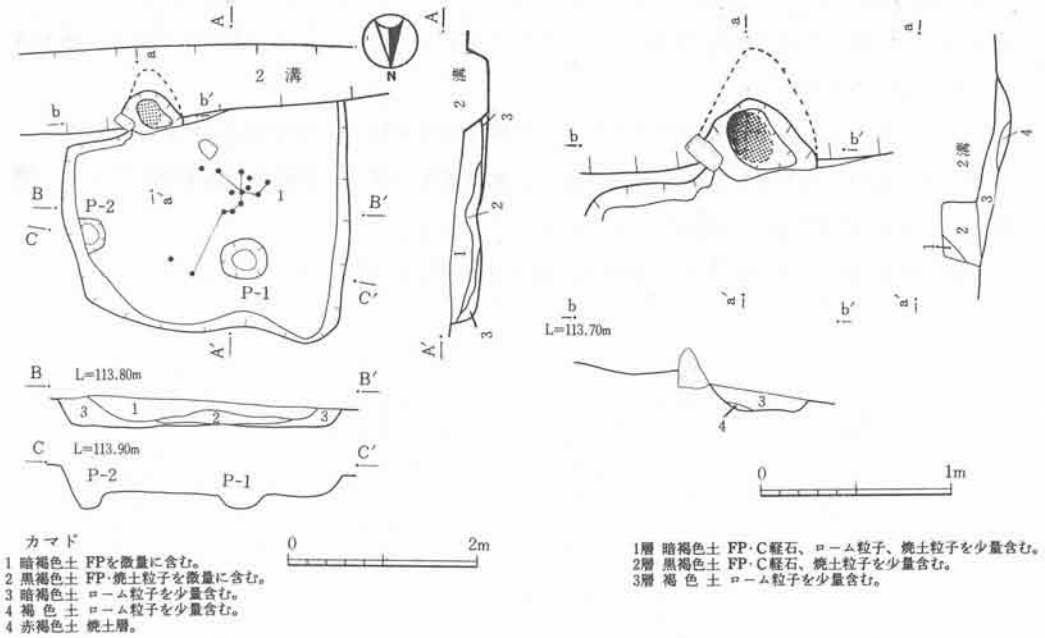
ピット・壁溝共に検出されていない。

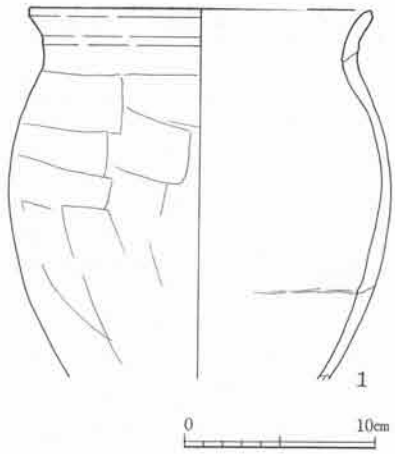
カマド　南壁中央やや東寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。充填土には焼土がほとんど含まれていない。

遺物は覆土中から細片が少量出土し、他はカマドより１片出土。

表14　14号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/2	口径 10.4 器高 3.2	丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド





第24図　15号住居址・出土遺物

15号住居址　（第24図　図版4－4　表15）

本址は調査区東側X159・160、Y84グリッドで検出された。南側で2号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－177°－Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.1mでやや歪つな長方形を呈する。壁高は25cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはほとんど認められない。

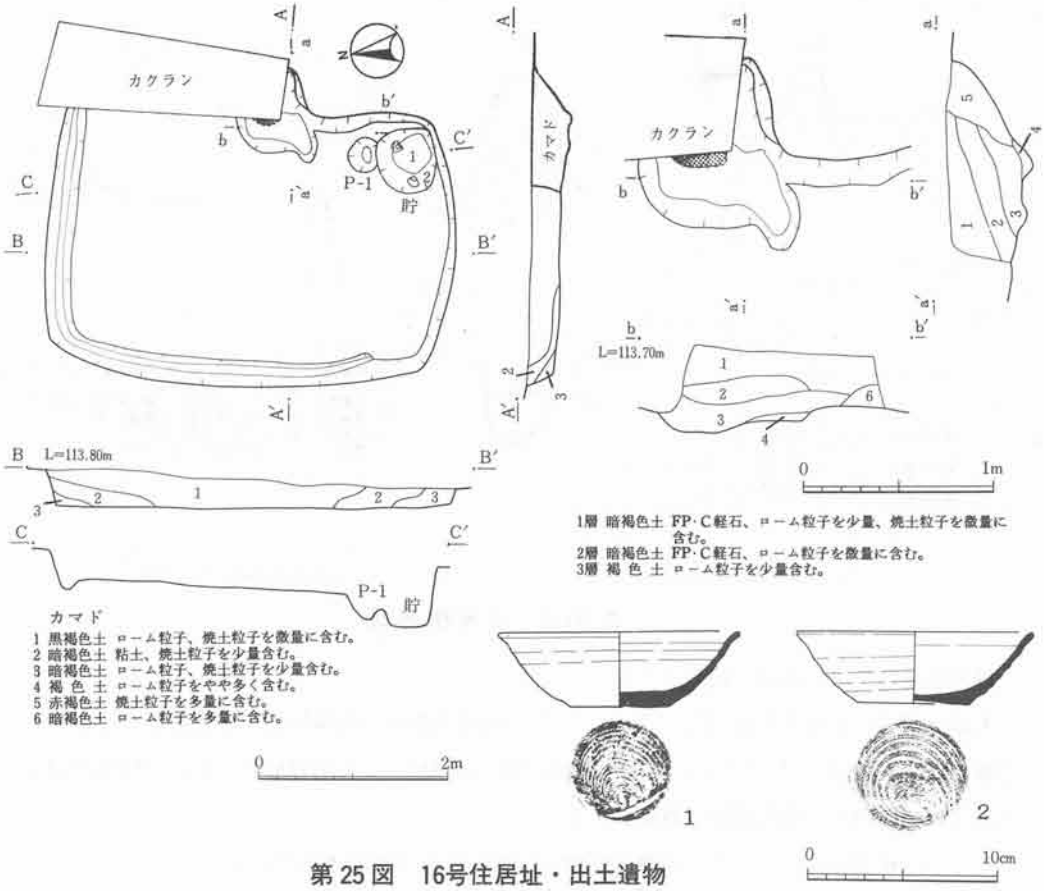
ピットは2基検出されているが深さ15cm前後で浅い。壁溝は検出されなかった。

カマド　南壁中央やや東寄りに位置する。ほとんどが2号溝によって破壊されている。東袖に石が残っていることから、石組のカマドであったと思われる。壁外への掘り込みは30cm程度と思われる。火床部は30cm×20cmの卵形を呈する。

遺物は中央部を中心に細片がややまとまって出土している。

表15　15号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師甕	上半部 1/2	口径 18.2 器高 19.5	口縁部「コ」の字状になる。器肉やや厚い。外面上部横方向の、中部縦方向のヘラ削り。内面ナデ、輪ずみ痕。	赤色石粒を含む。	良好	にぶい褐色	床着



第25図　16号住居址・出土遺物

16号住居址　（第25図　**図版**4－5・18　表16）

本址は調査区東側X175・176、Y83・84グリッドで検出された。カクランのため東壁の北側とカマドの一部が不明である。主軸方向はN－99°－Eである。規模は長軸4.3m、短軸2.9mで、横長長方形を呈する。壁高は35cm。床面は北側から南側へ緩く傾斜しており、踏み固めは弱いが認められる。

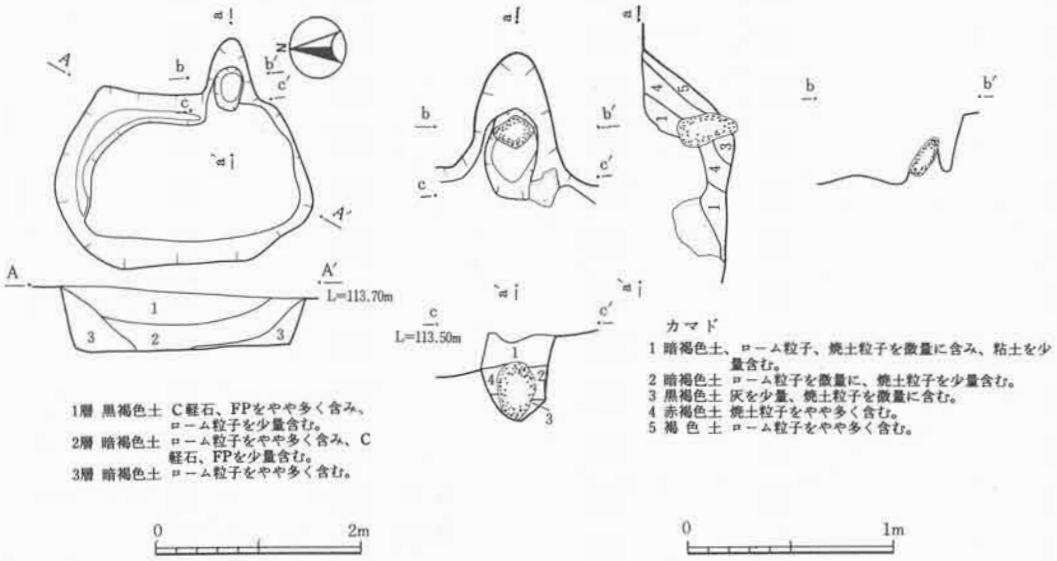
ピットは1基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。

カマド　東壁中央に位置する。袖は検出されず、火床部が認められる。壁外への掘り込みは50cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物はほとんど出土していないが、貯蔵穴から須恵器の坏が出土している。

表16　16号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵坏	4/5	口径 12.6 器高 4.0 底径 5.2	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	緻密	良好	灰色。内外面黒斑。	床着
2	須恵坏	4/5	口径 12.6 器高 3.9 底径 6.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	貯蔵穴



第26図　17号住居址

17号住居址　（第26図　**図版**4－6）

本址は調査区東側X153、Y83・84グリッドで検出された。南西側に18号住居址が近接する。主軸方向はN－94°－Eである。規模は長軸2.4ｍ、短軸1.7ｍで不整形を呈する。壁高は60cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めは軟弱である。

ピットは検出されなかった。壁溝は北側と東側の半分で検出されている。

カマド　東壁の中央に位置する。石組のカマドである。壁外への掘り込みは30cmである。

本址は遺物もほとんどなく、住居址としての機能よりも、カマド専用として使用されていたものと考えられる。

18号住居址　（第27図　**図版**4－7　表17）

本址は調査区中央東寄りのX152・153、Y84・85グリッドで検出された。南側で2号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－80°－Eである。規模は長軸6.9ｍ、短軸3.1ｍで縦長長方形を呈する。壁高は45cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。

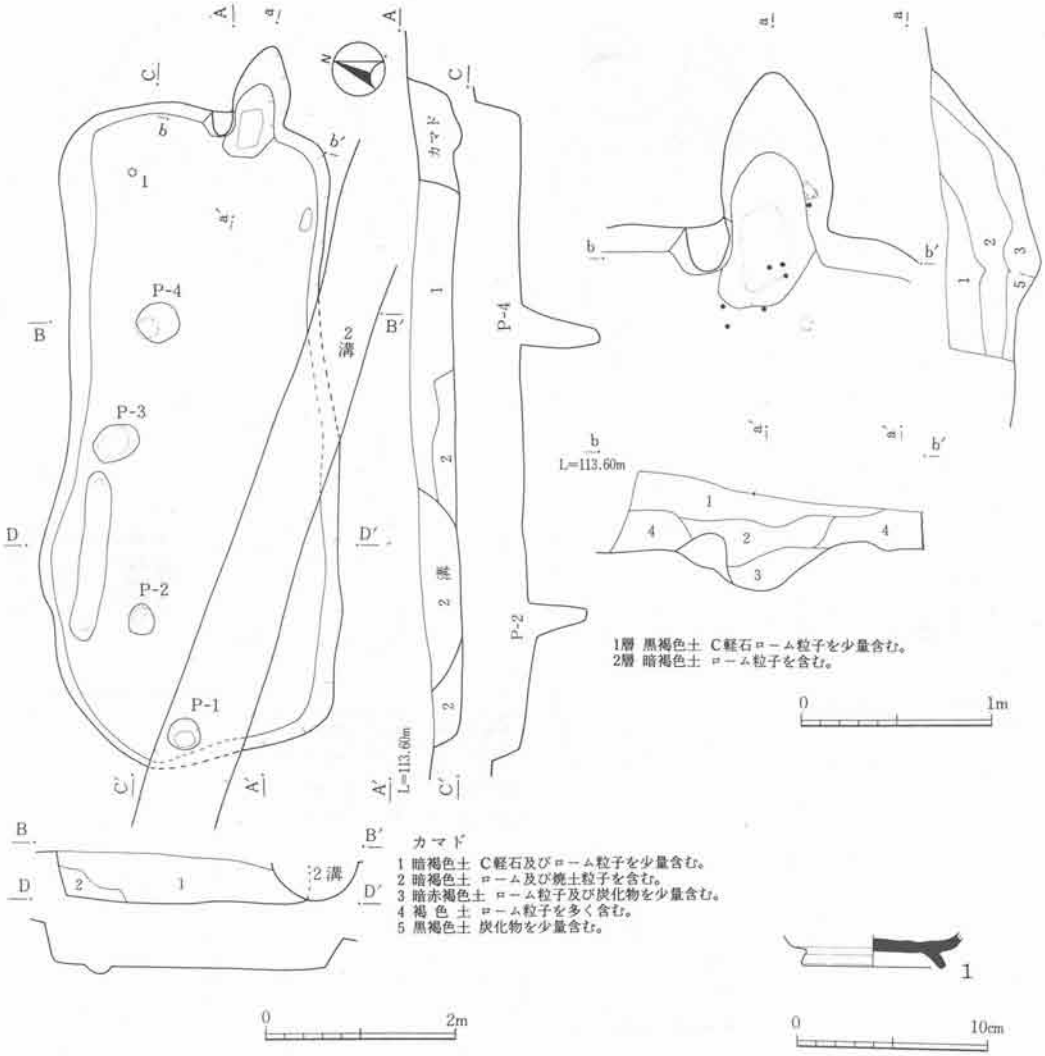
ピットは4基検出されているが、主柱穴とは考えられない。壁溝はなく、北側に一部溝状の落ち込みが検出されている。

カマド　東壁の中央南寄りに位置する。袖は依存が悪いが粘土で構築されている。壁外への掘り込みは80cmである。

遺物は覆土中にやや多く、床着遺物は少ない。

表17　18号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵 埦	底部のみ	底径 7.4 残存高 1.9	高台「ハ」の字状に開く。ロクロ整形。底部高台貼付後、ナデ調整。	緻密	良好	灰褐色	床着



第27図　18号住居址・出土遺物

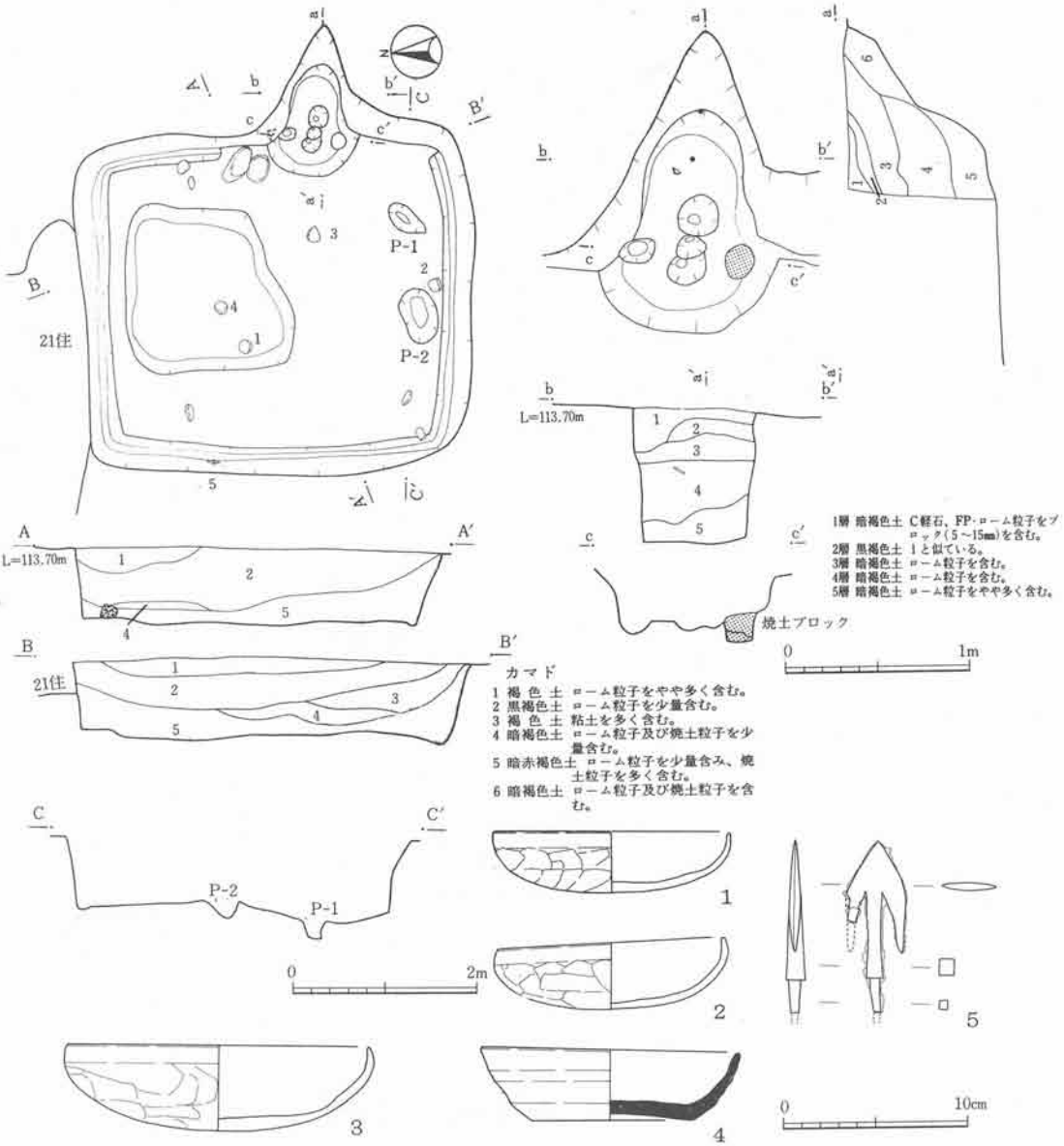
20号住居址　（第28図　図版8・18・23　表18）

本址は調査区中央X146・147、Y81・82グリッドで検出された。北側で21号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－92°－Eである。規模は長軸4.2m、短軸3.9mで方形を呈する。壁高は80cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めが認められる。

ピットは2基検出されているがいずれも浅い。壁溝はカマド付近を除いて全周する。

カマド　東壁中央やや東寄りに位置する。袖は右袖に焼土化した粘土ブロックが置かれていた。壁外への掘り込みは75cmである。

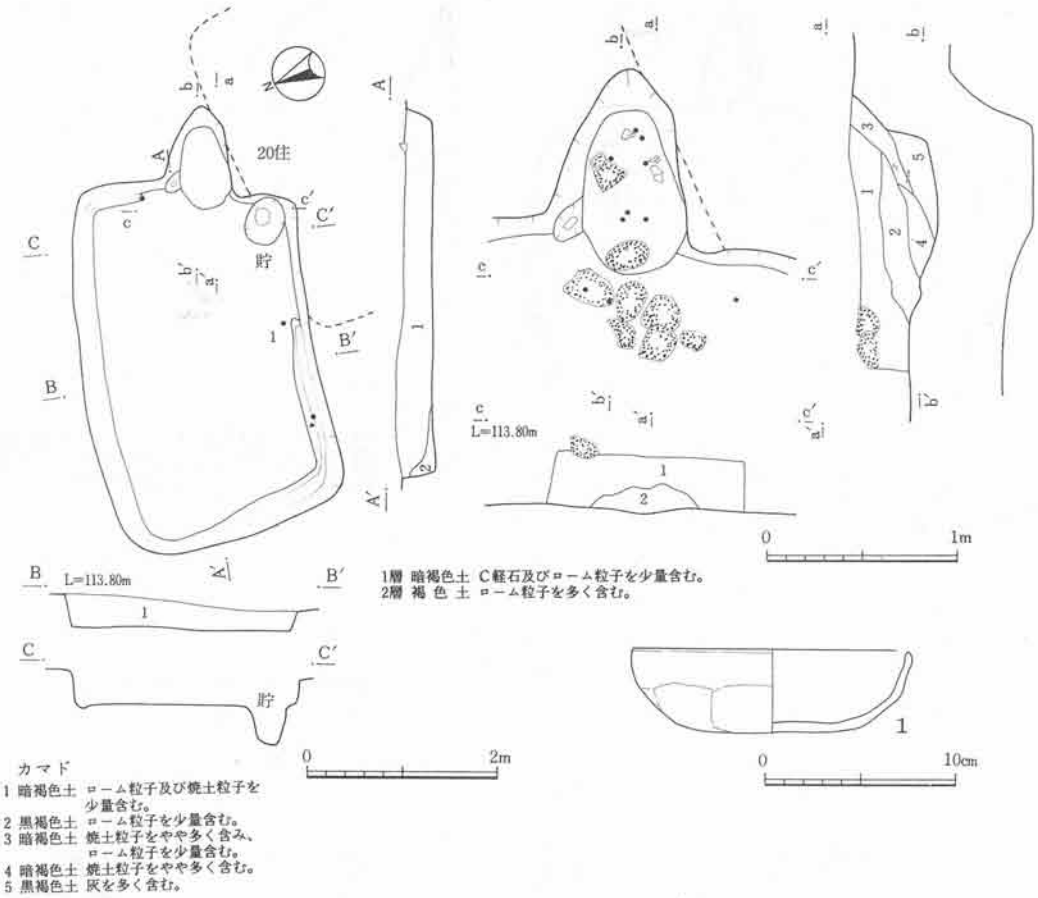
遺物は西側の壁溝より鉄鏃が出土している。他にカマド付近に石が散乱していた。



第28図　20号住居址・出土遺物

表18　20号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 12.9 器高 3.4	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	にぶい褐色	床着
2	土師坏	4/5	口径 12.4 器高 4.0	丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面はナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	2/3	口径 16.4 器高 4.7	丸底。口縁部直立ぎみに立ち上がり、口唇部内傾ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	須恵坏	4/5	掘径 14.0 器高 4.1 底径 8.7	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り調整。	砂粒をやや多く含む。	やや不良	灰褐色	床着
5	鉄製品 鏃	ほぼ完形	現存長 9.5	茎部の端と刃部の先端を欠損する。飛燕形。				壁溝内



第29図　21号住居址・出土遺物

21号住居址　（第29図　図版5－1・18　表19）

本址は調査区中央X146・147、Y80・81グリッドで検出された。南側で20号住居址と重複する。主軸方向はN－104°－Eである。規模は長軸3.9m、短軸2.5mで、長方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めがやや認められる。

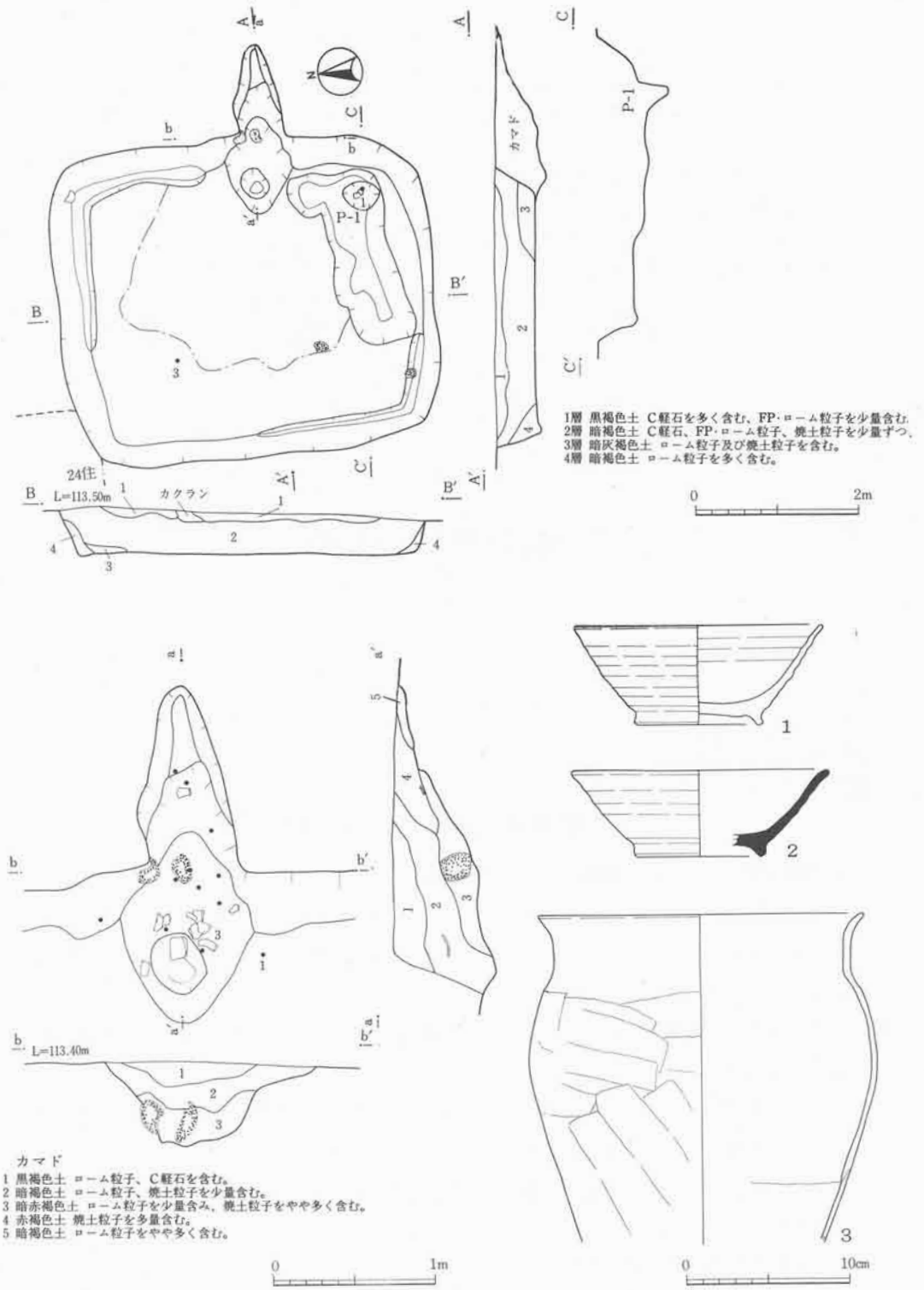
南東側壁際には貯蔵穴が存在する。ピットは検出されなかった。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて全周する。

カマド　東壁中央南寄りで検出された。袖等は検出されていないが、付近に石が散乱していた。壁外への掘り込みは75cmである。

遺物は全体的に少ない。床面に少量の炭化物が散乱していた。

表19　21号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	2/3	口径 14.5 器高 4.5	平底。外面ケズリと口縁部の横ナデの境、稜状となる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着



第30図　23号住居址・出土遺物

23号住居址　（第30図　**図版**5－2・18　表20）

本址は調査区中央X146・147、Y82・83グリッドで検出された。北西側で24号住居址と重複し、本址の方が新しい。主軸方向はN－97°－Eである。規模は長軸4.6m、短軸4.0mで方形を呈する。壁高は50cm。床面は平坦で、中央部分はかなり良く踏み固められている。

南東側壁際には不整な掘り込みがあり、貯蔵穴と思われる。他に浅いピット1基が検出されている。壁溝は北東側と南西側で検出されている。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。左袖には石が利用されていた。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物は貯蔵穴と床面から少量出土している。覆土中からは細片がやや多く出土している。

表20　23号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 埦	3/4	口径 15.4 器高 6.2 底径 8.0	口縁部外反する。付高台。 須恵埦模倣。	緻密	不良	暗褐色	貯蔵穴
2	須恵 埦	1/3	口径 16.0 器高 5.4 底径 8.2	口縁部外反する。ロクロ整形。付高台。	砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着
3	土師 甕	1/2	口径 20.2 残存高 20.5	口縁部「コ」の字状になる。外面上部横方向、中部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。接合痕が認められる。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド

24号住居址　（第31図　**図版**5－3・18　表21）

本址は調査区中央X145・146、Y82・83グリッドで検出された。南東側で23号住居址と、北西側で26号住居址と重複し、いずれも本址の方が古い。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸4.8m、短軸4.0mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

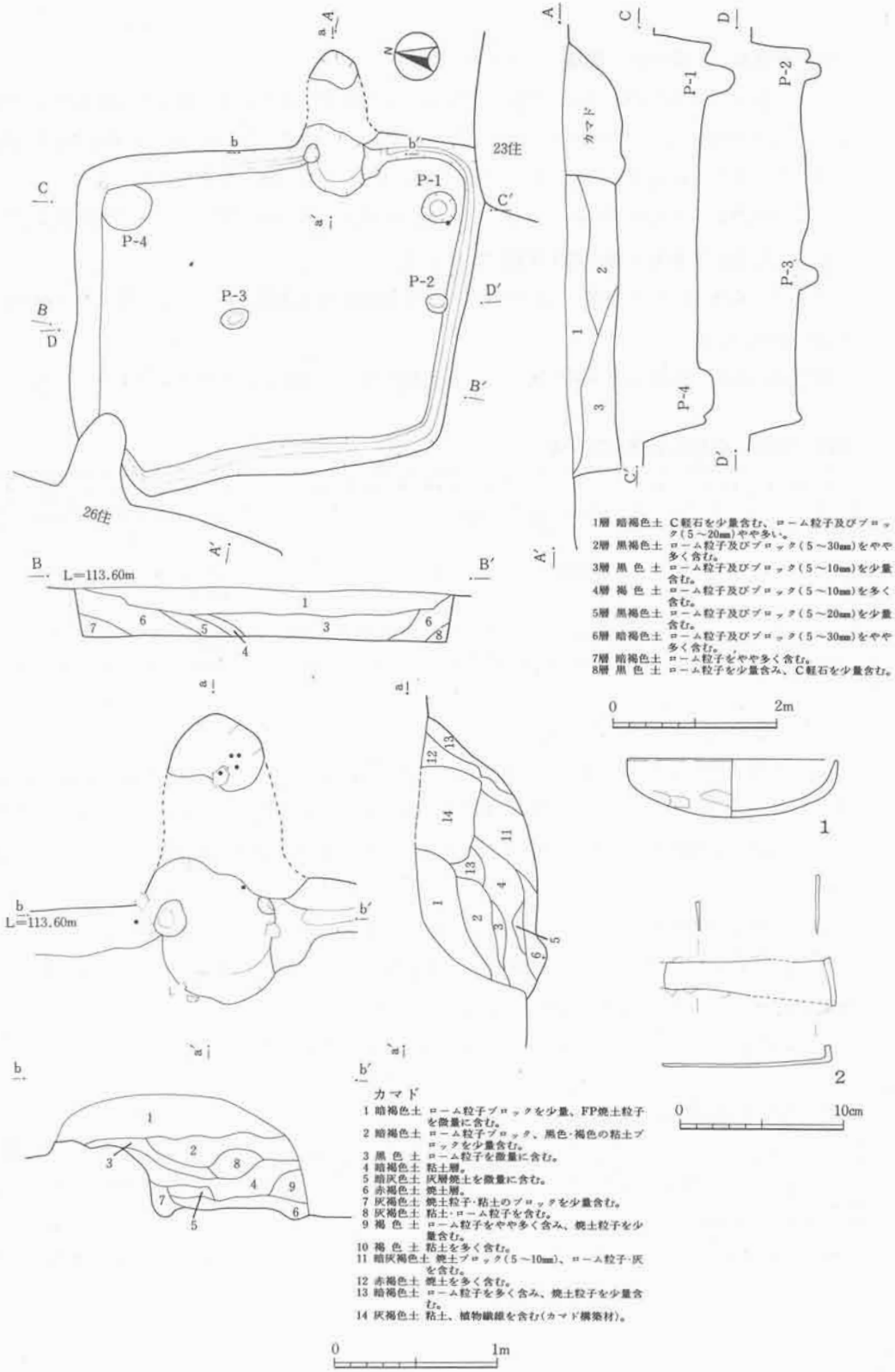
ピットは4基検出されているが、いずれも浅い。壁溝はカマドを除いで全周する。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。構築材は粘土や植物繊維などで、天井部が残る。壁外への掘り込みは110cmで、なだらかに立ち上がる。

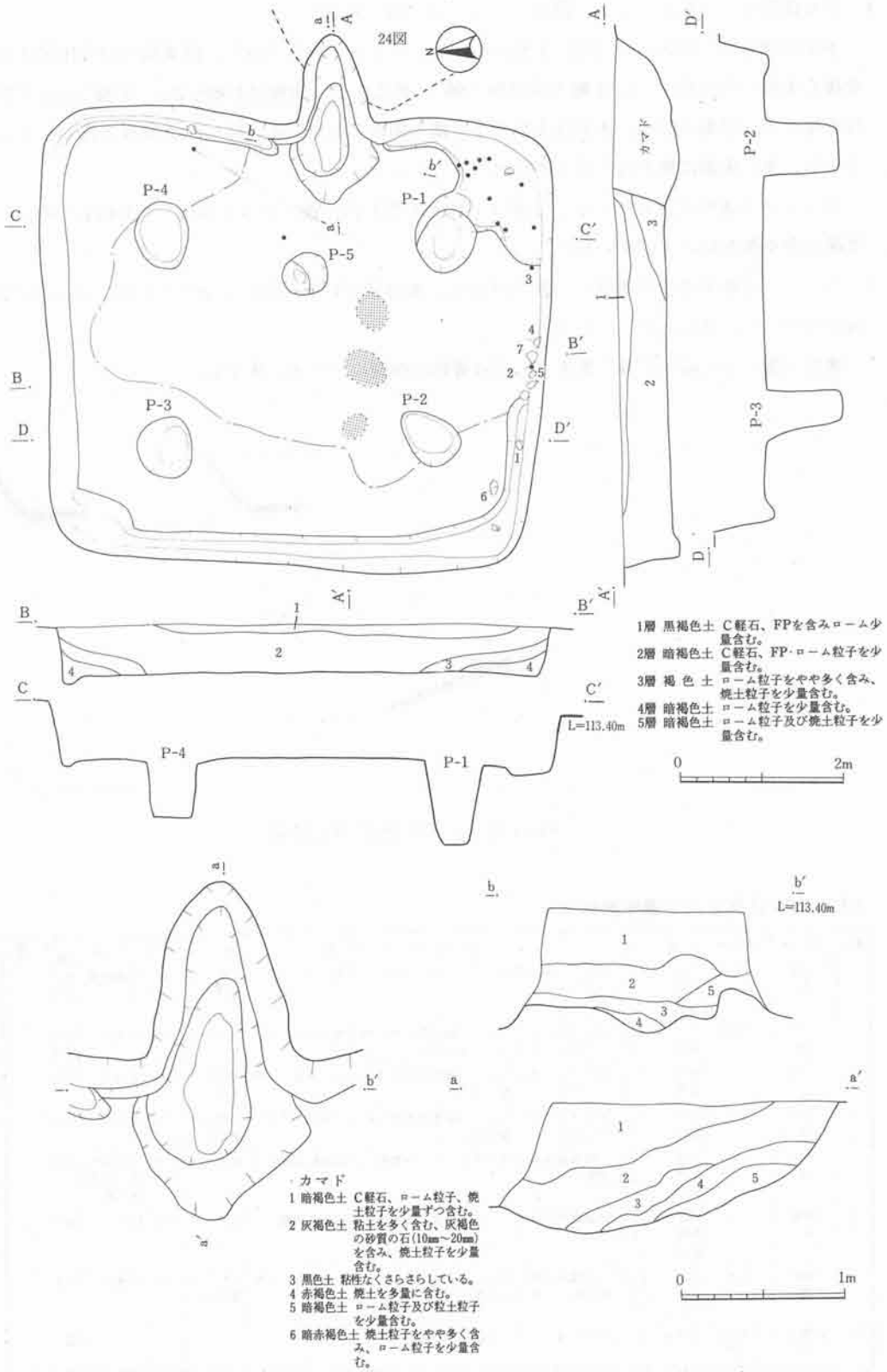
遺物は床着のものは少なく、覆土中から土器の細片がやや多く出土している。

表21　24号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	4/5	口径 12.8 器高 3.6	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり口唇部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	鉄製品 鎌	先端部欠損	現存長 10.3	茎部直角に折れ曲がる。				覆土



第31図　24号住居址・出土遺物


24図
N
P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
カマド
L=113.40m
1層 黒褐色土 C軽石、FPを含みローム少量含む。
2層 暗褐色土 C軽石、FP・ローム粒子を少量含む。
3層 褐 色 土 ローム粒子をやや多く含み、焼土粒子を少量含む。
4層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
5層 暗褐色土 ローム粒子及び焼土粒子を少量含む。
0 2m
カマド
1 暗褐色土 C軽石、ローム粒子、焼土粒子を少量ずつ含む。
2 灰褐色土 粘土を多く含む、灰褐色の砂質の石(10mm～20mm)を含み、焼土粒子を少量含む。
3 黒色土 粘性なくさらさらしている。
4 赤褐色土 焼土を多量に含む。
5 暗褐色土 ローム粒子及び粒土粒子を少量含む。
6 暗赤褐色土 焼土粒子をやや多く含み、ローム粒子を少量含む。
0 1m

第32図 26号住居址

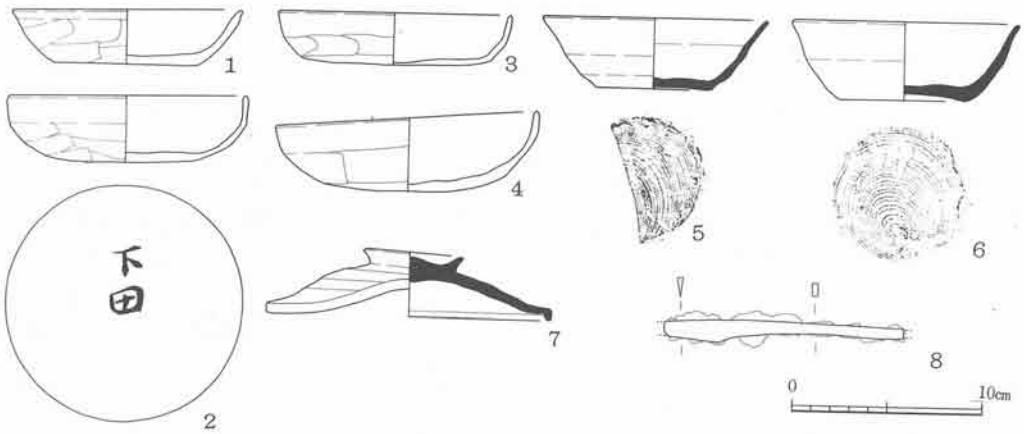
26号住居址　（第32・33図　図版5－4・18・23　表22）

本址は調査区中央X144・145、Y80・81・82グリッドで検出された。南東側で24号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN－96°－Eである。規模は長軸6.2m、短軸5.5mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦でよく踏み固められている。特に中央部分は固くしまっている。また床面に焼土痕が3ケ所検出されている。

ピットは5基検出されている。4基は主柱穴と思われ、掘り込みも90cmから100cmと深い。壁溝は南東側を除いて認められる。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は依存状態が悪い。壁外への掘り込みは110cmでなだらかに立ち上がっている。

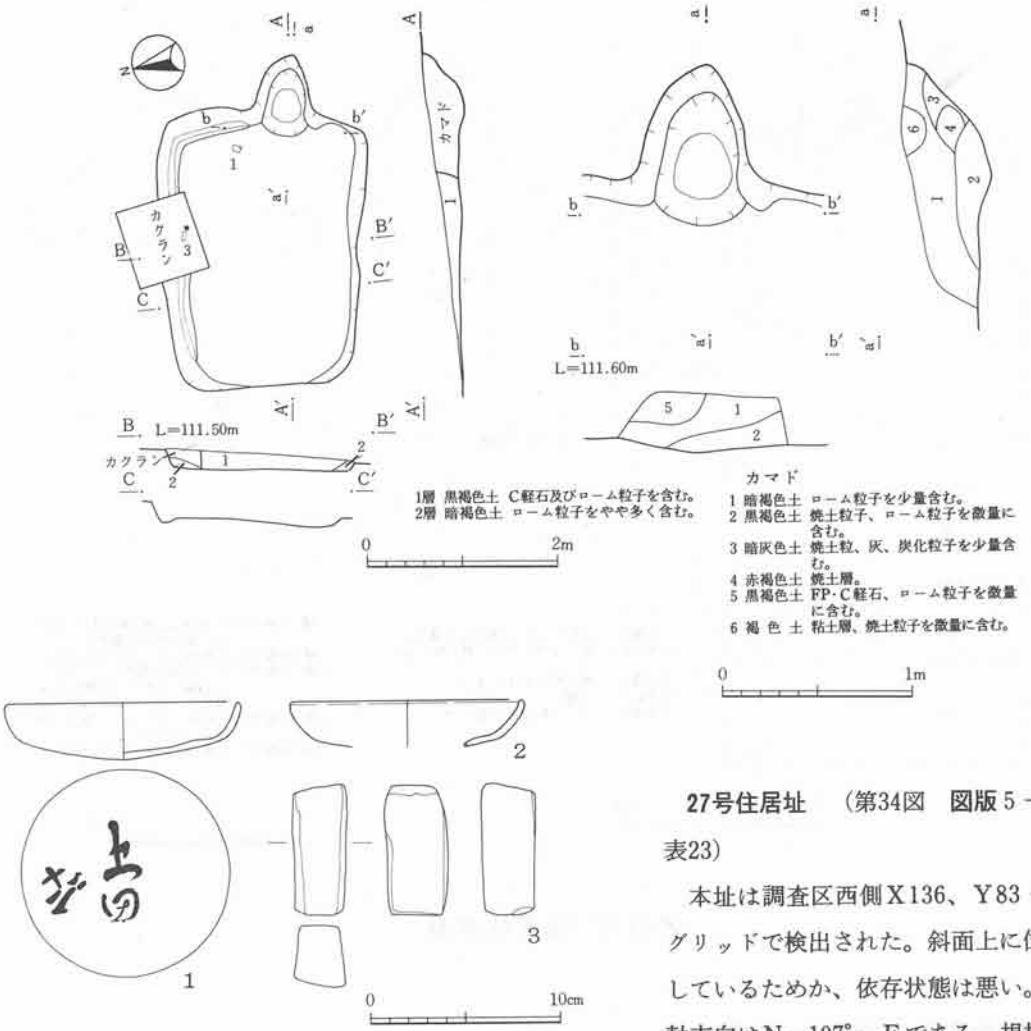
遺物は覆土中に細片が多く集まる。床着遺物は南側にやや多く集まる。



第33図　26号住居址 出土遺物

表22　26号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	一部欠	口径 12.2 器高 2.9 底径 2.4	平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ミガキとナデ。	石粒を少量含む。	良好	外面橙褐色	床着 内黒
2	土師坏	一部欠	口径 12.6 器高 3.5	底部平底に近くなる。口縁部弱い稜を持ち直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	床着 墨書
3	土師坏	2/3	掘径 12.6 器高 2.8	底部ほぼ平底になる。口縁部外反ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	3/4	口径 14.0 器高 3.9	底部平底に近くなる。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	須恵坏	1/2	口径 12.1 器高 3.8 底径 6.0	口縁部直線的に外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	緻密	やや不良	外面灰黒色　内面灰白色。	床着
6	須恵坏	2/3	口径 12.0 器高 4.2 底径 6.8	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	緻密	良好	灰色	床着
7	須恵蓋	4/5	口径 15.2 器高 3.5 つまみ 5.3	口縁端部直角に折れる。歪みが激しい。ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着
8	鉄製品刀子	先端部欠損	残存長 12.6	刃部のほとんどが欠損している。				覆土



第34図　27号住居址・出土遺物

27号住居址　（第34図　図版5－5　表23）

本址は調査区西側X136、Y83・84グリッドで検出された。斜面上に位置しているためか、依存状態は悪い。主軸方向はN－107°－Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.1mで縦長長方形を呈する。壁高は東側で25cmを計る。床面は軟弱で踏み固めはほとんど認められない。

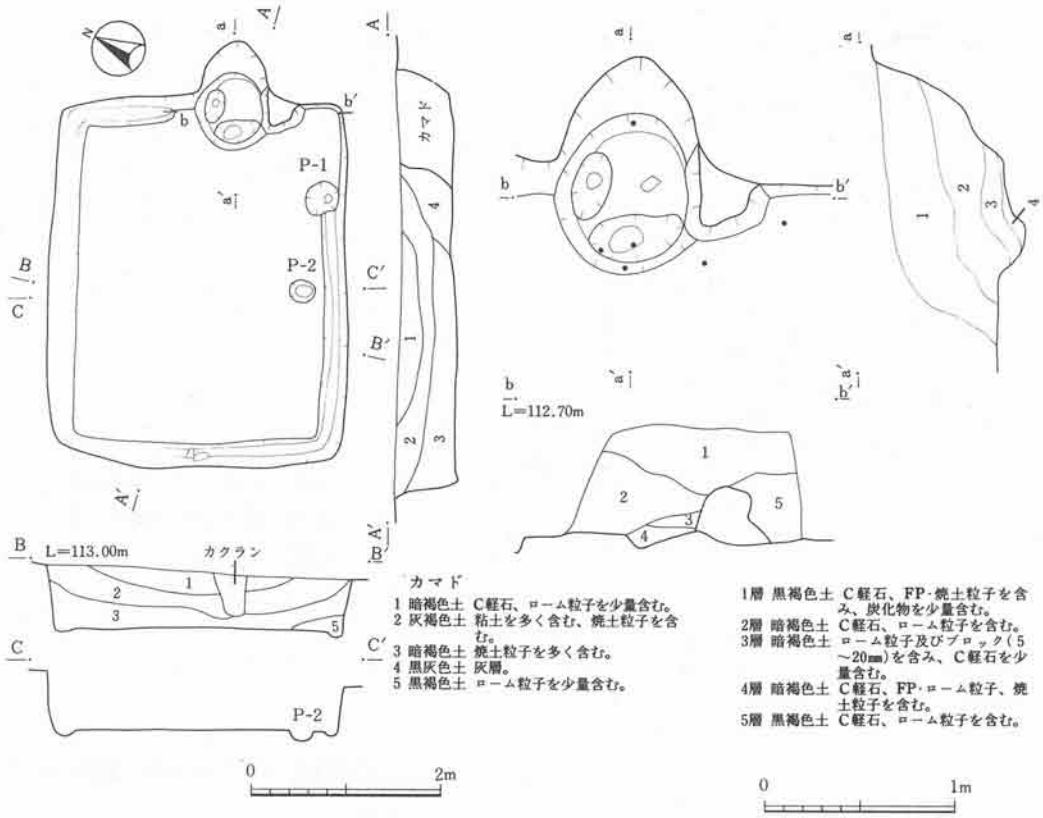
ピットは検出されなかった。壁溝は北側と東側の一部に認められる。

カマド　東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは70cmである。

遺物は覆土中、床着遺物ともに少ない。

表23　27号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/3	口径 12.2 器高 3.0	底部平底に近くなる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土 墨書
2	土師坏	1/5	口径 12.1 残存高 3.4	底部ほぼ平底。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土 墨書
3	石製品砥石			使用面2面。	凝灰岩		灰白色	床着



第35図　28号住居址

28号住居址　(第35図　**図版**5－6)

本址は調査区東側X158・159、Y88グリッドで検出された。主軸方向はN－62°－Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは浅いものが2基検出されている。壁溝はカマドと南東側隅角を除いて認められる。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築され、右袖のみが一部残っている。壁外への掘り込みは半円形で、60cmである。

遺物は覆土中、床着ともに少ない。

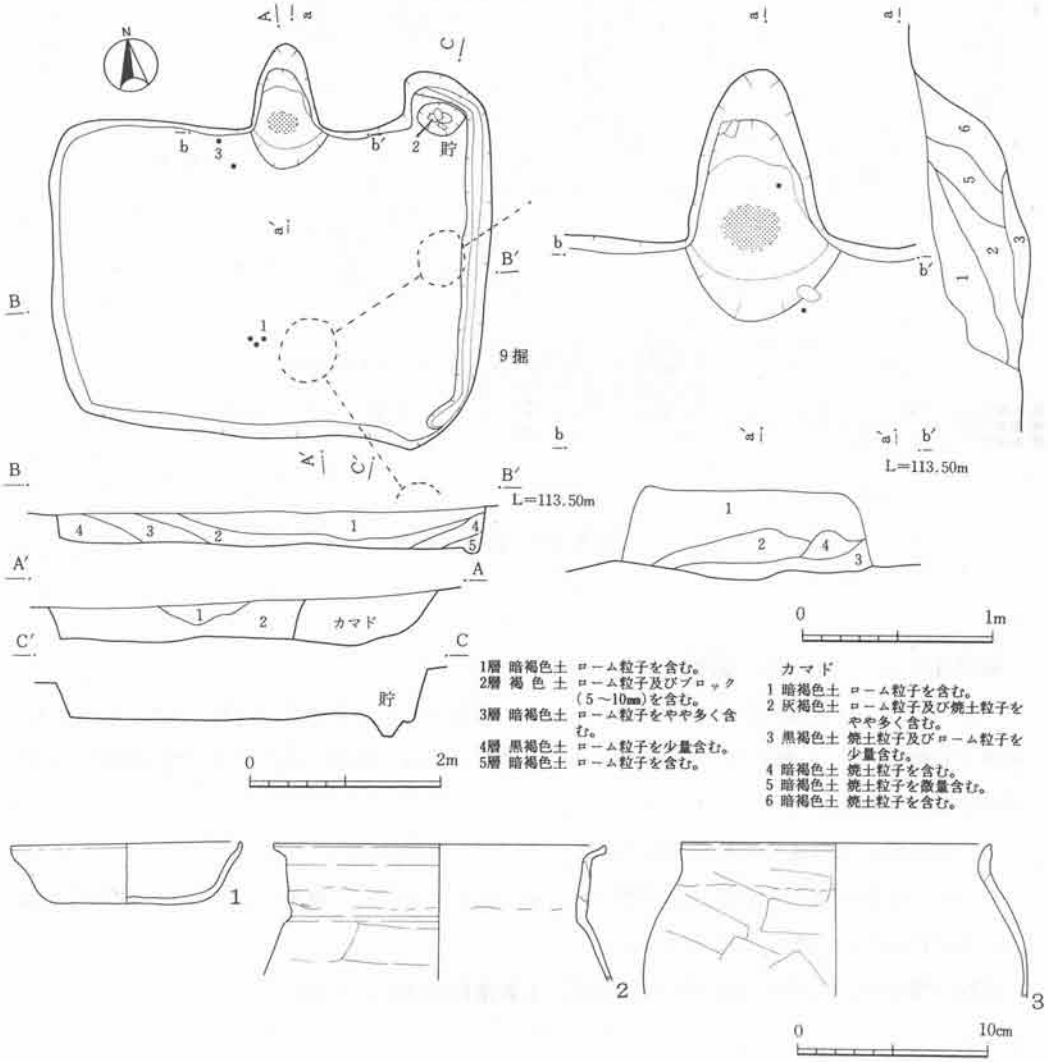
29号住居址　(第36図　**図版**5－7・18　表24)

本址は調査区東側X154・155、Y84・85グリッドで検出された。9号掘立と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN－12°－Eである。規模は長軸4.6m、短軸3.3mで横長長方形を呈する。北東側には半円形の張り出しが認められる。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは弱いが全体に認められる。

北東壁際の張り出し部分に貯蔵穴が存在する。壁溝は東側のみ検出されている。

カマド　北壁中央で検出された。袖は検出されなかった。火床部は20cm×30cmの楕円形を呈する。壁外への掘り込みは100cmで、なだらかに立ち上がる。

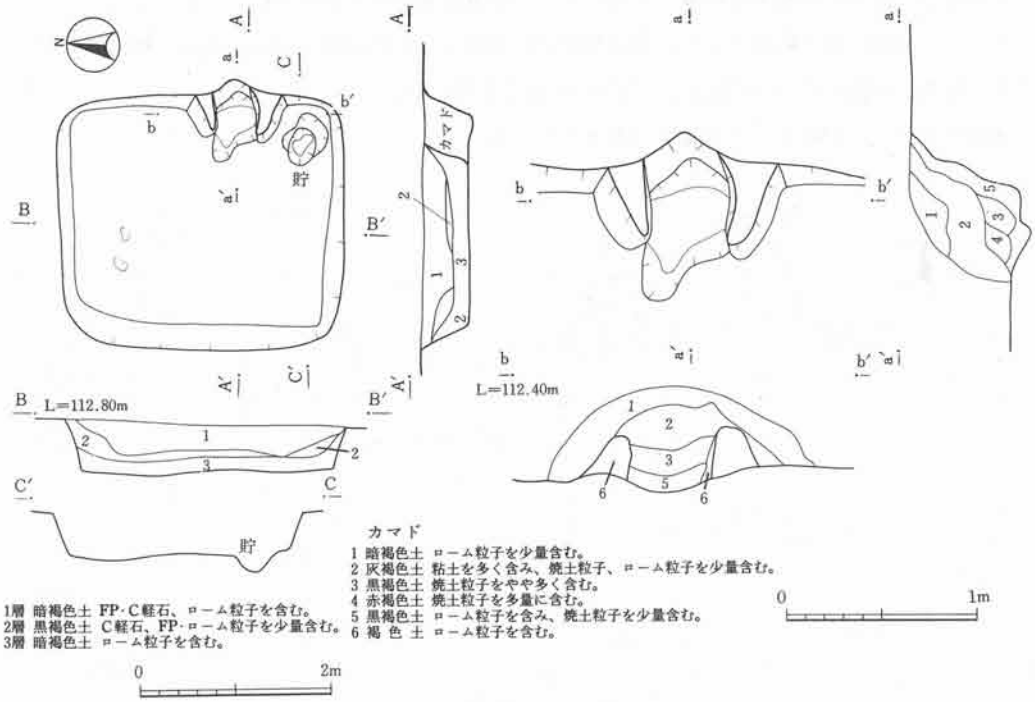
遺物はカマド、貯蔵穴から少量ずつ出土している。



第36図　29号住居址・出土遺物

表24　29号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 12.2 器高 3.2	平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師甕	口縁部 1/4	口径 17.5 残存高 7.2	口縁「コ」の字状を呈する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴
3	土師甕	口縁部 1/3	口径 16.4 残存高 8.1	口縁部短く直立する。外面ヘラ削り。内面ミガキ。	砂粒を含む。	良好	暗褐色	床着



第37図　30号住居址

30号住居址　（第37図　**図版**5－8）

本址は調査区東側X155・156、Y89グリッドで検出された。主軸方向はN－88°－Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.7mで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴が検出されている。ピット、壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土とロームで構築されている。壁外への掘り込みは15cmで、急激に立ち上がる。

遺物は覆土中から細片が出土しているが、床着遺物はほとんどない。

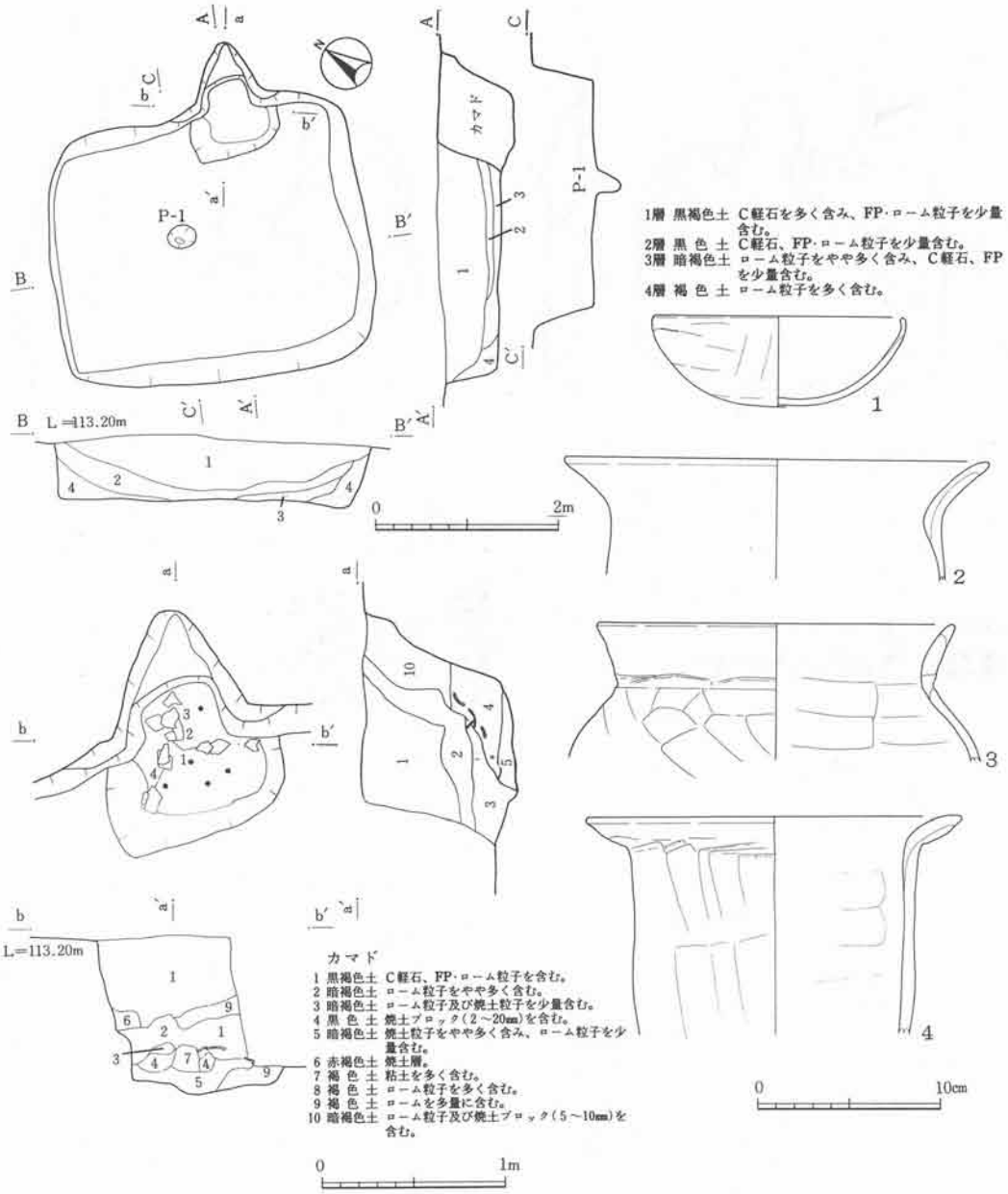
31号住居址　（第38図　**図版**6－1　表25）

本址は調査区中央X152・153、Y85・86グリッドで検出された。主軸方向はN－48°－Eである。規模は長軸3.5m、短軸3.0mで方形を呈する。壁高は70cm。床面は平坦で踏み固めが認められる。

ピットは中央に1基検出されている。深さは25cm。壁溝はない。

カマド　東壁中央で検出された。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは70cmである。

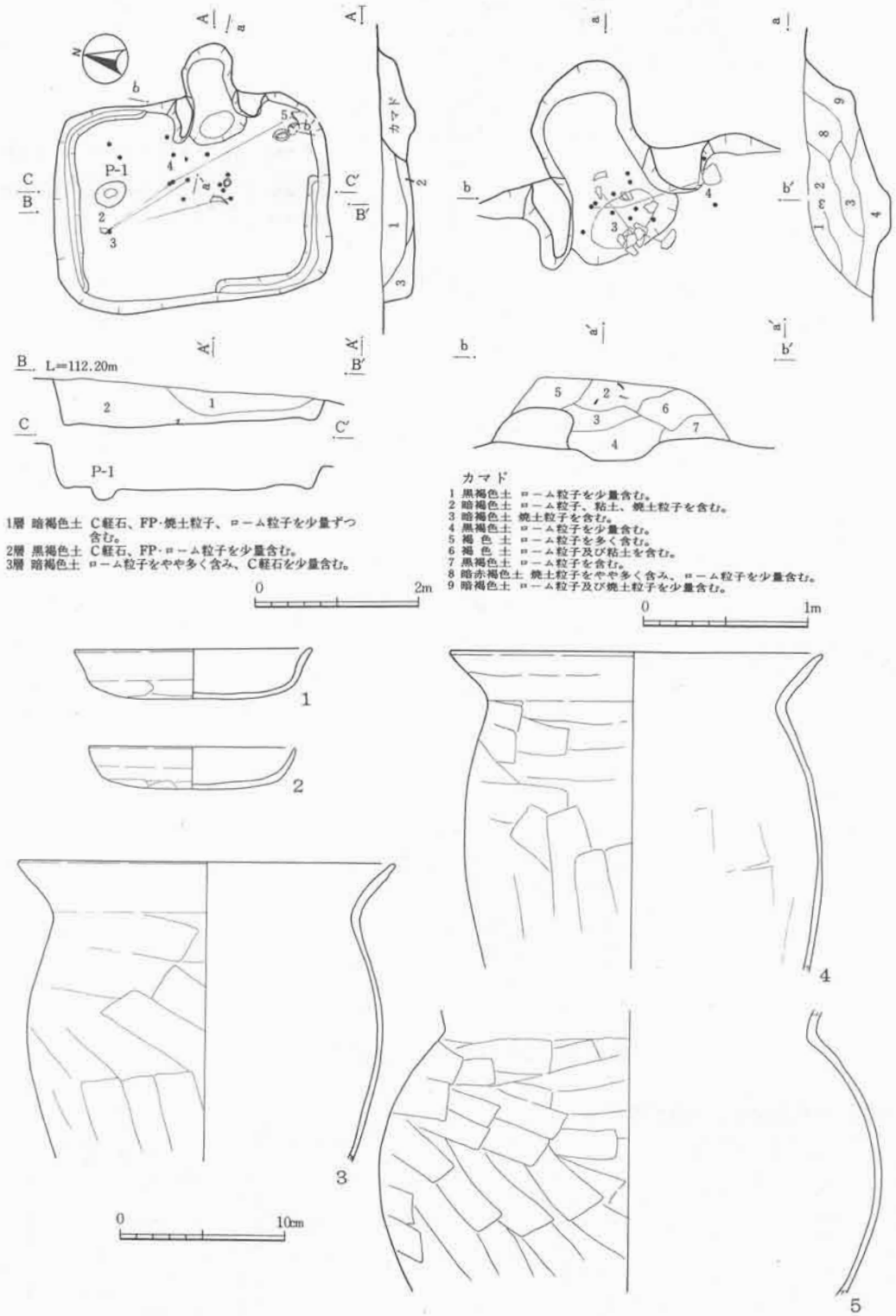
遺物はカマドから少量出土している。床着のものは少ない。



第 38 図　31号住居址・出土遺物

表25　31号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/2	口径 13.7 器高 5.0	丸底。半球形を呈する。口唇部肥厚する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
2	土師甕	口縁部 1/3	口径 23.3 残存高 6.5	口縁部外反する。器肉厚い。内、外面ナデ。外面胴部のケズリ不明。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
3	土師甕	口縁部 1/3	口径 19.4 残存高 7.5	口縁部外反する。胴部球形を呈すると思われる。外面横方向のヘラ削り。内面ケズリとナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
4	土師甕	口縁部 1/4	口径 20.5 残存高 12.0	口縁部強く外反する。 外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒、石粒を含む。	良好	褐色	カマド



第39図　32号住居址・出土遺物

32号住居址　（第39図　図版6－2　表26）

本址は調査区中央X147、Y89グリッドで検出された。主軸方向はN－77°－Eである。規模は長軸3.4m、短軸2.6mで方形を呈する。壁高は北側で55cm、南側で20cmである。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

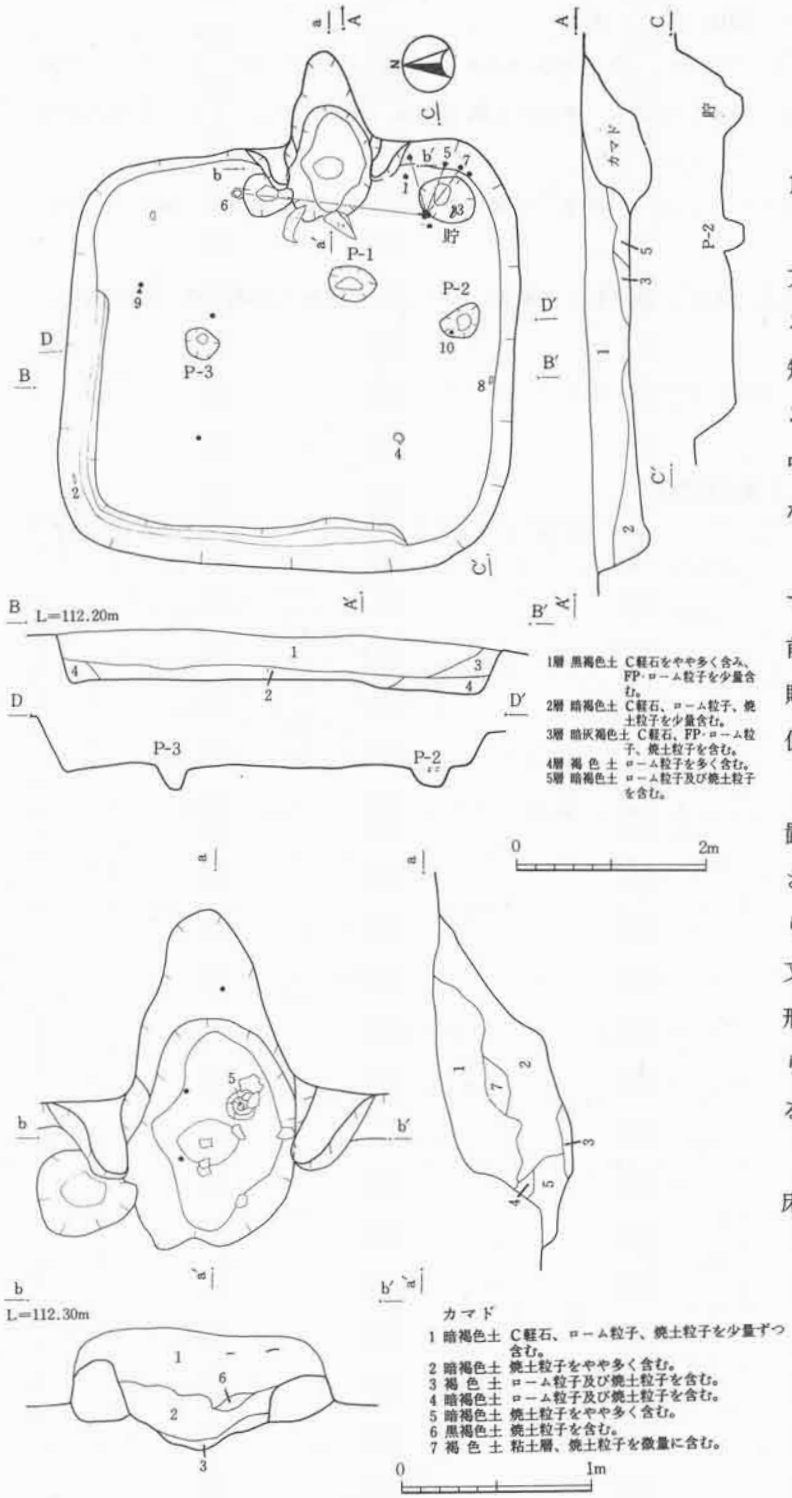
ピットは1基検出されているが浅い。壁溝は北側と東側の半分、南東側隅角で検出されている。

カマド　東壁中央で検出された。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cmで、半円形を呈する。

遺物はカマド及びその周辺にやや多く集まっている。

表26　32・33号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 14.6 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
2	土師坏	1/3	口径 12.6 器高 2.7	ほぼ平底。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師甕	上半部 1/2	口径 23.2 残存高 18.3	口縁部「く」の字状に外反する。器肉やや薄い。外面胴上部横方向、中部縦、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
4	土師甕	上半部 1/3	口径 23.0 残存高 19.5	口縁部「く」の字状に外反する。外面胴上部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
5	土師甕	胴部 1/3	残存高 17.3 最大径 30.8	球形の胴部。最大径は胴部にある。外面ヘラ削り。内面丁寧なナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
1	土師坏	完形	口径 11.7 器高 3.6	ほぼ平底。口縁部弱い稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	完形	口径 11.8 器高 7.6	ほぼ平底。口縁部弱い稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	明褐色	床着
3	須恵坏	ほぼ完形	口径 12.4 器高 3.5 底径 7.2	平底。口縁部外反。ロクロ整形。底部回転糸切り後、ヘラ削り調整。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着
4	須恵坏	1/3	残存高 3.0 底径 6.2	平底。口縁部外反。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
5	土師台付甕	ほぼ完形	口径 13.8 器高 18.2 底径 10.2	頸部しまり、口縁部ゆるく外反する。脚部「ハ」の字状に広がる。器肉やや浅い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド 床着
6	土師甕	口縁部	口径 19.8 残存高 15.4	口縁部「く」の字状に外反する。器肉薄い。外面胴上部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
7	土師甕	2/3	口径 19.6 器高 26.6 底径 4.6	口縁防「く」の字状に外反する。器肉やや薄い。底部すぼまる。外面胴上部横方向の、中、下部縦、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
8	石製品砥石	完形	長さ 11.5 幅 2.5	4面に使用痕。内湾している。	凝灰岩			床着
9	鉄製品不明	先端欠	残存長 7.9	茎部のみ。鏃であろう。				床着
10	鉄製品刀子	刃部欠	残存高 5.9	刃部のほとんどが欠損している。				床着
11	鉄製品刀子	先端欠	残存長 10.2	刃先と茎部欠。				覆土
12	鉄製品不明	基部のみ	残存長 4.5	鏃の基部であろう。				覆土



第40図　33号住居址

33号住居址

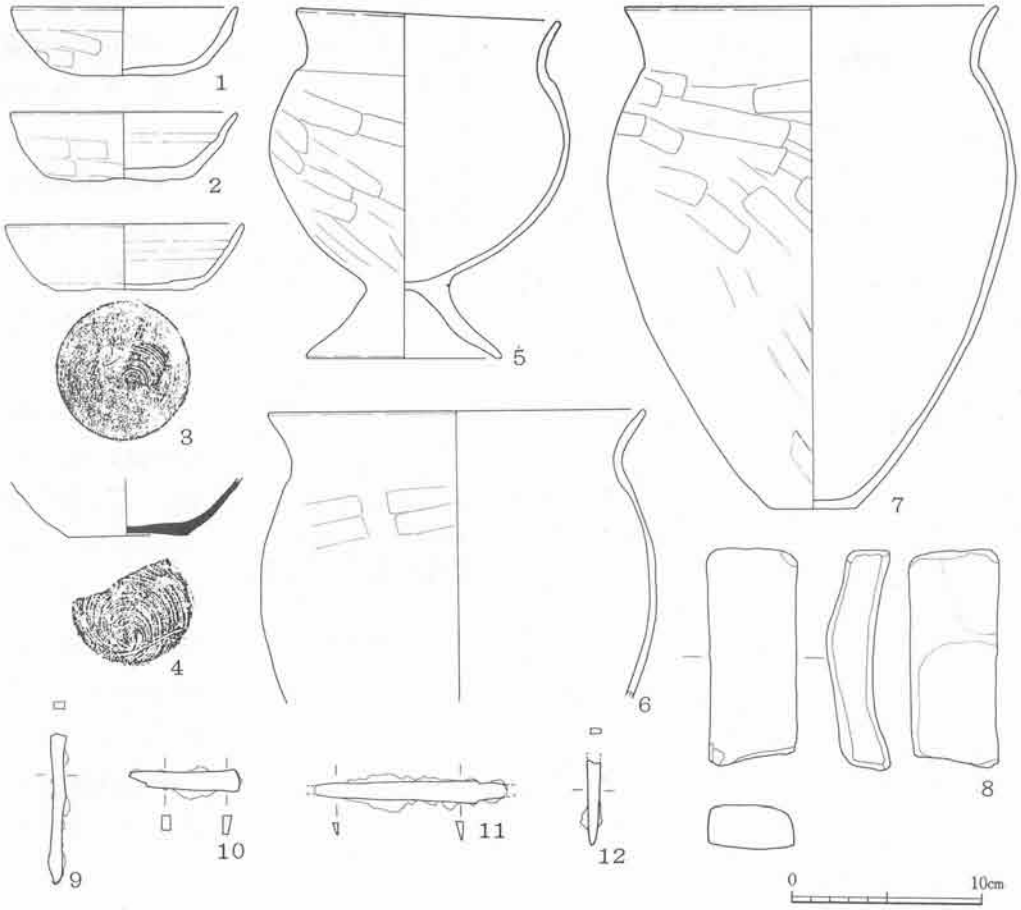
（第40・41図
図版3・18　表26）

本址は調査区中央X143・144、Y87・88グリッドで検出された。主軸方向はN－93°－Eである。規模は長軸4.8m、短軸4.5mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は中央付近にやや踏み固めが認められる。

ピットは4基検出されているが、いずれも20cm前後である。南東壁には貯蔵穴がある。壁溝は北側と西側に認められる。

カマド　東壁中央に位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは100cmである。又カマドの手前には長方形の石が検出されており、カマド材と考えられる。

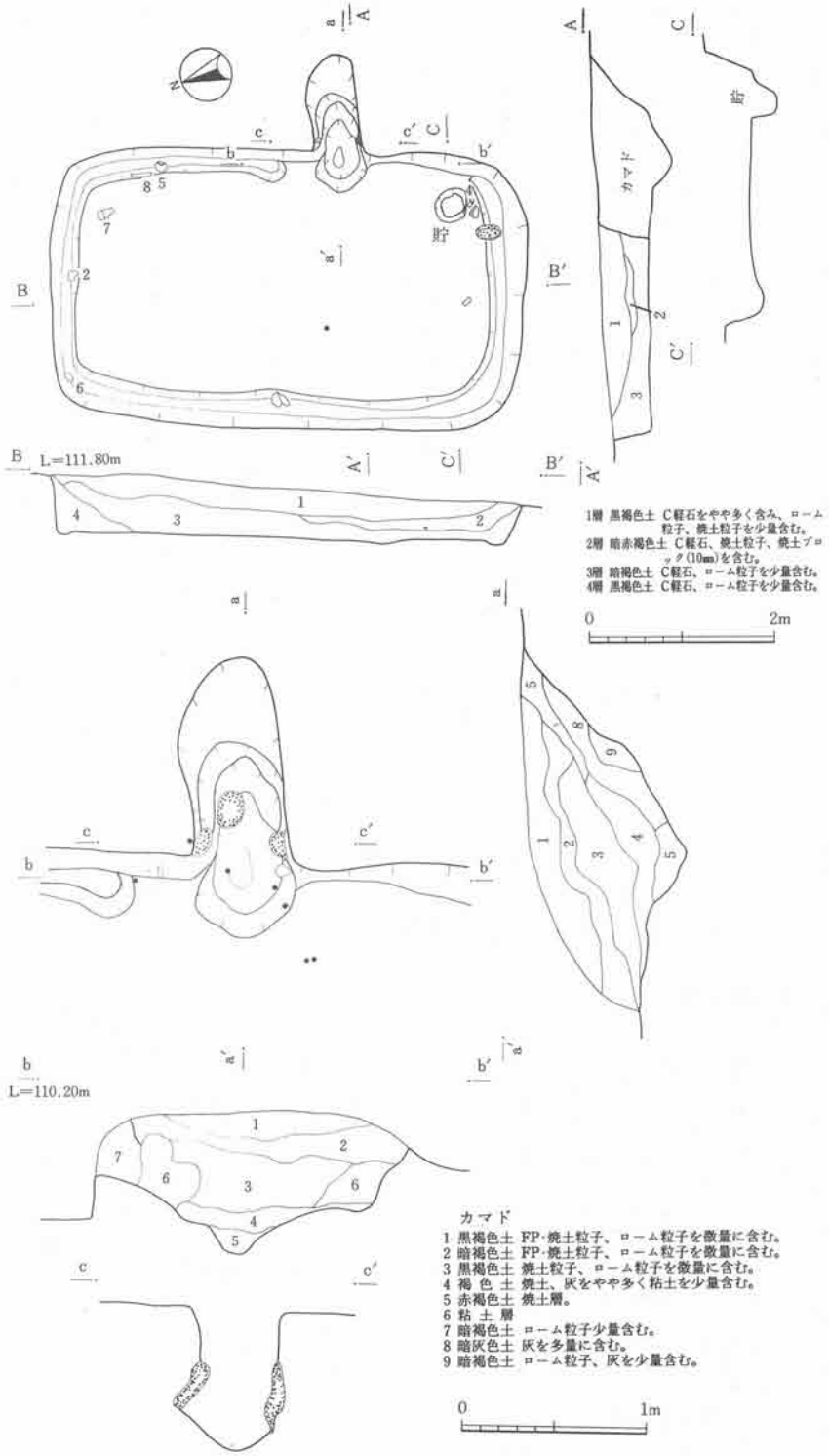
遺物は覆土中に多く、床着遺物は少ない。



第 41 図　33号住居址 出土遺物

表27　35号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	ほぼ完形	口径 12.4 器高 3.4	平底ぎみの丸底。口縁部弱い稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	土師 坏	1/2	口径 12.6 器高 3.1	平底ぎみの丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師 坏	2/3	口径 11.0 器高 2.3	ほぼ平底。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	やや不良	褐色	床着
4	須恵 坏	2/3	口径 13.8 器高 4.0 底径 7.8	平底。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り。	赤色鉱物含む。	不良	黒褐色	床着
5	須恵 坏	完形	口径 11.7 器高 3.3 底径 7.1	平底。口縁防直線的に外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ切り、周縁部回転ヘラ削り。内面底部ロタロ痕。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
6	須恵 坏	4/5	口径 12.0 器高 4.0 底径 7.4	平底。口縁部外反する。ロクロ整形。底部切り離し技法不明。回転ヘラ削り調整。	石粒を含む。	良好	灰褐色	床着
7	土師 坏	上半部 1/5	口径 19.8 残存高 15.0	口縁部「く」の字状に外反する。外面胴上部横方、中部斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
8	鉄製品 鎌	完形	全長 20.9	刃部内湾する。柄部直角に折れ曲がる。				床着
9	鉄製品 不明	先端欠損	残存長 13.1	茎部のみ。鏃であろう。				覆土



第42図　35号住居址

35号住居址

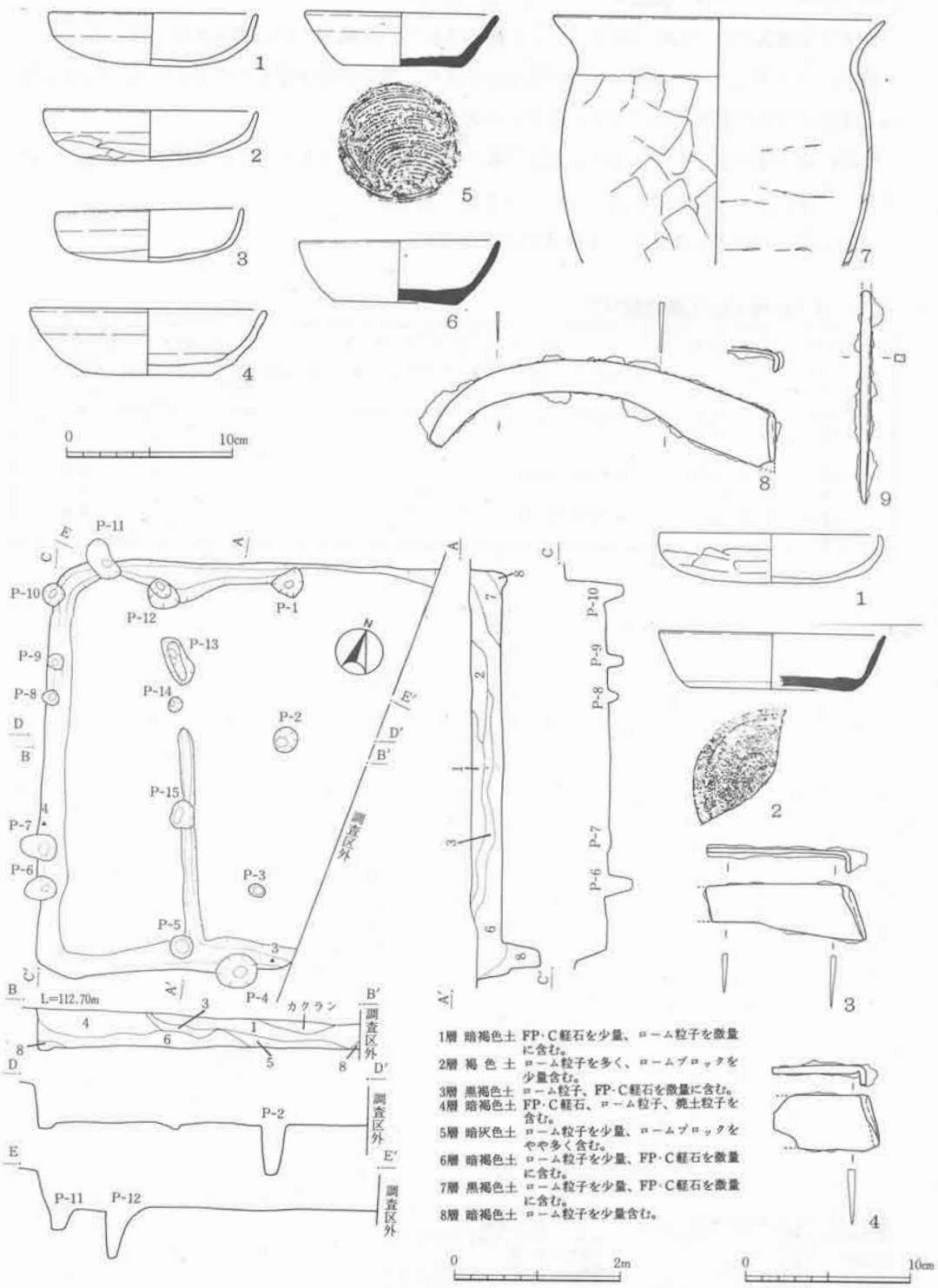
（第42図　図版6－4・18・23　表27）

本址は調査区中央西寄り、X140、Y86・87グリッドで検出された。主軸方向はN－114°－Eである。規模は長軸5.1m、短軸2.9mで横長長方形を呈する。壁高は50cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴が存在する。ピットはなく、壁溝はカマド付近を除いて全周する。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物は覆土中に細片が多く集まり、床着遺物は少ない。



第43図　35号住居址出土遺物、36号住居址・出土遺物

36号住居址　（第43図　図版6－4・18・23　表28）

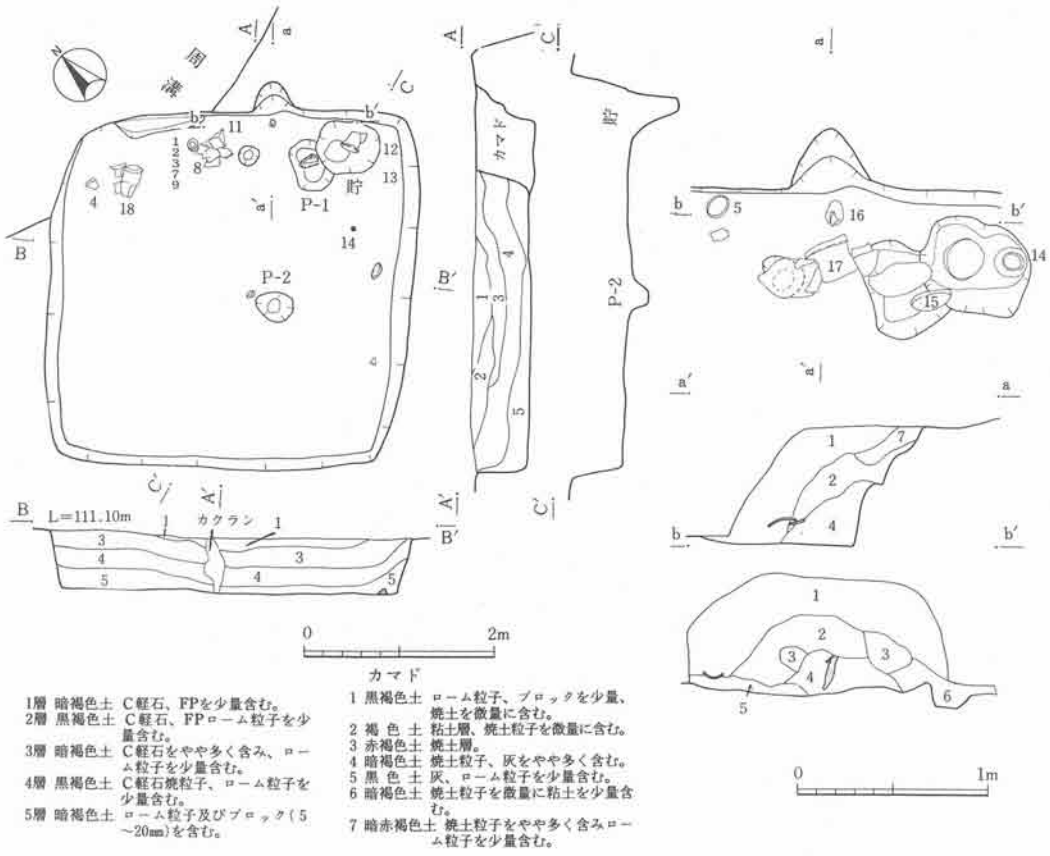
調査区東側X159、Y89・90グリッドで検出された。東側の一部が調査区外となっている。主軸方向は不明である。規模は西側で5.0mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は50cm。床面は平坦で踏み固めは全体に認められる。

壁際には10基の壁柱穴が存在し、他に5基のピットが検出されている。壁溝は調査区内では北側の一部を除いて認められる。カマドは不明である。

遺物は覆土中に多く集まり、床着遺物は少ない。

表28　36号住居址出土遺物観察表

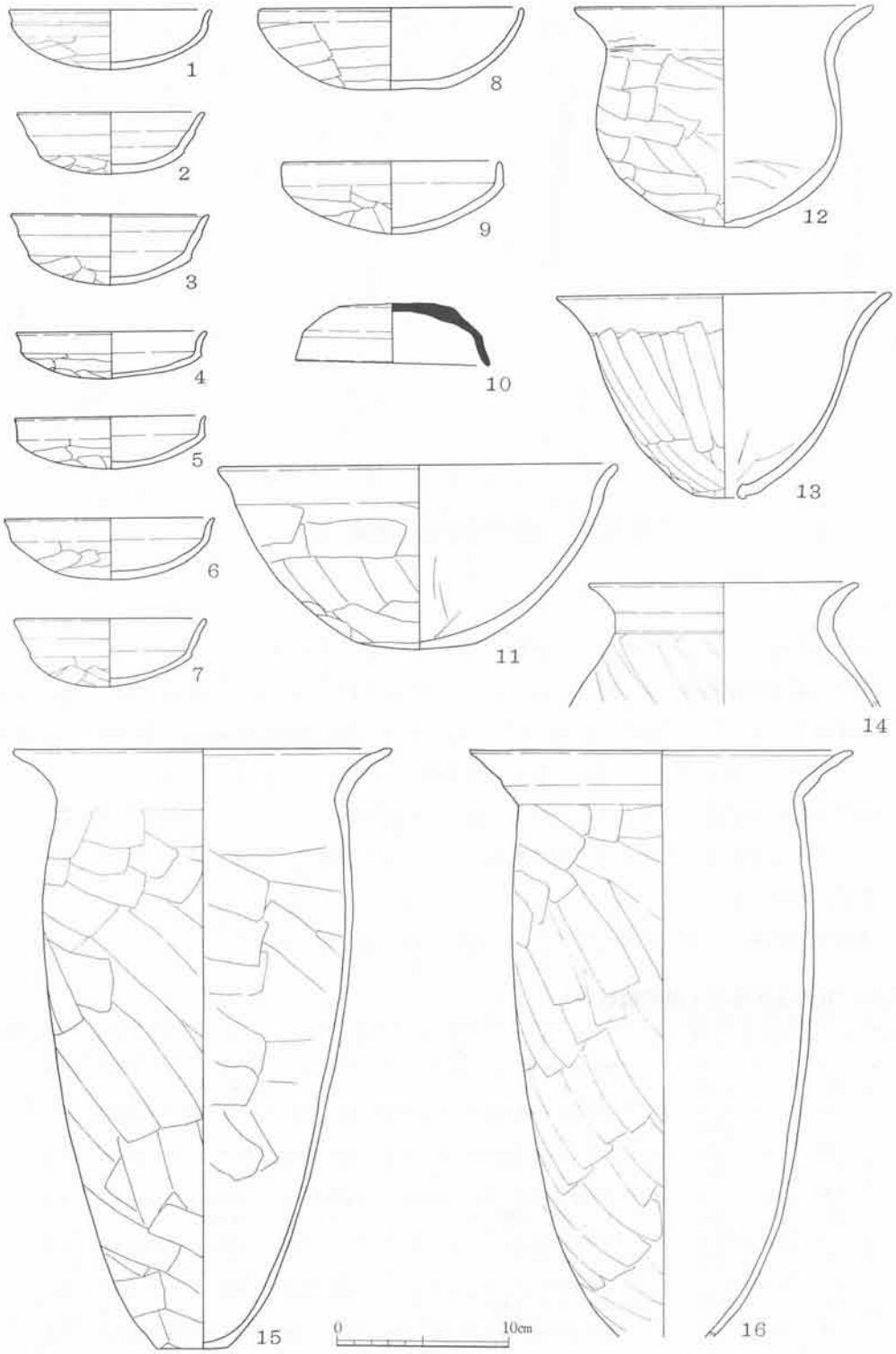
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/2	口径 13.4 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部分内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧跡。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
2	須恵 坏	1/3	口径 13.7 器高 3.4 底径 9.8	口縁部外反。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	緻密	良好	灰褐色	覆土
3	鉄製品 鎌	刃部欠	残存長 9.7	柄部直角に折れ曲がる。				床着
4	鉄製品 鎌	刃部欠	残存長 6.3	柄部直角に折れ曲がる。				床着



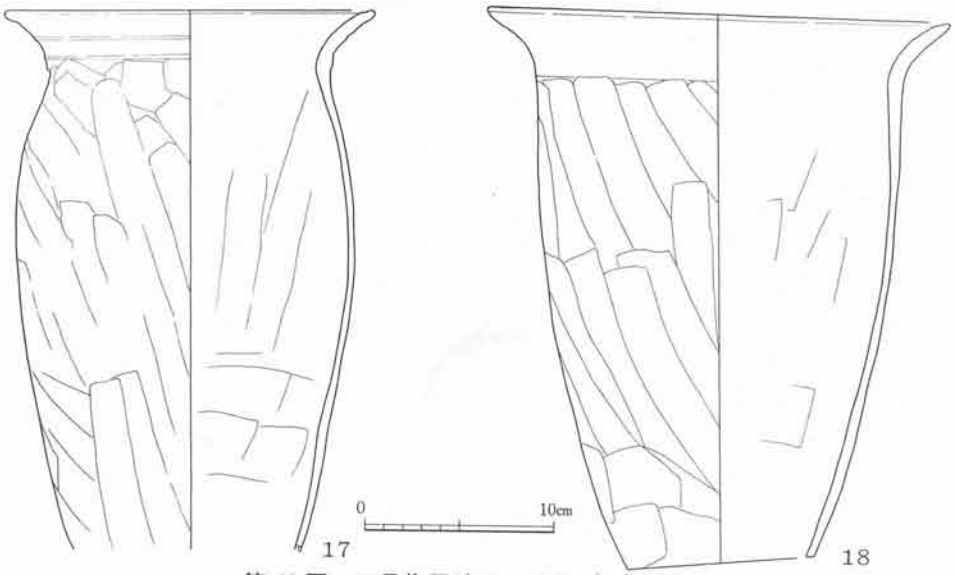
1層 暗褐色土 C軽石、FPを少量含む。
2層 黒褐色土 C軽石、FPローム粒子を少量含む。
3層 暗褐色土 C軽石をやや多く含み、ローム粒子を少量含む。
4層 黒褐色土 C軽石焼粒子、ローム粒子を少量含む。
5層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック（5～20mm）を含む。

カマド
1 黒褐色土 ローム粒子、ブロックを少量、焼土を微量に含む。
2 褐色土 粘土層、焼土粒子を微量に含む。
3 赤褐色土 焼土層。
4 暗褐色土 焼土粒子、灰をやや多く含む。
5 黒色土 灰、ローム粒子を少量含む。
6 暗褐色土 焼土粒子を微量に粘土を少量含む。
7 暗赤褐色土 焼土粒子をやや多く含みローム粒子を少量含む。

第44図　37号住居址



第45図　37号住居址 出土遺物（1）



第46図　37号住居址出土遺物（2）

37号住居址　（第44・45・46図　**図版**6－6・18・19　表29）

本址は調査区東側X159、Y93・94グリッドで検出された。北側の一部が古墳の周溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－45°－Eである。規模は長軸3.8m、短軸3.7で、ほぼ正方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東壁際には貯蔵穴が存在する。壁溝は検出されなかった。

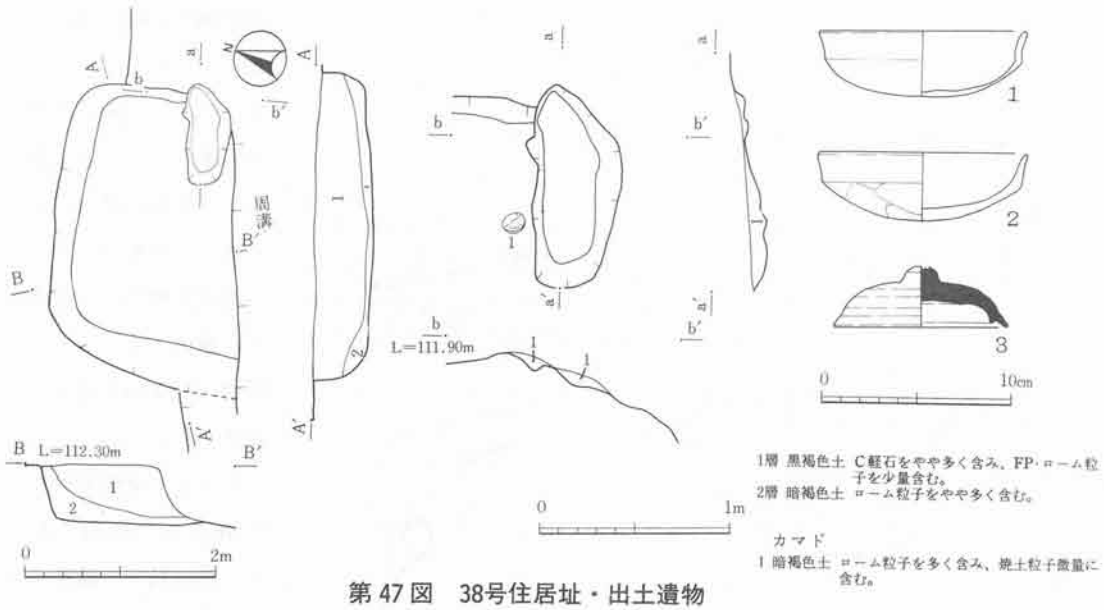
カマド　東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みはほとんどなく、急激に立ち上がる。

遺物は、貯蔵穴・カマド付近を中心に、完形の坏・甑・甕が出土している。

表29　37号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	完形	口径 11.8 器高 3.5	口縁部稜を持ち外反ぎみに立ち上げる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	完形	口径 11.0 器高 3.5	口縁部二段の稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	完形	口径 11.6 器高 4.2	口縁部二段の稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	4/5	口径 11.2 器高 2.7	口縁部稜を持ち直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	土師坏	ほぼ完形	口径 11.2 器高 3.0	口縁部稜を持ち直立し、口唇部外反ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
6	土師坏	ほぼ完形	口径 12.2 器高 3.5	口縁部稜を持ち直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	覆土
7	土師坏	ほぼ完形	口径 11.2 器高 4.0	口縁部二段の稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	橙褐色	床着
8	土師坏	4/5	口径 15.4 器高 4.8	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、口唇部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	床着

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
9	土師 坏	ほぼ完形	口径 12.8 器高 4.4	口縁部稜を持ち直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ	緻密	良好	橙褐色	床着
10	須恵 蓋	ほぼ完形	口径 11.4 器高 3.5	天井部と口縁部の境いに稜をもつ。天井の中央部回転ヘラ削り	石粒を少量含む	良好	灰色	覆土
11	土師 鉢	4/5	口径 23.4 器高 10.8	口縁部外反する。外面上部横方向の中部縦、下部横方向のヘラ削り。内面ナデ、内面底部縦方向のヘラ調整。	砂粒をやや多く含む。	良好	にぶい褐色。	床着
12	土師 甕	4/5	口径 17.4 器高 12.9	丸底。口縁部強く外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ、底部ヘラ調整。	砂粒を含む。	良好	褐色	床着
13	土師 甑	ほぼ完形	口径 19.8 器高 12.0	単孔。鉢形を呈する。孔径2㎝。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ、底部ヘラ調整。	砂粒・石粒を含む。	良好	褐色	床着
14	土師 甕	口縁部	口径 15.8 残存高 7.2	口縁部外反する。外面斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
15	土師 長胴甕	ほぼ完形	口径 22.4 器高 35.5 底径 4.2	口縁部外反する。底部すぼまる。外面胴上部横方向の、中部斜、縦方向のヘラ削り。内面ヘラ削りとナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色	カマド
16	土師 長胴甕	底部欠	口径 22.8 残存高 34.7	口縁部外反する。外面胴上部横方向、他の部分斜、縦方向のヘラ削り。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
17	土師 長胴甕	底部欠	口径 19.5 残存高 28.5	口縁部外反する。頸部ケズリが入りややしまる。外面頸部付近横方向の、他は縦方向のヘラ削り。内面ケズリとナデ。	砂粒・石粒を多く含む。	良好	橙褐色。外面二次焼成痕。	カマド
18	土師 甑	一部欠	口径 24.6 器高 29.1	単孔、長胴の孔径9.8㎝。口縁部外反する。外面縦方向の、底部付近横方向のヘラ削り。内面ヘラ調整とナデ。	砂粒・石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着



1層 黒褐色土 C軽石をやや多く含み、FP・ローム粒子を少量含む。
2層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く含む。

カマド
1 暗褐色土 ローム粒子を多く含み、焼土粒子微量に含む。

第47図 38号住居址・出土遺物

表30 38号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	ほぼ完形	口径 10.8 器高 3.6	丸底。口縁部稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	床着
2	土師 坏	3/4	口径 11.0 器高 3.6	丸底。口縁部稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	須恵 蓋	一部欠	口径 9.2 残存高 3.2	小さなつまみ。かえりを有する。ロクロ整形。天井部中央回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土

38号住居址　（第47図　**図版**6－7・19　表30）

本址は調査区東側X158・159、Y91・92グリッドで検出された。南側で古墳の周溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－48°－Eである。規模は不明であるが、東西方向で3.2mで方形を呈すると思われる。壁高は60cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

ピット・壁溝等は検出されていない。

カマド　東壁中央に長楕円形の掘り込みと、わずかな焼土が認められた。

遺物はカマド付近からほぼ完形の坏が出土しているが、全体的に少ない。

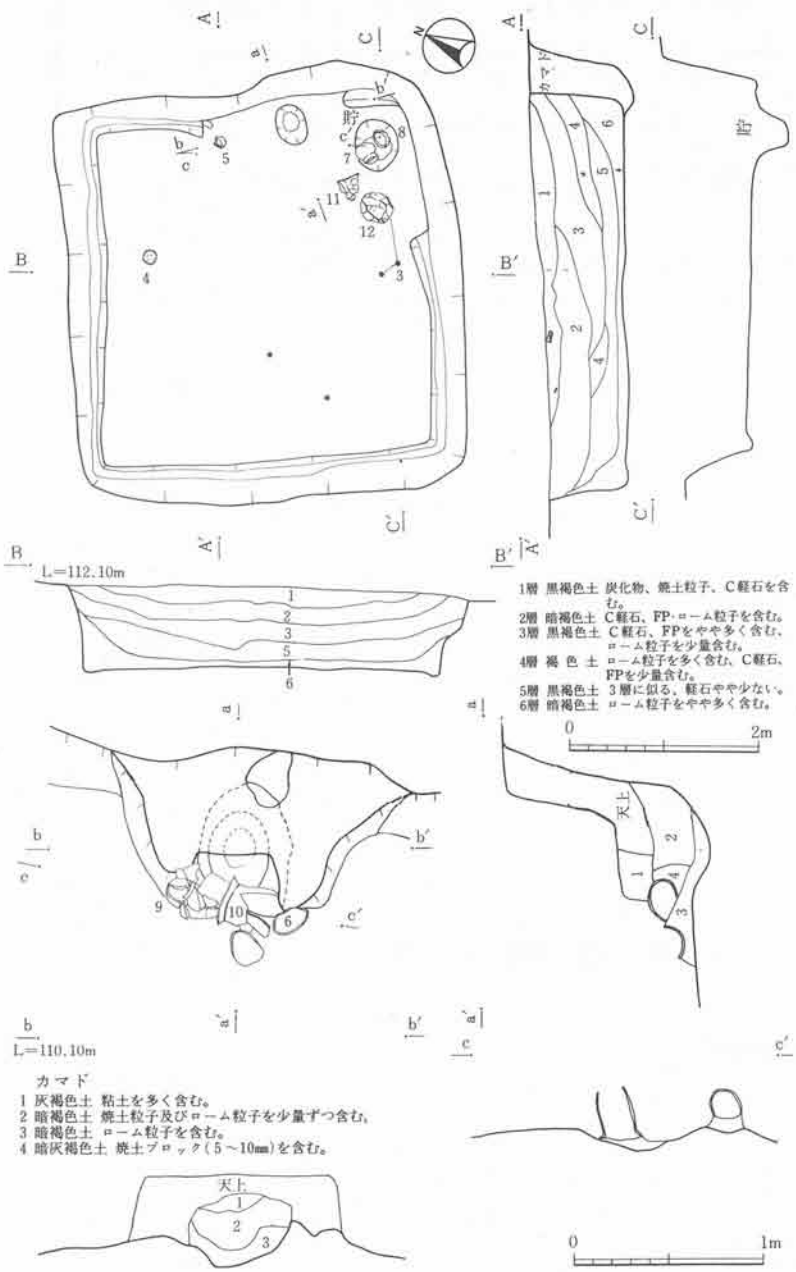
39号住居址　（第48～50図　**図版**6－8・19・20　表31）

本址は調査区東側X154・155・156、Y92・93グリッドで検出された。主軸方向はN－63°－Eである。規模は長軸4.4m、短軸4.2mで方形を呈する。壁高は90cm。床面は西側から東側へいくぶん傾斜しており、踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯蔵穴が検出されている。壁溝は南東側を除いて認められる。

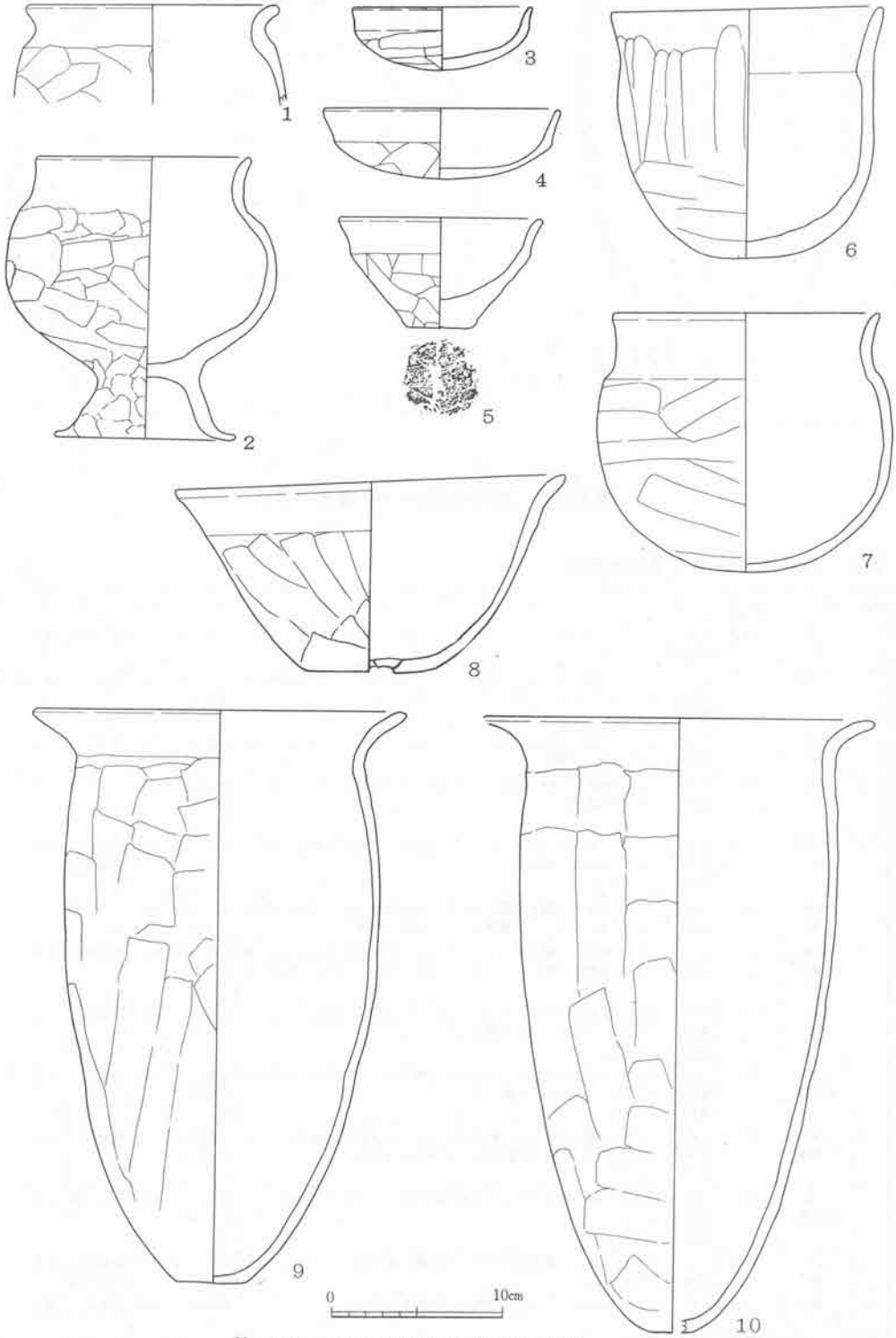
カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は粘土で構築され、先端に甕を利用している。天井は一部残っており、壁外への掘り込みはほとんどない。

本址の覆土最上層には焼土と共に大量の投げ込みと思われる遺物

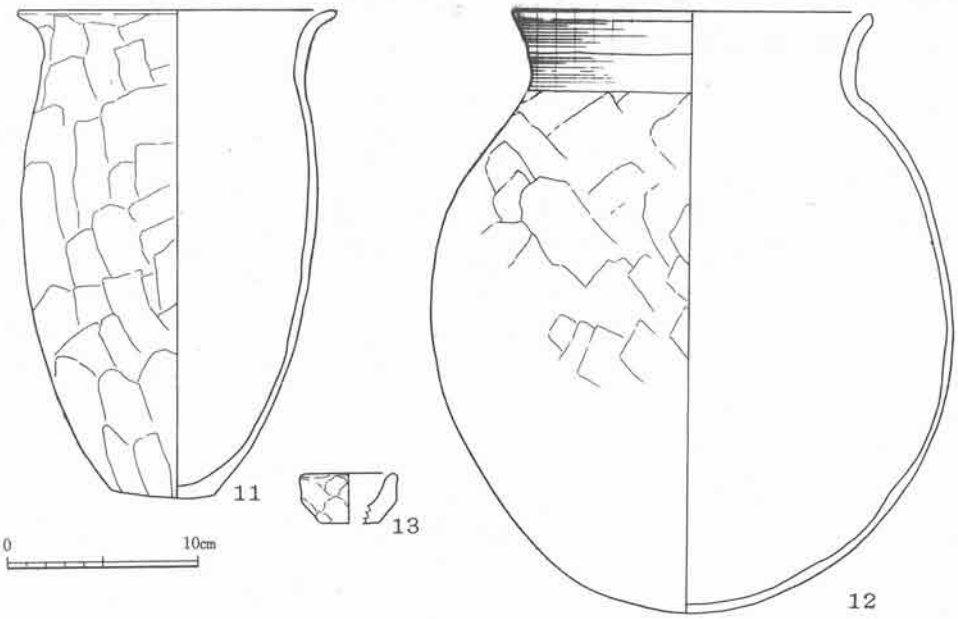


第48図　39号住居址

が検出されている。他の覆土中からはほとんど遺物は出土しておらず、床着・貯蔵穴・カマドから完形の坏・甕・甑等が出土している。



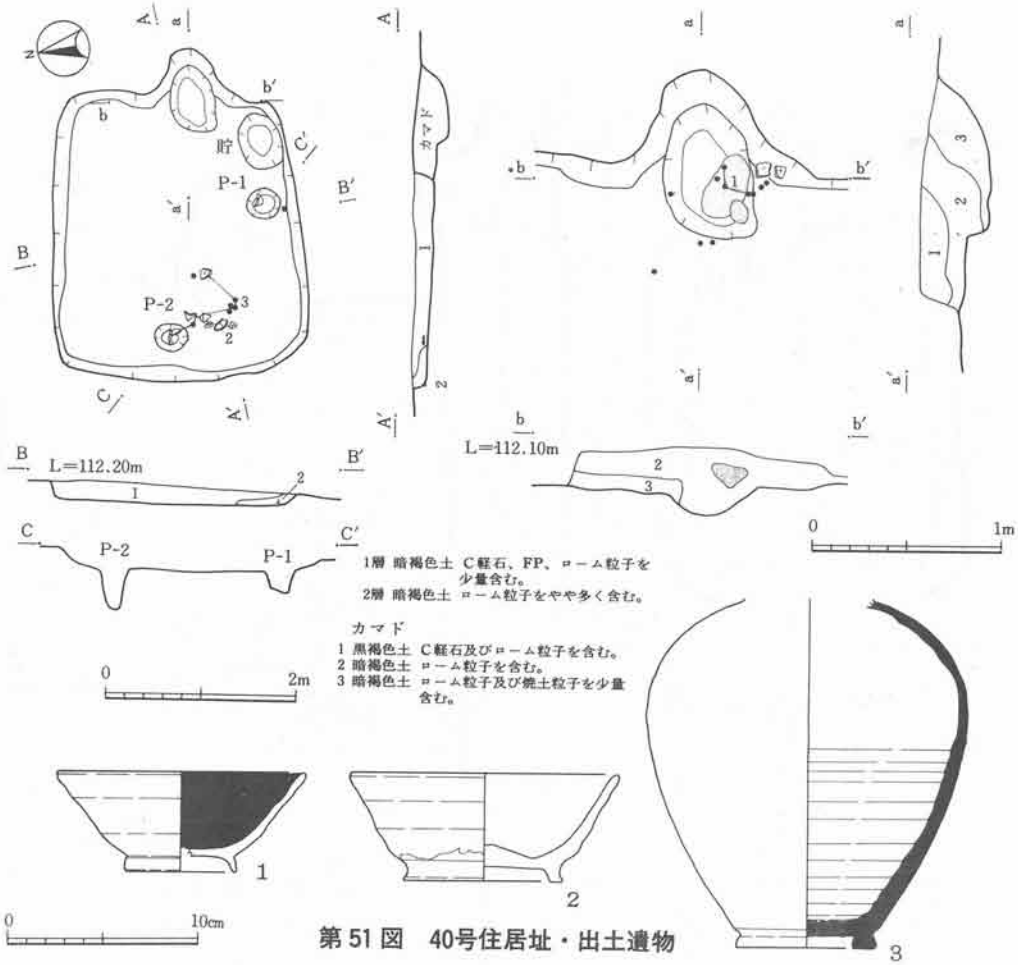
第49図　39号住居址出土遺物（1）



第50図　39号住居址 出土遺物（2）

表31　39号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師甕	口縁部	口径 14.4 残存高 5.5	口縁部短く、「く」の字状に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を多く含む。	良好	暗赤褐色	覆土第1層中。
2	台付甕	2/3	口径 12.5 器高 16.8 底径 10.6	口縁部直立する。脚部「ハ」の字状に開く。外面胴部横方向のヘラ削り。脚部丹念なヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	褐色	覆土第1層中。
3	土師坏	1/3	口径 10.4 器高 3.7	丸底・口縁部稜を持ち、直立ぎみに外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	完形	口径 13.8 器高 4.3	丸底。口縁部稜を持ち直線的に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ	砂粒・石粒を含む。	良好	にぶり褐色	床着
5	土師鉢	2/3	口径 11.8 器高 6.5 底径 3.8	口縁部稜を持ち外反する。器肉厚い。底部木葉痕。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を多く含む。	良好	橙褐色。外面黒斑ある。	床着
6	土師甕	完形	口径 15.9 器高 14.8	丸底。口縁部明確な稜を持たずに外反する。外面上部縦方向の、中、下部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	やや不良	にぶい褐色	カマド
7	土師甕	完形	口径 15.7 器高 15.2	丸底。口縁部直立ぎみに立ち、口唇部外反ぎみになる。外面胴上部横方向の、中、下部斜方向のヘラ削り。内面丁寧なナデ。	砂粒を少量含む。	良好	暗灰褐色	床着
8	土師甑	完形	口径 22.9 器高 11.2 底径 3.0	鉢形を呈する。孔3×3.5cmの楕円形。外面縦、斜方向のヘラ削り。内面丁寧なナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	床着
9	土師長胴甕	一部欠	口径 22.1 器高 33.9 底径 4.2	口縁部外反する。外面胴上部横方向の、中部・下部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。	良好	橙褐色	床着、カマド
10	土師長胴甕	4/5	口径 23.2 器高 36.3 底径 2.3	口縁部外反する。底部すぼまる。外面胴上部縦方向の、中部・下部縦一部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。		橙褐色	床着、カマド
11	土師長胴甕	一部欠	口径 16.6 器高 25.9 底径 5.4	口縁部外反する。外面胴部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を多く含む。	良好	にぶい褐色	床着
12	土師甕	一部欠	口径 19.1 器高 81.9	丸底。口縁部外反する。外面横、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	赤褐色。外面黒斑	床着
13	土製品手ずくね	1/3	口径 4.5 器高 3.1	器肉厚い。外面一部削り。内外面共にナデ。	細砂粒含む。	良好	橙褐色	覆土



第51図　40号住居址・出土遺物

40号住居址　（第51図　図版7－1・20　表32）

本址は調査区東側X154・155、Y91・92グリッドで検出された。主軸方向はN－104°－Eである。規模は長軸3.1m、短軸2.7mで方形を呈する。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めは軟弱である。

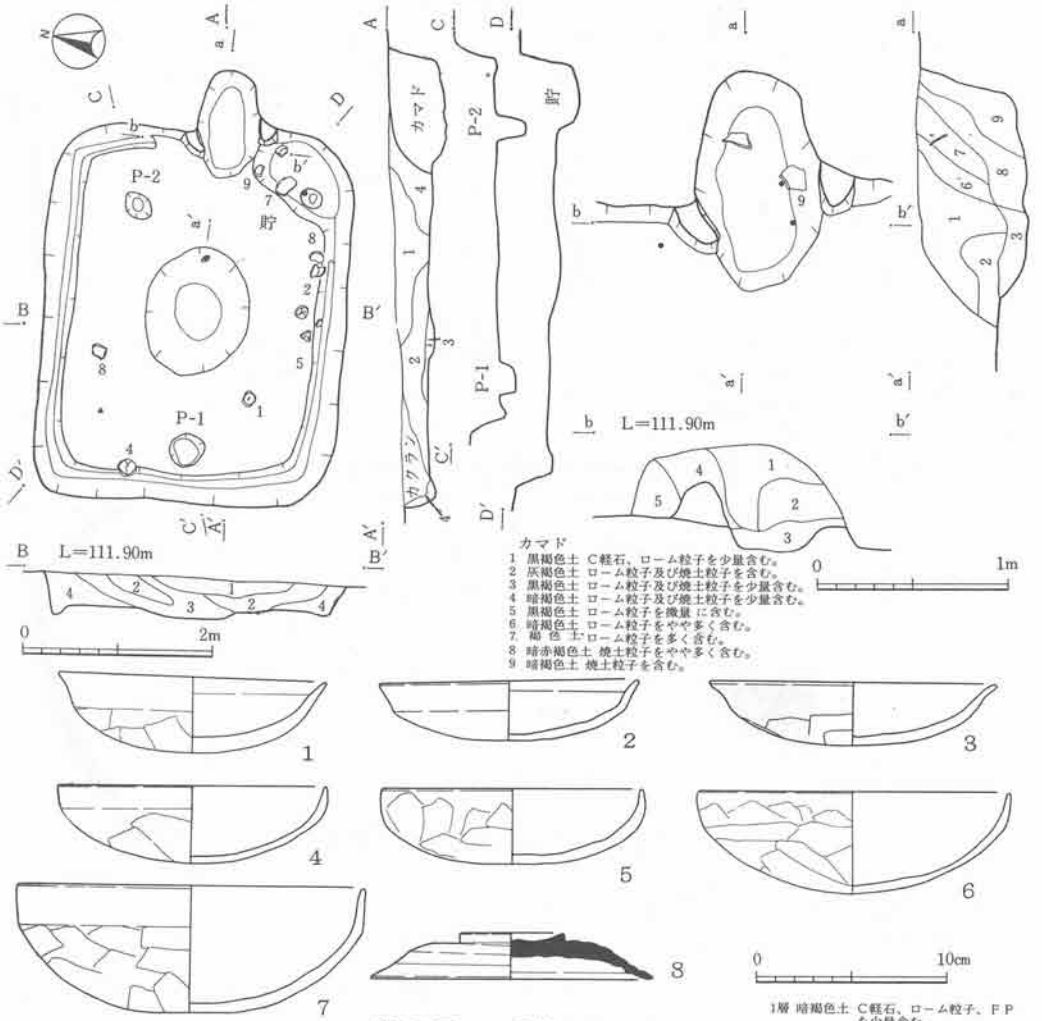
ピットは2基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴がある。壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは50cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物は床着で須恵器の長頸壺が出土しているが，他はほとんど出土していない。

表32　40号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 埦	1/3	口径 13.0 器高 5.3 底径 5.8	高台付。八の字状に開く。口縁部外反する。底部高台貼付後、ヘラ削り。須恵埦の模倣。内面ミガキとナデ。	砂粒を少量含む。	良好	外面橙褐色	カマド 内黒
2	土師 埦	1/2	口径 14.0 器高 5.7 底径 8.4	高台付。厚く長方形。口縁部外反する。須恵埦の模倣。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
3	須恵 壺	頸部欠	残存高 18.5 底径 7.4	高台部太く短い。長頸になると思われる。ロクロ整形。	石粒を少量含む。	やや不良	灰褐色	床着



第52図　41号住居址・出土遺物

表33　41号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 14.0 器高 4.3	丸底。口縁部弱い稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色。外面黒斑	床着
2	土師坏	ほぼ完形	口径 13.6 器高 3.3	丸底。口縁部稜を持ち外反する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	2/3	口径 14.8 器高 3.3	丸底。口縁部強く外反する。外面ヘラ削り。内面丁寧なナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	完形	口径 14.2 器高 4.2	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がりやや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	土師坏	2/3	口径 13.8 器高 4.0	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
6	土師坏	2/3	口径 16.4 器高 6.7	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がりやや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
7	土師坏	2/3	口径 18.2 器高 6.7	丸底。口縁部稜を持ち、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
8	須恵蓋	ほぼ完形	口径 14.8 器高 2.5	扁平。大形のつまみ。弱いかえりを持つ。ロクロ整形。天井の中央部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	床着

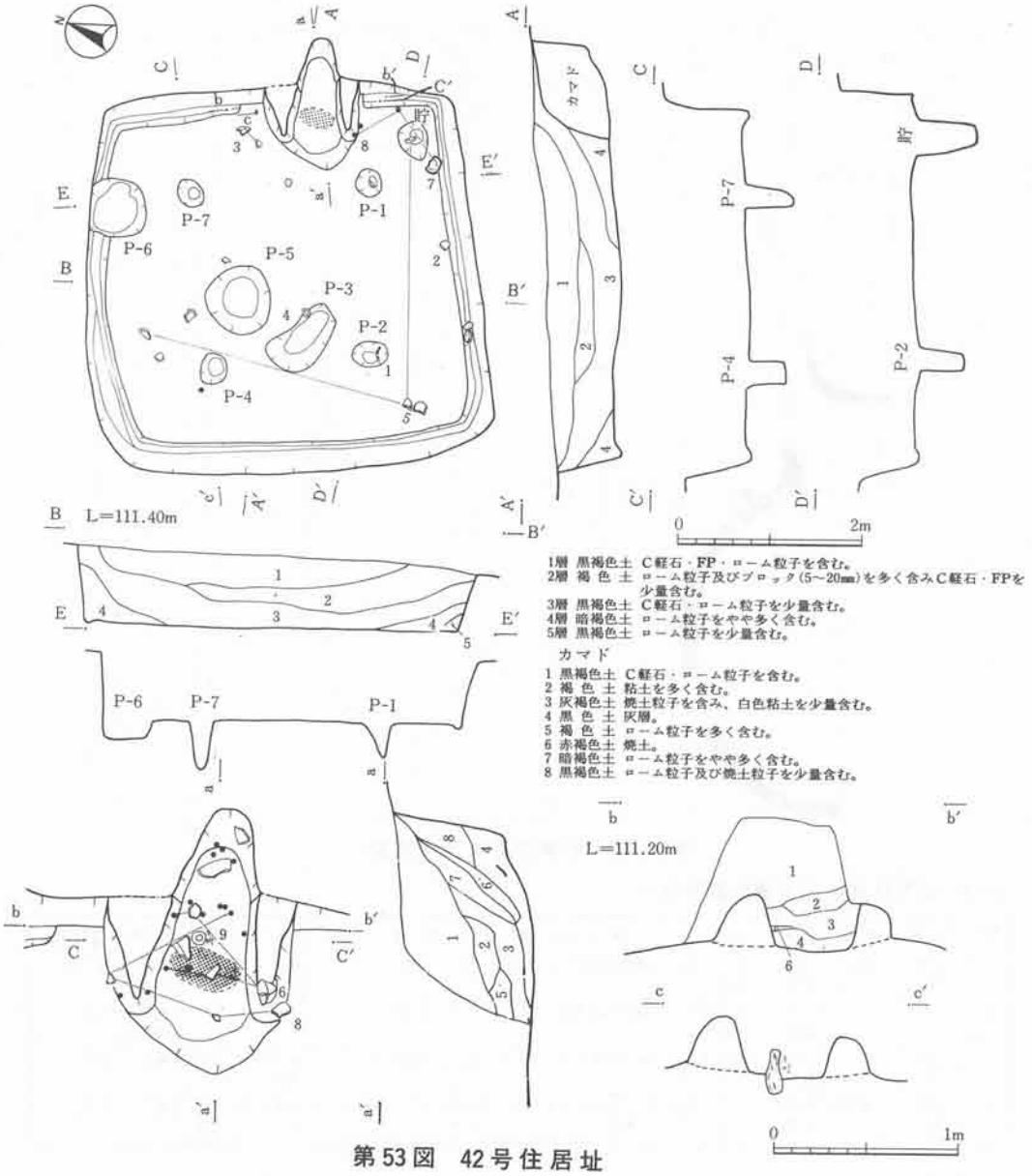
41号住居址　（第52図　図版7－2・20　表33）

本址は調査区中央X147・148、Y90グリッドで検出された。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は35cm。床面は平坦で、踏み固めは弱い。

ピットは2基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴があり、中央には浅い皿状の掘り込みがある。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて認められる。

カマド　東壁中央に位置する。袖は褐色の粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cmで、急激に立ち上がる。

遺物は貯蔵穴及び南側に集中する傾向がある。



第53図　42号住居址

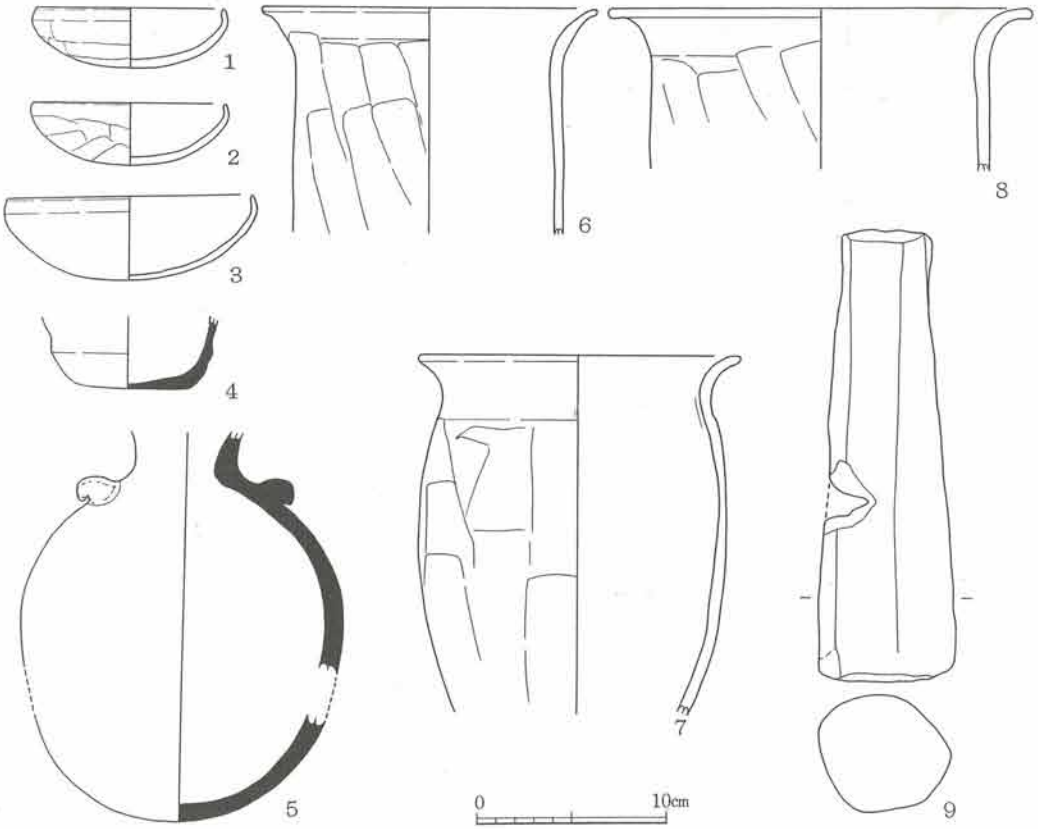
42号住居址　（第54図　図版7－3・20　表34）

本址は調査区中央X144・145、Y91・92グリッドで検出された。主軸方向はN－66°－Eで。規模は1辺4.2mで正方形を呈する。壁高は75cm。床面は平坦で全体に踏み固めが認めている。

南東側壁際には貯蔵穴があり、主柱穴4基が検出されている。壁溝はカマド付近を除いて認められる。

カマド　東壁中央南寄りで検出された。袖は基部が地山のローム、先端部がロームと粘土の混合土で構築されている。支脚は土製品である。壁外への掘り込みは40cmで急激に立ちあがる。

遺物は覆土中に細片が多く、床着遺物は少ない。



第54図　42号住居址出土遺物

表34　42号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 9.8 器高 3.2	丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒少量含む。	良好	赤褐色。外面黒斑	柱穴内
2	土師坏	1/3	口径 9.9 器高 3.3	丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色。外面黒斑	床着
3	土師坏	2/3	口径 12.8 器高 4.3	丸底。口縁部内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	須恵坏	口縁部欠	残存高 3.7 底径 6.0	口縁部外反ぎみに立ち上がると思われる。ロクロ整形。外面底部ヘラ削り。	砂粒を含む。	やや不良	茶褐色	床着

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
5	須恵提瓶	1/2	残存高 20.5	把手鍵状。最大径胴中央部。ロクロ整形。一部自然釉付着。	石粒を含む。	やや良好	灰褐色	床着
6	土師長胴甕	口縁部 1/2	口径 17.5 残存高 12.0	口縁部外反する。ふくらみのない胴部。外面縦白向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。	良好	褐色	カマド
7	土師長胴甕	底部欠	口径 16.8 残存高 18.8	頸部ややしまり、口縁部外反する。胴部ややふくらむ。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	暗赤褐色	床着
8	土師長胴甕	口縁部 1/2	口径 22.0 残存高 8.6	口縁部強く外反する。外面斜方向のヘラ削り。外面ナデ。	砂粒・石粒を含む。	良好	褐色	カマド
9	土製品支脚	ほぼ完形	長さ 23.8 上面径 4.3	断面円形。円柱形。丁寧な作り。上面なめらか。	砂粒を含む。	良好	褐色	カマド支脚

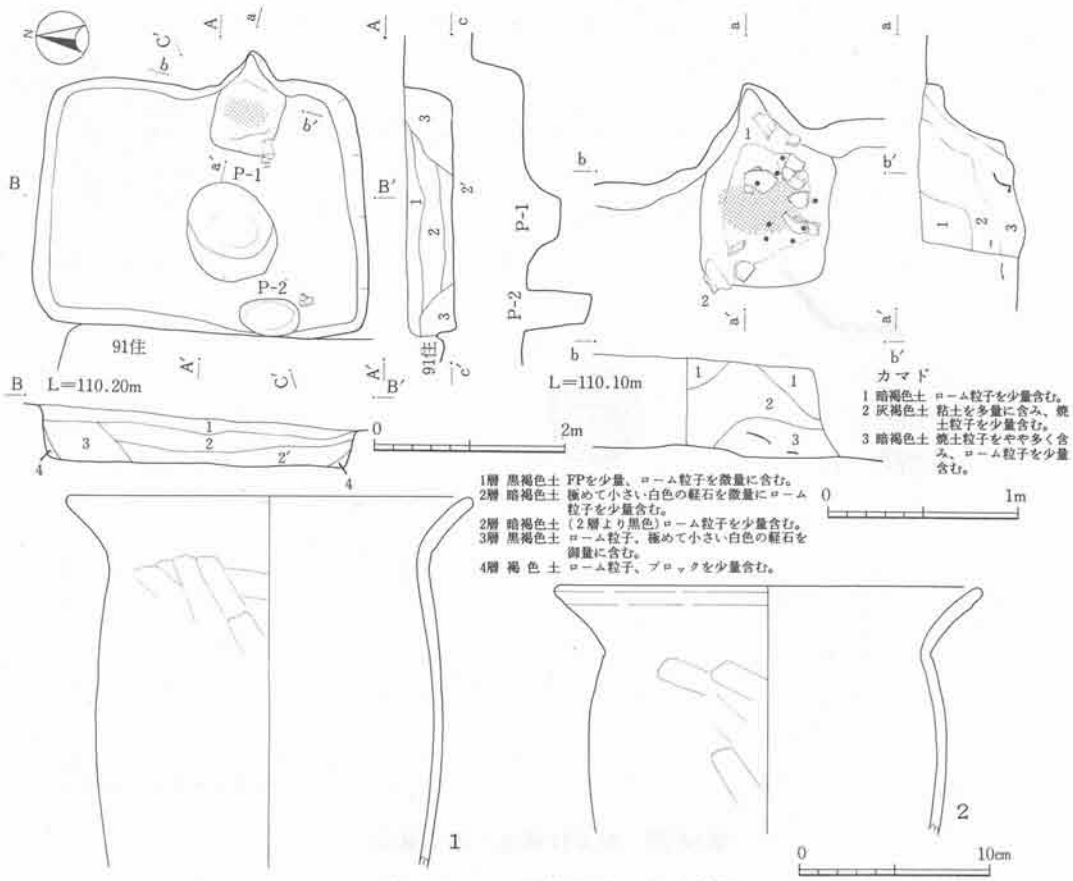
43号住居址　（第55図　図版7－4　表35）

本址は調査区東側X154、Y98・99グリッドで検出された。西側で一部91号住居址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－87°－Eである。規模は長軸3.6m、短軸2.6mで方形を呈する。壁高は55cm。床着は平坦で踏み固めは軟弱である。

ピットは2基検出されている。壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは20cmと少なく、急激に立ち上がる。

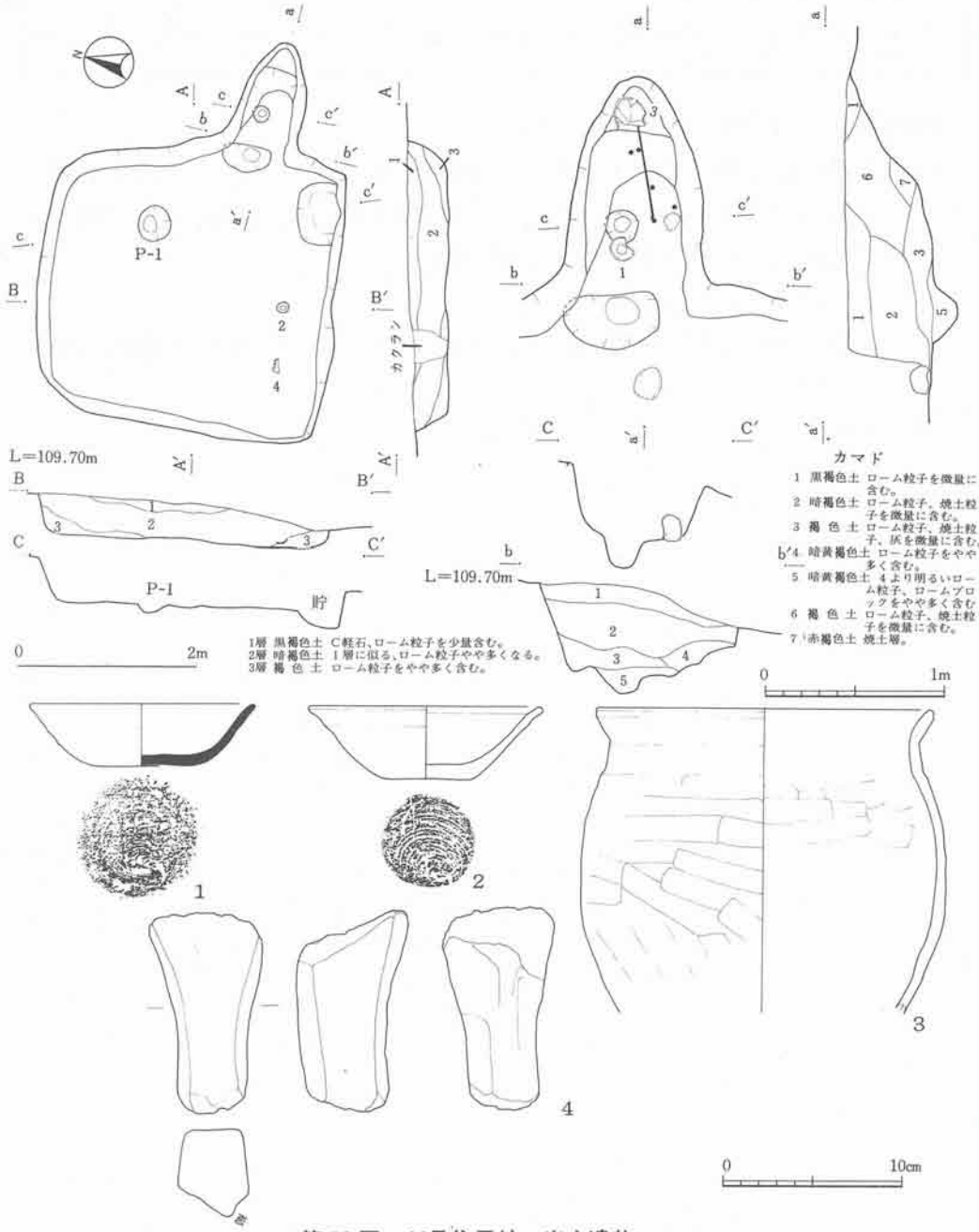
遺物は全体に少ないが、カマドからややまとまって出土している。



第55図　43号住居址・出土遺物

表35　43号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 長胴甕	口縁部 1/4	口径 21.0 残存高 19.7	口縁部外反する。胴部ややふくらむ。外面斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母を含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師 長胴甕	口縁部 1/4	口径 22.0 残存高 13.0	頸部ややしまり、口縁部外反する。外面斜、縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母含む。	良好	橙褐色	カマド



第56図　44号住居址・出土遺物

44号住居址　（第56図　図版7－5・20・23　表36）

本址は調査区東側X154・155、Y99・100グリッドで検出された。主軸方向はN－87°－Eである。規模は長軸3.4m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は依存の良い北側で55cmを計る。床面はやや凹凸があり、踏み固めは弱い。

南東側壁際には貯蔵穴があり、他にピット1基が検出されている。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。石組みのカマドであったと思われる。壁外への掘り込みは120cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物は少量であるがカマド及び床着で完形に近い坏が検出されている。

表36　44号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵坏	一部欠	口径 12.4 器高 3.5 底径 5.6	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	砂粒・雲母を含む。	良好	灰褐色	カマド
2	須恵坏	完形	口径 13.0 器高 4.0 底径 5.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
3	土師甕	口縁部2/3	口径 18.8 残存高 17.2	頸部しまり、口縁部外反する。外面胴上部横方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
4	石製品砥石		残存長 11.4	石質やや荒く、荒砥として使用したと思われる。4面に使用痕。	石材不明		灰褐色	床着

45号住居址　（第57・58図　図版7－6・20　表37）

本址は調査区中央X145・146、Y94・95グリッドで検出された。主軸方向はN－68°－Eである。規模は長軸6.0m、短軸5.7mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、深さ65cmから95cmの主柱穴4基が検出されている。又中央北寄りには深さ90cmの大形のピットが検出され、覆土中には炭化材を含んでいる。壁溝はカマド貯蔵穴付近を除いて認められる。

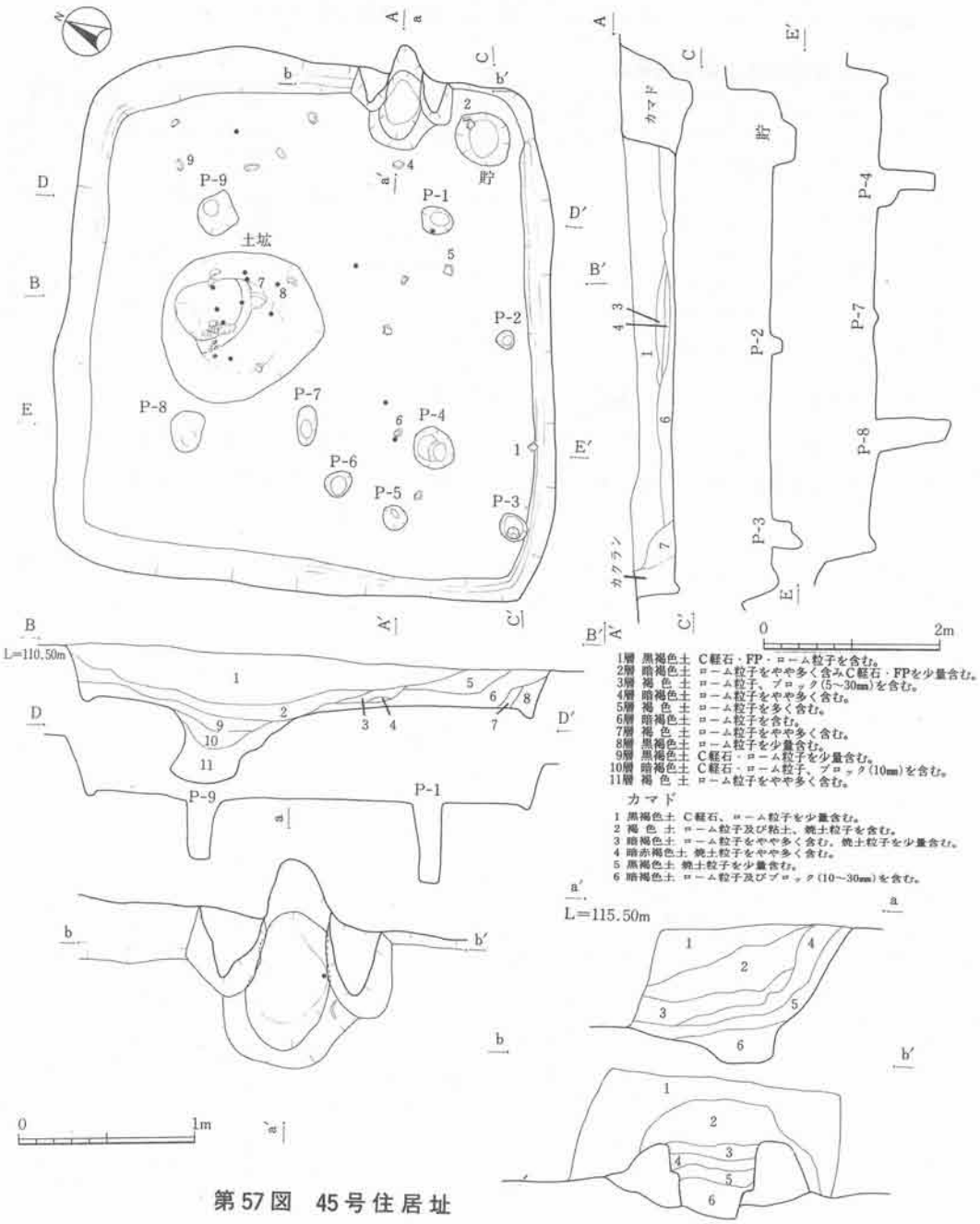
カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は粘土とロームの混合土である。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中に細片が多く集まる。床着遺物は比較的少ないが、大形のピットからはややまとまって出土している。

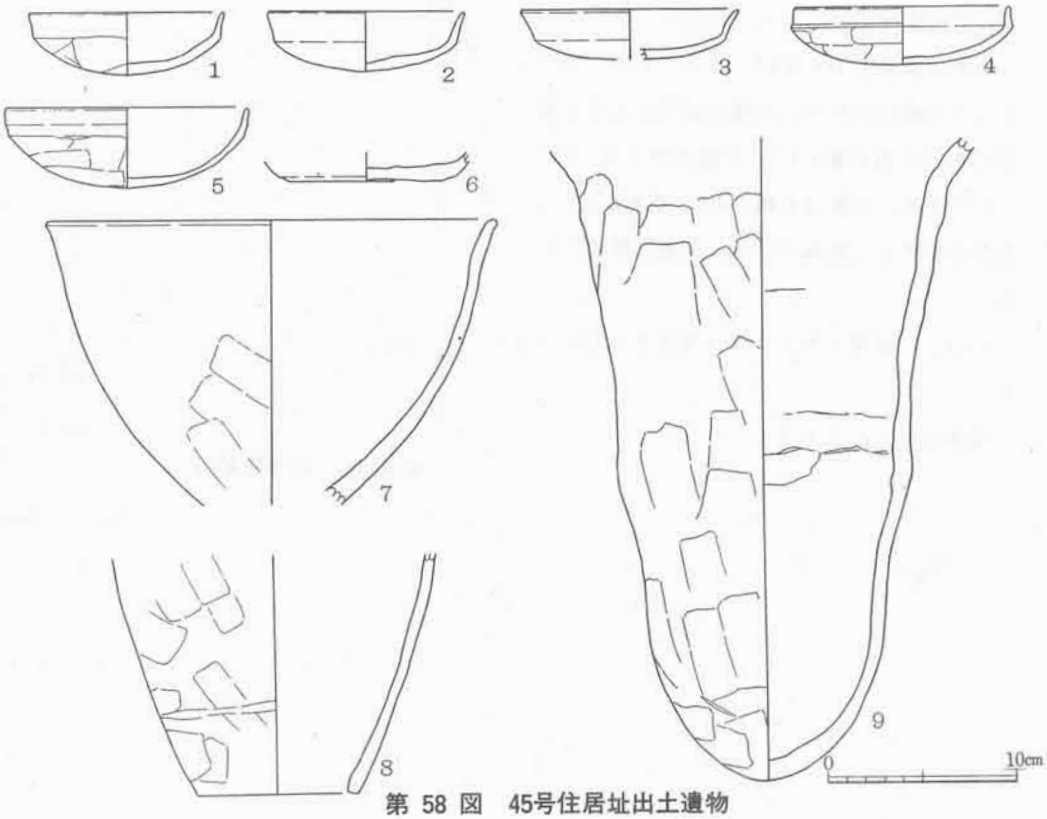
表37　45号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 10.1 器高 3.2	丸底。口縁部稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	1/3	口径 10.2 器高 3.1	丸底。口縁部稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	貯蔵穴
3	土師坏	1/4	口径 11.4 器高 2.6	丸底。口縁部稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ	石粒を少量含む。	良好	褐色	床着
4	土師坏	1/2	口径 11.2 器高 3.0	丸底。口縁部稜を持ち直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	褐色	床着
5	土師坏	1/2	口径 12.6 器高 4.3	丸底。口縁部弱い稜を持ち、やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	覆土下層

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
6	須恵杯	底部	残存高 1.5 底径 7.5	ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土下層
7	土師鉢	1/4	口径 23.5 残存高 15.0	口縁部外反する。甑の可能性ある。外面ヘラ削り。内面ナデ。外面摩耗し，調整痕不明の部分多い。	石粒を多く含む。	良好	褐色	住居址内土坑
8	土師甑	1/3	残存高 12.5 底径 8.4	単孔。長胴を呈すると思われる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	褐色	住居址内土坑
9	土師長胴甕	1/2	残存高 33.9	丸底。口縁部外反する。胴中央部に輪積痕による段が認められる。外面縦方向、底部付近横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	赤褐色	覆土下層



第57図 45号住居址



第 58 図　45号住居址出土遺物

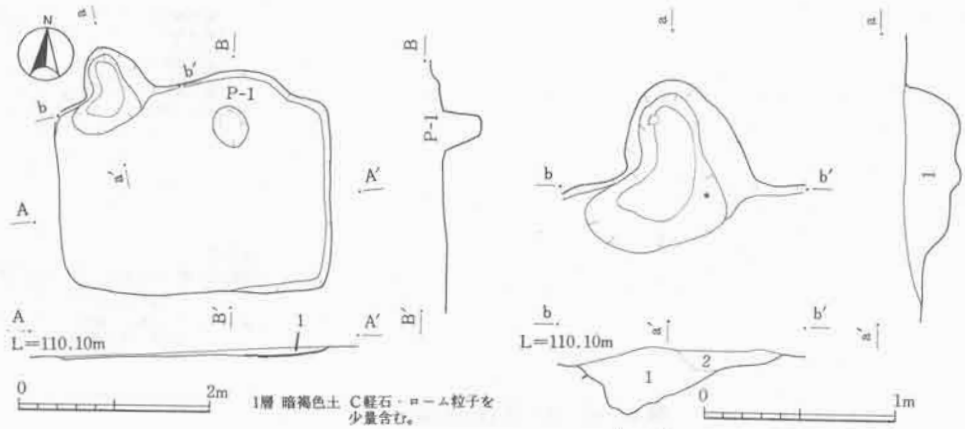
46号住居址　（第59図　図版７－７）

本址は調査区中央X150・151、Y97・98グリッドで検出された。主軸方向はN－26°－Wである。規模は長軸2.8ｍ、短軸2.3ｍで方形を呈する。壁高は最大で10cm、床面は軟弱である。

ピットは１基検出されている。壁溝はない。

カマド　北壁西寄りで検出された。焼土がわずかに分布するのみで、袖は検出されていない。壁外への掘り込みは25cmである。

遺物はほとんど出土していない。



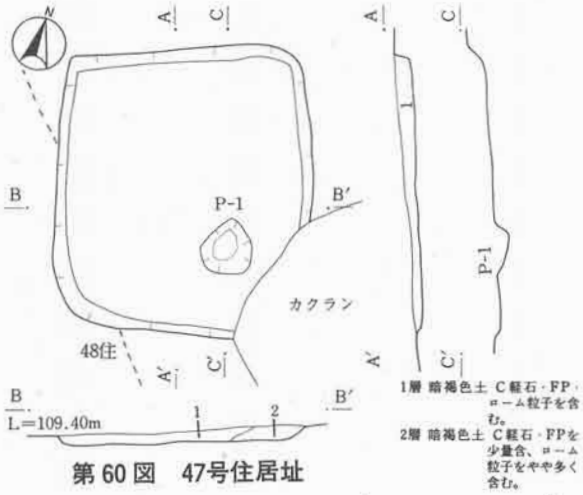
第59図　46号住居址

47号住居址　（第60図　図版７－８）

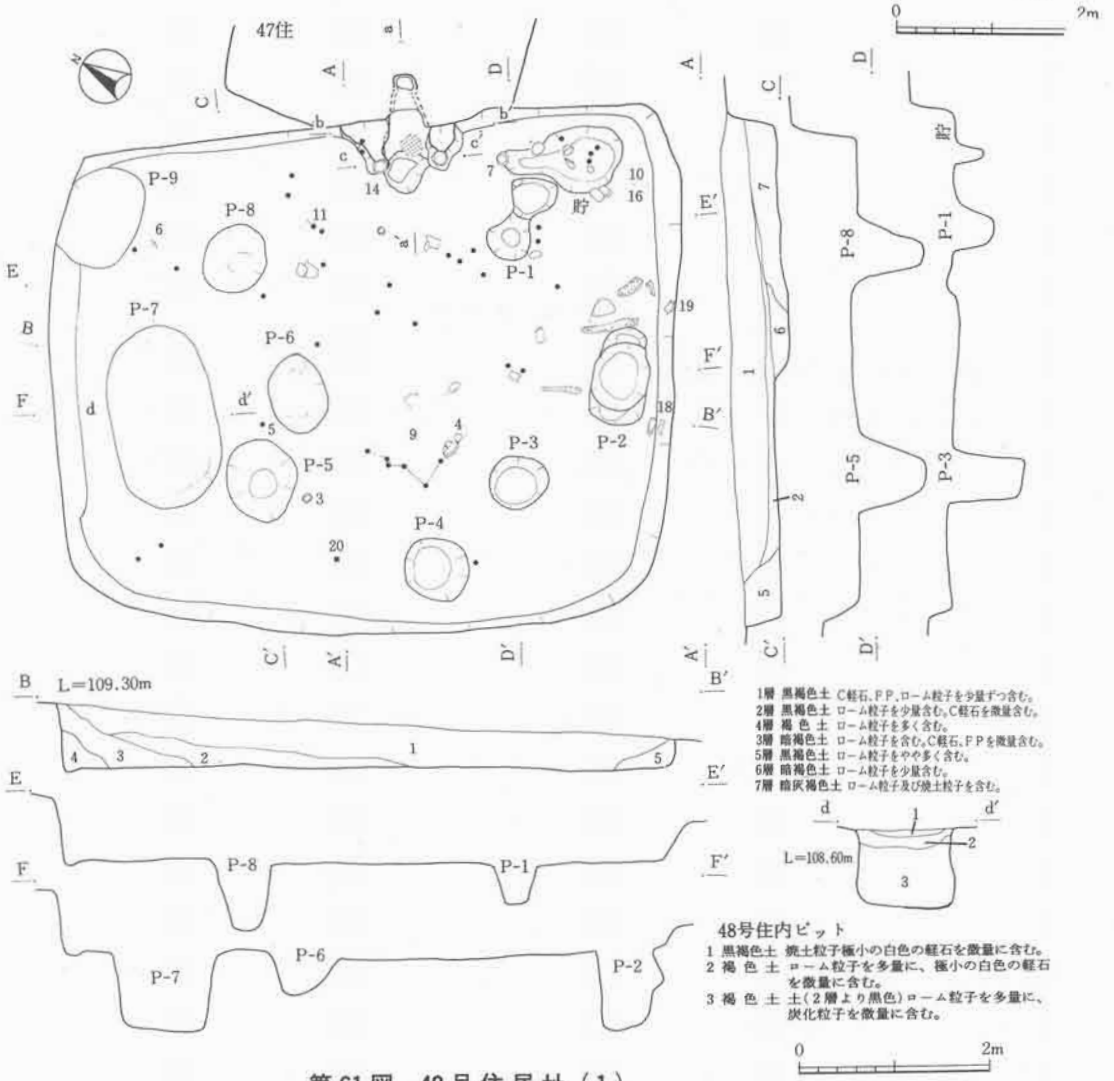
本址は調査区中央X147・148、Y98・99グリッドで検出された。西側で48号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN－84°－Eである。規模は長軸3.0ｍ、短軸2.7ｍで方形を呈する。壁高は15cm。床面は軟弱である。

ピット・壁溝・カマド等は検出されていない。

遺物はほとんど出土していない。



第60図　47号住居址



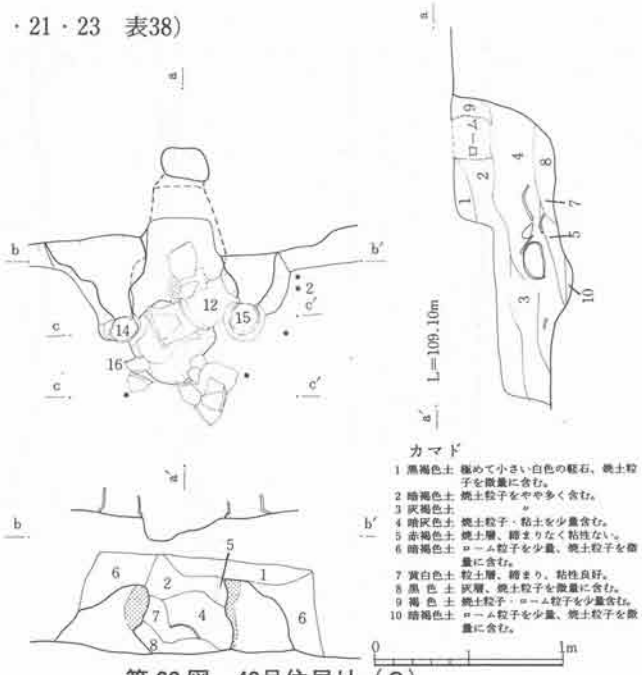
第61図　48号住居址（1）

48号住居址　（第61～64図　図版８－１・21・23　表38）

本址は調査区中央X146・147、Y98・99グリッドで検出された。主軸方向はN－60°－Eである。規模は長軸6.6ｍ、短軸5.4ｍで方形を呈する。壁高は65㎝。床面は中央部がやや深くなり、踏み固めはやや認められる。

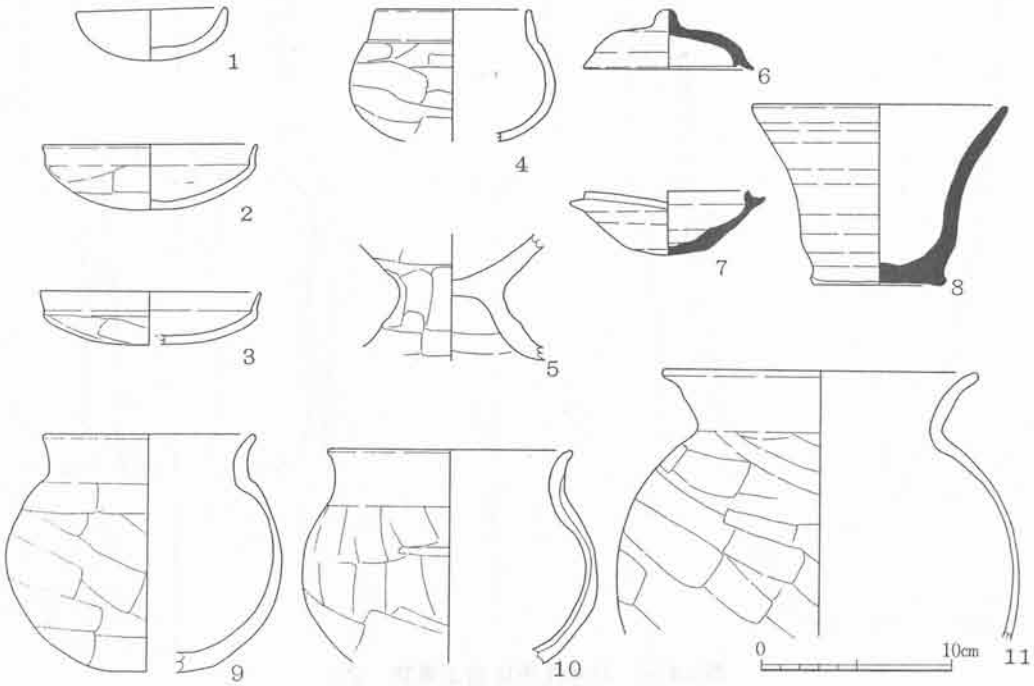
南東側壁際には貯蔵穴がある。ピットは主柱穴と思われる４基を含め９基検出され、他に北側に大形の楕円形の掘り込みが検出されている。壁溝は北側のみ認められる。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は粘土で構築され、先端に長胴甕が埋め込まれている。中央部には火床部が認められ、煙道部の天井は一部残っている。壁外への掘り込みは50㎝で、急激に立ち上がっている。

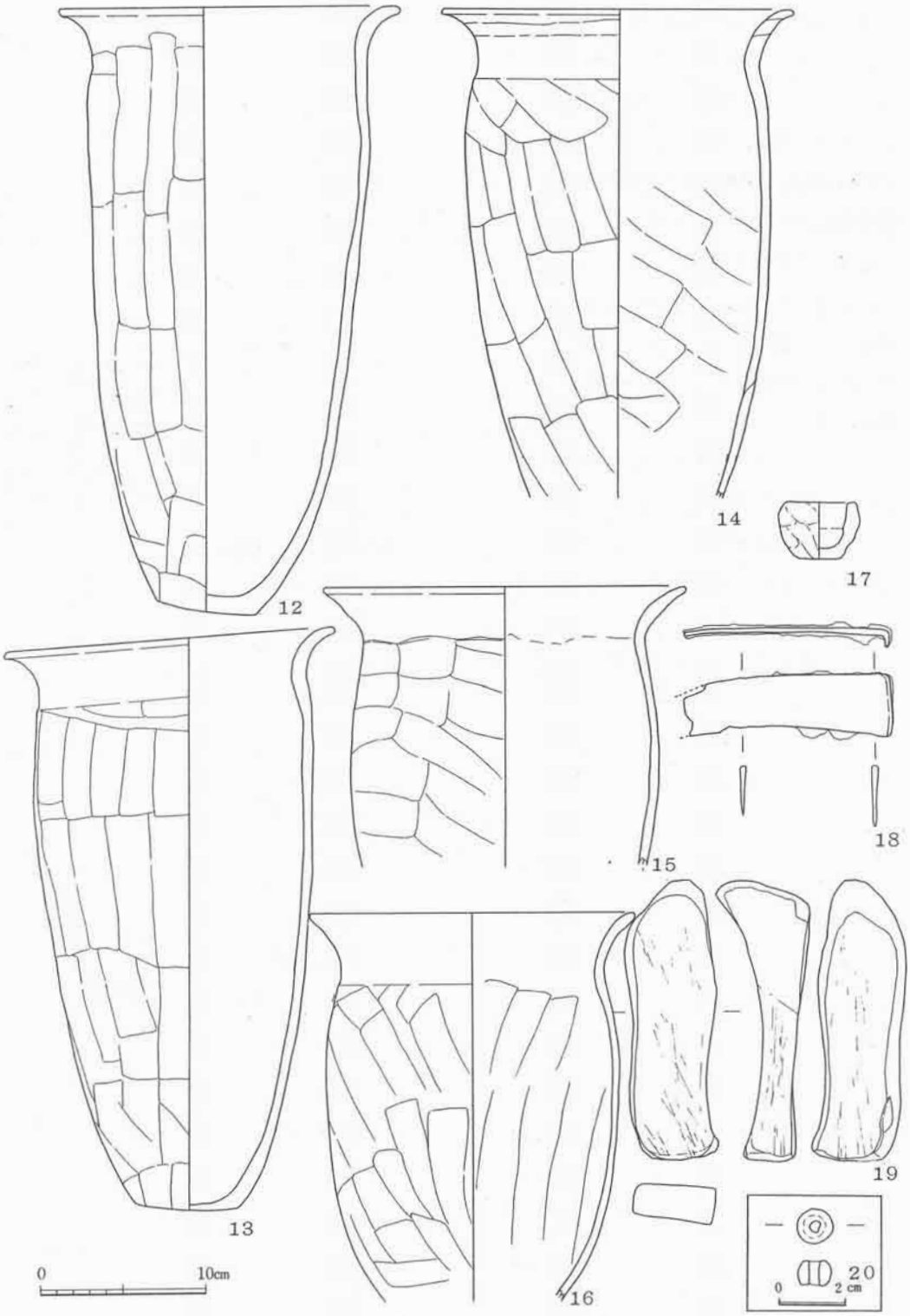


第62図　48号住居址（２）

遺物は覆土中から多量の土器片が検出されている。床着・カマドからもやや多く出土し、玉製品も１点出土している。



第63図　48号住居址出土遺物（１）



第64図　48号住居址出土遺物（2）

表38　48号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/2	口径 7.7 器高 2.6	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。内外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	褐色	柱穴内
2	土師 坏	1/4	口径 11.0 器高 3.4	丸底。口縁部稜を持ち直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
3	土師 坏	1/3	口径 11.5 器高 2.8	丸底。口縁部稜を持ち直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	土師 坩	1/3	口径 8.0 残存高 7.0	口縁部短かく内傾ぎみになる。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	赤褐色	床着
5	土師 高坏	脚部 2/3	残存高 6.0	脚部への上部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	褐色	床着
6	須恵 蓋	完形	口径 8.9 器高 3.2	つまみ小さい。かえりを有する。ロクロ整形。天井肩部回転ヘラ削り。	小石粒を含む。	良好	灰褐色	覆土
7	須恵 坏身	完形	口径 10.3 器高 3.4	底部平底に近い。受部短かく直立する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
8	須恵 すり鉢	1/2	口径 13.4 器高 9.5 底径 6.6	口縁部外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土
9	土師 甕	4/5	口径 11.0 器高 12.4 底径 6.0	口縁部直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外面横、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色	床着
10	土師 甕	1/3	口径 12.7 残存高 11.2	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外面縦方向、下部付近横方向のヘラ削り。内面ナデ。	小石粒を含む。	良好	褐色	床高
11	土師 甕	1/2	口径 16.5 残存高 14.0	口縁部外反する。胴部球形を呈する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
12	土師 長胴甕	ほぼ完形	口径 20.5 器高 36.8 底径 6.0	口縁部短く外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	橙褐色	カマド袖補強材
13	土師 長胴甕	底部欠	口径 21.7 残存高 29.7	口縁部短かく外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色	カマド袖補強材
14	土師 長胴甕	底部欠	口径 21.7 残存高 29.7	口縁部外反する。外面肩部斜方向、胴部縦方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、ナデ。	砂粒・石粒を少量含む。	良好	褐色	カマド
15	土師 長胴甕	上半部 2/3	口径 21.8 残存高 17.0	口縁部外反する。胴部ややふくらむ。外面横、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
16	土師 長胴甕	上半部 1/3	口径 19.6 残存高 23.5	口縁部外反する。胴部ややふくらむ。外面斜、縦方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
17	土製品 手づくね	完形	口径 4.1 残存高 3.5	口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	覆土
18	鉄製品 鎌	刃先欠	残存高 12.6	柄部直角に折れ曲がる。				床着
19	石製品 砥石	完形	長さ 17.0	4面に使用痕。	凝灰岩			床着
20	石製品 臼玉	完形	直径 1.1	孔径3㎜・穿孔は両方向から。全面ミガキ。	黒色のなめらかな石材。			床着

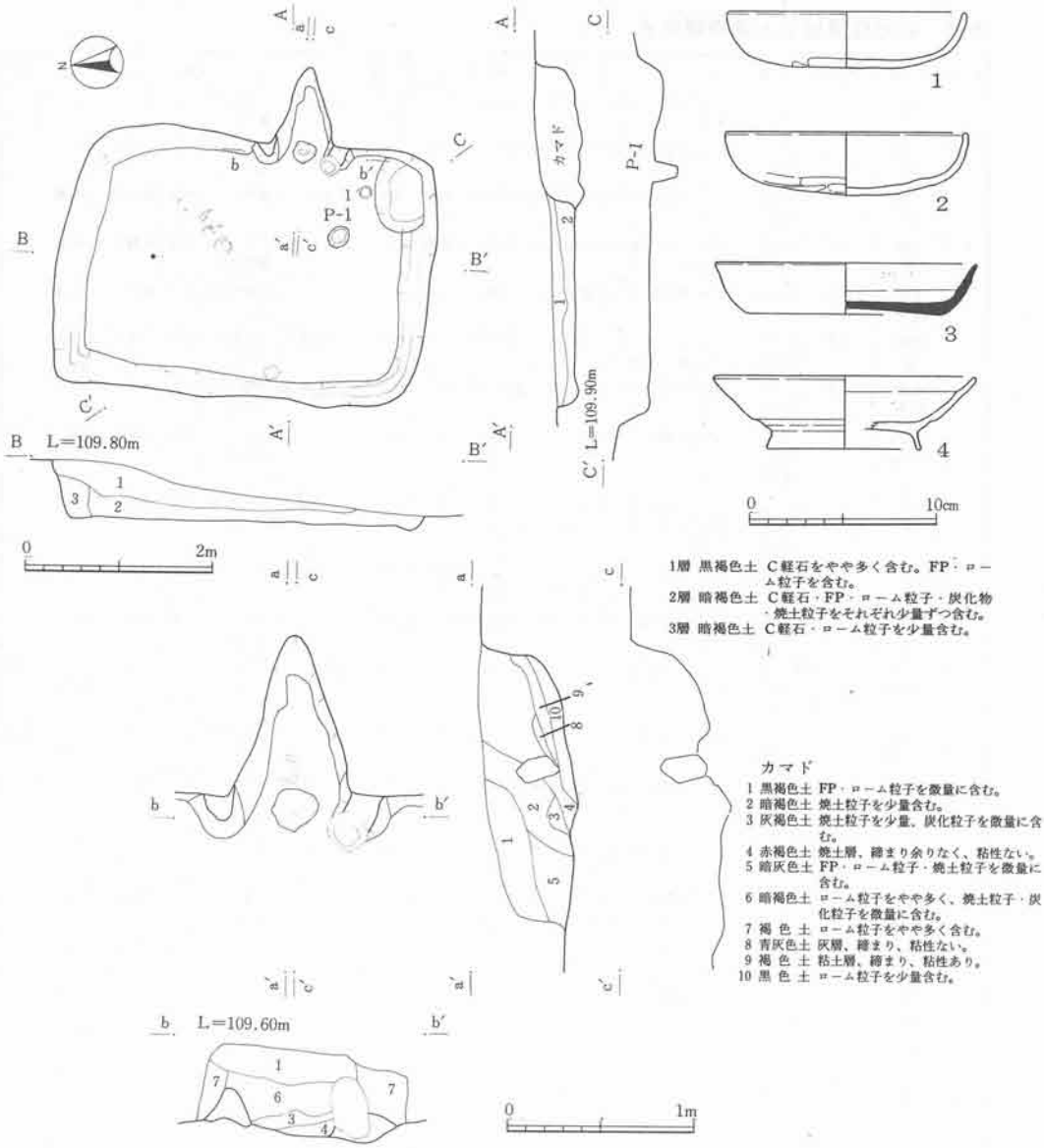
50号住居址　（第65図　図版8－2・21　表39）

本址は調査区西側X141、Y94・95グリッドで検出された。主軸方向はN－109°－Eである。規模は長軸4.0ｍ、短軸2.8ｍで横長長方形を呈する。壁高は30㎝。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には一段底くなる部分があり、他に小ピット1基が検出されている。壁溝はカマドと南東側隅角付近を除いて回る。

カマド　東壁中央やや南側に位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは180㎝でなだらかに立ち上がる。

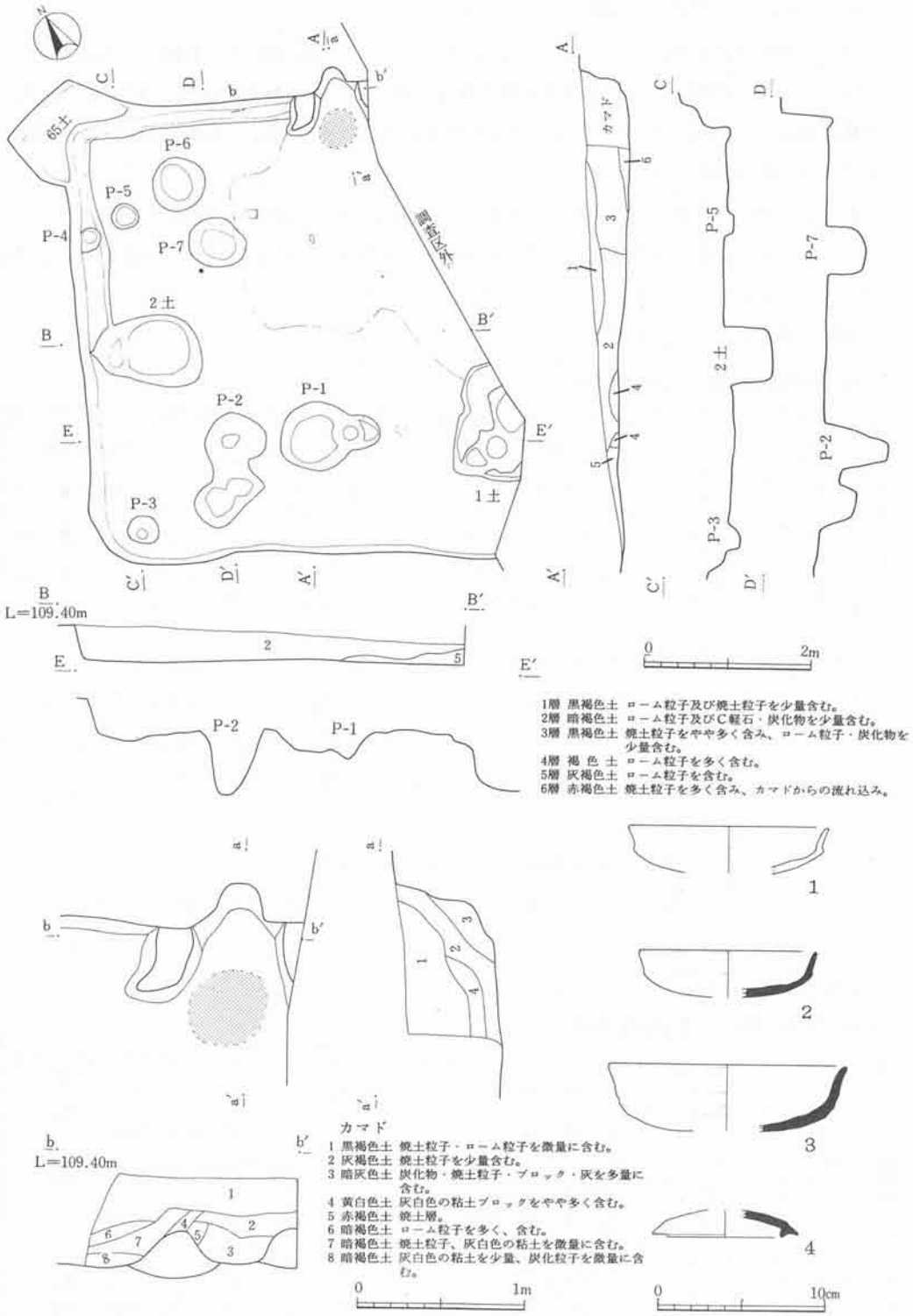
遺物は少量出土している。



第 65 図　50号住居址・出土遺物

表39　50号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	4/5	口径 12.6 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師 坏	3/4	口径 12.8 器高 3.4	ほぼ平底。口縁部外反ぎみになる。外面ヘラ削り、指圧痕。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土下層
3	須恵 坏	3/4	口径 13.8 器高 2.8 底径 10.4	口縁部直線的に外反する。ロクロ整形。外面底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰色	覆土下層
4	須恵 埦	1/4	口径 13.8 器高 3.9 底径 8.1	高台付「ハ」の字状に開く。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削りと思われ、高台貼付後ナデ調整。	細砂粒を含む。	良好	灰褐色	床着



第66図　51号住居址・出土遺物

51号住居址　（第66回　図版８－３　表40）

本址は調査区南東側X159・160、Y100・101グリッドで検出された。東側の一部は調査区外となっており、西側で52号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－36°－Eである。規模は南北で5.5ｍを計り、方形を呈すると思われる。壁高は45cm。床面はほぼ平坦で北側中央部は良く踏み固められている。

Ｐ－１、Ｐ－２、Ｐ－４が主柱穴と思われ、壁溝は北側の一部で検出されている。

カマド　北壁中央で検出されている。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは20cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中に多く、床着は少ない。

表40　51号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/5	口径 12.0 残存高 2.8	丸底。口縁部稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	須恵坏	1/3	口径 10.6 残存高 2.8	口縁部稜を持ち外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	石粒を含む。	良好	灰褐色	覆土下層
3	須恵坏	1/4	口径 14.2 残存高 4.0	口縁部稜を持ち外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	緻密	良好	灰白色	覆土下層
4	須恵蓋	1/3	口径 8.8 残存高 1.6	小形。つまみ欠損。 ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	やや不良	茶褐色	覆土下層

52号住居址　（第67図　図版８－４・21　表41）

本址は調査区南東側X158・159、Y100・101グリッドで検出された。主軸方向はN－68°－Eである。平面形は北側がふくらむ台形を呈し、長軸は4.5ｍ、短軸は北側3.5ｍ、南側で2.2ｍである。壁高は最大で60cm。床面は北側から南側へやや傾斜しており、踏み固めは全体にやや認められる。

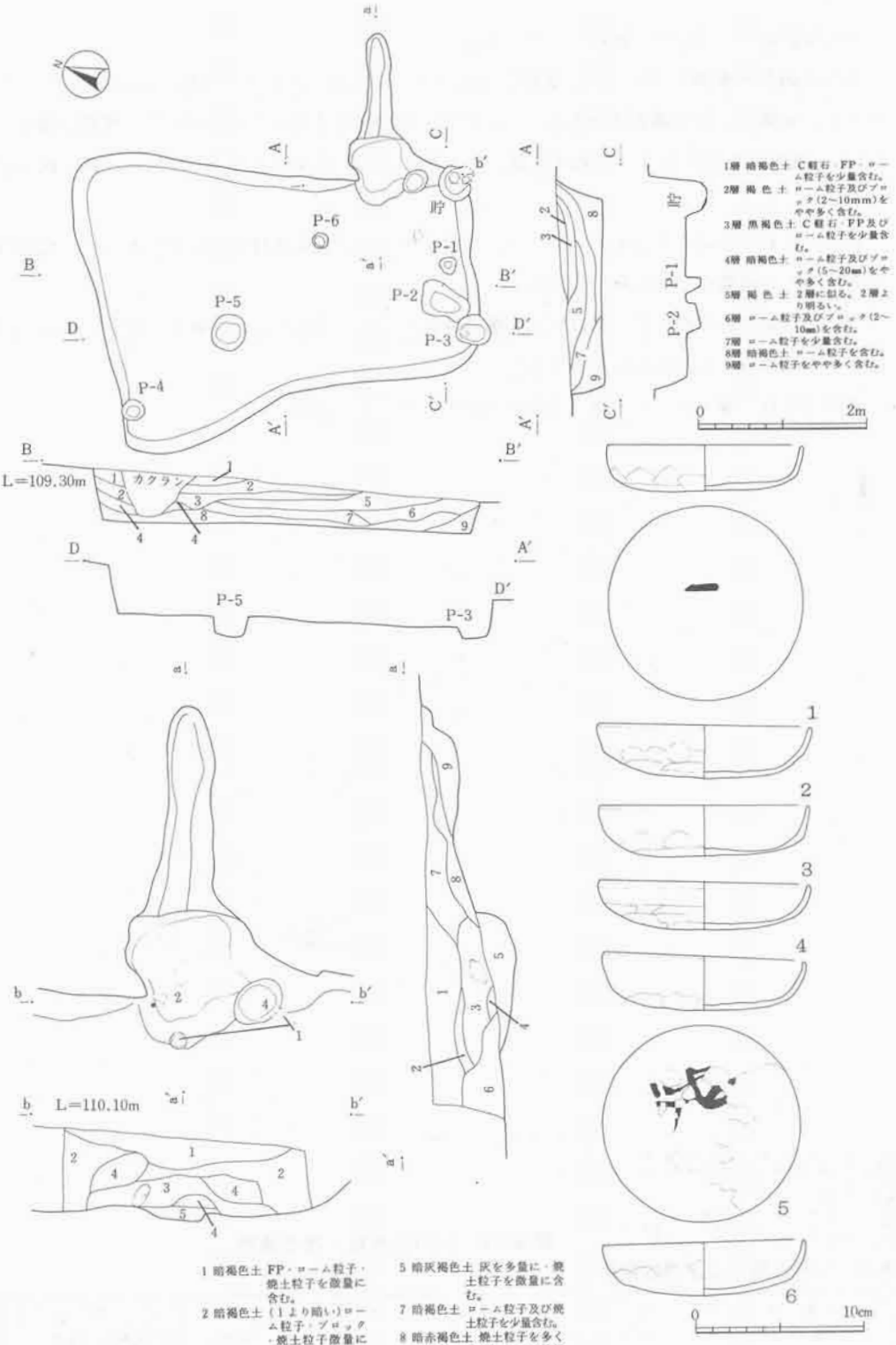
ピットは浅いものが多い。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。

カマド　東壁の南側に位置する。袖は石を利用していたと思われる。壁外への掘り込みは170cmで、ゆるやかに立ち上がる。

遺物は覆土中に細片が多く、床着は少ない。

表41　52号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 11.6 器高 2.8	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	赤褐色	カマド 墨書
2	土師坏	2/3	口径 12.6 器高 3.2	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り、指圧痕。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
3	土師坏	2/3	口径 12.5 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り、指圧痕。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	1/2	口径 12.6 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り、指圧痕。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	カマド
5	土師坏	ほぼ完形	口径 12.0 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴 墨書
6	土師坏	完形	口径 12.0 器高 3.4	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴



第67図　52号住居址・出土遺物

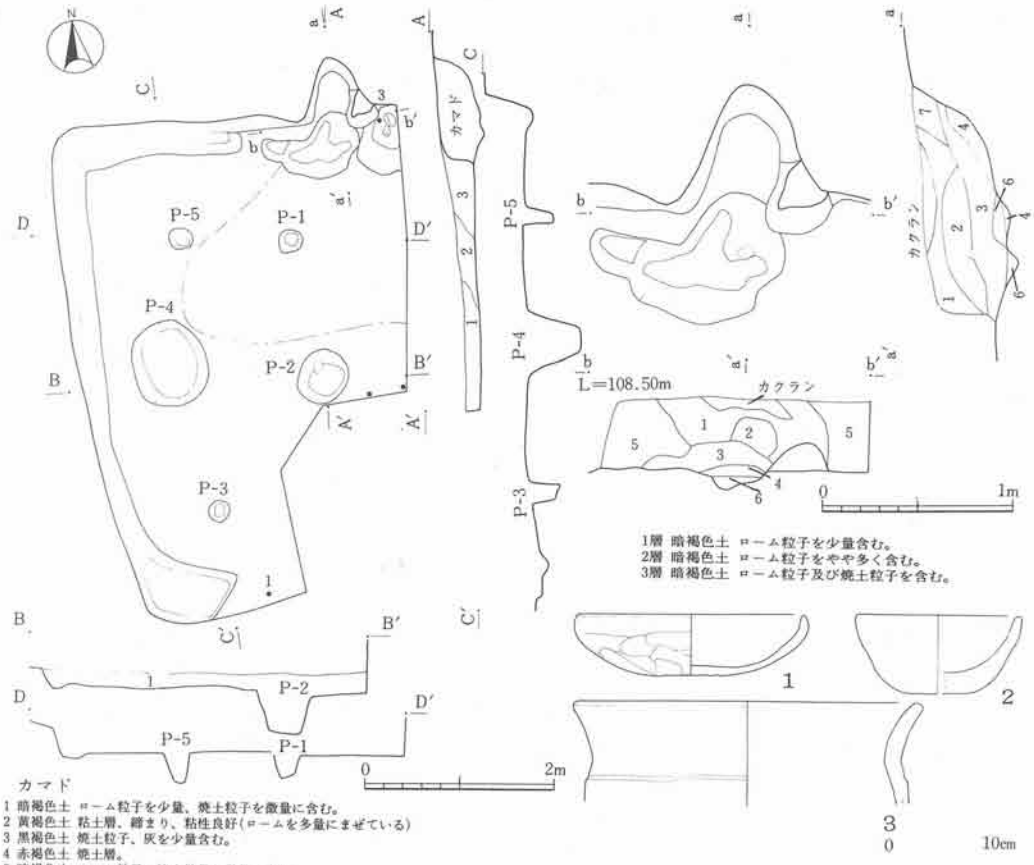
53号住居址　（第68図　図版８－５　表42）

本址は調査区東側X159・160、Y102・103グリッドで検出された。主軸方向はN－21°－Eである。東側の一部が調査区外となっているが、方形を呈するものと思われる。規模は南北で5.1ｍ、東西は不明である。壁高は北側で30cmを計る。床面は平坦でカマド付近は良く踏み固められている。

P－1、P－2はやや大形のピットで、他は小形。いずれも主柱穴とは思われない。壁溝は調査区内では南側の一部を除いて図る。

カマド　北壁に位置する。袖は粘土で構築されていたと思われるが、保存は悪い。壁外への掘り込みは50cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着・覆土中とも少量の土器片が出土したのみである。



第68図　53号住居址・出土遺物

表42　53号住居址出土遺物観察表

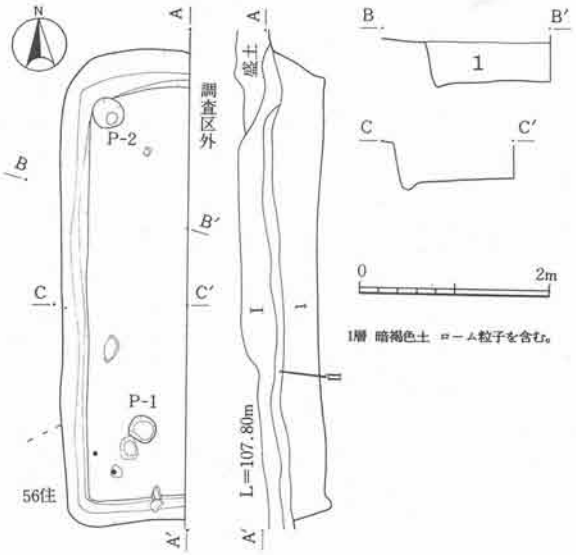
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師杯	1/3	口径 12.0 器高 3.2	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、口唇部やや内湾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	土師杯	1/4	口径 8.5 残存高 3.2	丸底。底部の器厚い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	黒色	貯蔵穴
3	土師甕	口縁部 1/4	口径 18.1 残存高 5.4	口縁部外反する。器肉やや厚い。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	赤褐色	貯蔵穴

54号住居址　（第69図　図版８－６　表43）

本址は調査区東側X159　Y103・104グリッドで検出された。西側の一部のみの調査で、南側で56号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向、規模等は不明であるが、南北で4.9ｍを計る。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは２基検出されているがいずれも浅い。壁溝は調査区内ではすべて回る。

遺物はほとんど出土していないが、床面に石が散乱していた。



第69図　54号住居址・出土遺物

表43　54号住居址出土遺物観察表

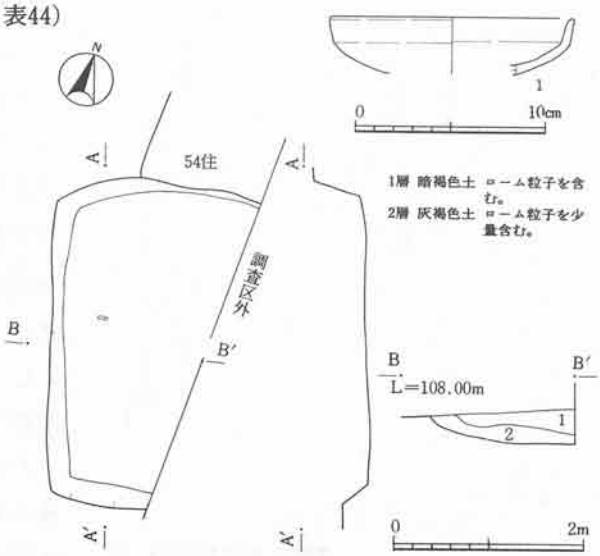
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	鉄製品 不明	先端部のみ	残存高 2.5	断面方形。「J」の字状に曲がっている。				覆土

56号住居址　（第70図　図版８－６　表44）

本址は調査区南東側X159、Y103・104グリッドで検出された。西側の一部のみの調査で他は調査区外となっている。主軸方向、規模等は不明である。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは弱い。

ピット・壁溝・カマド等は検出されなかった。

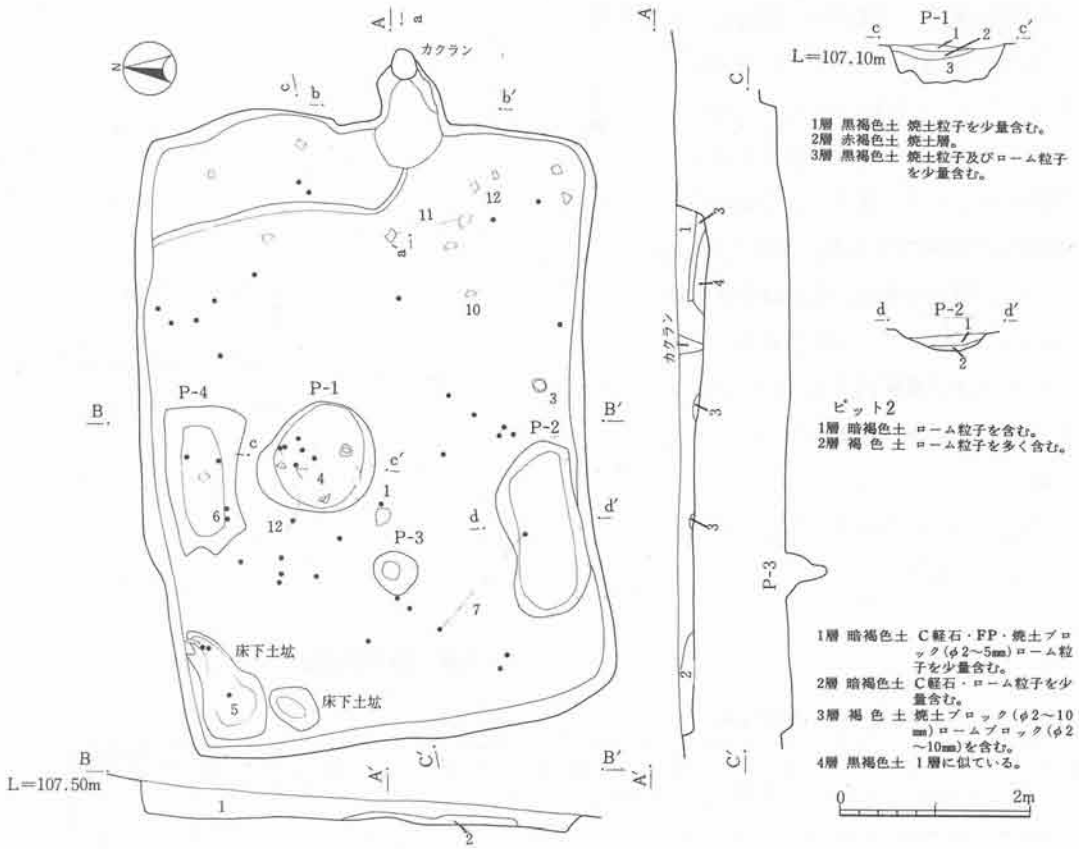
遺物は覆土中から少量出土している。

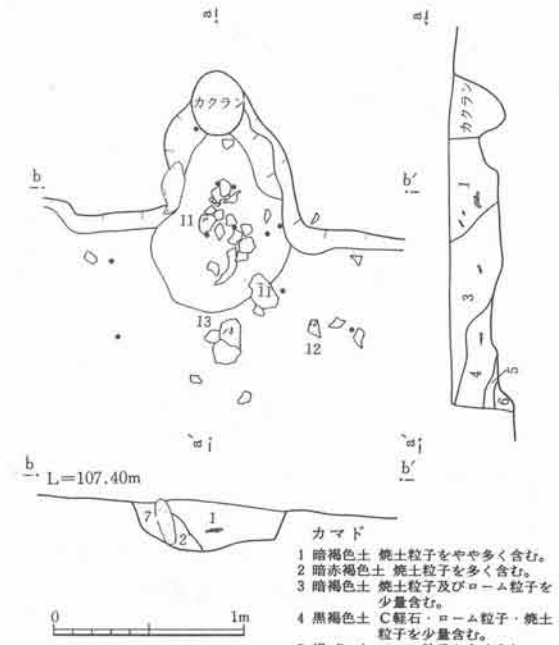


第70図　56号住居址・出土遺物

表44　56号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/5	口径 12.8 残存高 3.0	丸底。口縁部稜を持ち外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	覆土





第71図　57号住居址

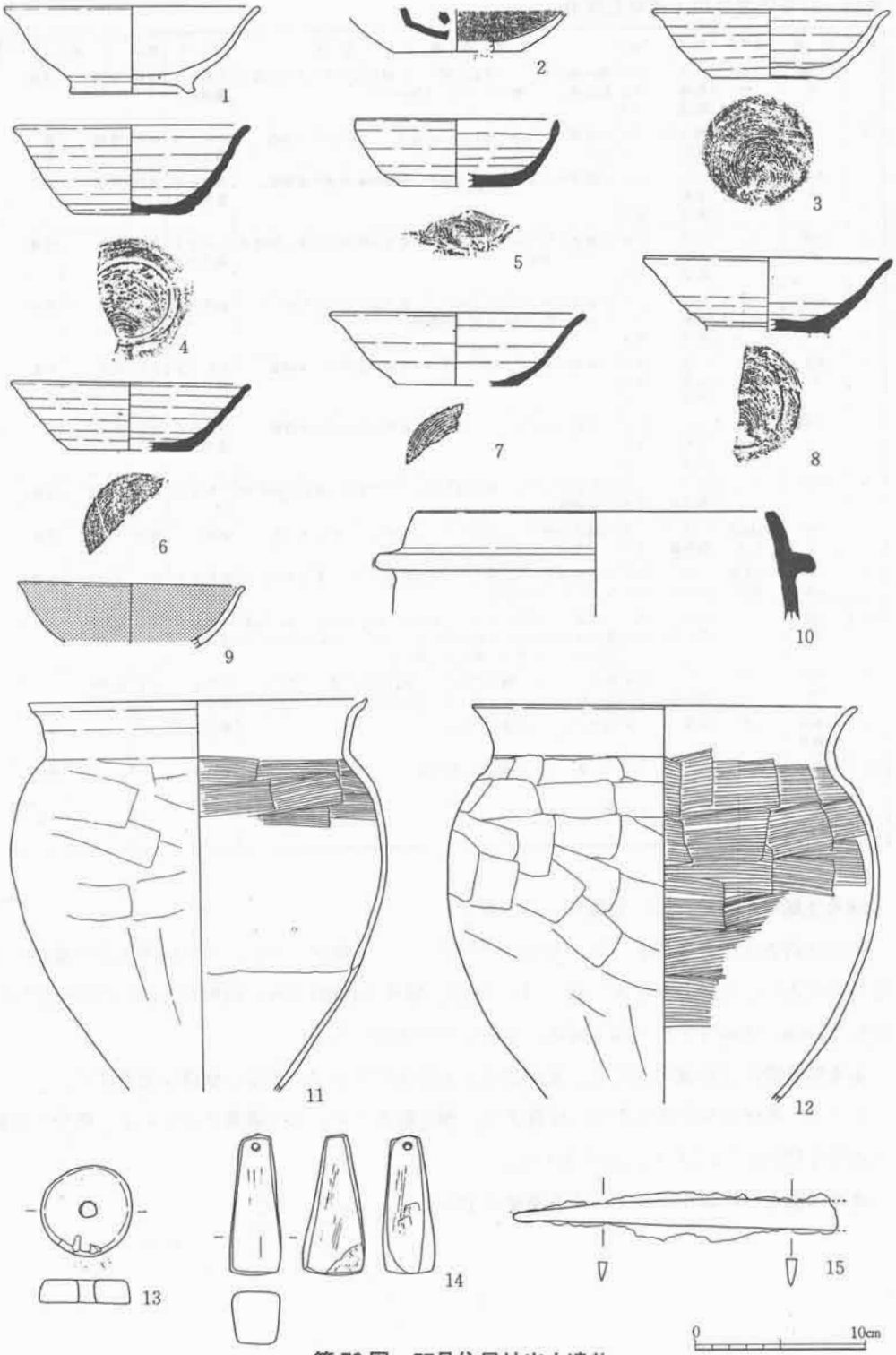
57号住居址　(第71・72図　図版8－7・21・23　表45)

本址は調査区南側X155・156、Y105・106グリッドで検出された。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸6.5m、短軸4.7mで方形を呈する。壁高は30cm床面はやや凹凸があり、踏み固めはやや認められる。北東側隅角はテラス状に一段高くなる部分がある。

ピットは3基検出されている。壁溝はない。床面下からは3基の土坑が検出されている。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは60cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は覆土中・床着ともにやや多く出土している。



第72図　57号住居址出土遺物

表45　57号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 埦	1/3	口径 15.0 器高 5.2 底径 7.3	高台短かく「ハ」の字状に開く。口縁部外反する。底部高台貼付後、ヘラ削りとナデ。内外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	明褐色	床着
2	土師 坏	1/5	残存高 2.3 底径 7.4	口縁部外反すると思われる。底部ヘラ削り。内黒処理、ミガキ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土 墨書
3	須恵 坏	4/5	口径 14.0 器高 4.0 底径 6.8	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
4	須恵 坏	1/2	口径 13.8 器高 5.3 底径 6.4	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、周縁部ヘラ削り調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
5	須恵 坏	1/3	口径 11.8 器高 4.0 底径 6.8	口縁部外反して立ち上がり、口唇部直立ぎみになる。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	緻密	良好	灰色	床着
6	須恵 坏	1/4	口径 14.0 器高 4.0 底径 7.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
7	須恵 坏	1/3	口径 15.0 器高 4.3 底径 7.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	ピット内
8	須恵 埦	1/3	口径 14.6 残存高 4.4	口縁部外反する。高台部欠損。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を含む。	良好	灰褐色	床着
9	灰釉 埦	口縁部 破片	口径 13.4 残存高 3.5	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、外反する。釉は漬け掛け。	緻密	良好	灰白色	床着
10	須恵 羽釜	口縁部 破片	口径 21.6 残存高 6.2	口唇部は平で、内傾する。鍔は断面方形で、先はやや丸みを帯びる。内外面ナデ。	砂粒を多く含む。	良好	灰白色	床着
11	土師 甕	1/2	口径 19.3 残存高 23.0	口縁部コの字状を呈する。最大径は胴上半部にある。外面胴上部横方向の、下部縦方向のヘラ削り。内面胴上部小口状工具によるナデ。輪ずみの接合痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
12	土師 甕	1/3	口径 22.4 残存高 23.0	頸部しまり、口縁部外反する。整形は11の甕と同様であるが、小口状工具によるナデが胴中央部にまで及ぶ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
13	石製品 紡錘車	完形	直径 5.4	孔形1cm。ほぼ垂平である。	凝灰岩			覆土
14	石製品 砥石	完形	長さ 8.2	孔を有する。6面全面に使用痕。	凝灰岩			覆土
15	鉄製品 刀子	刃部	残存長 19.0	錆により腐食している。				床着

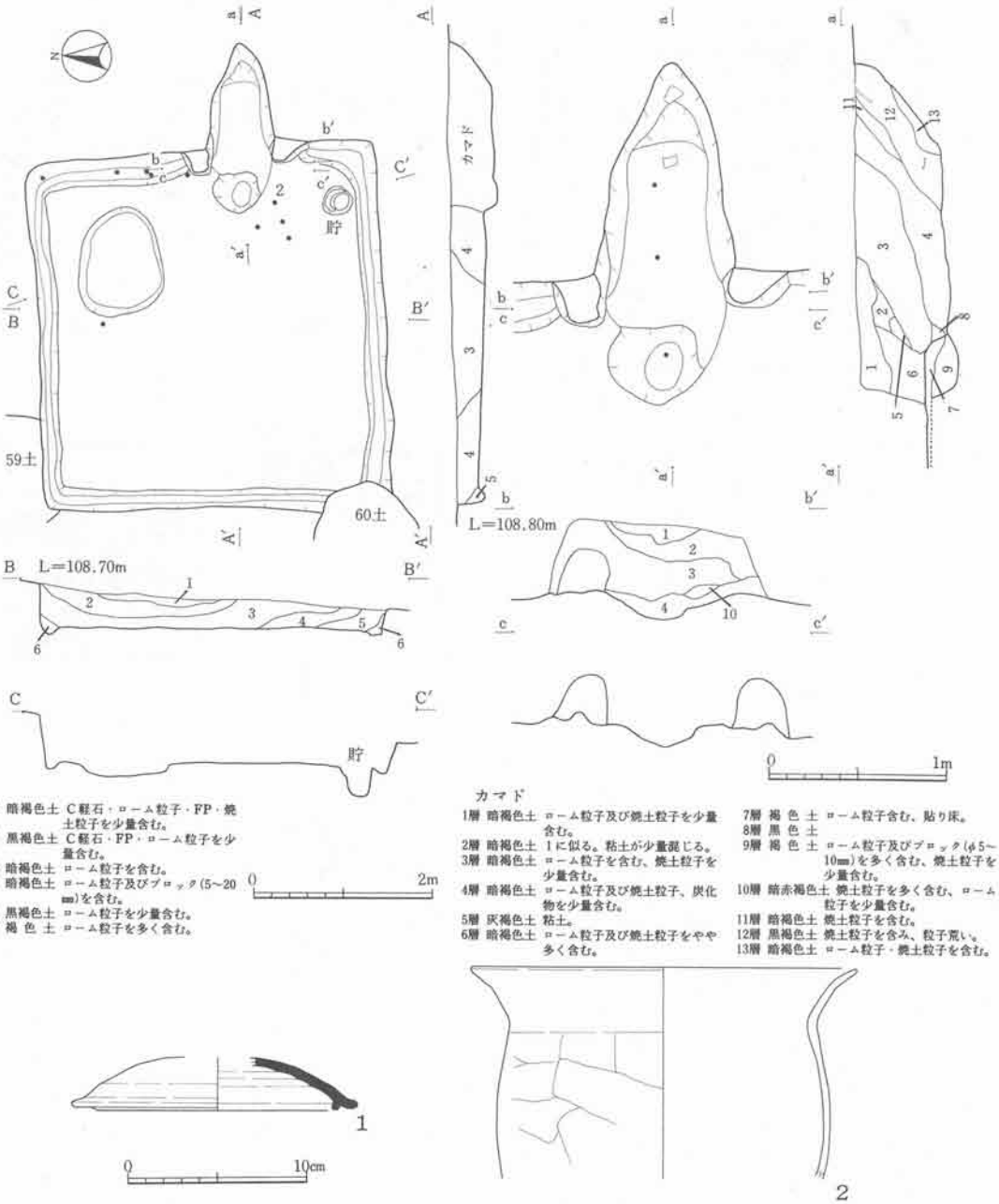
58号住居址　（第73図　図版8－8　表46）

本址は調査区中央X150・151、Y101・102グリッドで検出された。59・60号土坑と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－80°－Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.9mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、北東側には土坑状のピットがある。壁溝は全周する。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土とロームで構築されている。壁外への掘り込みは120cmでなだらかに立ち上がる。

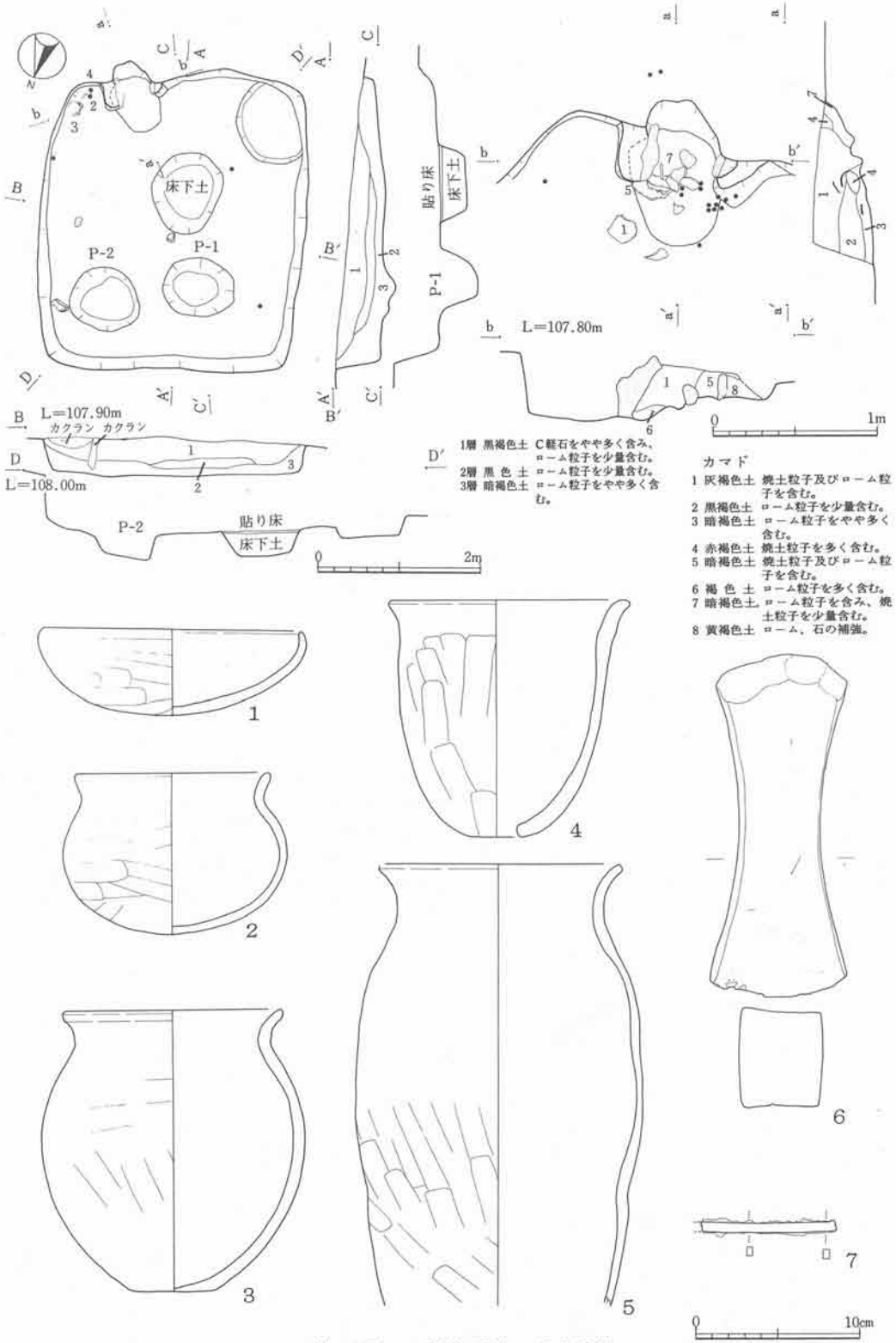
遺物は覆土中に細片が多く、床着遺物は少ない。



第73図　58号住居址・出土遺物

表46　58号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵蓋	破片	口径 16.2 残存高 3.0	つまみ部分不明。かえりを有する。ロクロ整形。自然釉付着。	緻密	良好	灰色	覆土
2	土師甕	口縁部破片	口径 21.8 残存高 12.0	長胴甕と思われる。口縁部外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着



第74図　60号住居址・出土遺物

60号住居址　（第74図　**図版**9－1・21・23　表47）

本址は調査区南側X155・156、Y103・104グリッドで検出された。主軸方向はN－141°－Eである。規模は長軸3.7m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は55cm。床面は平坦で踏み固めは全体に軟弱である。

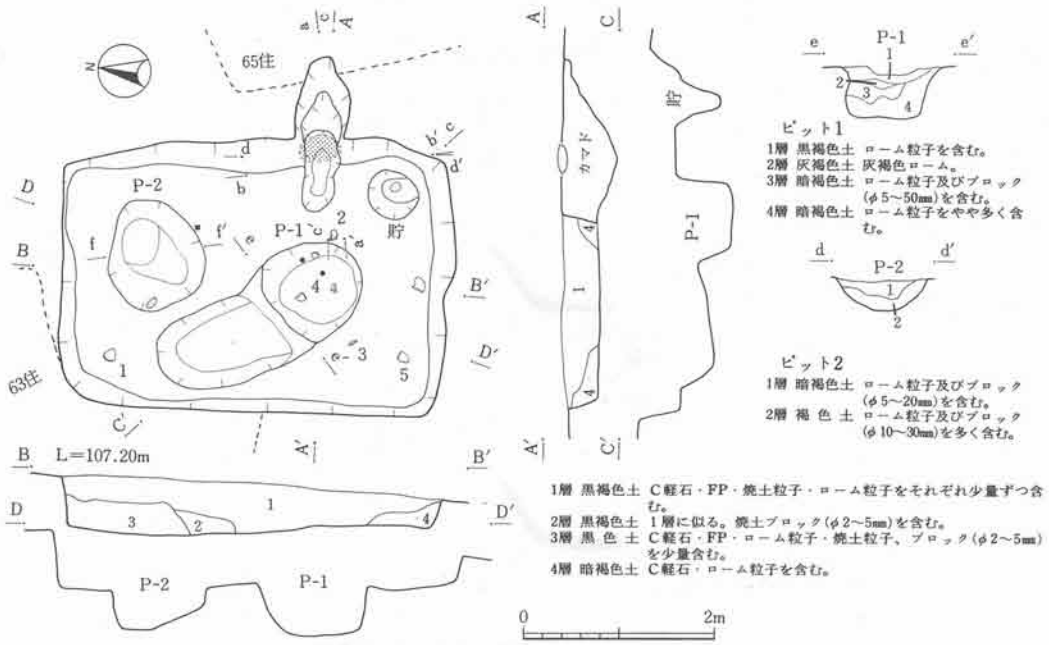
ピットは大形のものが4基検出されており、中央に位置するピットは床下土坑である。壁溝はない。

カマド　南壁東寄りで検出された。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは20cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は南東側壁際とカマドからやや多く出土している。

表47　60号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	3/4	口径 15.9 器高 5.2	口縁部内湾して立ち上がり、口唇部内傾する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
2	土師 小形甕	ほぼ完形	口径 11.8 器高 10.0	口縁部短かく、外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師 甕	2/3	口径 13.3 器高 17.4 底径 4.9	口縁部外反する。器肉厚い。外面胴上部横方向の、下部縦、斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を多く含む。	良好	褐色。外面黒斑	床着
4	土師 甑	3/4	口径 14.4 器高 14.8	単孔。孔径3cm。口縁部短かく、外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色。外面黒斑	床着
5	土師 長胴甕	底部欠	口径 14.7 残存高 27.4	口縁部短かく,外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。		橙褐色	カマド
6	石製品 砥石	完形	長さ 21.2	4面に使用痕。	凝灰岩			覆土上層
7	鉄製品 不明		長さ 8.3	断方長方形。柄の部分と思われる。				カマド



第75図　61号住居址（1）

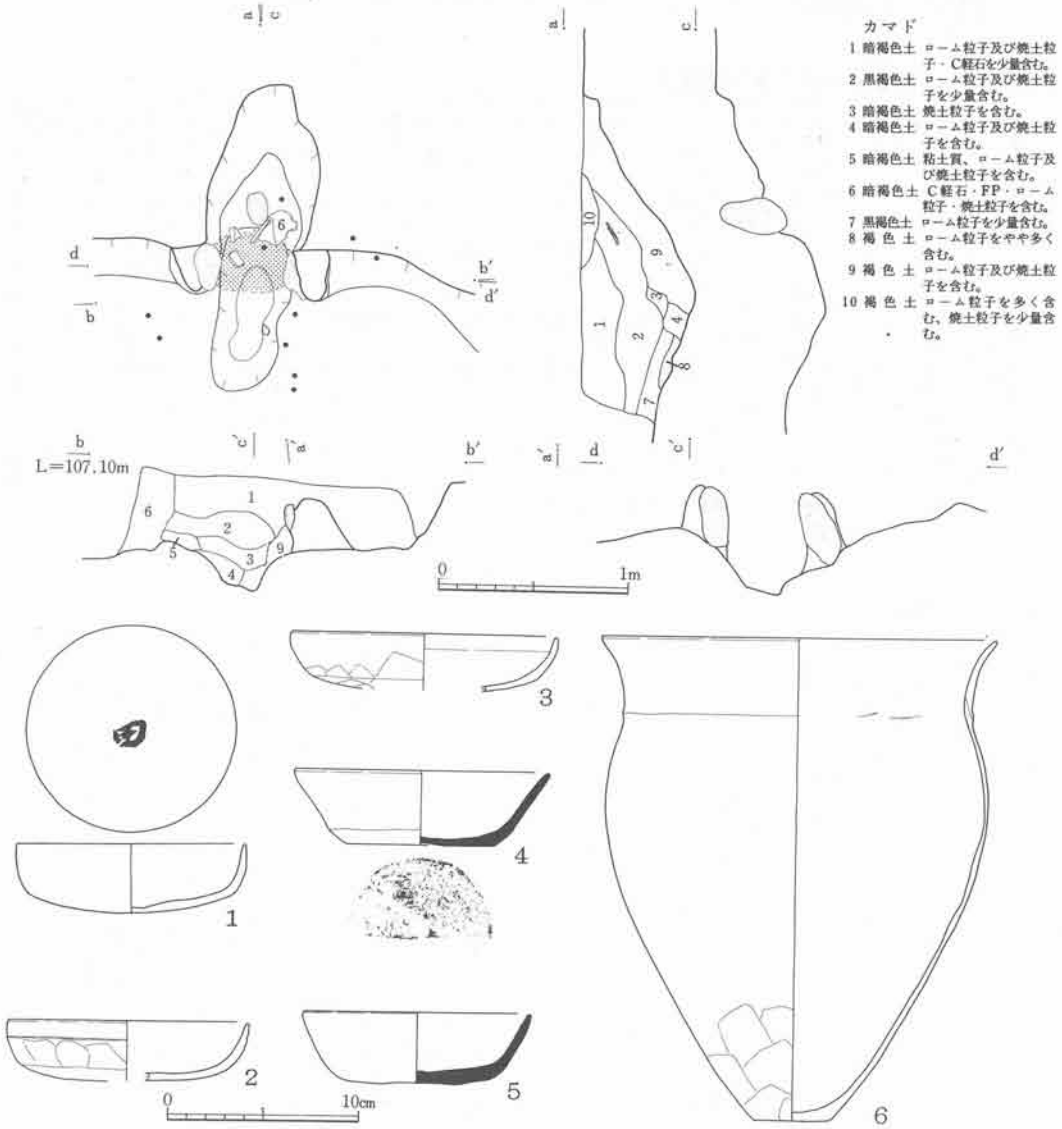
61号住居址　（第75・76図　図版９－２　表48）

本址は調査区南側X151・152、Y105・106グリッドで検出された。西側で63・東側で65号住居址と重複し、いずれも本址の方が新しい。主軸方向はN－84°－Eである。規模は長軸4.1ｍ、短軸2.9ｍで方形を呈する。壁高は40cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはやや弱い。

南東側壁際には貯蔵穴があり、他の３基の土坑は貼り床下のものである。壁溝はない。

カマド　東壁中央に位置する。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは70cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は覆土中にやや多く、床着のものは少ない。



第76号　61号住居址（２）・出土遺物

表48　61号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	2/3	口径 12.9 器高 3.7	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土下層
2	土師 坏	2/3	口径 12.6 器高 3.2	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	床着
3	土師 坏	1/5	口径 14.0 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	須恵 坏	1/3	口径 13.4 器高 4.0 底径 7.8	平底。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	緻密	良好	灰色	ピット内
5	須恵 坏	2/3	口径 12.0 器高 3.8	ほぼ平底。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ切りの後、周縁部ヘラ削り。	砂粒・石粒を多く含む。	良好	灰褐色	覆土下層
6	土師 甕	1/3	口径 20.8 器高 25.7 底径 4.0	口縁部外反する。器肉薄い。外面全体にすす付着。外面肩部横方向の、他は斜、縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド

62号住居址　（第77図　図版9－3・21・23　表49）

本址は調査区南側X152・153、Y106・107グリッドで検出された。65・66号住居址と重複しいずれも本址の方が古い。主軸方向はN－64°－Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.8mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

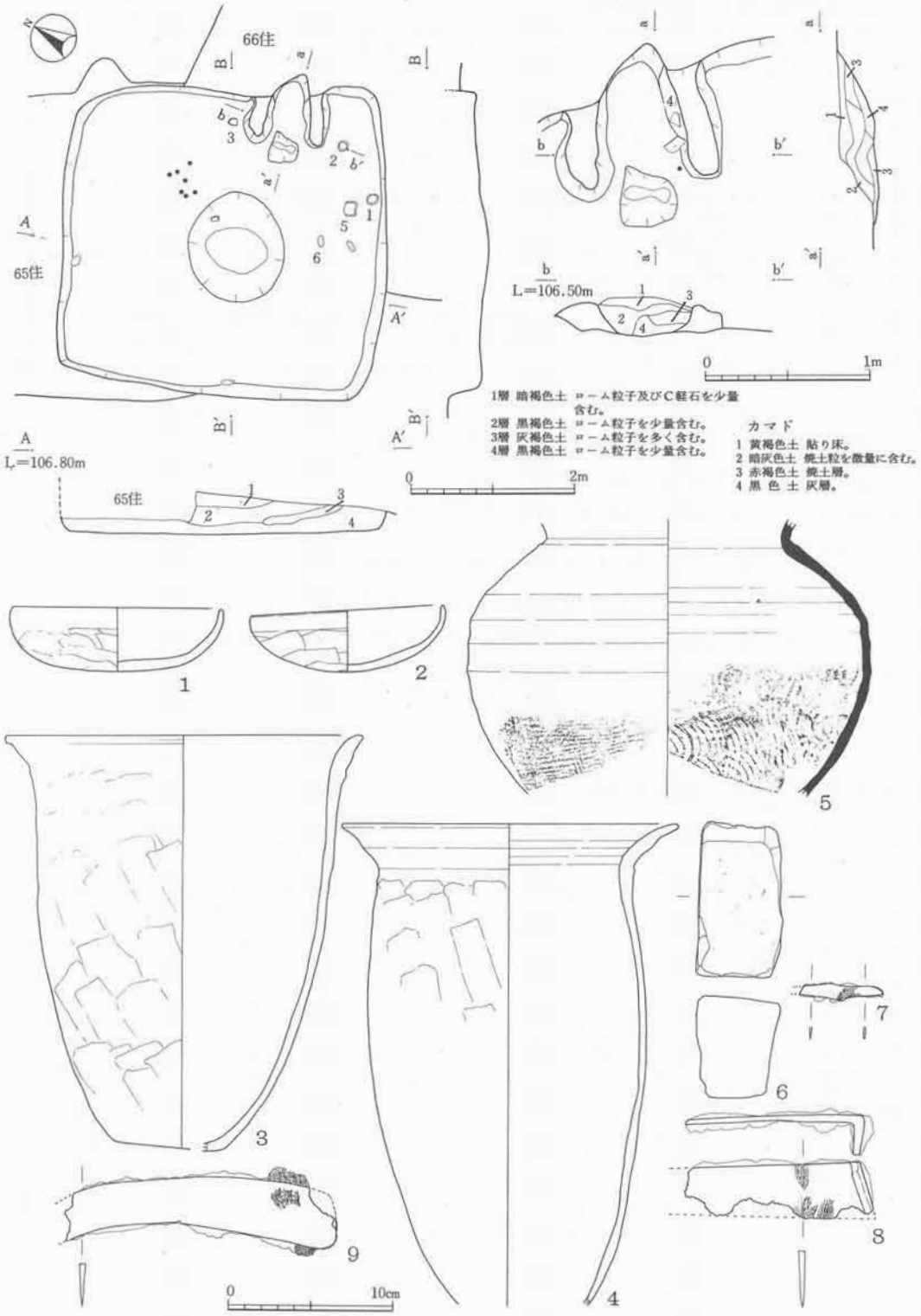
中央には浅い皿状の掘り込みが検出されている。壁溝はない。

カマド　66号住居址貼り床下で検出。東壁やや南寄りに位置する。袖は灰褐色粘土で構築され、60cm程壁内にはり出す。壁外への掘り込みは30cmでなだらかに立ち上がる。

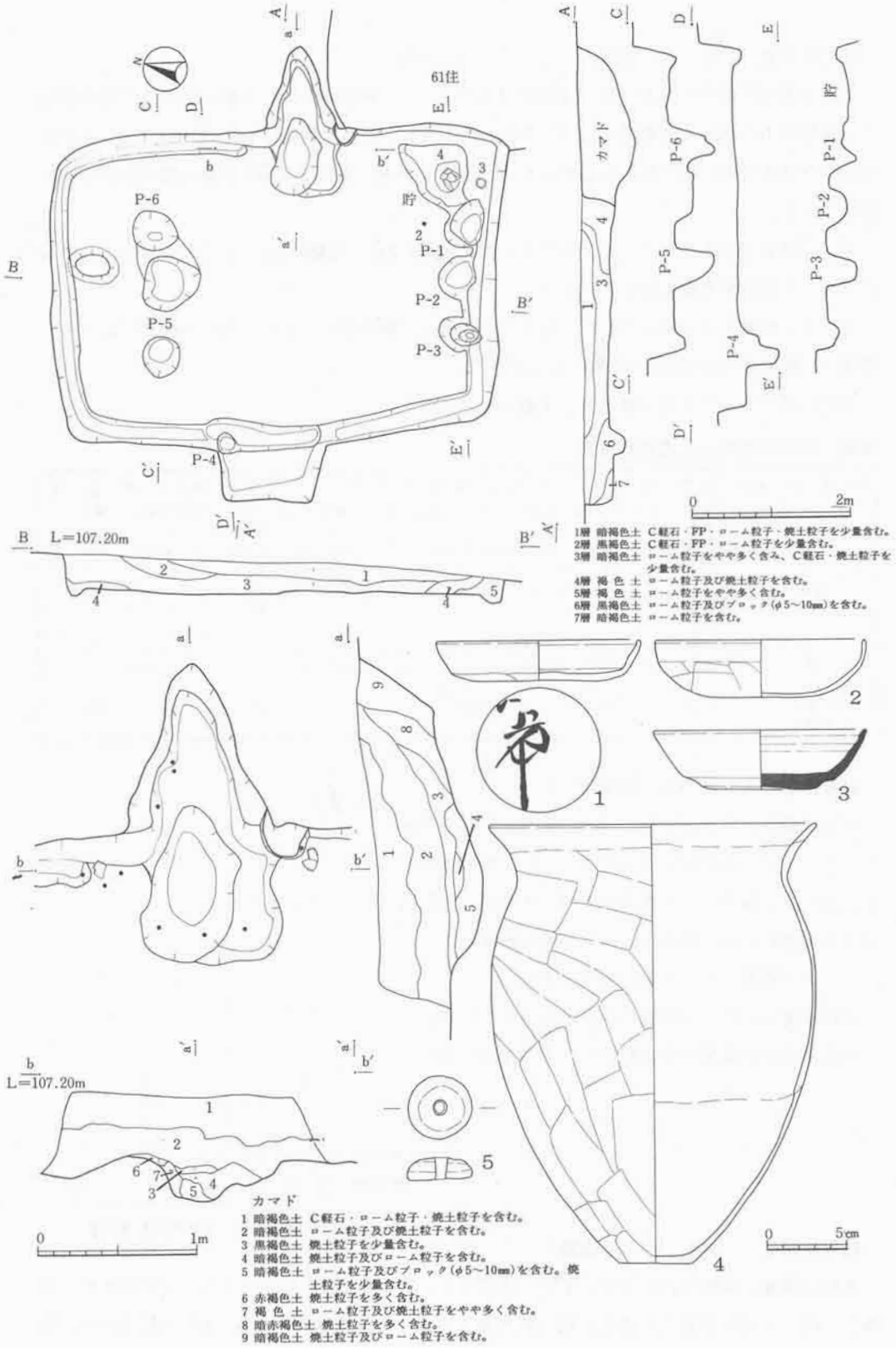
遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

表49　62号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	ほぼ完形	口径 12.8 器高 4.0	丸底。口縁部内湾して立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師 坏	ほぼ完形	口径 11.8 器高 4.1	丸底。口縁部内湾して立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師 甑	4/5	口径 22.0 器高 25.6 底径 6.1	単孔。平底。口縁部短かく外反する。外面ヘラ削り、内面ナデ。	砂粒・石粒を多く含む。	良好	赤褐色	床着
4	土師 甕	底部欠	口径 20.8 残存高 29.6	口縁部強く外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
5	須恵 短頸壺	1/4	残存高 16.8	口縁部外反する。最大径は胴中央部。ロクロ整形。内外面タタキ目。	砂粒を少量含む。	やや不良	灰色	床着
6	石製品 砥石		長さ 9.5	5面に使用痕。1面はよく使われ内湾している。	凝灰岩			床着
7	鉄製品 刀子	刃先欠	残存長 5.2	木質部分残る。				床着
8	鉄製品 鎌	刃先欠	残存長 11.5	柄部直角に折れ曲がる。				床着
9	鉄製品 鎌	刃先欠	残存長 16.5	刃部内湾する。				床着



第77図　62号住居址・出土遺物



第78図　63号住居址・出土遺物

63号住居址　（第78図　図版9－4・21・23　表50）

本址は調査区南側X150・151，Y105・106グリッドで検出された。東側で61号住居址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－74°－Eである。規模は長軸5.6m、短軸4.1mで方形を呈し、西壁中央部に張り出しが認められる。壁高は40cm。床面は平坦で全体に踏み固めがやや認められる。

ピットは6基検出されている。張り出し部は長軸1.2m、短軸0.6mで長方形を呈する。壁溝はカマドと南東側壁際を除いて回る。

カマド　東壁中央で検出された。袖は黒色粘質土で構築されていたと思われ一部残存する。壁外への掘り込みは100cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中にやや多く集まり、床着のものは少ない。

表50　63号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/3	口径 12.8 器高 9	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む	良好	橙褐色	覆土
2	土師坏	1/3	口径 13.8 器高 3.2	平底ぎみの底部。口縁部内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着 墨書(不明)
3	須恵坏	4/5	口径 13.4 器高 3.8 底径 6.1	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ切り後、周縁部ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着
4	土師甕	2/3	口径 20.6 器高 28.0 底径 4.5	口縁部「く」の字状に外反する。器肉薄い。外面胴上部横方向の、中・下部縦方向のヘラ削り。内面ナデ、輪ずみ痕。	砂粒を含む。	良好	外面褐色 内面橙褐色	貯蔵穴
5	石製品紡錘車	完形	直径 4.1	全面にミガキ、穿孔は裏側から。	滑石			覆土

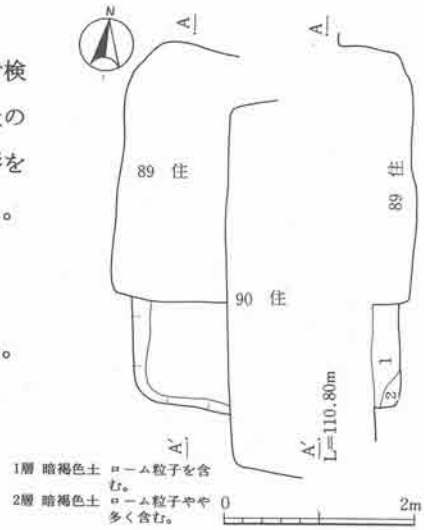
64号住居址　（第79図　図版12－1）

本址は調査区南東側X155・156，Y98グリッドで検出された。89・90号住居址と重複し、いずれも本址の方が古い。主軸方向。規模等は不明であるが、方形を呈すると思われる。壁高は25cm。床面は軟弱である。

ピット・壁溝・カマド等は不明である。

遺物は覆土中から土師器片が少量出土している。

本址は南西側隅角のみの検出で、不明な点が多い。



第79図　64号住居址

65号住居址　（第80・81図　図版9－5・22・23　表51）

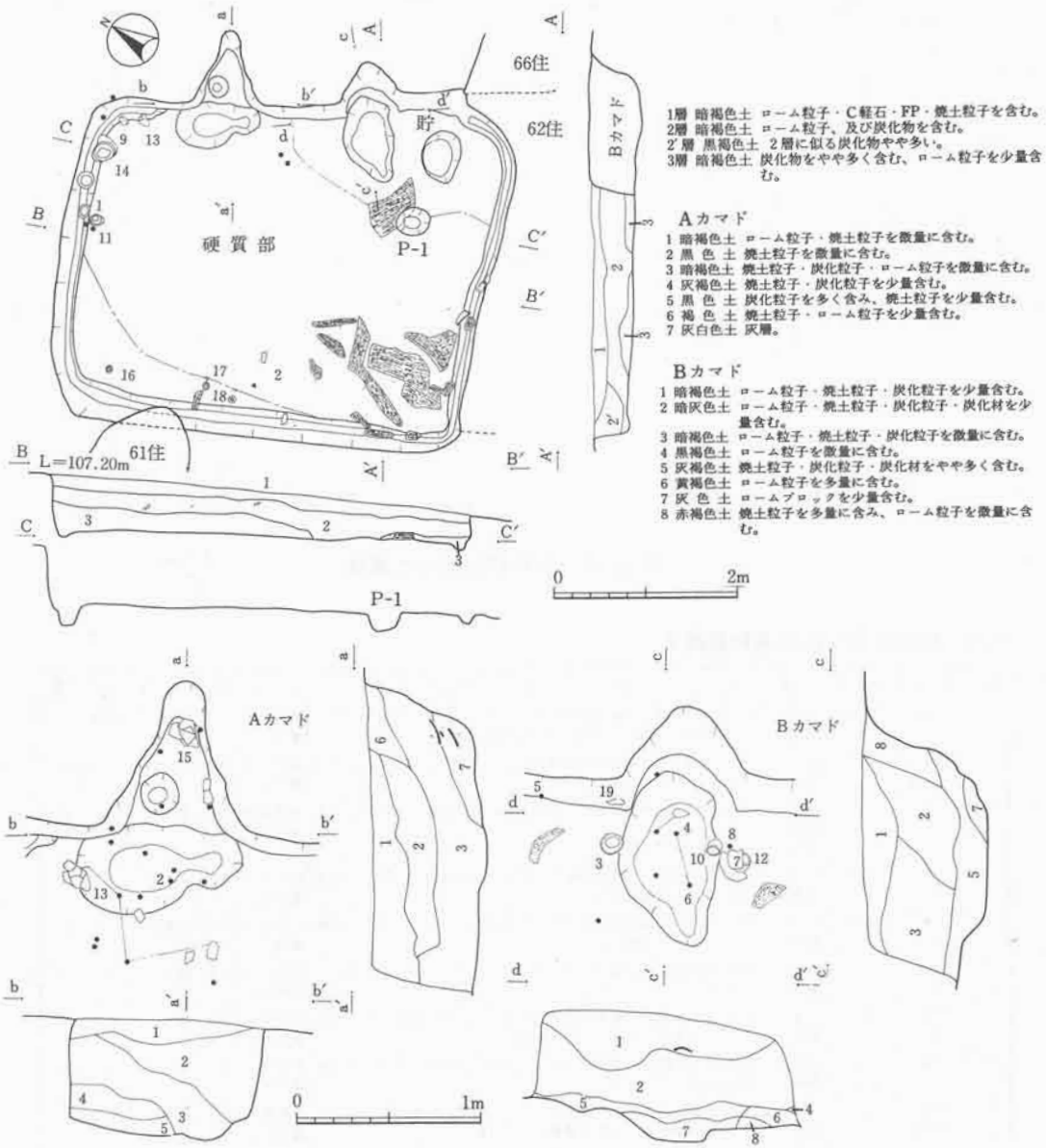
本址は調査区南側X152・153，Y105～107グリッドで検出された。61・62・63号住居址と重複し、61・66号住居址より古く、62号住居址より新しい。主軸方向はN－62°－Eである。規模は長軸4.8m、短軸3.7mで横長長方形を呈する。壁高は65cm。床面は平坦で踏み固めは隅角

を除いて良く認められる。

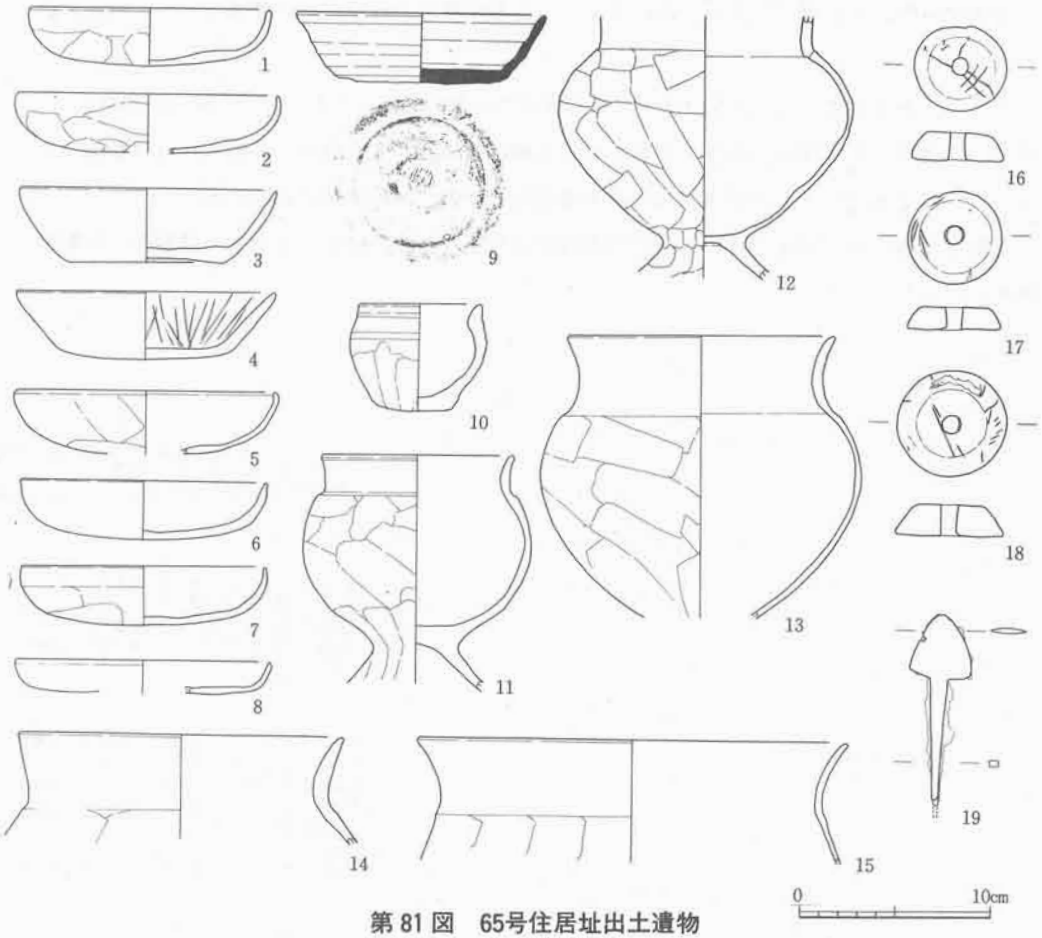
南東側壁際には貯蔵穴があり、他に小ピット２基が検出されている。壁溝はカマド付近を除いて回る。

カマド　東壁北寄りと、南寄りと２ヶ所で検出された。北寄りのＡカマドの袖は検出されず、壁外への掘り込みは80cm。南寄りのＢカマドも袖は検出されず、壁外への掘り込みは40cmである。これら２基のカマドは使用状況・出土遺物などから、同時使用と思われる。

遺物は全体に多く出土している。床面南側には炭化材が多く出土しており、鉄製品、石製紡錘車も出土している。



第80図　65号住居址

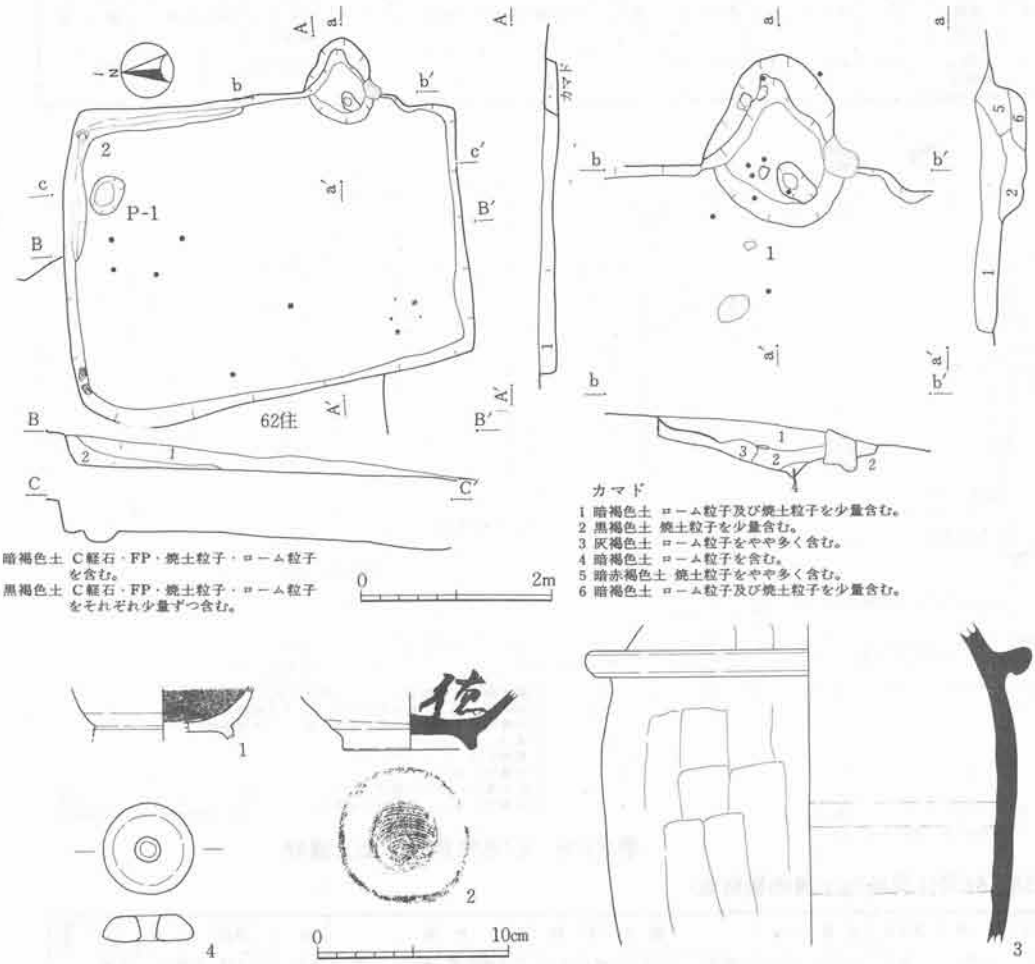


第81図　65号住居址出土遺物

表51　65号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 12.6 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	1/4	口径 13.6 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマドA
3	土師坏	完形	口径 13.5 器高 4.0 底径 8.0	平底。口縁部直線的に外反する。底部回転ヘラ削り。内面ナデ。	赤色鉱物を含む。	良好	褐色	カマドB
4	土師坏	2/3	口径 13.6 器高 3.6	ほぼ平底。口縁部直線的に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、放射状暗文。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマドB
5	土師坏	1/4	口径 13.6 器高 3.3	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマドB
6	土師坏	1/2	口径 13.0 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒、石粒を含む。	良好	褐色	カマドB
7	土師坏	1/3	口径 12.8 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	カマドB
8	土師坏	1/5	口径 13.0 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	カマドB
9	須恵坏	4/5	口径 13.2 器高 3.8 底径 7.0	口縁部直線的に外反する。ロクロ整形。外面回転ヘラ切り後、周縁部ヘラ削り調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
10	土師 小形壺	完形	口径 6.5 器高 5.8 底径 4.1	口縁部短かく直立。外面縦方向のヘラ削り。顕部、内面ナデ。	赤色粒を含む。	良好	褐色	カマドB
11	土師 台付甕	4/5	口径 10.0 残存高 12.5	口縁部短かく直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。台部「ハ」の字状に開く。外面胴部横方向のヘラ削り。台部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	暗赤褐色	床着
12	土師 台付甕	2/3	残存高 13.9	口縁部直立する。台部「ハ」の字状に開く。器内薄い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	カマドB
13	土師 甕	1/2	口径 14.2 残存高 15.0	口縁部直立して立ち上がり、口唇部外反する。外面上部横方向の、下部斜・縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマドA、カマドB
14	土師 甕	口縁部	口径 17.0 残存高 5.7	口縁部やや外反する。外面顕部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	床着
15	土師 甕	口縁部 1/3	口径 22.8 残存高 6.5	口縁部くの字状に外反する。外面顕部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	カマドA
16	石製品 紡錘車	完形	直径 4.8	孔径 9 mm。擦痕多い。井の字が書かれている。	滑石			床着、文字(井)
17	石製品 紡錘車	完形	直径 4.9	孔形10mm。やや扁平。	滑井			床着
18	石製品 紡錘車	完形	直径 5.6	孔径 9 mm。断面台形を呈する。	滑井			床着、文字(不明)
19	鉄製品 鏃	茎部一部欠	長さ 10.2	刃部三角形。				カマドB



第82図 66号住居址・出土遺物

66号住居址　（第82図　図版9－6・23　表52）

本址は調査区南側X153・154，Y106・107グリッドで検出された。62・65号住居址と重複し、本址の方が新しい。又67号住居址と近接し、本址の方が新しい。主軸方向はN－84°－Eである。規模は長軸4.3m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は北側で30cmを計る。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

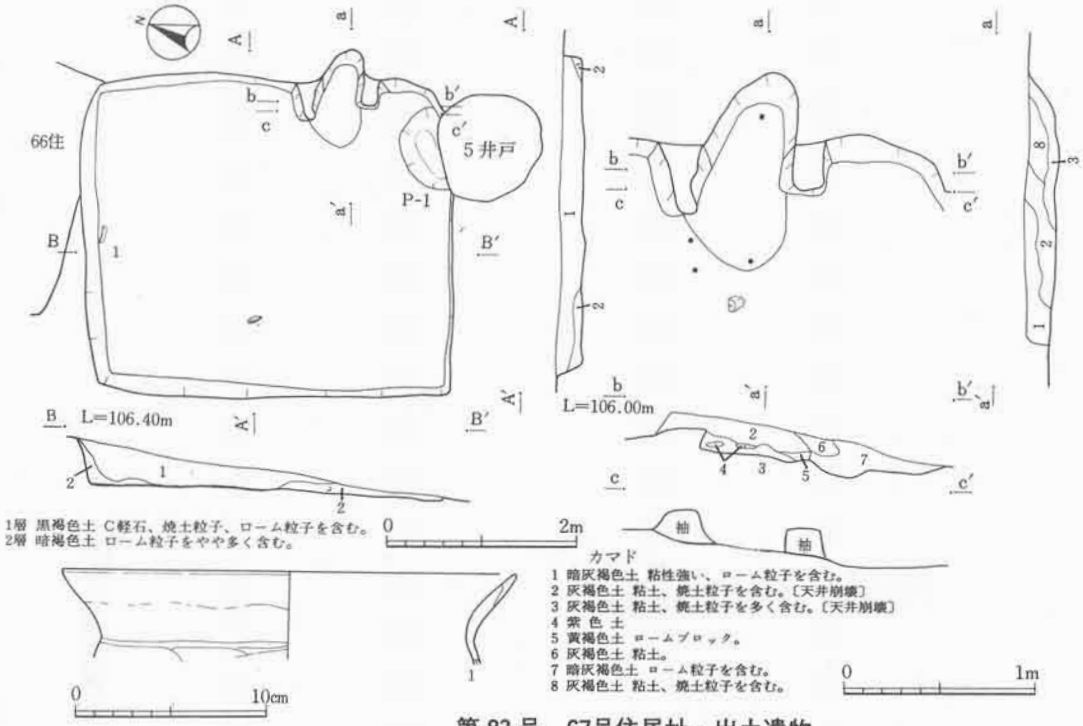
ピットは浅いものが1基検出されている。壁溝は北東壁の一部のみで検出されている。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは60cmで急激に立ち上がる。

遺物は少量出土している。

表52　66号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 埦	1/6	残存高 2.6	口縁部外反すると思われる。底部回転糸切り後付高台。内黒処理、ミガキ	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
2	須恵 埦	底部	残存高 2.9 底径 6.9	口縁部外反する。底部回転糸切り後付高台。	砂粒を少量含む。	良好	灰色	床着、墨書（徳）
3	須恵 羽釜	1/5	残存高 16.9	鍔やや丸みを帯びる。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	灰色	覆土下層
4	石製品 紡錘車	完形	直径 4.7	孔形1.3cm	石材不明			覆土



第83号　67号住居址・出土遺物

表53　67号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 甕	口縁部 1/3	口径 23.8 残存高 4.7	口縁部「く」の字状に外反する。外面頸部横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	床着

67号住居址　（第83図　図版９－７　表53）

本址は調査区南側X153・154，Y107・108グリッドで検出された。主軸方向はN－71°－Eである。規模は長軸3.9ｍ、短軸3.4ｍで方形を呈する。壁高は北側で50cm、南側は斜面のためほとんどけずり取られている。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には浅いピットが検出されている。貯蔵穴であろうか。壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは35cmでゆるやかに立ち上がる。

遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

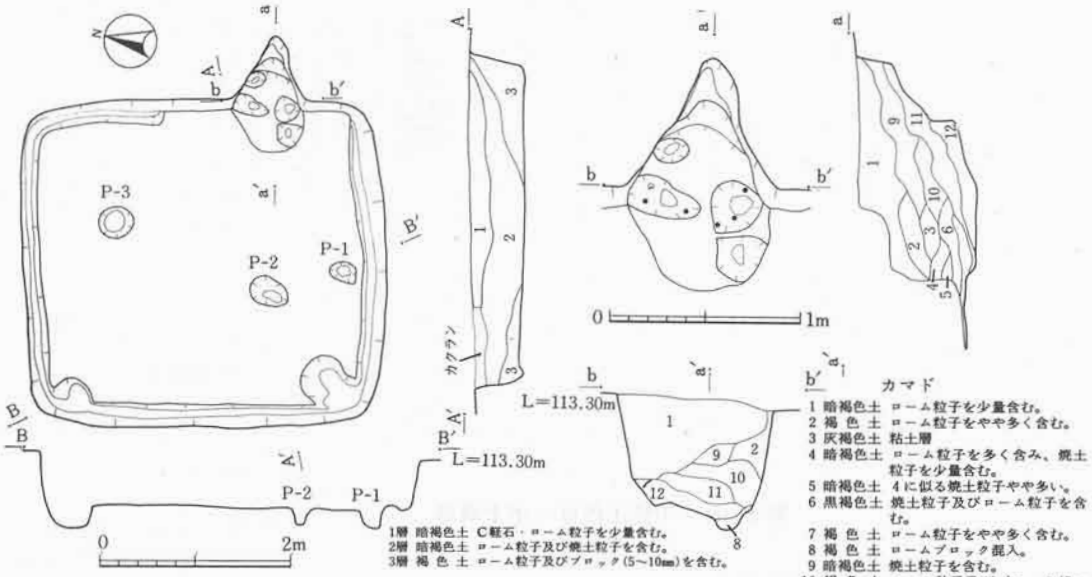
69号住居址　（第84回　図版９－８）

本址は調査区東側X157・158，Y86・87グリッドで検出された。主軸方向はN－77°－Eである。規模は長軸3.8ｍ、短軸3.5ｍで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは５基検出されているがいずれも浅い。壁溝はカマド付近を除いて回る。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは60cmで段を持って立ち上がる。

遺物は覆土中から細片がやや多く出土しているが、床着のものはない。



第84図　69号住居址

70号住居址　（第85図　図版10－１　表54）

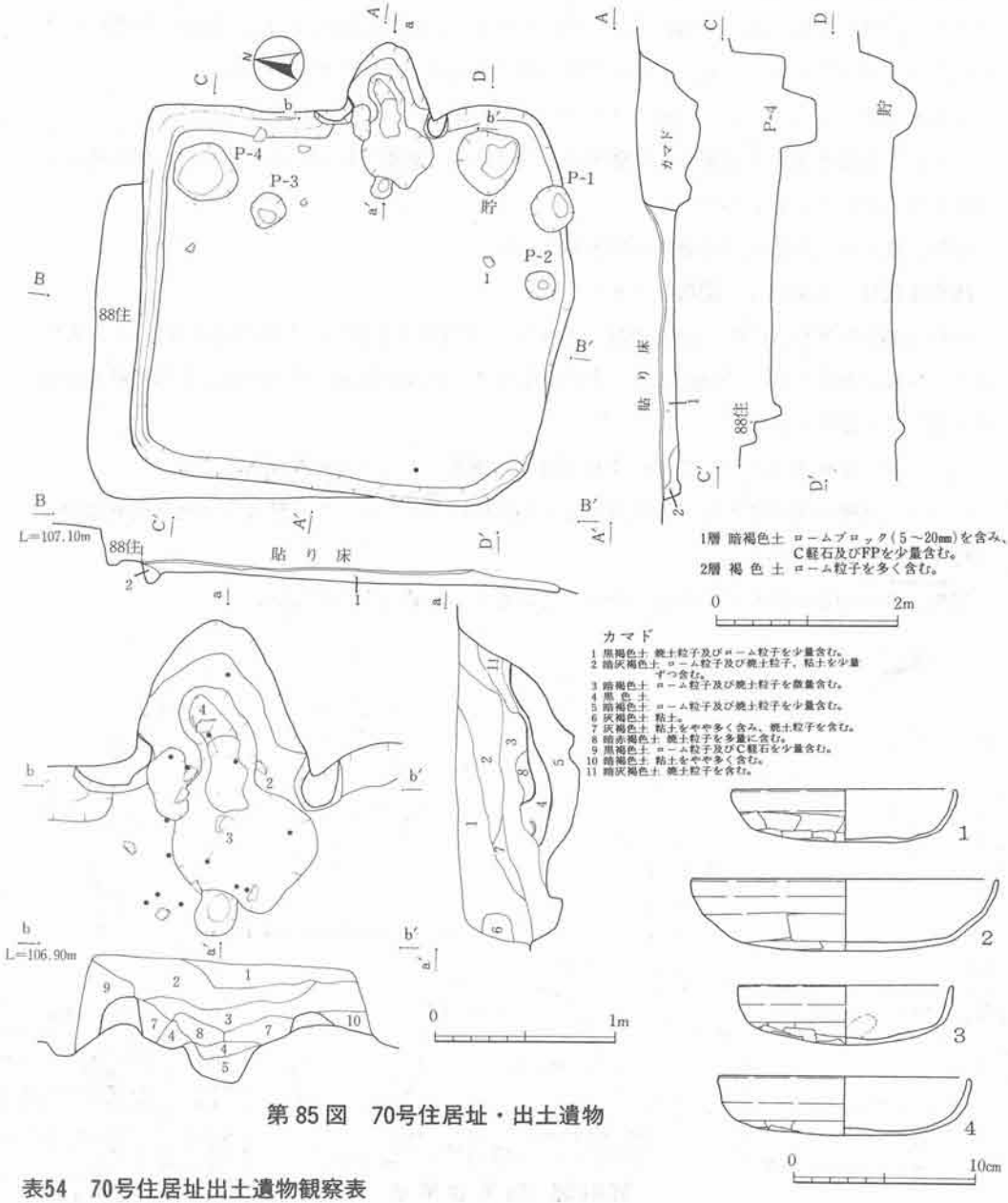
本址は調査区南側X147・148，Y105・106グリッドで検出された。88号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－79°－Eである。規模は長軸4.8ｍ、短軸4.1ｍで方形を呈する。壁高は55cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは５基検出されている。壁溝は南側を除いて回る。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されているが、依存状態は悪い。

壁外への掘り込みは80cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着・覆土中共にやや少ない。



第85図　70号住居址・出土遺物

表54　70号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 12.4 器高 2.9	底部ほぼ平底になる。外面底部ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒、石粒を含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	1/3	口径 7.0 器高 4.0	底部ほぼ平底になる。口縁部弱い2段の稜を持つ。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
3	土師坏	2/3	口径 12.0 器高 3.3	底部丸底。口縁部ほぼ直立する。外面ヘラ削り。内面ヘラ削りの後ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
4	土師坏	1/2	口径 14.0 器高 3.2	底部ほぼ平底になる。外面ヘラ削り。内面丁寧なナデ。	緻密	良好	橙褐色	カマド

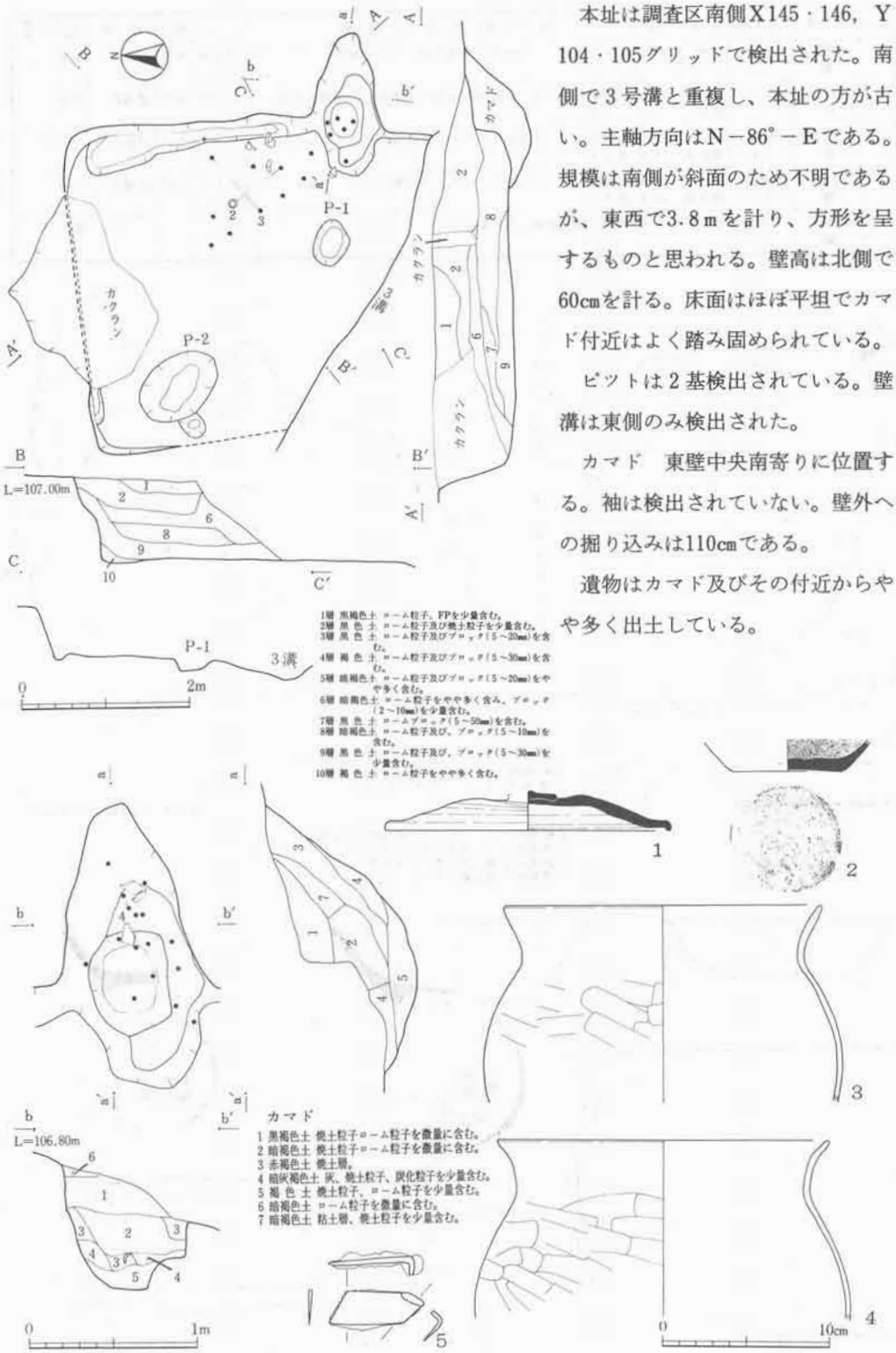
71号住居址　（第86図　図版10－2　表55）

本址は調査区南側X145・146，Y104・105グリッドで検出された。南側で3号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－86°－Eである。規模は南側が斜面のため不明であるが、東西で3.8mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は北側で60cmを計る。床面はほぼ平坦でカマド付近はよく踏み固められている。

ピットは2基検出されている。壁溝は東側のみ検出された。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは110cmである。

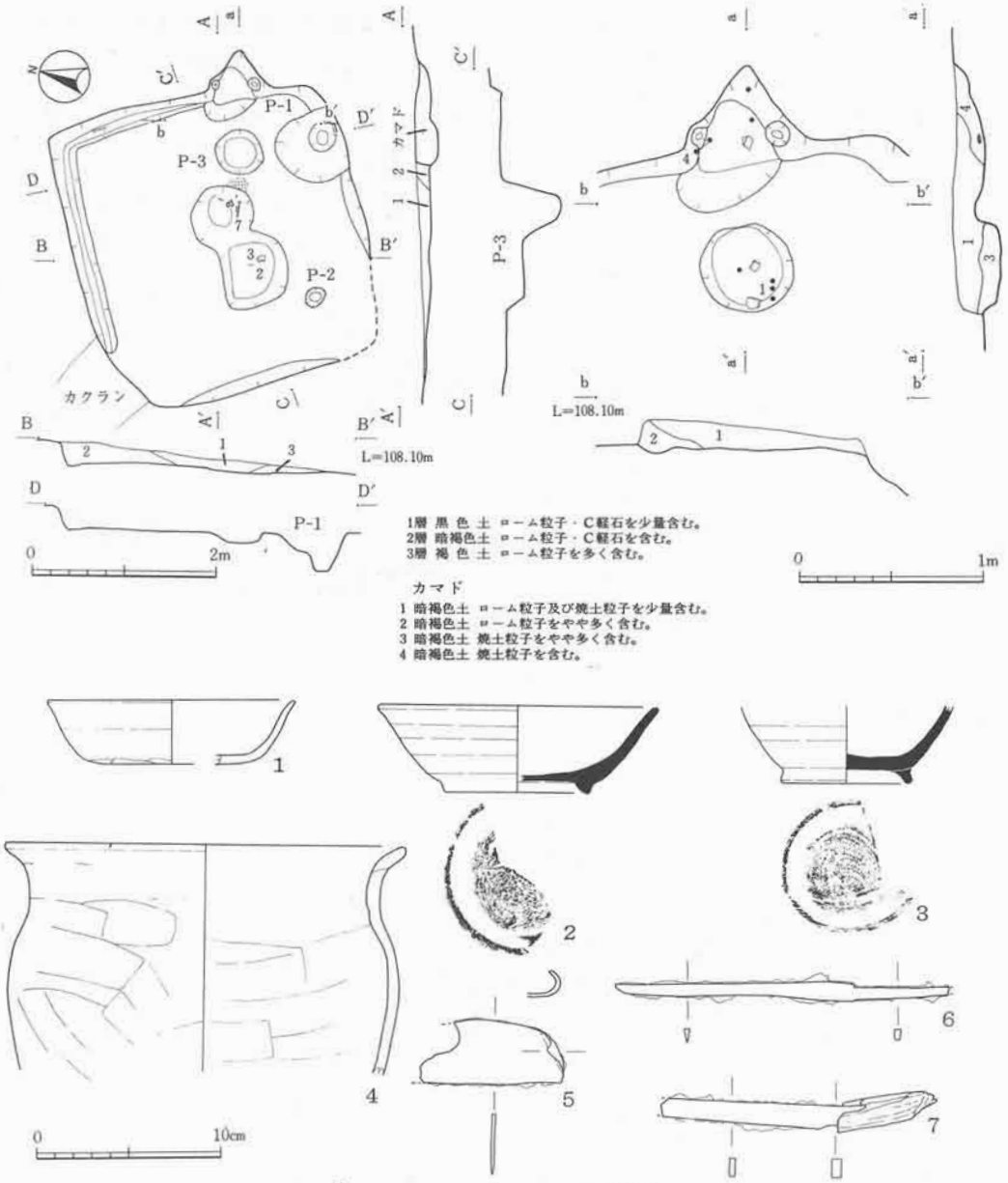
遺物はカマド及びその付近からやや多く出土している。



第86図　71号住居址・出土遺物

表55　71号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	須恵蓋	2/3	口径 7.2	かえりを持つ。つまみの先端不明。ロクロ整形。	石英を多く含む。	良好	灰色	床着
2	土師坏	底部	残存高 1.9 底径 6.7	口縁部外反する。底部回転糸切り未調整。内面黒色処理、ミガキ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
3	土師甕	口縁部 1/4	口径 19.0 残存高 11.9	口縁部「く」の字状に外反する。外面横方面のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
4	土師甕	口縁部 1/3	口径 19.9 残存高 10.8	口縁部「コ」の字状に近くなる。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
5	鉄製品鎌	刃先欠	残存長 5.6	柄部上端部直角に折れ曲がる。				覆土



第87図　72号住居址・出土遺物

72号住居址（第87号　図版10－3　表56）

本址は調査区南側X145・146，Y100・101グリットで検出された。主軸方向はN－68°－Eである。規模は長軸3.3m、短軸3.2mでほぼ正方形を呈する。壁高は30cm。床面はほぼ平坦でカマド付近は良く踏み固められている。

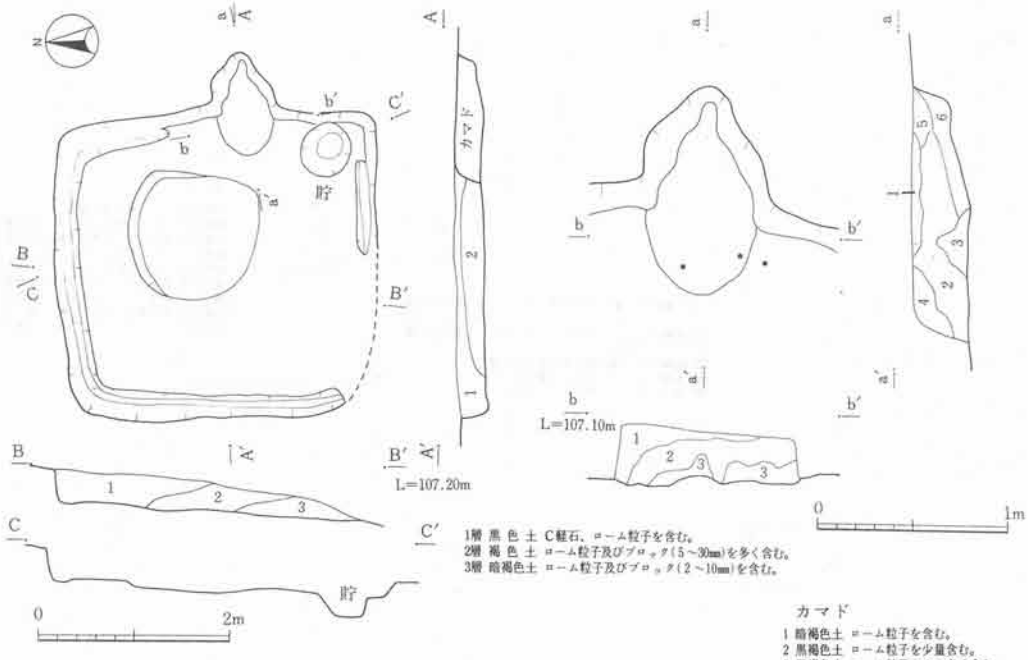
ピットは4基検出されているが主柱穴とは考えられない。壁溝は北側と東側の一部で検出されている。

カマド　東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは30cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は少量であるが鉄製品が出土している。

表56　72号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量（cm）	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/4	口径 13.6 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	カマド
2	須恵 埦	1/3	口径 15.3 器高 4.7 底径 7.9	高台付。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切りと思われる。	砂粒を多く含む。	良好	灰色	床着
3	須緑 埦	1/3	残存高 4.3 底径 6.8	高台付。ロクロ整形。底部回転糸切り後付高台	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着
4	土師 甕	口縁部 1/3	口径 21.9 残存高 12.6	口縁部コの字状を呈し、器肉やや厚い。外面ヘラ削り。内面棒状工具による横方向の削り。	赤色鉱物を含む。	良好	橙褐色	カマド
6	鉄製品 鎌	刃先欠	残存長 7.9	柄部上端直角に折れ曲がる。				床着
6	鉄製品 刀子	柄部一部欠	残存長 18.2	両関				床着
7	鉄製品 不明	先端部欠損	残存長 15.1	木質部分残る。				床着



第88図　73号住居址

73号住居址　（第88図　図版10－４）

本址は調査区南側X144・145，Y103・104グリッドで検出された。主軸方向はN－92°－Eである。規模は長軸3.4ｍ、短軸3.3ｍでほぼ正方形を呈する。壁高は北側で35cmを計る。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央には浅い皿状の掘り込みがある。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回ると思われるが、南側は斜面のため不明である。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは50cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中から少量出土している。

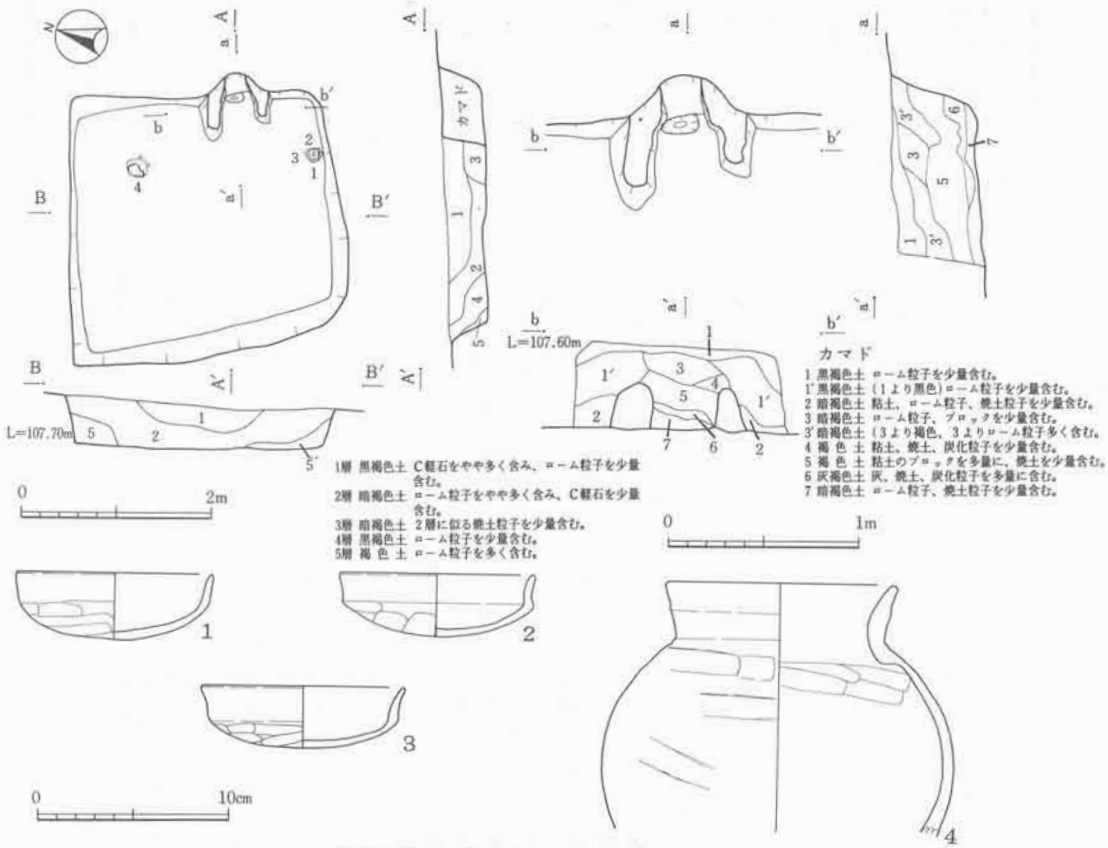
74号住居址　（第89図　図版10－５・22　表57）

本址は調査区南西側X141，Y106グリッドで検出された。主軸方向はN－71°－Eである。規模は１辺2.8ｍで、正方形を呈する。壁高は50cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

ピット・壁溝は検出されなかった。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは20cmで急激に立ち上がる。

遺物は南西側壁際で坏が３枚重なって出土しているが、他かほとんど出土していない。



第89図　74号住居址・出土遺物

表57　74号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	完形	口径 10.4 器高 3.5	口縁部稜を持ち、直線的に立ち上がり、口唇部わずかに外反する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	完形	口径 10.3 器高 3.3	口縁部強い稜を持ち、直線的に立ち上がり、口唇部わずかに外反する。外面底部ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	完形	口径 10.7 器高 3.3	口縁部稜を持ち、やや外反ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	床着
4	土師甕	上半部 1/2	口径 12.0 残存高 13.2	口縁部直線的に立ち上がり、口唇部外反する。胴部球形を呈する。外面横方向のヘラ削り。内面一部荒いヘラ削りを残し、他は丁寧なナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着

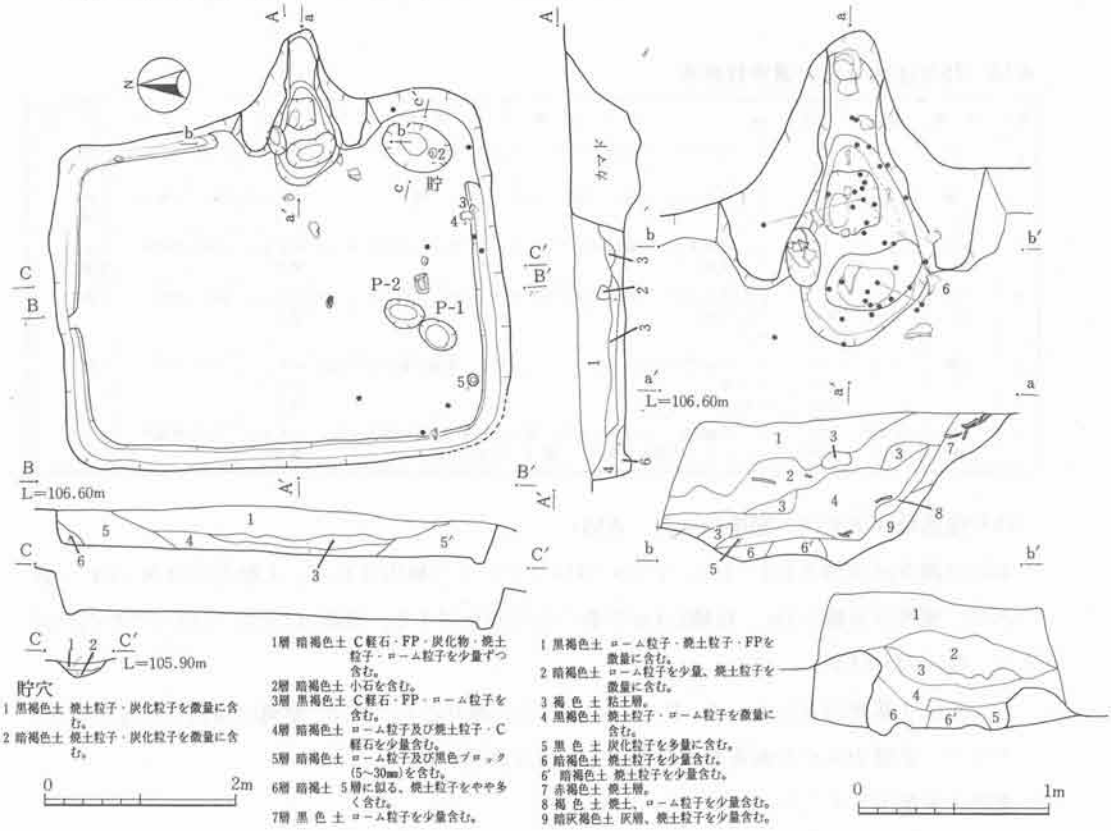
75号住居址（第90・91　図版10－6・22・23　表58）

本址は調査区西側X137，Y99・100グリッドで検出された。主軸方向はN－86°－Eである。規模は長軸4.8m、短軸3.6mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認られる。

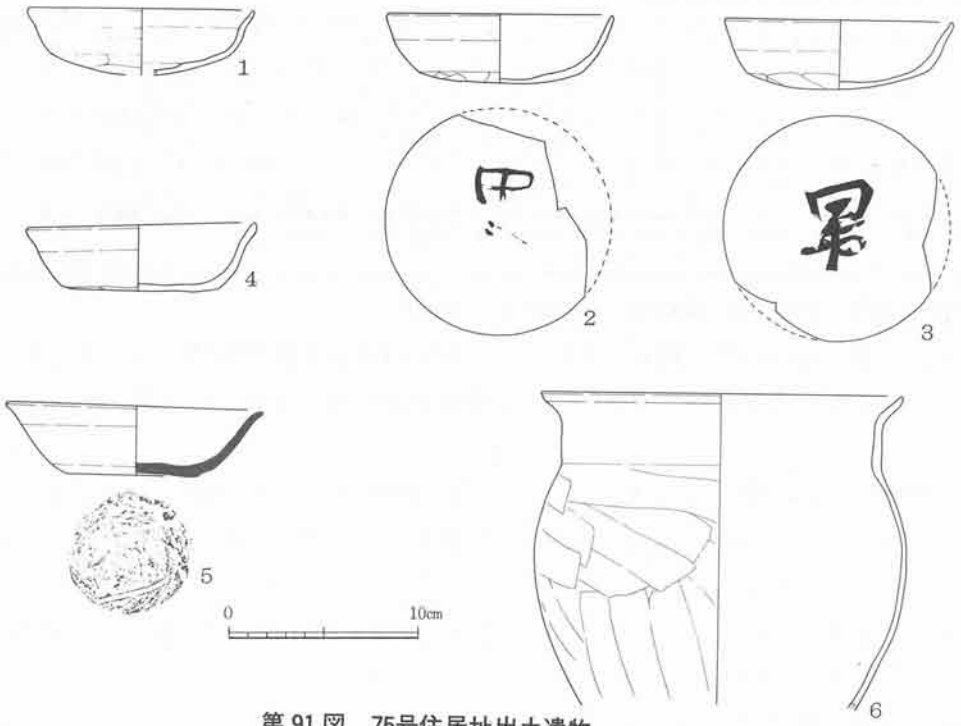
南東側壁際には貯蔵穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁溝はカマド・貯蔵穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回るが、北側の中央で一部とぎれる。

カマド　東壁中央やや寄りに位置する。袖は粘土で構築され50cm程壁内に張り出す。壁外への掘り込みは70cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着、覆土中共にやや多く出土している。



第90号　75号住居址



第91図　75号住居址出土遺物

表58　75号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/3	口径 12.0 器高 3.5	底部丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着 墨書
2	土師 坏	3/4	口径 12.0 器高 3.6	底部丸底。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	貯蔵穴 墨書
3	土師 坏	4/5	口径 12.0 器高 3.5	底部丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着 墨書
4	土師 坏	4/5	口径 12.2 器高 3.8 底径 8.2	底部平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り、内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	須恵 坏	4/5	口径 13.6 器高 3.7 底径 6.8	口唇部外反ぎみになる。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	砂粒、石粒を多く含む。	良好	灰色	床着
6	土師 甕	上半部 1/2	口径 19.2 残存高 16.5	口縁部「コ」の字状になる。器肉やや薄い。外面胴上部横方向の、中部縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド

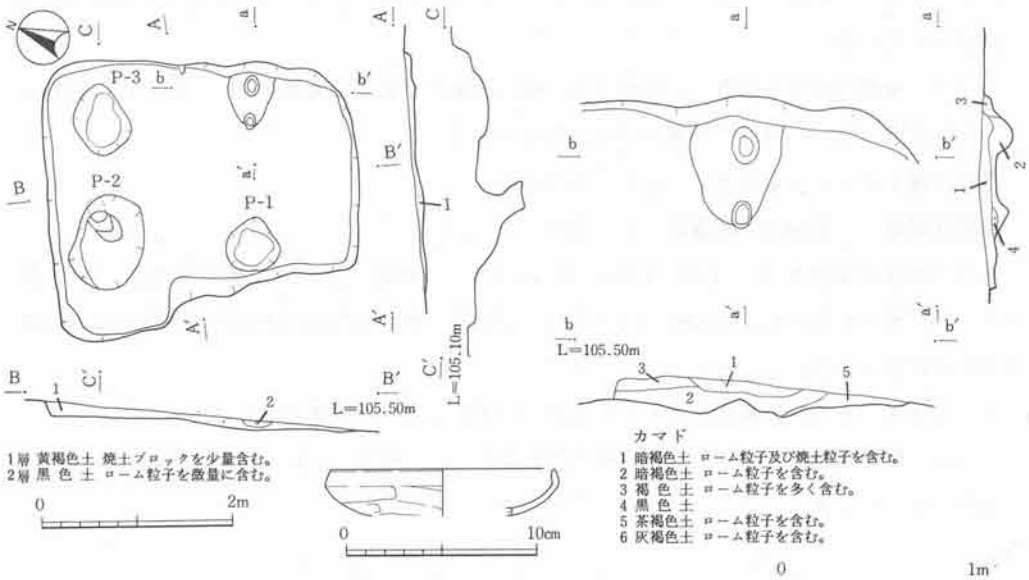
76号住居址　第92図　**図版**10－7　表59)

本址は調査区南側X151・152，Y109・110グリッドで検出された。主軸方向はN－64°－Eである。規模は長軸3.3m、短軸2.4mで歪つな方形を呈する。壁高は15cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは弱い。

ピットは3基検出されている。P－1は斜方向の掘り込みである。壁溝は検出されなかった。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。依存状態が悪い。

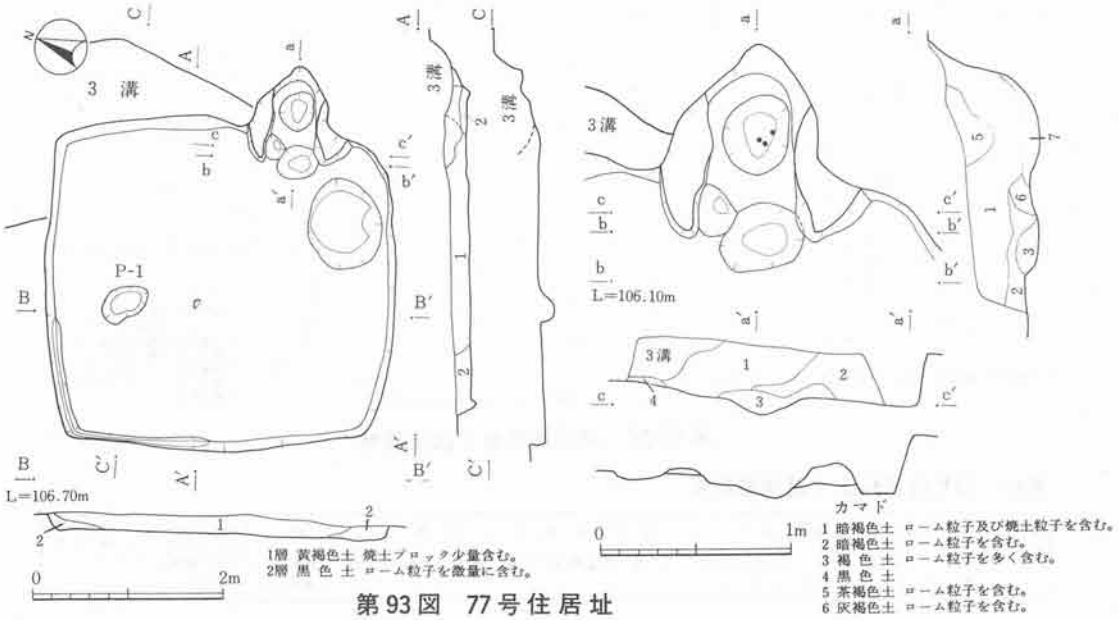
遺物は少量出土している。



第92図　76号住居址・出土遺物

表59　76号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/5	口径 11.8	口縁部内湾ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着



第93図　77号住居址

77号住居址　（第93図　図版10－8）

本址は調査区南側X148・149，Y107・108グリッドで検出された。3号溝と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸3.7m、短軸3.4mで方形を呈する。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めがやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、他に浅いピット１基が検出されている。壁溝は北西側の隅角で検出されている。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は黒褐色粘質土で構築されていたものと思われるが依存状態は悪い。壁外への掘り込みは70cmである。

遺物は覆土中から少量出土しているのみである。

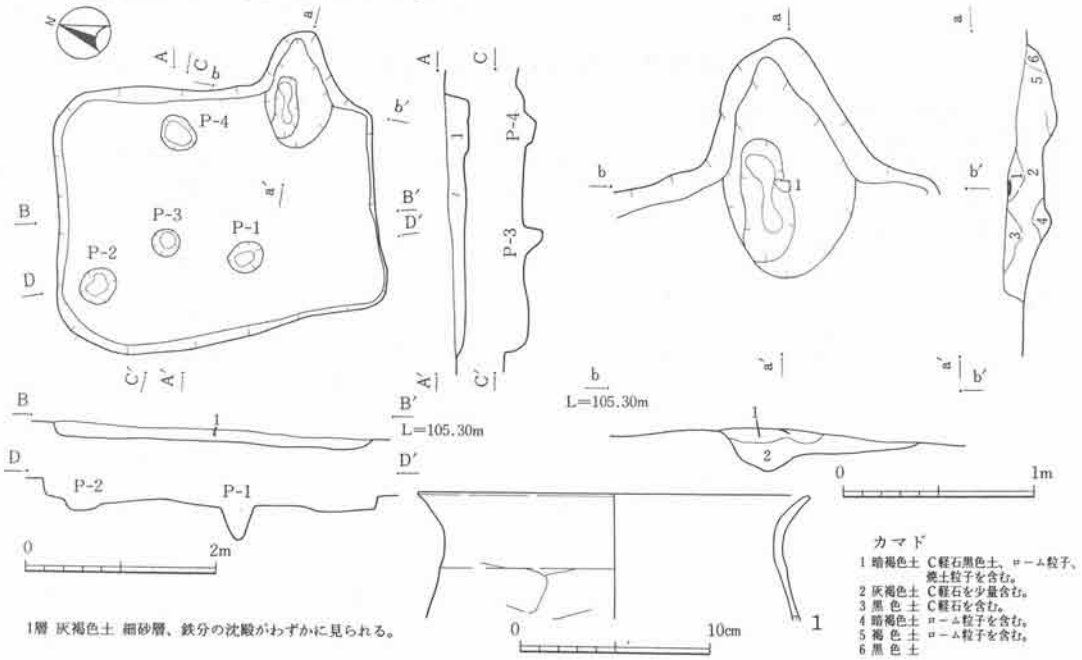
78号住居址　（第94図　図版11－１　表60）

本址は調査区南側X147・150，Y110・111グリッドで検出された。主軸方向はN－79°－Eである。規模は長軸3.4ｍ、短軸2.6ｍで方形を呈する。壁高は25cm。床面はやや凹凸があり踏み固めは軟弱である。

ピットは浅いものが４基検出されているが、いずれも浅い。壁溝はない。

カマド　東壁南側に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは20cm。

遺物はほとんど出土していない。



第94図　78号住居址・出土遺物

表60　78号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師甕	口縁部 1/4	口径 20.2 残存高 6.4	口縁部外反する。外面胴部上半横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド

79号住址　（第95図　図版11－２・22　表61）

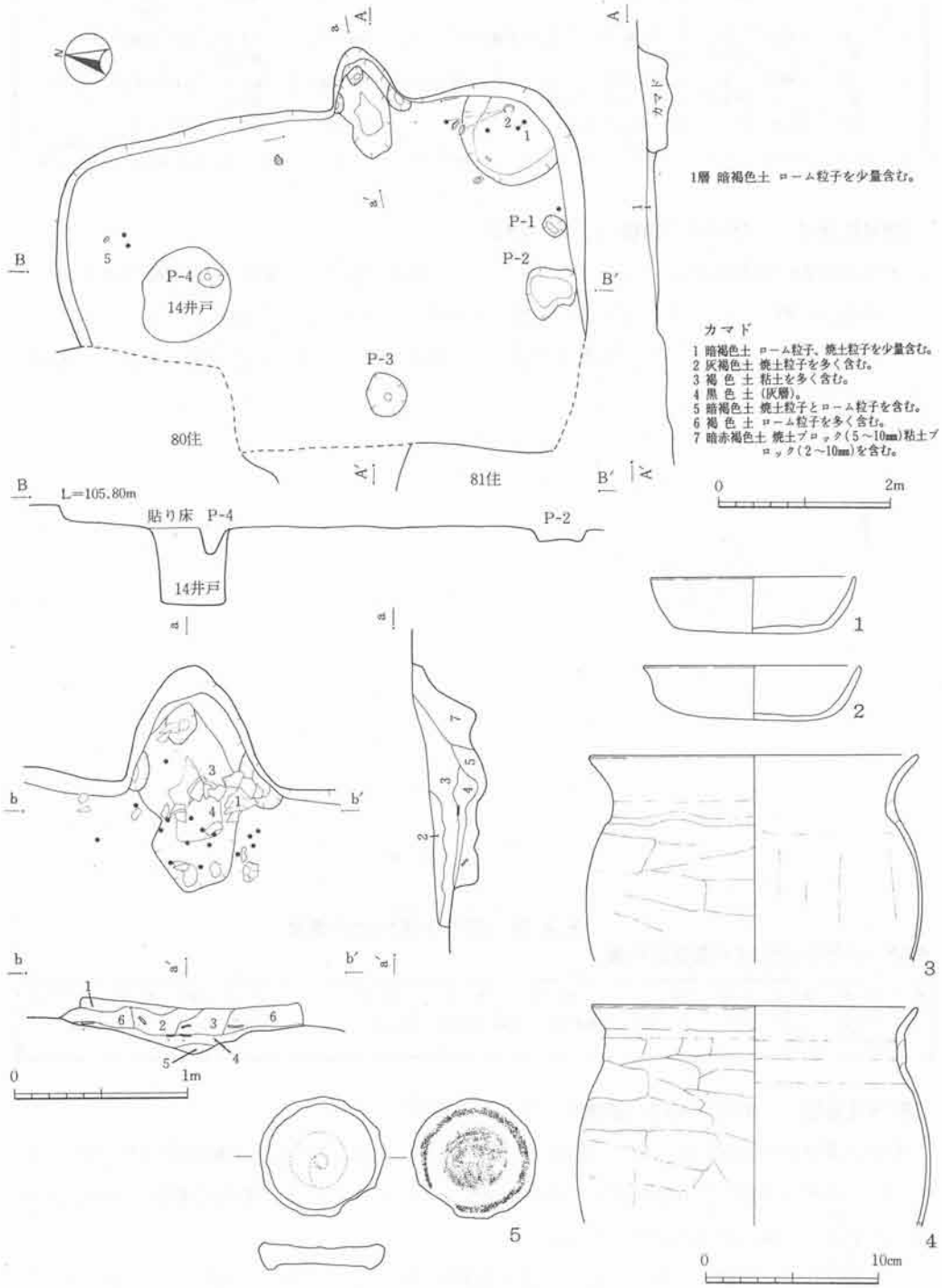
本址は調査区南側X145・146，Y105・106グリッドで検出された。80号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－72°－Eである。西側は斜面のため立ち上がりが確認できなかったが、南北6.2ｍを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は北側で10cm。床面は検出され

た部分では良く踏み固められている。尚本址の貼り床の下から14号井戸が検出されている。

南東側には貯蔵穴があり、他に小ピット３基が検出されている。壁溝はない。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは65cm。

遺物はカマド・貯蔵穴付近にやや多く集まる。



第 95 図　79号住居址・出土遺物

表61　79号住居址出土遺物観察表

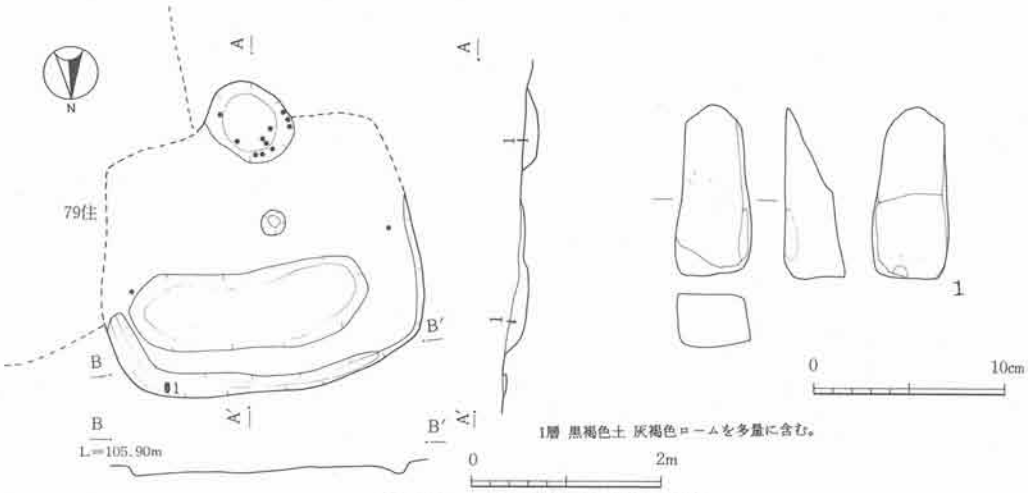
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	ほぼ完形	口径 12.0 器高 3.3	底部ほぼ平底になる。外面底部ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を少量含む。	良好	褐色	カマド
2	土師 坏	ほぼ完形	口径 12.7 器高 3.2	底部ほぼ平底になる。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	内面黒褐色。外面褐色。	床着
3	土師 甕	口縁部 1/2	口径 19.1 残存高 12.0	口縁部外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
4	土師 甕	口縁部 1/4	口径 14.0 残存高 12.8	口縁部「コ」の字状を呈する。器肉やや薄い。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
5	須恵 埦	底部	底径 6.9	高台部、底部内、外面、周縁部ケズリ。底部内面ロクロ痕残す。	緻密	良好	灰色	ピット 硯転用

80号住居址　（第96図　図版11－2　表62）

本址は調査区南側X144・145，Y105グリッドで検出された。主軸方向・規模等は不明である。壁高は北側で5㎝。床面は北側の一部のみ検出されており、やや凹凸がある。

ピットは検出されなかった。壁溝は北側のみに検出された。カマドは不明であるが、北側に焼土の分布が認められる。

出土遺物は砥石1点である。



第96図　80号住居址出土遺物

表62　80号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	石製品 砥石	完形	長さ 9.1	割れ口を再利用し、4面に使用痕が認められる。	凝灰石			床着

81号住居址　（第97・98図　図版11－3・23　表63）

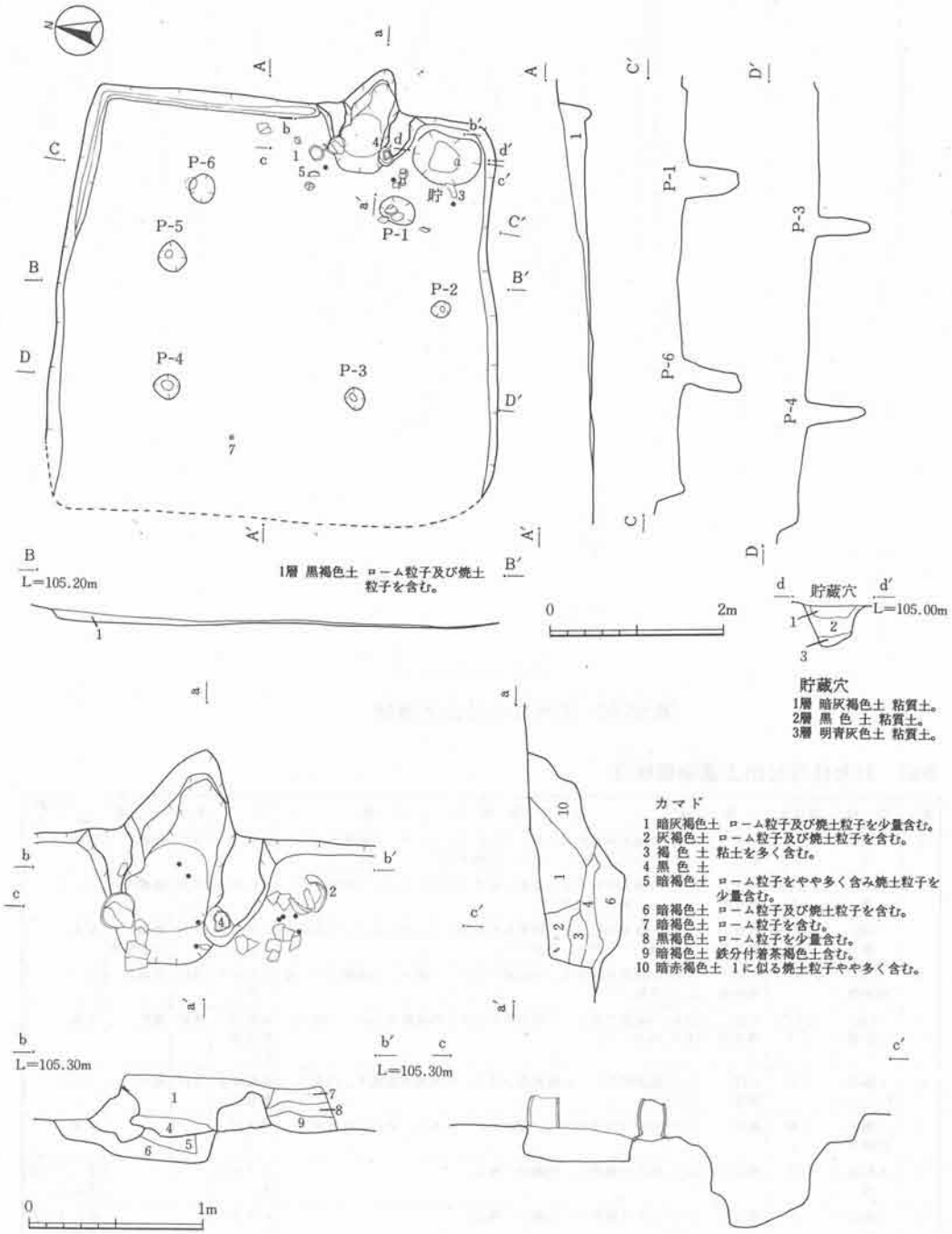
本址は調査区南側X144・145，Y107・108グリッドで検出された。主軸方向はN－96°－Eである。規模は南北で5.0ｍを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は東側で30㎝。床面はほぼ平坦で、踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、ピットは6基検出されている。そのうちP－1，P－3，P

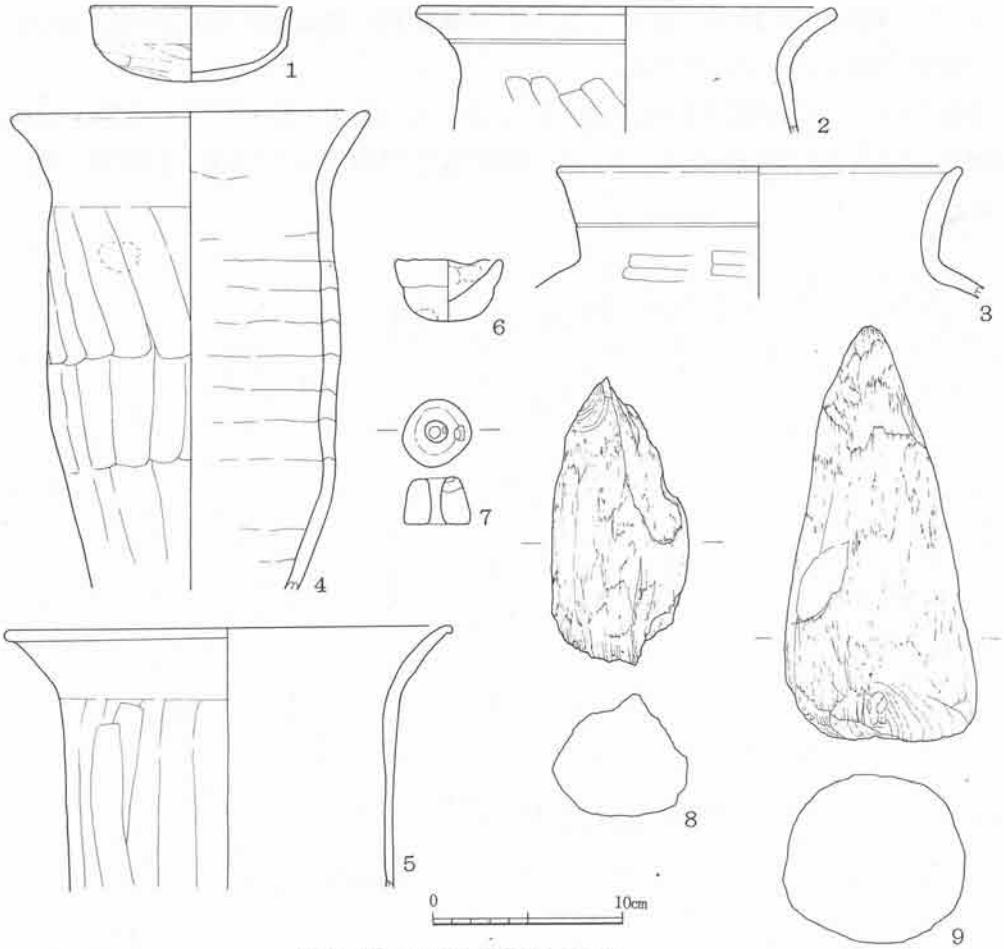
－4，P－5は主柱穴である。壁溝は北東側隅角で検出されている。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土で構築され、先端部には長胴甕が置かれている。壁外への掘り込みは40cmである。

遺物はカマド・貯蔵穴付近を中心にやや多く出土している。P－1，P－4の下部からは柱に使用したと思われる木材が出土している。木材は鑑定の結果クヌギであることが判明した。



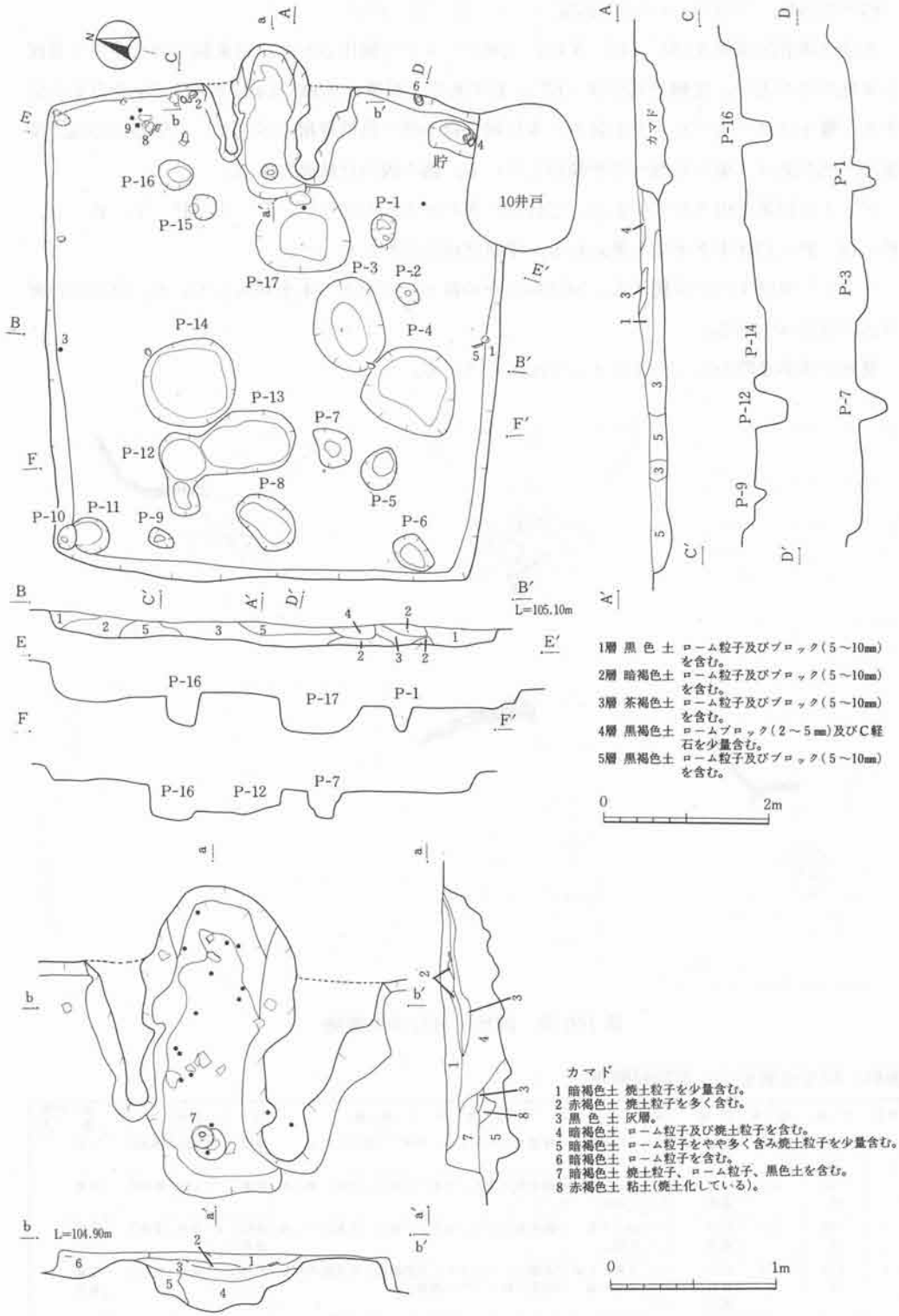
第97図　81号住居址



第98図　81号住居址出土遺物

表63　81号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/3	口径 10.4 器高 4.0	口縁部稜を持ち、直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反ぎみになる。外面ヘラ削り、内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	土師 甕	口縁部 4/5	口径 21.9 残存高 6.6	口縁部外反する。長胴を呈すると思われる。外面斜方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	カマド
3	土師 甕	口縁部 1/2	口径 21.1 残存高 7.0	口縁部外反する。胴部球形を呈すると思われる。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む。	良好	橙褐色、内面黒斑	床着
4	土師 長胴甕	底部欠	口径 19.0 残存高 25.5	口縁部外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面輪ずみの接合痕。ナデ。	石粒を多く含む。	良好	橙褐色	カマド
5	土師 長胴甕	上半部 2/3	口径 23.6 残存高 14.0	口縁部外反し、口唇部折り返す。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。	良好	褐色	床着
6	土製品 手ずくね	1/2	口径 5.5 器高 3.3	底部肥厚し、口縁部直立する。外面接合痕残す。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	カマド
7	石製品 紡錘車	完形	直径 3.6	穿孔は両方向から。肩部にも小孔ある。砥石の再利用。	凝灰岩			床着
8	木製品 柱	一部	残存長 15.0	依存状態悪い。円錘状に残る。	クヌギの木。			P－4の底部出土。
9	木製品 柱	一部	残存長 22.0	依存状態悪い。円錘状に残る。	クヌギの木。			P－3の底部出土。


10井戸
貯
カマド
P-1
P-2
P-3
P-4
P-5
P-6
P-7
P-8
P-9
P-10
P-11
P-12
P-13
P-14
P-15
P-16
P-17
L=105.10m
L=104.90m
1層 黒 色 土 ローム粒子及びブロック(5～10mm)を含む。
2層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(5～10mm)を含む。
3層 茶褐色土 ローム粒子及びブロック(5～10mm)を含む。
4層 黒褐色土 ロームブロック(2～5mm)及びC軽石を少量含む。
5層 黒褐色土 ローム粒子及びブロック(5～10mm)を含む。
0 2m
カマド
1 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
2 赤褐色土 焼土粒子を多く含む。
3 黒 色 土 灰層。
4 暗褐色土 ローム粒子及び焼土粒子を含む。
5 暗褐色土 ローム粒子をやや多く含み焼土粒子を少量含む。
6 暗褐色土 ローム粒子を含む。
7 暗褐色土 焼土粒子、ローム粒子、黒色土を含む。
8 赤褐色土 粘土(焼土化している)。
0 1m

第99図　82号住居址

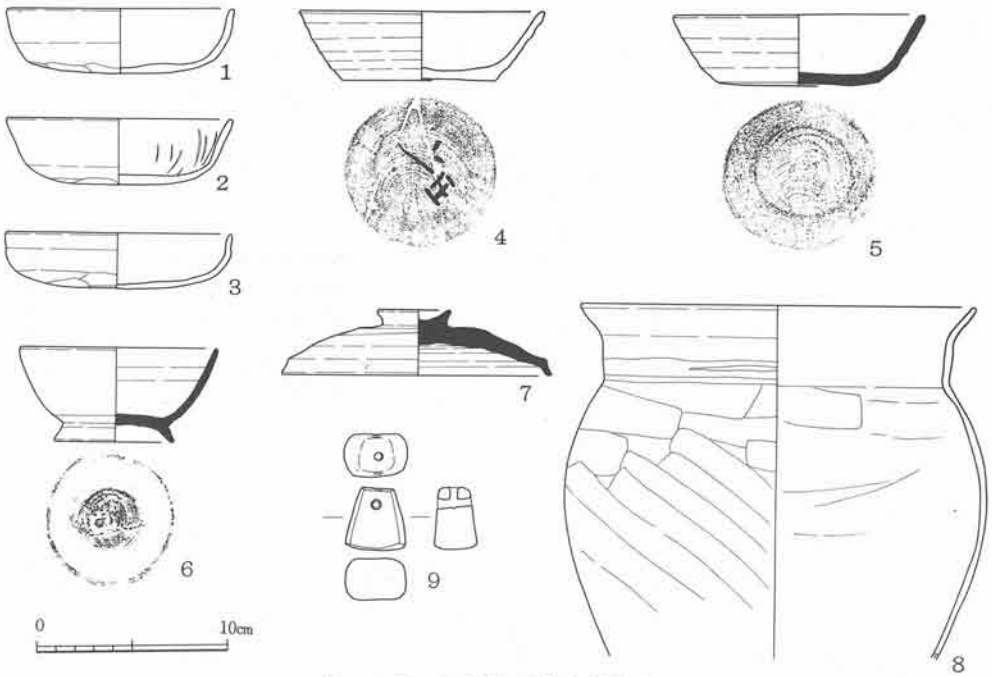
82号住居址　（第92・100図　図版11－4・22・23　表64）

本址は調査区南側X142・143，Y107・108グリッドで検出された。南東側で10号井戸と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－67°－Eである。規模は長軸6.1m、短軸5.6mで方形を呈する。覆土はロームブロックを含み、本住居址群中唯一自然堆積を示さない。壁高は25cm。床面は凹凸があり、東から西へやや傾斜している。踏み固めは軟弱である。

ピットは17基検出されているが、主柱穴と思われるものはない。P－3，P－7，P－8，P－12，P－13は床下土坑と思われる。壁溝は検出されなかった。

カマド　東壁中央に位置する。袖は地山の砂質ロームをそのまま利用している。壁外への掘り込みは50cmである。

遺物は東側壁際からややまとまって出土している。



第100図　82号住居址出土遺物

表64　82号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	1/2	口径 12.0 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	2/3	口径 12.0 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面一部に暗文状のミガキ、ナデ。	緻密	良好	橙褐色	床着
3	土師坏	2/3	口径 12.0 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	土師坏	4/5	口径 13.0 器高 3.7 底径 8.0	平底。口縁部直線的に外反する。須恵模倣。外面底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り調整。	赤色粒を含む。	良好	橙褐色	床着 墨書
5	須恵坏	1/2	口径 13.4 器高 3.8 底径 8.4	平底。口縁部外反する。ロクロ整形。外面底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り調整。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着

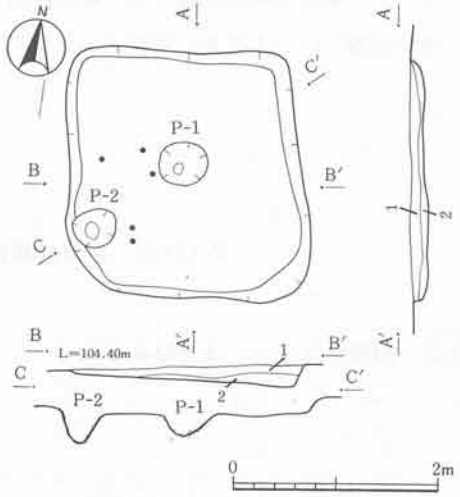
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
6	須恵 椀	4/5	口径 10.6 器高 5.0 底径 6.4	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、やや外反する。底部回転糸切り後、付高台。内、外面ナデ。	石粒を含む。	良好	青灰色	覆土
7	須恵 蓋	ほぼ完形	口径 14.4 器高 3.5	つまみやや小さく、返りを持たない。ロクロ整形。天井部中央回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	カマド
8	土師 甕	口縁部 1/3	口径 21.0 残存高 18.7	口縁部「コ」の字状を呈する。器肉やや薄い。外面胴上部横方向の、中部斜方向のヘラ削り。口縁部に接合痕残す。内面ヘラ調整、ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	床着
9	石製品 砥石	完形	長さ 3.3	孔が3方に認められる。小形で全面に使用痕。	凝灰岩			床着

83号住居址　（第101図　図版11－5）

本址は調査区南側X144，Y109グリッドで検出された。11号掘立と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸2.4m、短軸2.3mでほぼ正方形を呈する。壁高は15cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

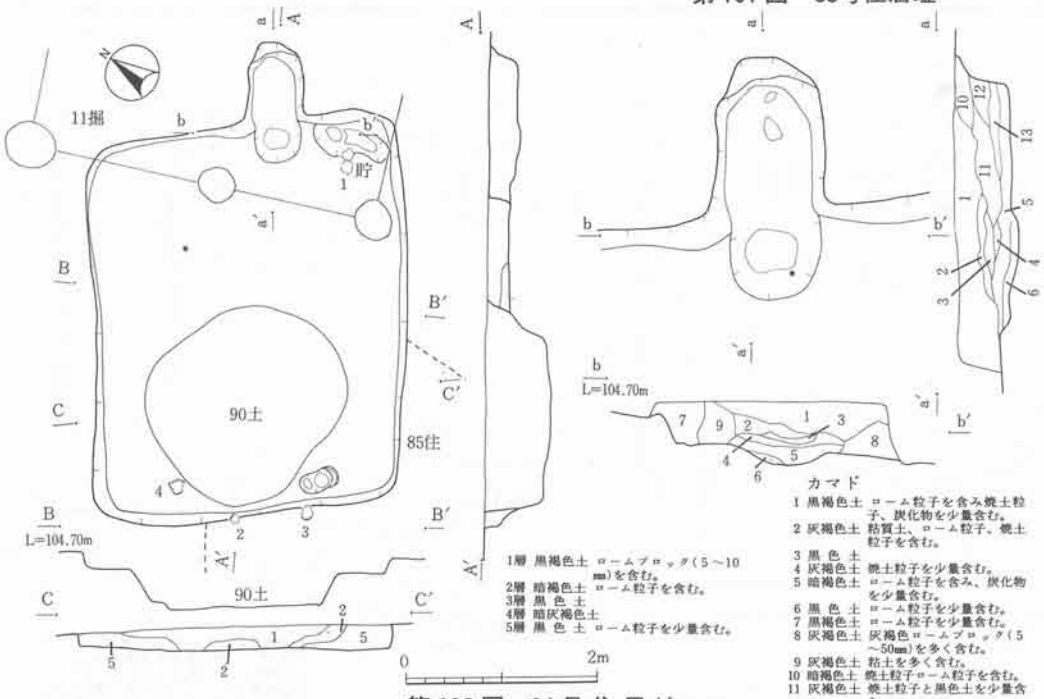
ピットは南西側に1基検出されている。壁溝・カマドは検出されなかった。

遺物はほとんど出土していない。



1層 灰褐色土 焼土粒子・FPを微量に含む。
2層 暗灰褐色土 粘質土層、鉄分の沈殿がわずかに見られる。

第101図　83号住居址



1層 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)を含む。
2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
3層 黒色土
4層 暗灰褐色土
5層 黒色土 ローム粒子を少量含む。

カマド
1 黒褐色土 ローム粒子を含み焼土粒子、炭化物を少量含む。
2 灰褐色土 粘質土、ローム粒子、焼土粒子を含む。
3 黒色土
4 灰褐色土 焼土粒子を少量含む。
5 暗褐色土 ローム粒子を含み、炭化物を少量含む。
6 黒色土 ローム粒子を少量含む。
7 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
8 灰褐色土 灰褐色ロームブロック(5～50mm)を多く含む。
9 灰褐色土 粘土を多く含む。
10 暗褐色土 焼土粒子ローム粒子を含む。
11 灰褐色土 焼土粒子と黒色土を少量含む。
12 暗褐色土 焼土粒子を多く含む。
13 黒色土 焼土ブロック(5～10mm)を含む。

第102図　84号住居址

84号住居址　（第102・103図　図版11－6・22　表65）

本址は調査区南側X142・143，Y110・111グリッドで検出された。11号掘立柱建物址・85号住居址・90号土坑と重複し、11号掘立柱建物址・90号土坑より古く、85号住居址より新しい。主軸方向はN－58°－Eである。規模は長軸4.2m、短軸3.3cmで方形を呈する。壁高は25cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

南東側壁際には浅いピットが1基検出されている。壁溝はない。

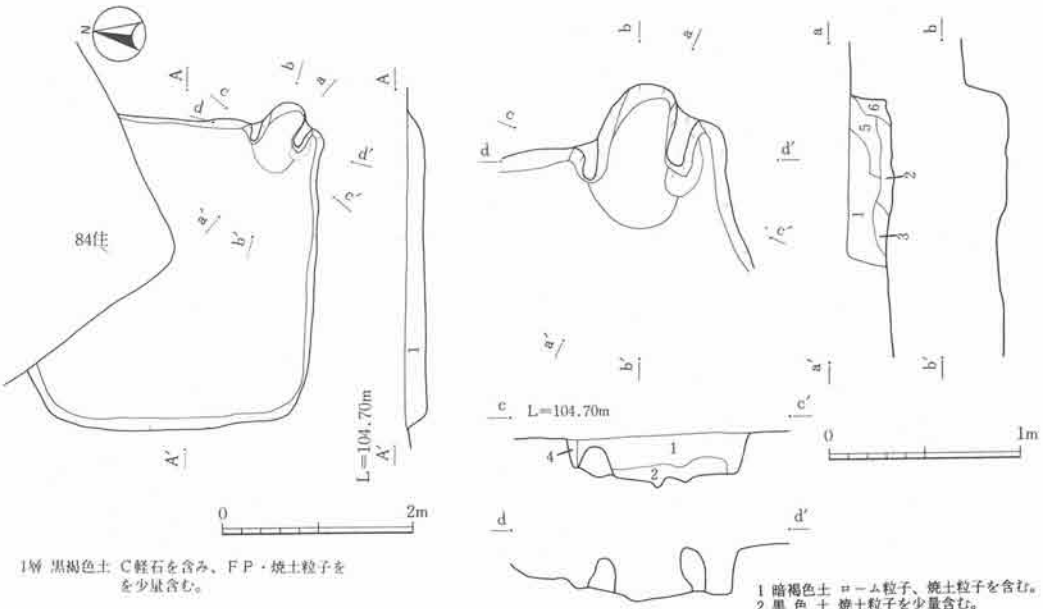
カマド　東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは80cmである。

遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

第103図　84号住居址 出土遺物

表65　84号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	ほぼ完形	口径 12.5 器高 3.5	丸底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師坏	3/4	口径 12.2 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	床着
3	土師坏	3/4	口径 12.2 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
4	須恵蓋	一部欠	口径 14.1 器高 2.8	かえりを持たない。つまみやや小形。ロクロ整形。外面天井部中央回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	床着



第104図　85号住居址

85号住居址　（第104図　図版11－6）

本址は調査区南側X142・143，Y111グリッドで検出された。84号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN－107°－Eである。規模は東西3.3mで方形を呈すると思われる。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めはやや認められる。

ピット・壁溝等は検出されなかった。

カマド　南東側隅角に位置する。袖は灰褐色粘土で構築されている。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。

遺物はほとんど出土していない。

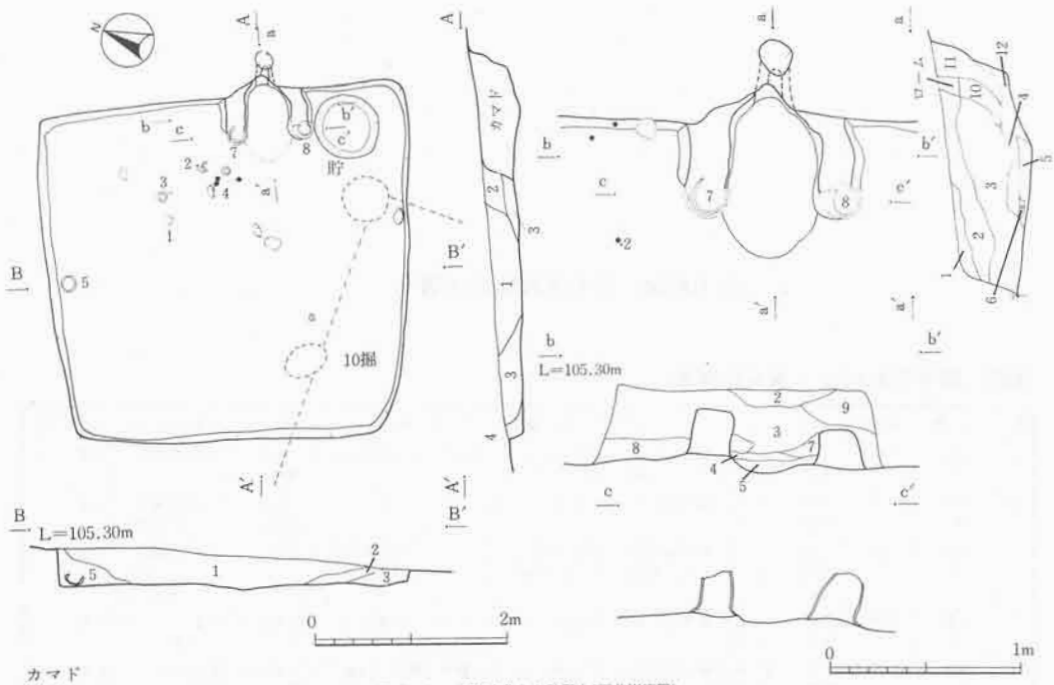
86号住居址　（第105・106図　図版11－7・22　表66）

本址は調査区南西側X140・141，Y105・106グリッドで検出された。10号掘立柱建物址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN－66°－Eである。規模は長軸3.8m、短軸3.6mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯蔵穴がある。壁溝は検出されなかった。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は灰褐色粘土で構築され、先端部には長胴甕が利用されている。天井部は地山のローム一部残っている。壁外への掘り込みは30cmである。

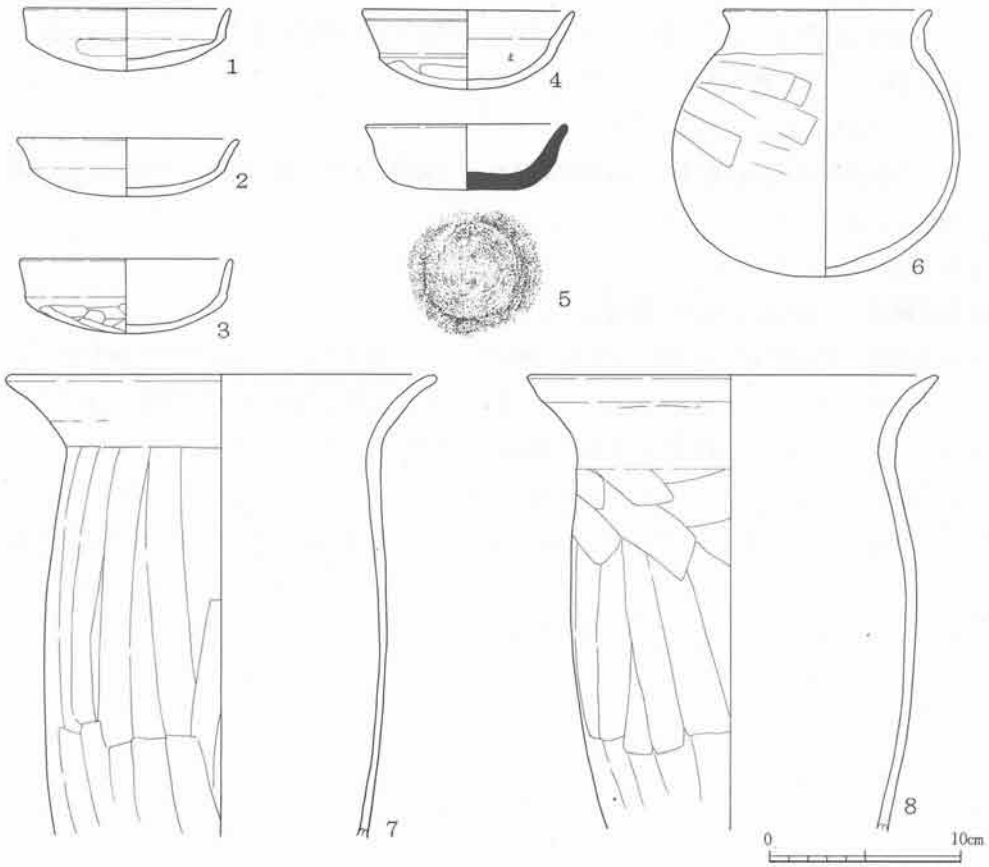
遺物はカマド及びその周辺からやや多く出土している。



カマド
1 暗褐色土　ローム粒子を含む。
2 褐　色　土　ローム粒子を多く含む。
3 暗褐色土　ローム粒子及び焼土粒子を少量含む。
4 赤褐色土　焼土層（天井崩壊層）。
5 褐　色　土　ローム粒子と焼土粒子を含む。
6 黒　色　土
7 褐　色　土　一部焼土化した粘質土（天井崩壊層）。
8 黒褐色土　ロームブロック（5～10mm）を含む。
9 灰褐色土　ローム粒子を含む。
10 褐　色　土　ローム粒子。焼土粒子を多く含む。
11 褐　色　土　焼土粒子をやや多く含む。
12 灰褐色土　灰を多く含み。焼土粒子を少量含む。

1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。
2層　暗褐色土　1層に焼土粒子と炭化物少量含む。
3層　黒　色　土　ロームブロック（10mm）を含む。
4層　暗褐色土　ローム粒子をやや多く含む。
5層　灰褐色土　ローム粒子を少量含む。

第105図　86号住居址



第106図　86号住居址出土遺物

表66　86号住居址出土遺物観察表

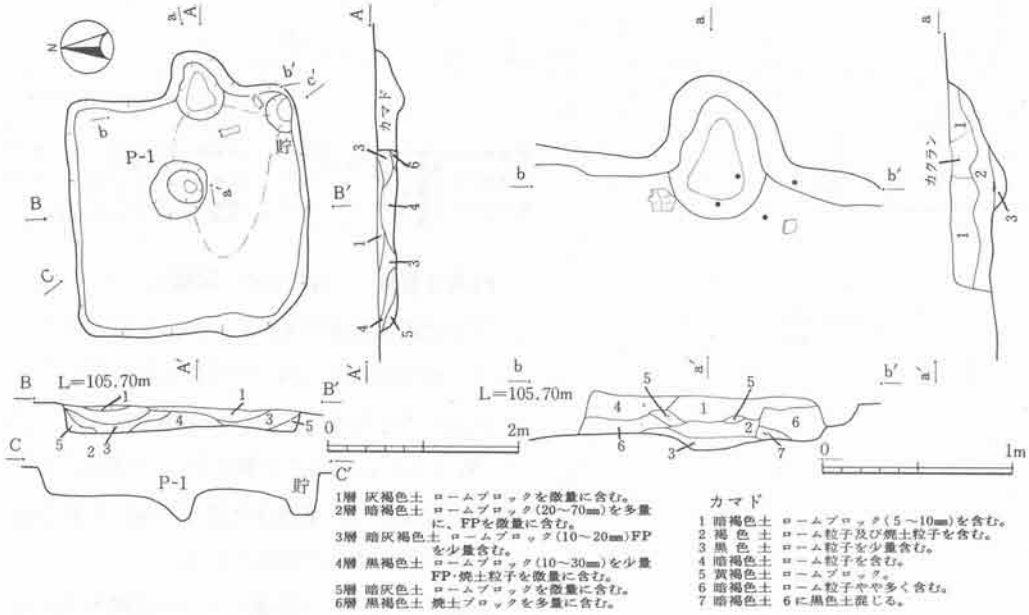
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	完形	口径 10.8 器高 3.3	口縁部稜を持ち、直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師 坏	完形	口径 11.5 器高 3.1	口縁部稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色。外面黒斑	床着
3	土師 坏	完形	口径 11.1 器高 4.0	口縁部稜を持ち、直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反ぎみになる。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色。内・外面黒斑あり。	床面
4	土師 坏	完形	口径 11.1 器高 4.2	口縁部稜を持ち、外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	にぶい褐色	床着
5	須恵 坏	ほぼ完形	口径 10.6 器高 4.5	口縁部外反する。器肉厚い。ロクロ整形。底部、回転ヘラ切り。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着
6	土師 小形甕	完形	口径 10.8 器高 14.2	胴部球形を呈する。底部丸底。外面横方向のヘラ削り。底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	赤褐色	床着
7	土師 長胴甕	底部欠	口径 22.8 残存高 24.5	口縁部強く外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母を含む	良好	橙褐色	カマド袖材
8	土師 長胴甕	底部欠	口径 21.7 残存高 24.2	口縁部外反する。外面胴上部横方向の、他は縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を多く含む	良好	橙褐色	カマド袖材

87号住居址　（第107図　図版11－8）

本址は調査区南西側X138，Y102グリッドで検出された。主軸方向はN－81°－Eである。規模は長軸2.6m、短軸2.5mでほぼ正方形を呈する。壁高は30cm。床面はカマド付近は良く踏み固められている。他はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央にピット1基が検出されている。壁溝はない。

カマド　東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは40cm。遺物は覆土中・床着共にほとんど出土していない。



第107図　87号住居址

88号住居址　（第108図　図版10－1　表67）

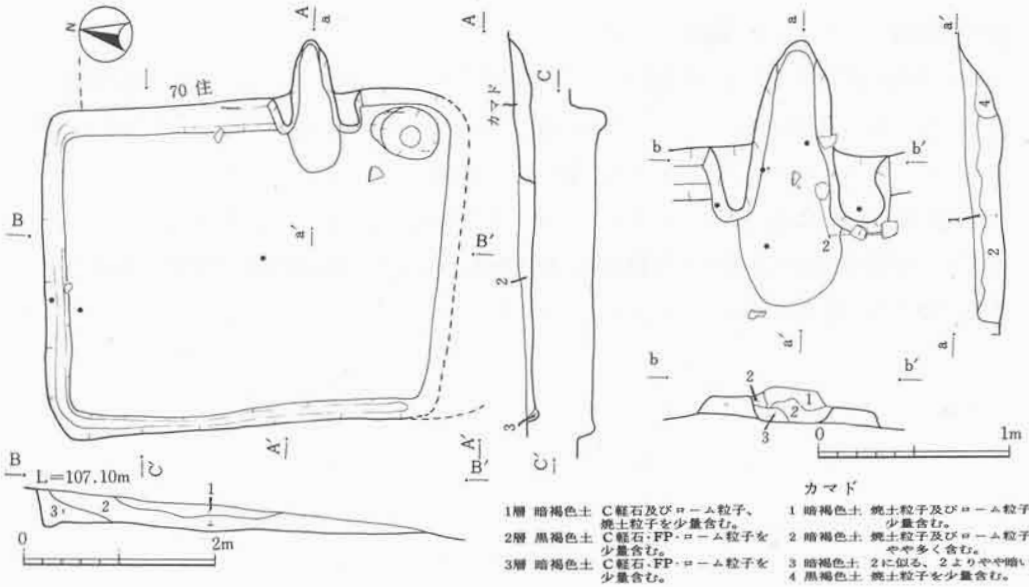
本址は調外区南側X147・148，Y105・106グリッドで検出された。70号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN－85°－Eである。規模は長軸4.4m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は北側で35cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

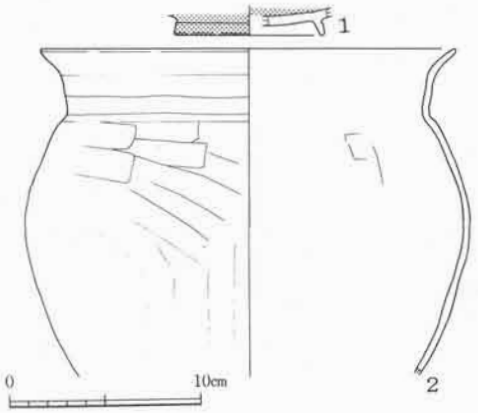
南東側壁際には貯蔵穴がある。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回ると思われるが、南側は斜面のため不明である。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cm。遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

表67　88号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	灰釉陶器 坏	底部 1/3	残存高 1.0 底径 8.0	高台付。皿の可能性あり。底部回転糸切り後、付高台釉は漬け掛け。	緻密	良好	灰白色	床着
2	土師 甕	1/4	口径 22.0 残存高 17.5	口縁部「コ」の字状を呈する。外面肩部横方向の、胴部斜、縦方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、口縁部指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	カマド





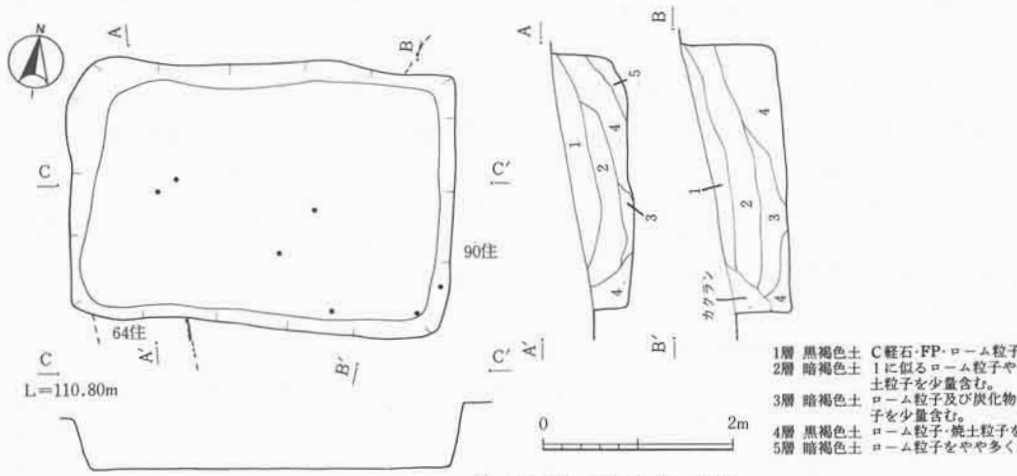
第108図　88号住居址・出土遺物

89号住居址　（第109図　図版12－1）

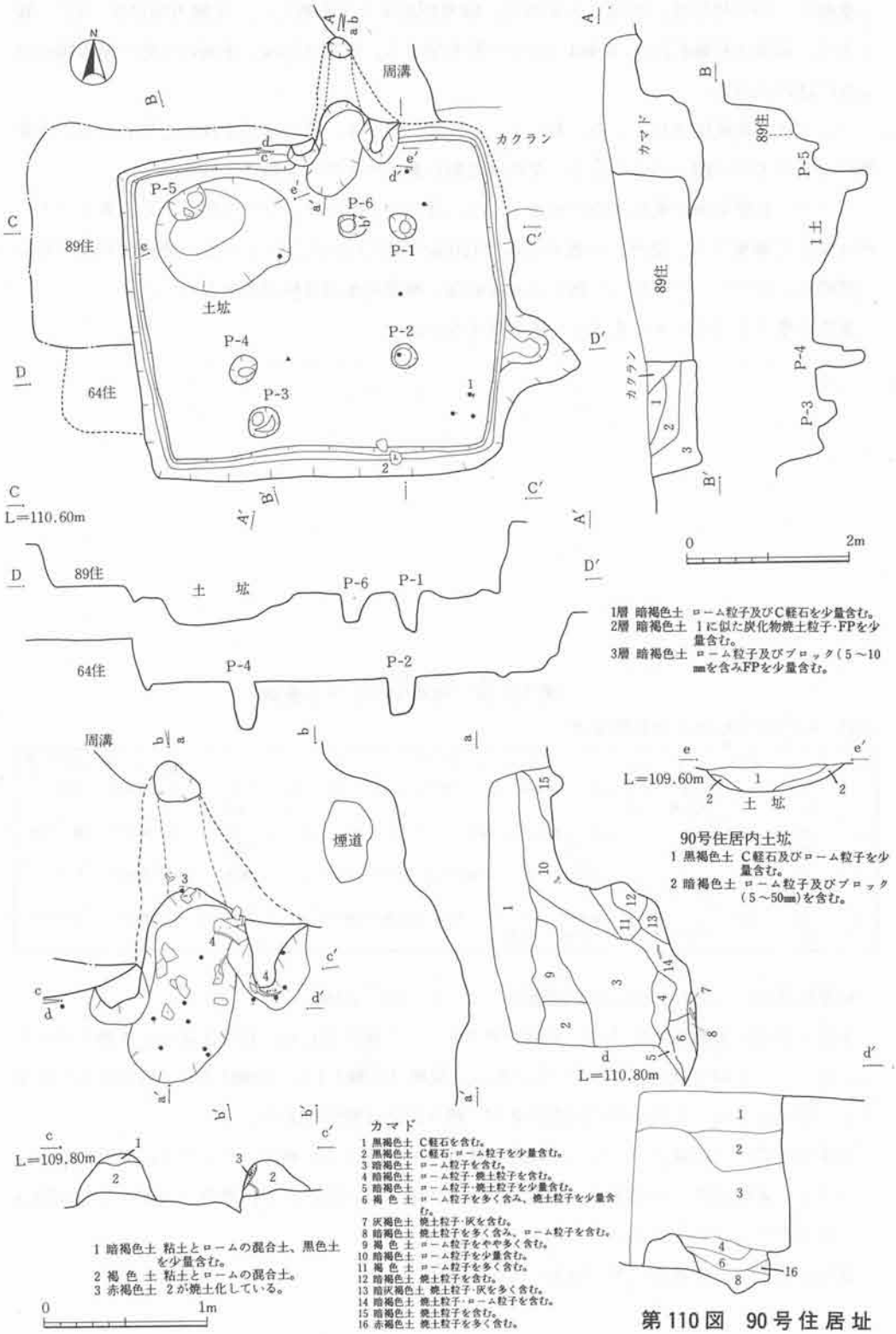
本址は調査区東側X155・156，Y97・98グリッドで検出された。64・90号住居址と重複し、いずれも本址の方が新しい。主軸方向はN－12°－Wである。規模は長軸4.2ｍ、短軸2.7ｍで長方形を呈する。壁高は北側で70㎝。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

貯蔵穴・ピット・壁溝・カマドは検出されなかった。

遺物は少量出土している。



第109図　89号住居址



第110図 90号住居址

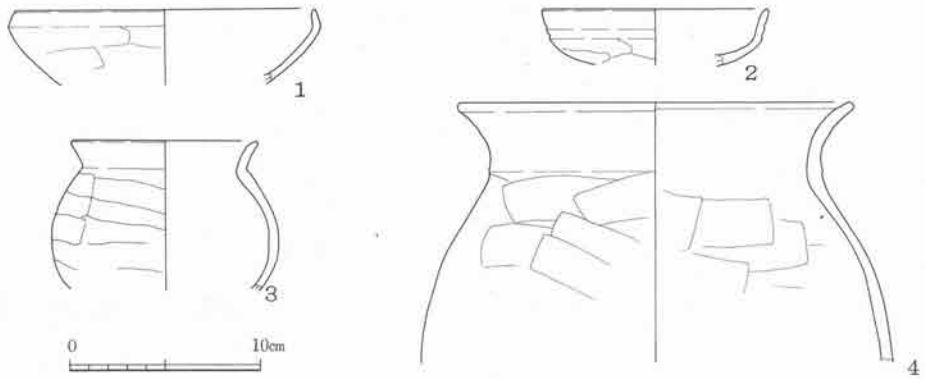
90号住居址　(第110・111図　図版12－1　表68)

本址は調査区東側X156・157，Y97・98グリッドで検出された。64・89号住居址、古墳周溝と重複し、89号住居址、周溝よりも古く、64号住居址よりも新しい。主軸方向はN－12°－Wである。規模は長軸4.7m、短軸4.3mで方形を呈する。壁高は70cm。床面は平坦で踏み固めは全体に認められる。

ピットは6基検出されている。P－1，P－3，P－4，P－6が主柱穴と思われる。北東側にはやや大形の掘り込みがある。壁高は北側の新カマド付近を除いて回る。

カマド　北壁中央と東壁南側で検出された。北側のものが新カマドと思われる。新カマドの袖は粘土で構築され、壁外への掘り込みは120cmでなだらかに立ち上がる。煙道部分は天井が一部残る。旧カマドの壁外への掘り込みは60cm。袖等の施設は検出されなかった。

遺物は覆土中にやや多く集まり、床着は少ない。



第111図　90号住居址出土遺物

表68　90号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師 坏	1/5	口径 16.0 残存高 3.0	丸底。口縁部稜を有し、内傾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
2	土師 坏	1/5	口径 12.0 残存高 3.0	丸底。口縁部2段の稜を有し、やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土下層
3	土師 小形甕	1/3	口径 9.8 残存高 8.0	口縁部外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	橙褐色	新カマド
4	土師 甕	口縁部 1/3	口径 21.0 残存高 13.8	口縁部外反する。球形の胴部、外面胴上部横方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、ナデ。	石粒を多く含む。	良好	褐色	新カマド

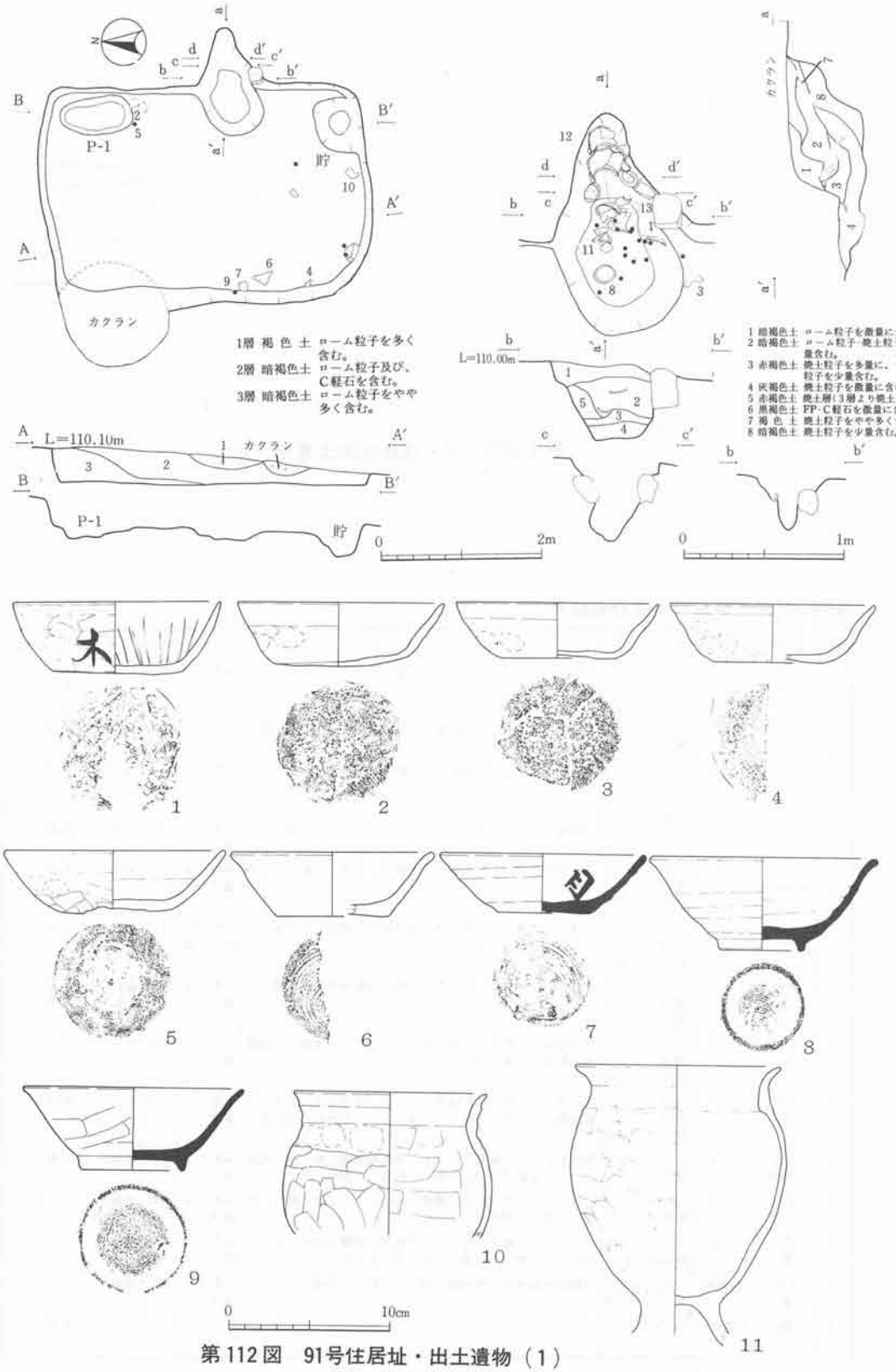
91号住居址　(第112・113図　図版12－2・22・23　表69)

本址は調査区東側X153・154，Y98・99グリッドで検出された。43号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN－86°－Eである。規模は長軸4.1m、短軸2.8mで横長長方形を呈する。壁高は35cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

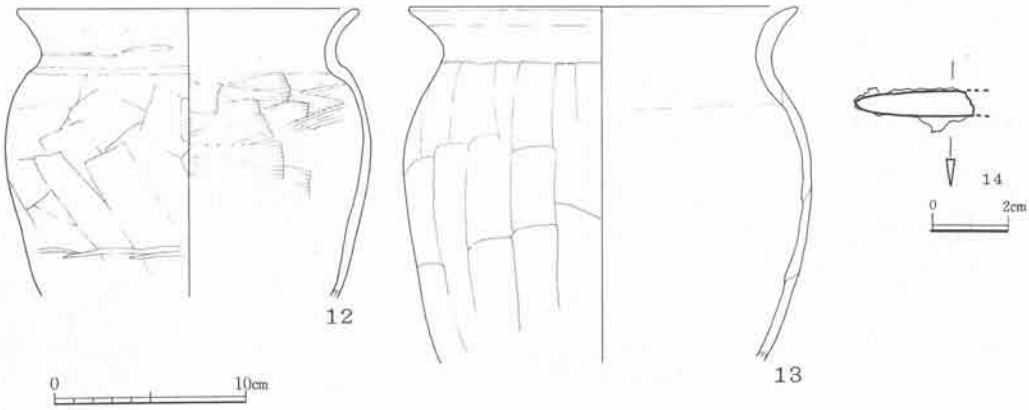
南東外壁際には貯蔵穴があり、他に浅い皿状のピット1基が検出されている。壁溝はない。

カマド　東壁中央に位置する。石組のカマドであったと思われる。壁外への掘り込みは70cmで、段を有して立ち上がる。

遺物は覆土中、床着共に多く出土している。



第112図　91号住居址・出土遺物（1）



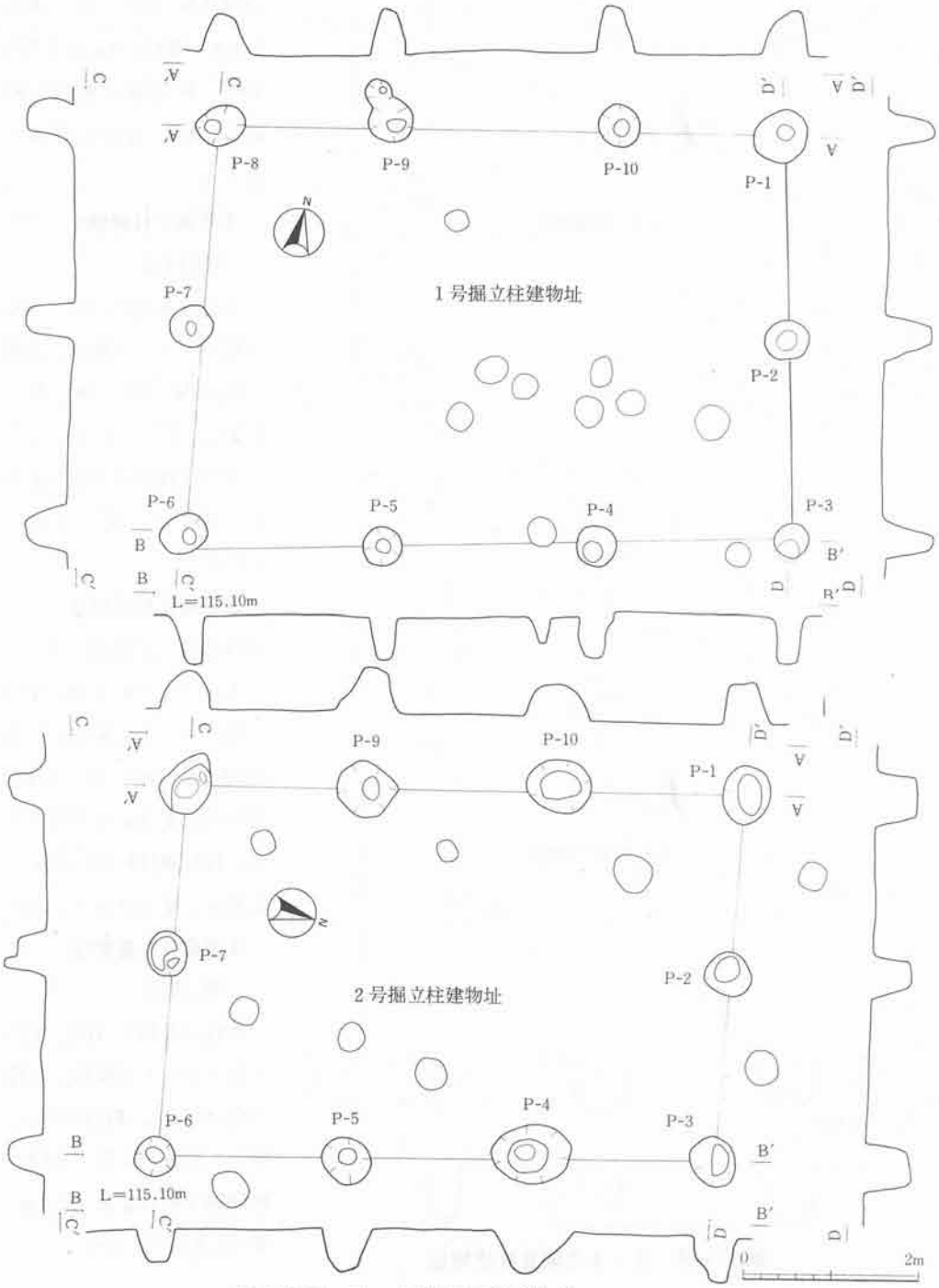
第113図　91号住居址出土遺物（2）

表69　91号住居址出土遺物観察表

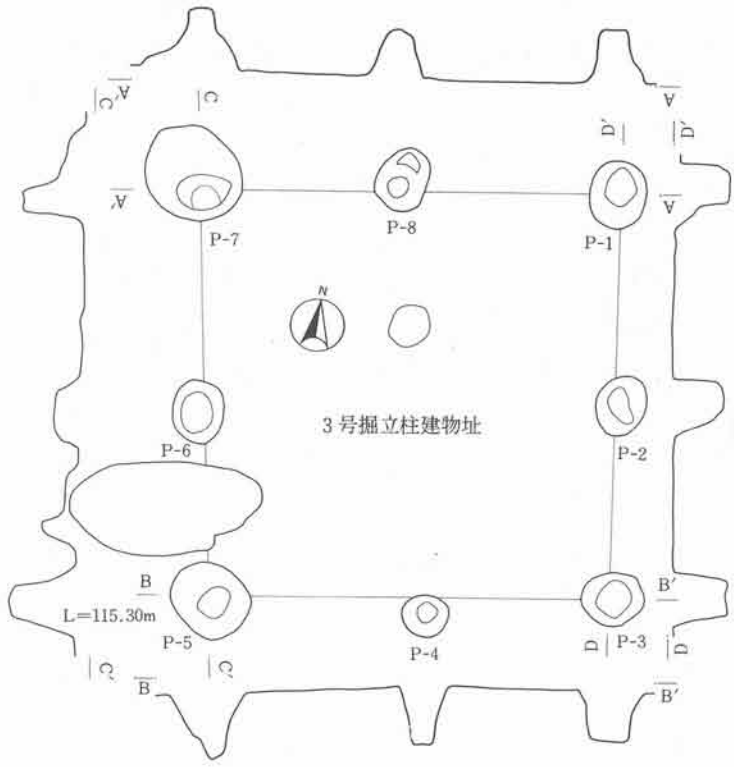
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 13.1 器高 4.5 底径 8.2	口縁部外反する。外面底部ヘラ削り。外面ヘラ削り。内面暗文状のミガキ、ナデ。	砂粒を含む。	良好	赤褐色	カマド 墨書
2	土師坏	4/5	口径 13.0 器高 4.0	口縁部外反する。外面底怖ヘラ削り。外面ナデ、指圧痕。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	橙褐色		床着
3	土師坏	2/3	口径 12.8 器高 3.5 底径 7.2	口縁部外反する。外面底部ヘラ削り。外面ナデ、指圧痕。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	カマド
4	土師坏	1/3	口径 13.0 器高 3.7	口縁部外反する。外面底部ヘラ削り。指圧痕。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
5	土師坏	2/2	口径 13.7 器高 3.7 底径 7.3	口縁部外反する。外面底部ヘラ削り。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	床着
6	土師坏	1/3	口径 12.4 器高 4.1 底径 6.8	口縁部外反する。外面底部回転糸切り未調整。内外面ナデ。	砂粒・石粒を少量含む。	良好	褐色	床着
7	須恵坏		口径 12.7 器高 3.7 底径 6.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	石粒を少量含む。	良好	灰色	床着 墨書
8	須恵埦	完形	口径 14.0 器高 5.9 底径 5.4	高台部短かく直立。口縁部外反する。ロクロ整形。外面底部回転糸切り後付高台。	石粒を少量含む。	良好	灰色	カマド
9	須恵埦	2/3	口径 13.6 器高 5.2 底径 6.4	高台部短かく直立。口縁部外反する。外面底部回転糸切り後付高台。外面ヘラ削り。内面ナデ、赤色塗料一部付着。	砂粒を少量含む。	良好	灰白色	床着
10	土師小形甕	1/4	口径 12.0 残存高 9.0	頸部しまり、口縁部外反する。外面頸部指圧痕。胴上部横方向。中部縦方向のヘラ削り。内面ヘラ調整、ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	床着
11	土師台付甕	3/4	口径 13.0 残存高 17.5	口縁部短かく外反する。脚部短かく「ハ」の字状に開く。外面ヘラ削り。脚部ナド。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
12	土師甕	1/4	口径 18.2 残存高 15.3	肩がはり、口縁部外反する。外面胴上部横方向の、中部斜方向のヘラ削り。内面小口状工具によるケズリ、ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
13	土師甕	底部欠	口径 20.6 残存高 18.9	口縁部外反する。外面縦方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	カマド
14	鉄製品刀子	先端部のみ	残存長 3.2	刃先のみ				床着

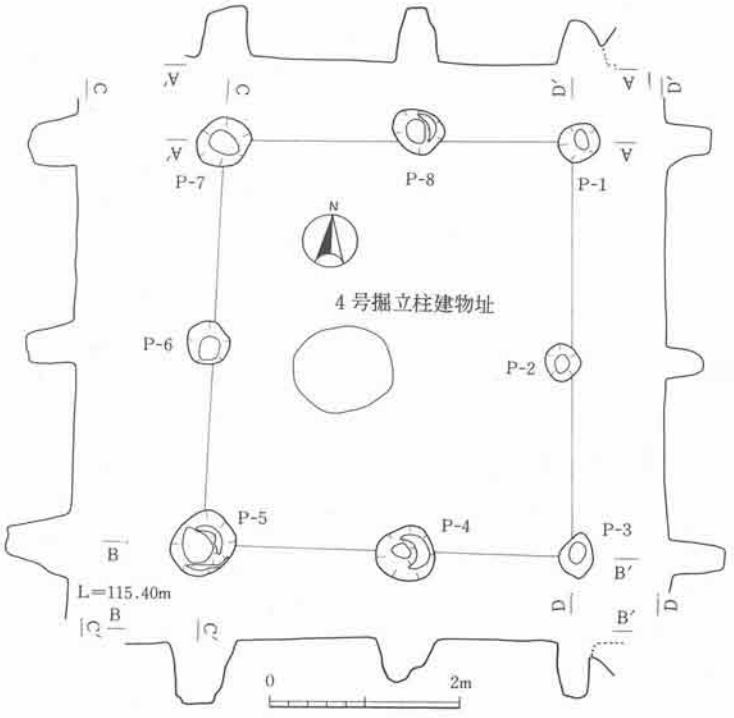
第2項　掘立建物址

13棟が検出されている。1号と2号、3号と4号、5号と8号は互いに近接し、同一時期の建物址の可能性が強い。



第114図　1・2号掘立柱建物址





第115図　3・4号掘立柱建物址

1号掘立柱建物址

（第114図　**図版**　12－3）

本址はX150・151，Y64・65グリッドで検出。長軸方向はN－85°－E。桁行6.8m、梁行4.8mの3間×2間。柱間隔は桁行1.85m～2.4m、梁行2.25m～2.55m。

2号掘立柱建物址

（第114図）

本址はX150・151，Y66・67グリッドで検出。長軸方向はN－16°－W。桁行6.4m、梁行4.25mの3間×2間。柱間隔は桁行2.15m～2.2m、梁行2m～2.25m。

3号掘立柱建物址

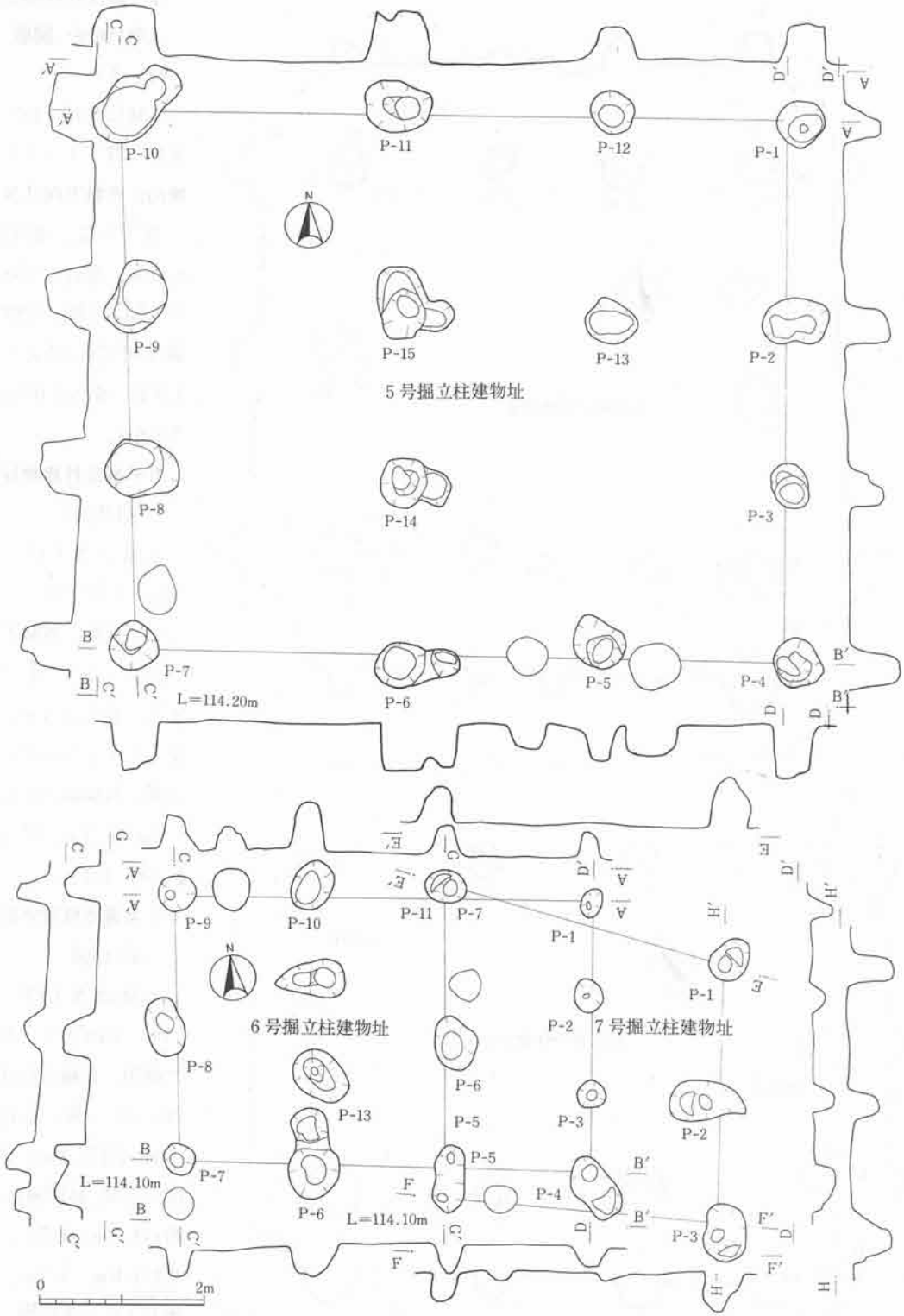
（第115図　**図版**12－4）

本址はX158・159，Y71・72グリッドで検出。長軸方向はN－10°－W。桁行、梁行共に4.3mの2間×2間。柱間隔は桁行1.85m～2.35m、梁行2m～2.2m。

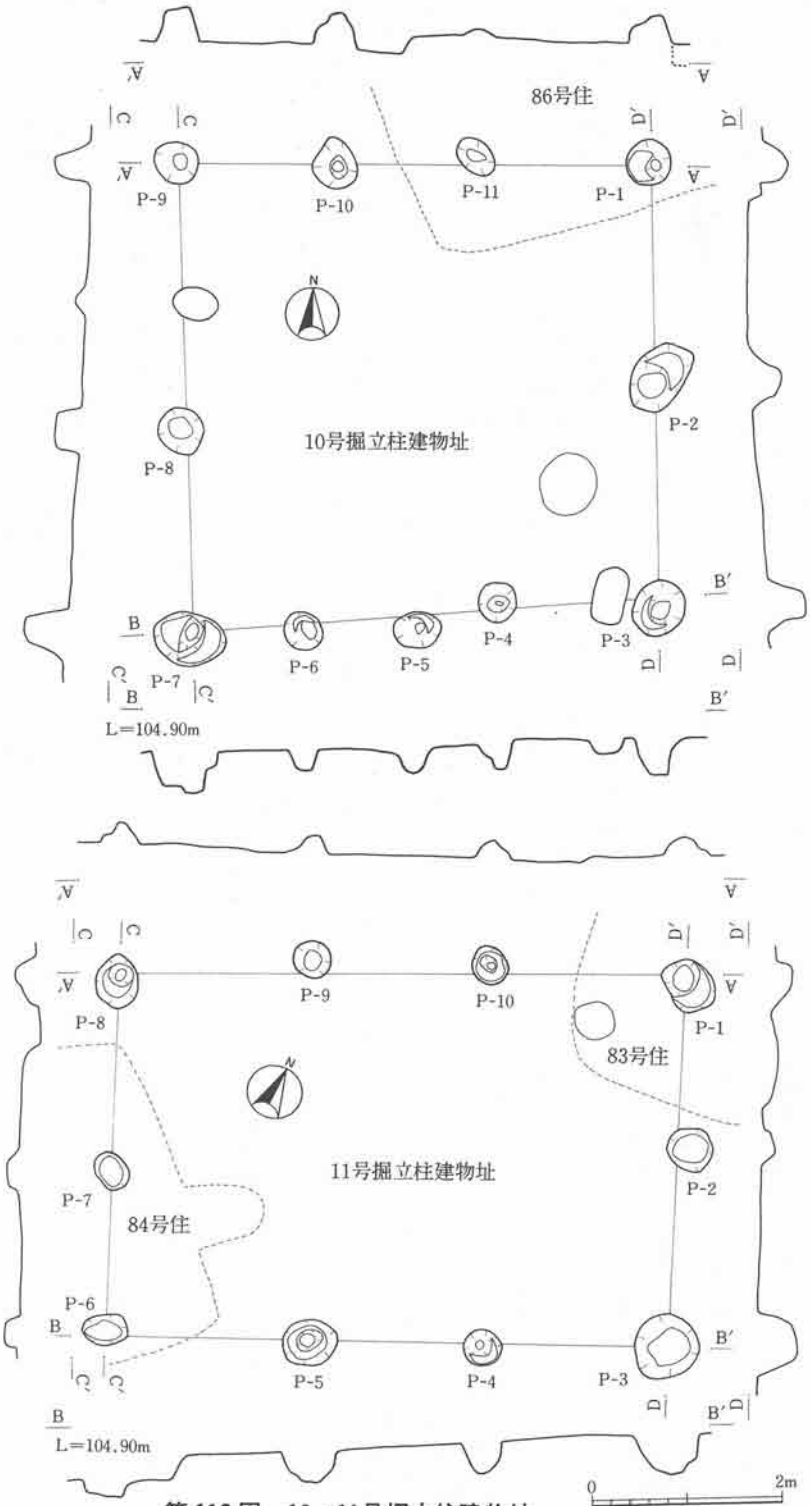
4号掘立柱建物址

（第115図）

本址はX159・160，Y73・74グリッドで検出。長軸方向はN0°。桁行4.35m、梁行3.85mの2間×2間。柱間隔は桁行2m～2.3m、梁行1.8m～2.15m。



第116図　5・6・7号掘立柱建物址



第118図　10・11号掘立柱建物址

5号掘立柱建物址

（第116図　図版12－5）

本址はX45～147，Y76・77グリットで検出。長軸方向はN－5°－E。桁行8.05m、梁行6.55mの3間×3間。柱間隔は桁行2.25m～3.3m、梁行2.05m～2.5m。

6号掘立柱建物址

（第116図）

本址はX148・149，Y79・80グリッドで検出。長軸方向はN－8°－Eである。桁行3.5m、梁行3.4mの3間×2間。柱間隔は桁行1.5m～1.7m、梁行1.2m～1.7m。

7号掘立柱建物址

（第116図）

本址はX147・149，Y79グリッドで検出。長軸方向はN－82°－W。桁行5m、梁行3.3mの2間×2間。柱間隔は桁行1.5m～1.7m、梁行1.0m～1.7m。掘り方には炭化物、焼土が検出された。

8号掘立柱建物址

(第117図 図版12−6)

本址はX145・146，Y78・79グリッドで検出。長軸方向はN−0°。桁行5.55m、梁行4.55mの2間×2間。柱間隔は桁行2.75〜2.9m、梁行2.2m〜2.35m。

9号掘立柱建物址

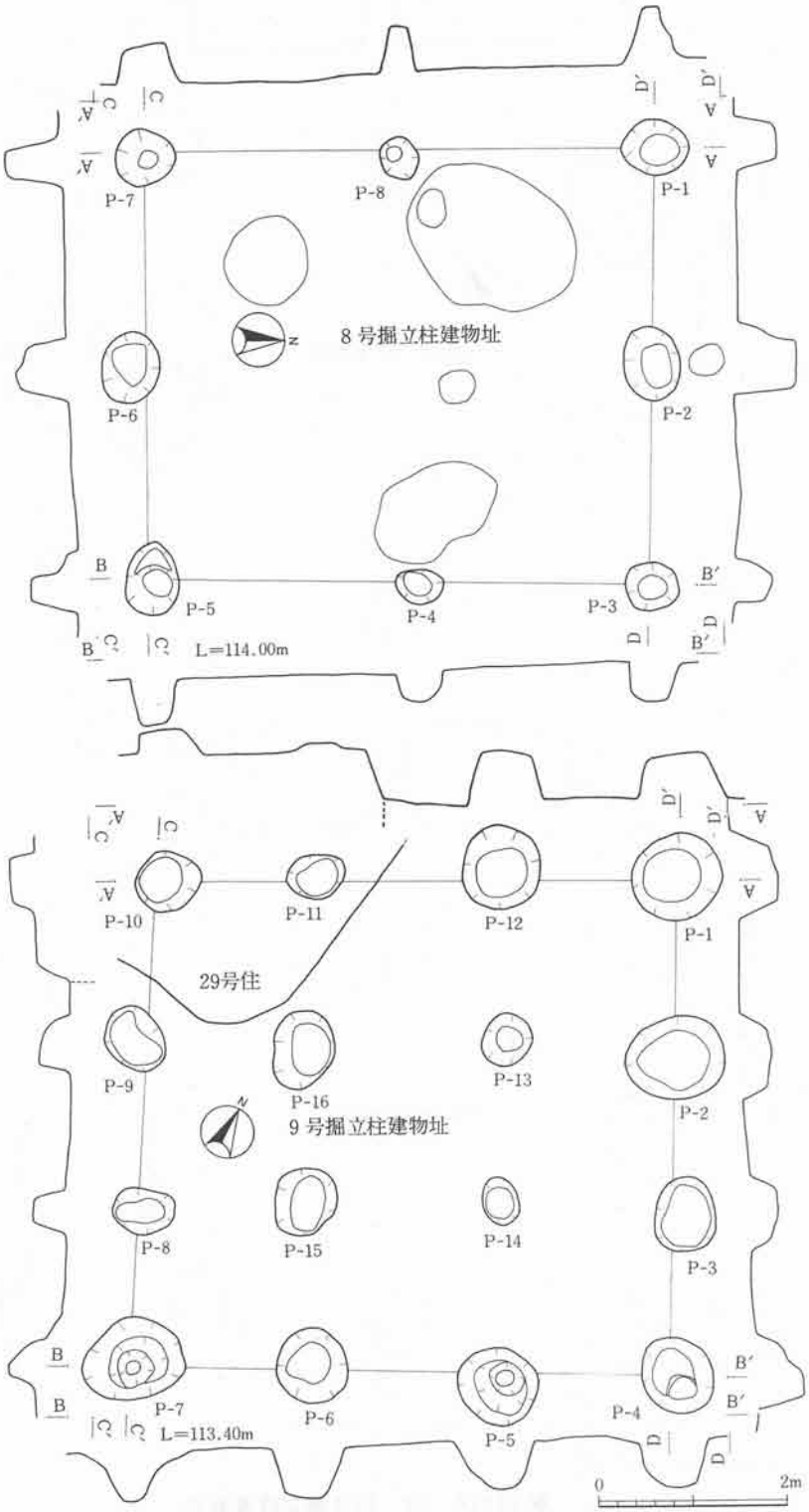
(第117図 図版12−7)

本址はX155〜157，Y85〜87グリッドで検出。長軸方向はN−70°−E。桁行5.65m、梁行5.25mの3間×3間の総柱である。西側で29号住居址と重複し、本址の方が古い。柱間隔は桁行1.15m〜2.05m、梁行1.7m〜1.8m。

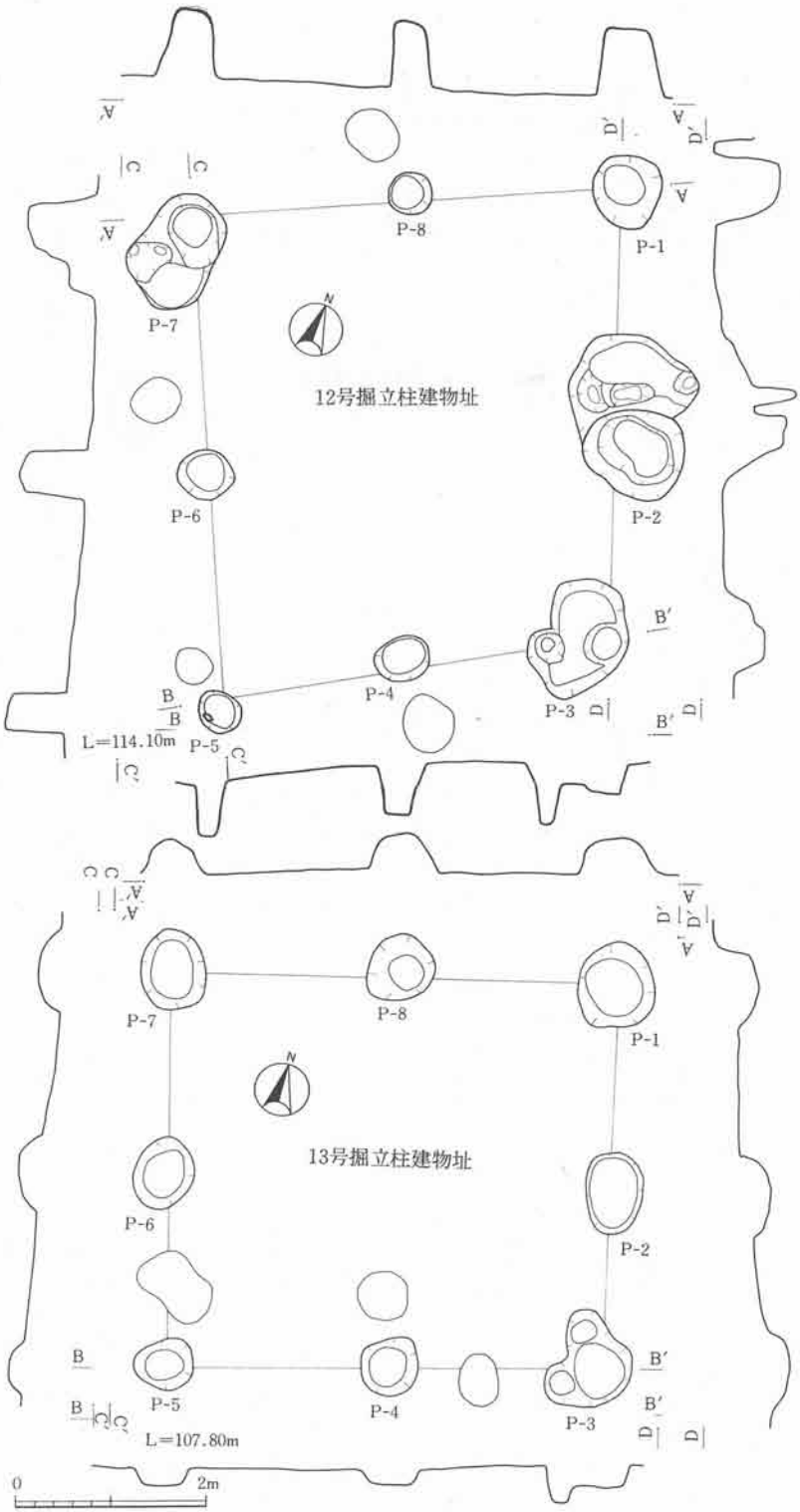
10号掘立柱建物址

(第118図 図版12−8)

本址はX139・140，Y105〜107グリッドで検出。長軸方向はN−87°−E。桁行5m、梁行4.80mの2間×3間。柱間隔は桁行1.2m〜2.0m、梁行2.2m〜2.3m。



第117図 8・9号掘立柱建物址



第119図　12・13号掘立柱建物址

11号掘立柱建物址

（118図）

本址はX148・149，Y109～111グリッドで検出。83・84号住居址と重複し、本址の方が新しい。長軸方向はN－68°－E。桁行6m、梁行3.9mの4間×3間。柱間隔は桁行1.9m～2.15m、梁行1.65m～2.2m。

12号掘立柱建物址

（第119図）

本址はX154・155，Y82～84グリッドで検出。長軸方向はN－30°－W。桁行5m、梁行4.3mの2間×2間。柱間隔は桁行1.85m～2.9m、梁行1.9m～2.2m。

13号掘立柱建物址

（第119図）

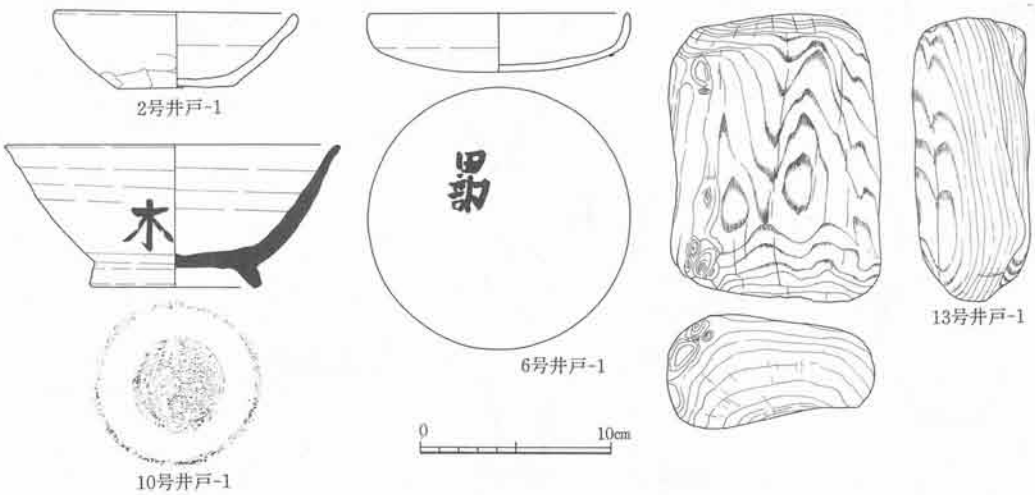
本址はX153・154，Y104グリッドで検出。長軸方向はN－76°－E。桁行5.3m、梁行4.9mの2間×2間。柱間隔は桁行2m～2.2m、梁行2.2m～2.3m。

第3項　井　　戸（第120・121・135図　図版13－1～6・24　表70・71）

12基検出されている。1・2・13号井戸以外は南側の湧水地区に集まる。

表70　井戸一覧表

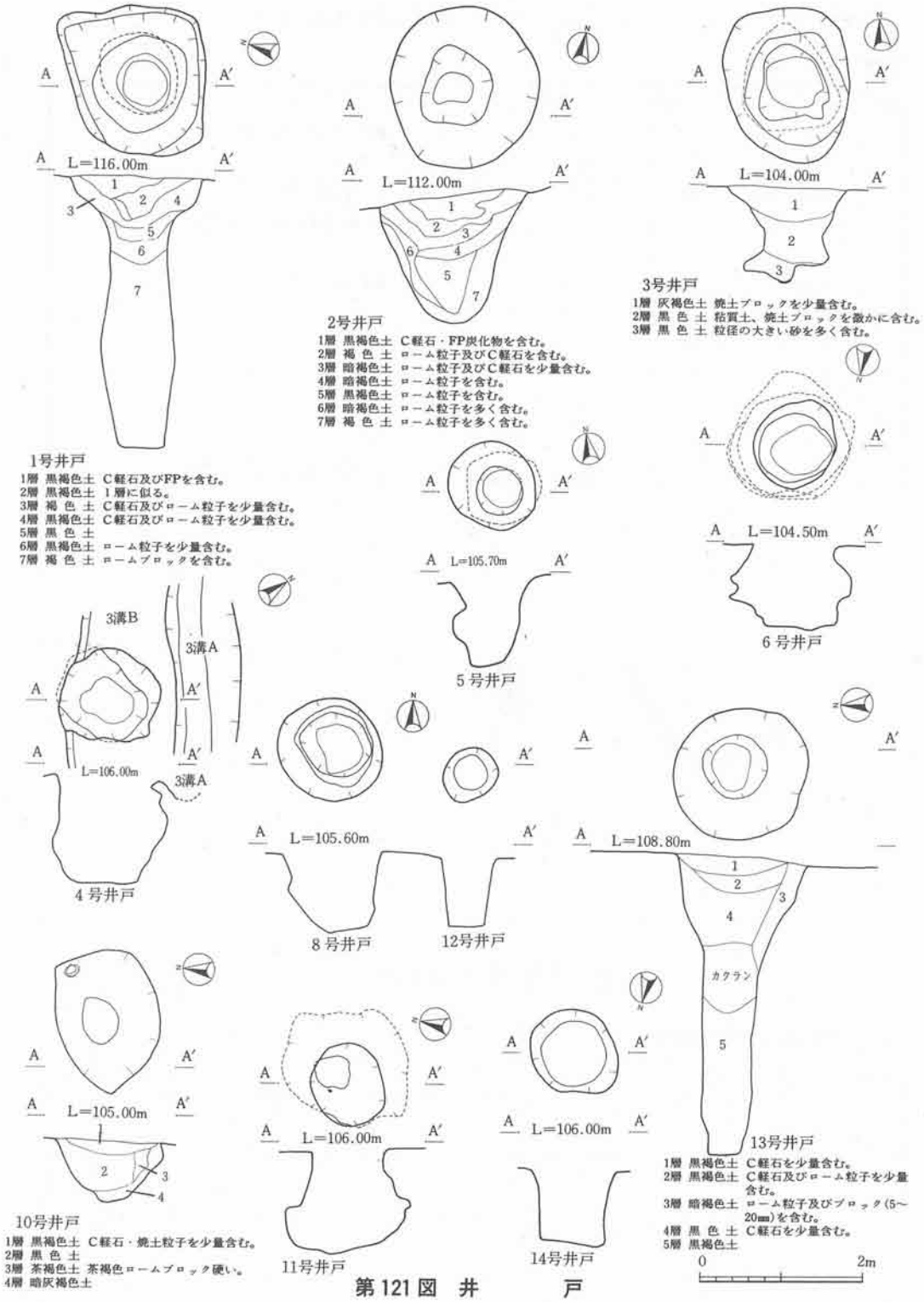
番号	検出グリッド	平面形	規模(m) 長軸	短軸	深さ(cm)	備考
1	X155、Y 66	円形	1.2	1.2	3.3	調査区北東側、単独で検出。
2	X135、Y 77	円形	2.0	1.8	1.6	
3	X143、Y112	楕円形	2.0	1.5	1.1	木片(井戸枠)出土。
4	X147、Y106	円形	1.2	1.3	1.3	3号溝と重複し本井戸の方が古い。
5	X154、Y109	円形	1.1	1.1	1.2	
6	X142、Y110	楕円形	1.4	1.6	1.0	墨書土器出土。
8	X153、Y109	円形	1.3	1.3	1.0	
10	X143、Y108	楕円形	1.3	1.8	0.7	木片出土。
11	X142、Y111	円形	1.6	1.5	1.2	
12	X154、Y109	円形	0.7	0.7	0.9	
13	X141、Y 98	楕円形	1.2	1.7	3.7	木器出土。
14	X145、Y106	円形	1.1	1.0	0.9	79号住居址の貼り床の下から検出。



第120図　井戸出土遺物

表71　井戸出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
2号井戸1	土師坏	4/5	口径 12.6 器高 4.0 底径 6.1	口縁部外反し、口唇部肥厚する。外面底部ヘラ削り。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土
6号井戸1	土師坏	1/3	口径 13.7 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	橙褐色	覆土中 墨書
10号井戸1	須恵椀	ほぼ完形	口径 17.6 器高 7.5 底径 9.2	高台部ハの字状に開く。口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後付高台。	石粒を少量含む。	良好	灰白石	覆土 墨書
13号井戸1	木製品不明	完形	長さ 29.0 幅 12.3	枕状。表面はなめらかである。	クリの木			底部出土


A
A′
L=116.00m
1
2
3
4
5
6
7
1号井戸
1層 黒褐色土 C軽石及びFPを含む。
2層 黒褐色土 1層に似る。
3層 褐 色 土 C軽石及びローム粒子を少量含む。
4層 黒褐色土 C軽石及びローム粒子を少量含む。
5層 黒 色 土
6層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
7層 褐 色 土 ロームブロックを含む。
L=112.00m
2号井戸
1層 黒褐色土 C軽石・FP炭化物を含む。
2層 褐 色 土 ローム粒子及びC軽石を含む。
3層 暗褐色土 ローム粒子及びC軽石を少量含む。
4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。
5層 黒褐色土 ローム粒子を含む。
6層 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
7層 褐 色 土 ローム粒子を多く含む。
L=104.00m
3号井戸
1層 灰褐色土 焼土ブロックを少量含む。
2層 黒 色 土 粘質土、焼土ブロックを微かに含む。
3層 黒 色 土 粒径の大きい砂を多く含む。
L=105.70m
5号井戸
L=104.50m
6号井戸
3溝B
3溝A
L=106.00m
4号井戸
L=105.60m
8号井戸
12号井戸
L=108.80m
カクラン
13号井戸
1層 黒褐色土 C軽石を少量含む。
2層 黒褐色土 C軽石及びローム粒子を少量含む。
3層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(5〜20mm)を含む。
4層 黒 色 土 C軽石を少量含む。
5層 黒褐色土
L=105.00m
10号井戸
1層 黒褐色土 C軽石・焼土粒子を少量含む。
2層 黒 色 土
3層 茶褐色土 茶褐色ロームブロック硬い。
4層 暗灰褐色土
L=106.00m
11号井戸
L=106.00m
14号井戸
0
2m

第121図 井 戸

第4項　土　　坑（第122・123・134図　図版　13－7，8・15－1，2・24　表72～74）

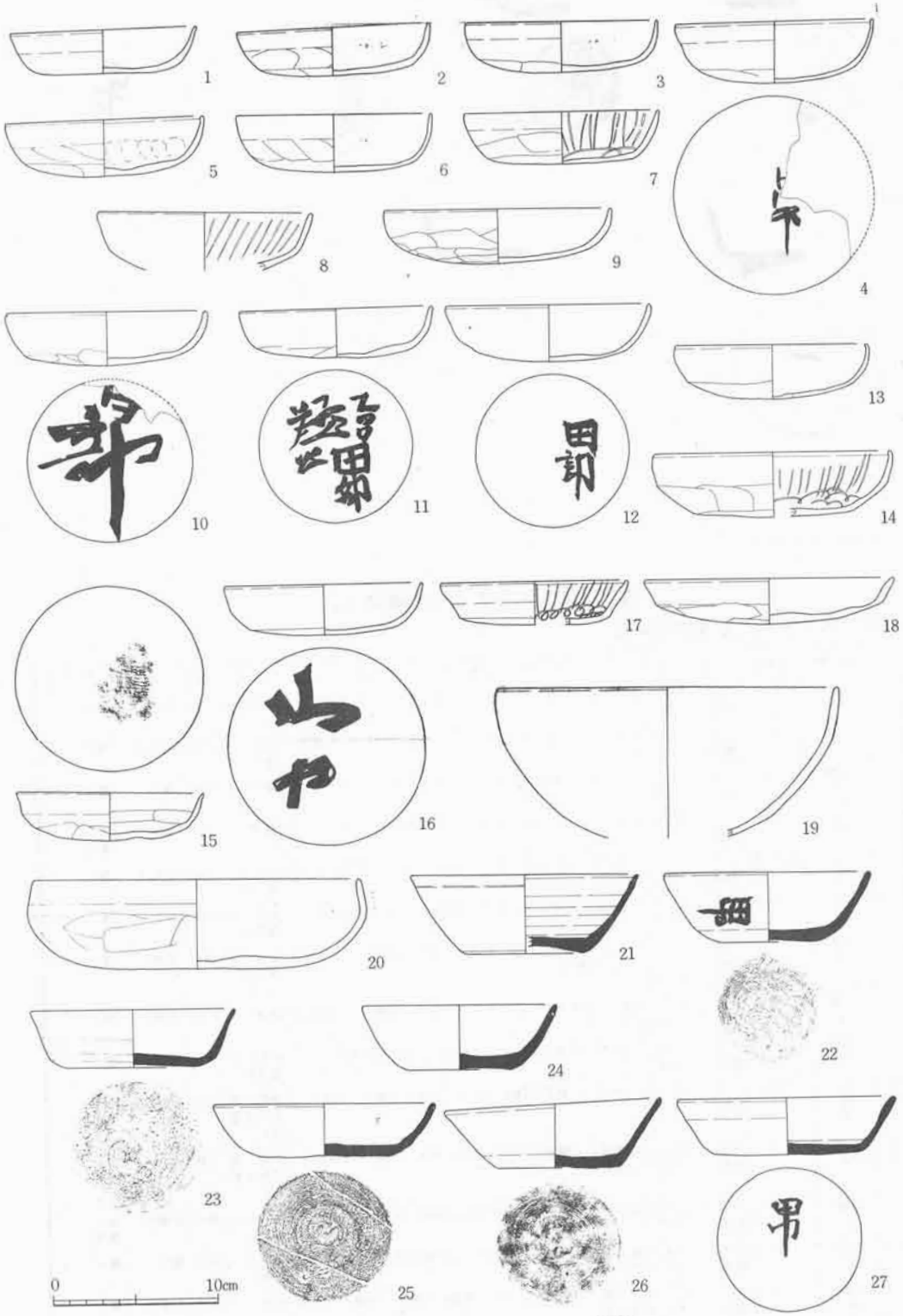
本遺跡で検出された古墳・歴史時代にかかわる土坑は76基である。ほとんどの土坑からは出土遺物もなく、時代不明のものが多い。

表72　古墳・歴史時代土壙一覧表（1）

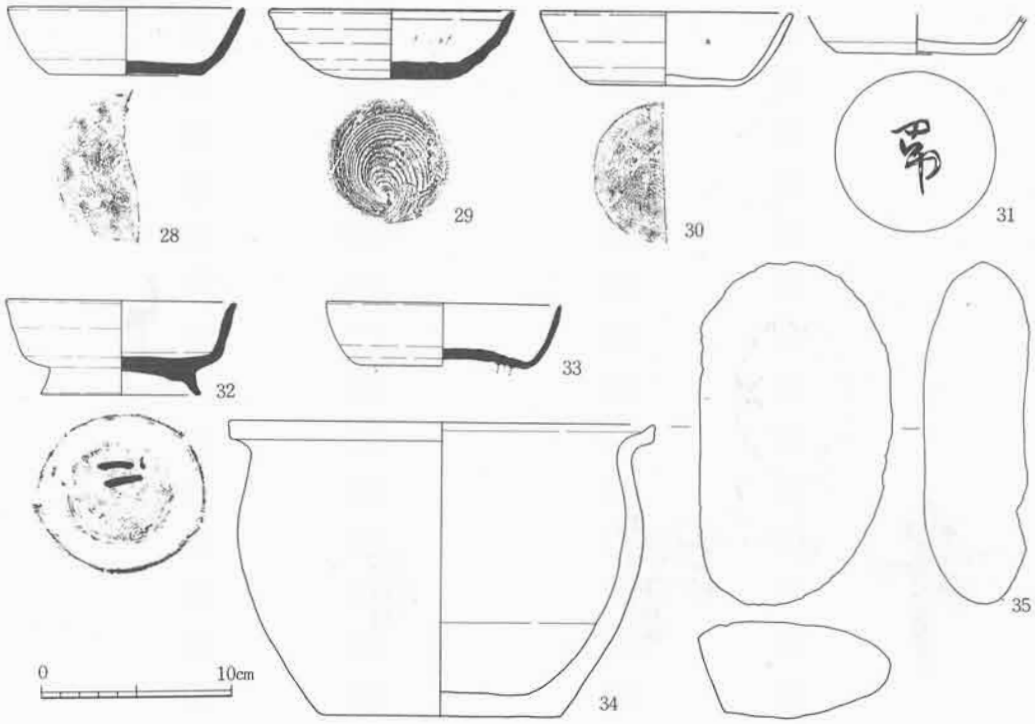
土坑番号	検出グリッド	主軸方向	平面形	規模（m）長軸 短軸	深さ（cm）	備　　考
1	x＝140　Y＝ 66	N－76°－E	不整形	1.32×1.00	28	炭化物出土。近現化の炭焼土壙
2	x＝158　Y＝ 63	N－45°－W	楕円形	1.35×0.85	43	X＝159　Y＝63にまたがる。ピット1個有す。
3	x＝159　Y＝ 63	N－50°－W	楕円形	0.82×0.65	37	
4	x＝159　Y＝ 63	N－26°－W	楕円形	1.40×0.43	30	ピット2個を有する。
5	x＝160　Y＝ 63	N－60°－E	瓢箪形	1.40×0.60	53	X＝160　Y＝64にまたがる。
6	x＝151　Y＝ 62	N－43°－E	不整形	0.95×0.61	41	X＝152　Y＝62にまたがる。
7	x＝150　Y＝ 63	N－49°－E	不整形	1.14×0.95	49	
8	x＝158　Y＝ 66	－	不整形	0.97×0.93	48	
10	x＝157　Y＝ 71	N－50°－W	楕円形	1.14×0.80	20	3号掘立と重複し本址の方が新しい。
11	x＝157　Y＝ 72	N－80°－E	不整形	1.95×1.00	18	
12	x＝159　Y＝ 74	－	円　形	1.11×1.00	26	
13	x＝150　Y＝ 70	N－10°－E	不整形	1.53×0.94	53	X＝150　Y＝71にまたがる。
14	x＝152　Y＝ 72	N－82°－W	楕円形	1.20×1.86	26	X＝153　Y＝72にまたがる。
15	x＝152　Y＝ 73	N－ 9°－W	楕円形	1.13×0.80	63	
16	x＝152　Y＝ 72	N－13°－E	楕円形	0.92×0.57	16	
17	x＝152　Y＝ 74	N－67°－W	不整形	2.05×1.66	43	X＝151　Y＝74にまたがる。
18	x＝142　Y＝ 75	N－26°－E	楕円形	0.94×0.86	15	X＝143　Y＝76にまたがる。
19	x＝142　Y＝ 78	N－21°－E	不整形	1.30×0.95	13	ピット2個を有す。
20	x＝144　Y＝ 77	N－36°－W	楕円形	1.06×0.88	38	
21	x＝145　Y＝ 78	N－32°－E	不整形	1.88×1.52	23	ピット1個を有す。
22	x＝145　Y＝ 78	－	円　形	0.98×0.94	23	
23	x＝146　Y＝ 78	N－36°－W	瓢箪形	1.40×0.78	19	
24	x＝149　Y＝ 78	N－79°－W	不整形	1.26×0.98	10	X＝148　Y＝78にまたがりピット3個を有す。
25	x＝151　Y＝ 77	N－ 5°－E	不整形	1.70×0.68	30	X＝151　Y＝78にまたがる。ピット2個有す。
26	x＝151　Y＝ 77	－	楕円形	0.94×0.79	8	
27	x＝152　Y＝ 77	N－22°－W	不整形	0.94×0.71	15	
28	x＝154　Y＝ 76	N－45°－E	不整形	1.43×1.26	50	X＝154　Y＝77にまたがる。ピット2個有す。
29	x＝154　Y＝ 78	N－23°－E	不整形	0.96×0.74	24	ピット2個を有す。
30	x＝155　Y＝ 78	－	円　形	0.93×0.84	20	
31	x＝156　Y＝ 75	－	不整形	1.20×0.90	26	ピット1個を有す。
32	x＝157　Y＝ 75	N－50°－W	楕円形	1.54×0.74	6	ピット1個を有す。
33	x＝157　Y＝ 76	N－56°－W	楕円形	2.46×1.21	10	ピット3個を有す。
34	x＝159　Y＝ 80	N－23°－E	不整形	0.80×0.41	27	
35	x＝140　Y＝ 82	N－66°－W	楕円形	1.24×0.97	74	
36	x＝148　Y＝ 82	N－42°－E	不整形	1.01×0.51	26	X＝148　Y＝83にまたがる。
37	x＝152　Y＝ 83	N－29°－E	不整形	1.67×0.97	24	

表73　古墳・歴史時代土壙一覧表（2）

土壙番号	検出グリッド	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸 短軸	深さ(cm)	備考
38	X=155 Y= 83	−	不整形	1.35×0.86	25	X=155 Y=84にまたがる。
39	X=160 Y= 80	N−90°−E	楕円形	0.80×0.77	40	
40	X=140 Y= 91	N−56°−E	不整形	1.17×1.13	16	X=139 Y=91にまたがる。
41	X=141 Y= 93	N−44°−E	楕円形	1.19×0.66	11	
42	X=148 Y= 94	N−37°−E	不整形	1.22×0.60	21	ピット1個を有す。 43号土坑と重複する。
43	X=148 Y= 94	N−90°−E	不整形	2.85×2.00	11	ピット3個を有す。 42号土坑より新しい。
44	X=140 Y= 84	N−76°−E	不整形	1.58×1.03	23	
45	X=139 Y= 85	N−85°−W	隅丸長方形	1.17×0.90	50	ピット1個を有す。
46	X=140 Y= 86	N−90°−E	不整形	0.77×0.94	25	X=140 Y=85にまたがる。
47	X=140 Y= 85	−	不整形	0.90×0.88	8	
48	X=141 Y= 85	N−60°−E	瓢箪形	0.95×0.48	36	
49	X=140 Y= 87	N−34°−W	楕円形	1.57×1.14	11	X=140 Y=88にまたがる。
50	X=143 Y= 85	N−73°−W	不整形	1.56×1.02	36	X=144 Y=85にまたがる。
51	X=148 Y= 85	N−26°−E	不整形	0.95×0.81	20	
52	X=148 Y= 94	N−60°−E	不整形	1.35×0.85	63	
53	X=154 Y= 86	N−90°−E	楕円形	0.85×0.77	21	
54	X=157 Y= 86	−	不整形	1.52×0.60	33	X=157 Y=85にまたがる。 ピット1個有す。
55	X=143 Y= 84	N−34°−E	隅丸長方形	2.16×1.01	11	ピット1個を有す。
56	X=148 Y= 94	N−90°−E	楕円形	1.34×0.70	23	X=149 Y=94にまたがる。
57	X=142 Y= 75	−	楕円形	1.35×0.80	16	
58	X=144 Y= 96	N−34°−W	不整形	2.25×2.30	53	X=145 Y=96にまたがる。
59	X=151 Y=101	N−69°−E	楕円形	1.37×1.16	27	58号住居址と重複し本址の方が新しい。
60	X=151 Y=105	−	円形	1.23×1.16	45	58号住居址と重複し本址の方が新しい。
61	X=152 Y=103	−	不整形	1.20×1.14	21	
62	X=154 Y=101	N− 6°−W	隅丸長方形	2.35×1.23	28	X=155 Y=101にまたがる。 ピット1個有す。
63	X=153 Y=105	N−63°−W	円形	1.11×1.08	20	X=153 Y=106にまたがる。
65	X=159 Y=100	N−73°−W	不明	1.23×不明	23	X=160 Y=100にまたがる。 51号住居より新しい。
66	X=158 Y=104	N−19°−W	楕円形	2.35×1.10	18	
67	X=157 Y=106	N−86°−E	長方形	2.14×1.18	48	
68	X=155 Y=104	−	不整形	1.12×0.93	15	
69	X=147 Y=111	−	円形	0.80×0.80	51	
70	X=150 Y=112	N−73°−E	楕円形	2.10×1.40	33	
72	X=158 Y=103	N−12°−W	長方形	2.36×2.20	20	
73	X=142 Y=101	N−70°−W	不整形	2.40×1.74	25	74号土坑(縄文時代)と重複する。
77	X=159 Y= 98	N−46°−W	不明	不明×1.85	23	X=159 Y=97にまたがる。 ピット5個有す。
80	X=137 Y=107	N−48°−E	不整形	2.16×1.50	20	X=138 Y=107にまたがる。
81	X=157 Y=107	−	円形	1.53×1.44	35	
82	X=156 Y=107	−	不整形	1.37×1.25	40	X=157 Y=107にまがりピット1個有す。
89	X=139 Y= 71	N−37°−W	不整形	1.55×1.04	15	ピット1個を有す。
90	X=142 Y=111	N−90°−E	楕円形	2.15×1.85	70	84号住居址と重複し本址の方が新しい。投棄と思われる大量の土器片出土。墨書土器も多い。



第122図　90号土坑出土遺物（1）



第 123 図　90号土坑出土遺物（2）

表74　90号土坑出土遺物観察表

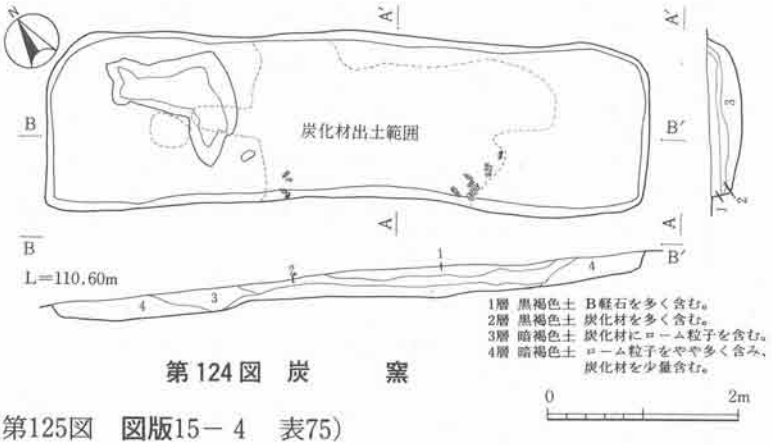
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	4/5	口径 11.3 器高 2.7	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	覆土
2	土師坏	3/4	口径 11.8 器高 2.9	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
3	土師坏	3/4	口径 11.7 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	褐色	覆土
4	土師坏	3/4	口径 12.0 器高 3.4	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	褐色	覆土 墨書
5	土師坏	ほぼ完形	口径 12.0 器高 3.7	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
6	土師坏	ほぼ完形	口径 11.9 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土
7	土師坏	2/3	口径 11.9 器高 3.2 底径 8.8	平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、放射状・ラセン状暗文。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
8	土師坏	1/5	口径 13.0 器高 3.6	丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、放射状暗文。	緻密	良好	赤褐色	覆土
9	土師坏	4/5	口径 14.0 器高 3.4	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土
10	土師坏	3/4	口径 12.1 器高 3.3	ほぼ平底。口縁部ほぼ直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒、雲母を少量含む。	良好	橙褐色	覆土 墨書
11	土師坏	2/3	口径 11.7 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒、雲母を少量含む。	良好	褐色	覆土 墨書
12	土師坏	2/3	口径 12.5 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土 墨書
13	土師坏	3/4	口径 11.8 器高 3.4	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土
14	土師坏	1/2	口径 14.5 器高 4.0	ほぼ平底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、放射状暗文。	緻密	良好	赤褐色	覆土
15	土師坏	1/4	口径 11.4 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。底部に布目痕。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
16	土師 坏	2/3	口径 13.1 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	褐色	覆土
17	土師 坏	1/4	口径 11.4 器高 2.7	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面放射状・ラセン状暗文、ナデ。	緻密	良好	褐色	覆土
18	土師 盤状坏	1/2	口径 15.2 器高 2.8	ほぼ平底。口縁部短かく外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
19	土師 鉢	1/4	口径 20.8 残存高 9.2	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
20	土師 坏	2/3	口径 20.1 器高 5.5	ほぼ平底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	覆土
21	須恵 坏	1/2	口径 14.0 器高 4.8 底径 6.9	底部上げ底。口縁部やや外反する。ロクロ整形。底部ヘラ削り。	緻密	良好	灰褐色	覆土
22	須恵 坏	3/4	口径 12.6 器高 4.3 底径 6.4	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を含む。	良好	灰色	覆土 墨書
23	須恵 坏	3/4	口径 12.4 器高 3.5 底径 7.7	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	砂粒を少量含む。	良好	灰色	覆土
24	須恵 坏	1/2	口径 11.8 器高 4.0 底径 6.8	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	やや不良	灰褐色	覆土
25	須恵 坏	3/4	口径 13.5 器高 3.3 底径 8.0	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、やや外反する。底部切り離し技法不明。周縁部回転ヘラ削り、内外面ナデ。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	覆土
26	須恵 坏	完形	口径 13.3 器高 3.9 底径 7.5	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土
27	須恵 坏	2/3	口径 13.2 器高 3.5 底径 8.8	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	覆土 墨書
28	須恵 坏	1/2	口径 12.4 器高 3.6 底径 8.0	口縁部外反する。ロクロ整形、底部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰色	覆土
29	須恵 坏	2/3	口径 13.0 器高 3.6 底径 6.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	覆土
30	須恵 坏	1/2	口径 13.3 器高 3.9 底径 7.6	口縁部外反する。ロクロ整形、底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り。	緻密	良好	灰褐色	覆土
31	須恵 坏	底部	残存高 2.1 底径 8.5	口縁部外反すると思われる。ロクロ整形。底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り。	緻密	良好	灰白色	覆土 墨書
32	須恵 埦	一部欠	口径 12.2 器高 5.0 底径 8.4	高台「ハ」の字状に開く。口縁部やや外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、付高台。	緻密	良好	灰白色	覆土 墨書
33	須恵 埦	2/3	口径 12.5 残存高 3.4	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転糸切り後、付高台。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土
34	須恵 鉢	2/3	口径 22.5 器高 15.7 底径 12.8	口縁部短かく外反する。器肉厚い。ロクロ整形。底部平坦にナデられている。	砂粒を少量含む。	良好	灰褐色	覆土
35	石製品 砥石	完形	長さ 13.3	使用面2面。1面は平坦になっている。	角閃石安山岩			覆土

第5項　炭　　窯　（第124図　図版15－3」

炭窯は調査区北西側X134・135，Y69－70グリッドで検出された。主軸方向はN－32°－Eである。

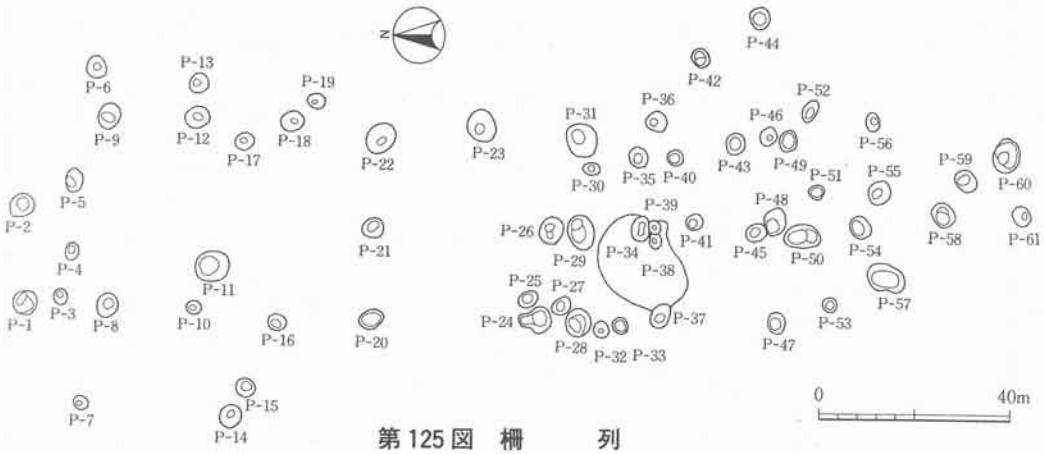
規模は長軸6.35m、短軸1.8mで長方形を呈する。遺物は炭化材以外出土していない。



第124図　炭　　窯

第6項　柵　　列　（第125図　図版15－4　表75）

柵列は調査区南西側で検出されている。北側から南側へゆるく傾斜し、比高は85cmである。



第125図　柵　　列

表75　柵列(ピット)計測表

深さ(cm)

P－1　29	P－2　38	P－3　24	P－4　11	P－5　40	P－6　44	P－7　11	P－8　24	P－9　39
P－10　12	P－11　27	P－12　25	P－13　33	P－14　34	P－15　16	P－16　25	P－17　21	P－18　33
P－19　17	P－20　27	P－21　31	P－22　36	P－23　26	P－24　40	P－25　10	P－26　30	P－27　23
P－28　45	P－29　46	P－30　31	P－31　38	P－32　38	P－33　12	P－34　34	P－35　33	P－36　36
P－37　33	P－38　15	P－39　24	P－40　18	P－41　31	P－42　25	P－43　17	P－44　21	P－45　18
P－46　31	P－47　37	P－48　29	P－49　30	P－50　29	P－51　22	P－52　38	P－53　36	P－54　49
P－55　45	P－56　18	P－57　54	P－58　29	P－59　25	P－60　16	P－61　47		

第7項　溝

3条が検出されている。いずれも東から西へ傾斜している。

1　号　溝　（第4図）

調査区北側で検出された。溝巾は東側で1.4m西側で3.1mを計り、深さは西側で45cm。

2　号　溝　（第4図）

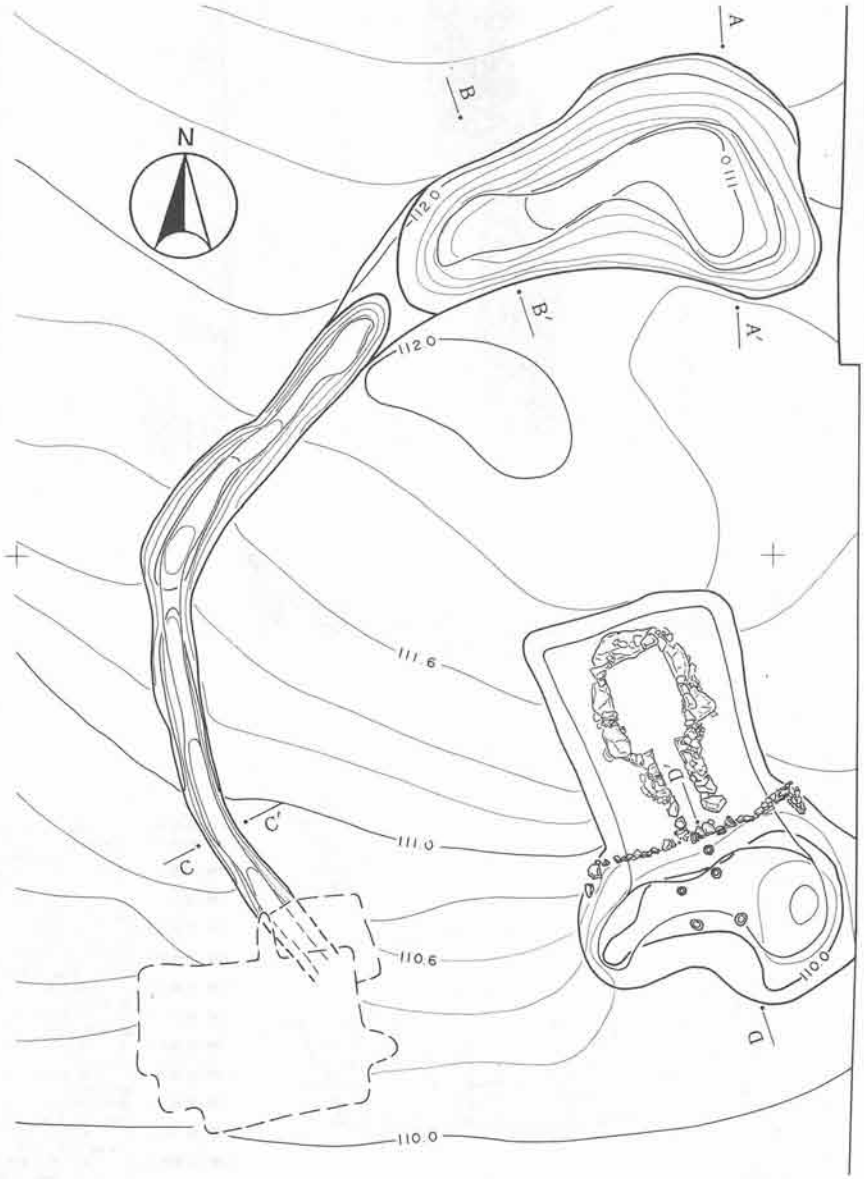
調査区中央で検出された。溝巾は東側で0.8m西側で1mを計り、深さは20cm。

3　号　溝　（第4図）

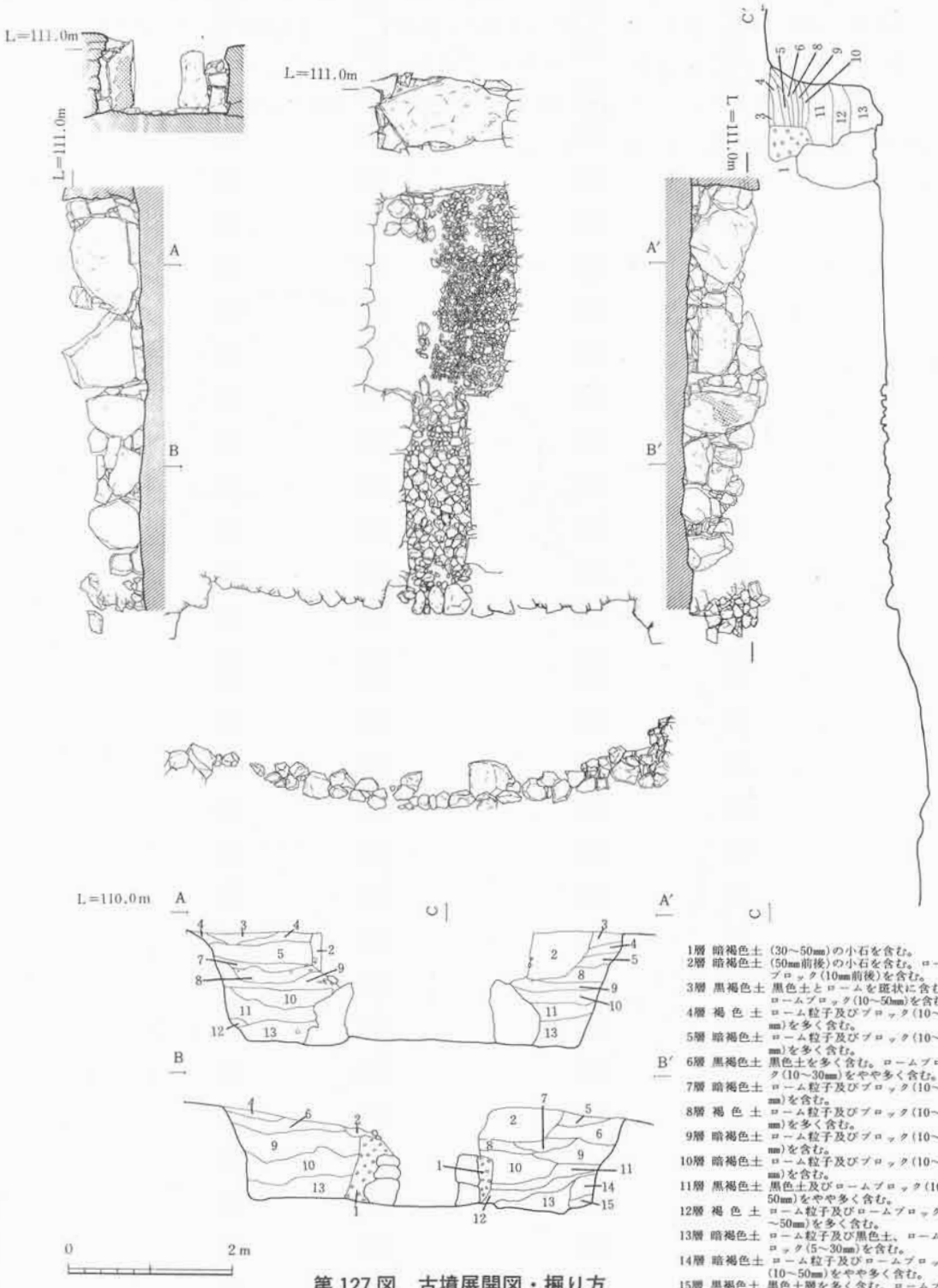
調査区南側で検出された。溝巾は東側で1.9m西側で1.3mを計り、深さは最大で50cm。

第8項　古　　墳　（第126図～131図　**図版**　15－5・16・25　表76・77）

本古墳は調査区東側、北から南へ傾斜する斜面上に位置する。上毛古墳綜覧には記載もれの古墳である。南側の傾斜地を掘り込んで山寄せで築造されている。すでに盛土はなく、調査前には表土上面に石が散乱していた。調査の結果この古墳は前庭と胴張形の横穴式石室を有する、直径21～22ｍ前後の円墳であることが判明した。



第126図　古墳全測図　0　5　10m



1層 暗褐色土 (30～50mm)の小石を含む。
2層 暗褐色土 (50mm前後)の小石を含む。ロームブロック(10mm前後)を含む。
3層 黒褐色土 黒色土とロームを斑状に含む。ロームブロック(10～50mm)を含む。
4層 褐 色 土 ローム粒子及びブロック(10～50mm)を多く含む。
5層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(10～30mm)を多く含む。
6層 黒褐色土 黒色土を多く含む。ロームブロック(10～30mm)をやや多く含む。
7層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(10～50mm)を含む。
8層 褐 色 土 ローム粒子及びブロック(10～30mm)を多く含む。
9層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(10～30mm)を含む。
10層 暗褐色土 ローム粒子及びブロック(10～20mm)を含む。
11層 黒褐色土 黒色土及びロームブロック(10～50mm)をやや多く含む。
12層 褐 色 土 ローム粒子及びロームブロック(5～50mm)を多く含む。
13層 暗褐色土 ローム粒子及び黒色土、ロームブロック(5～30mm)を含む。
14層 暗褐色土 ローム粒子及びロームブロック(10～50mm)をやや多く含む。
15層 黒褐色土 黒色土層を多く含む。ロームブロック(10～30mm)を含む。

第127図　古墳展開図・掘り方

石室は輝石安山岩の自然石乱石積みである。天井石はなく、石室・羨道の一部もすでに耕作等により取り除かれている。玄門に利用されている石は一部削られており、奥壁・側壁の一部には割り石を用いている。

石室の全長は5 m25cm、玄室は中央で2 m55cm、巾は1 m80cmで南側に開口している。羨道は2 m70cm、巾は60cmである。羨道につづく前庭部には道径10～30cm前後の石が積まれており、巾は5 m95cmである。

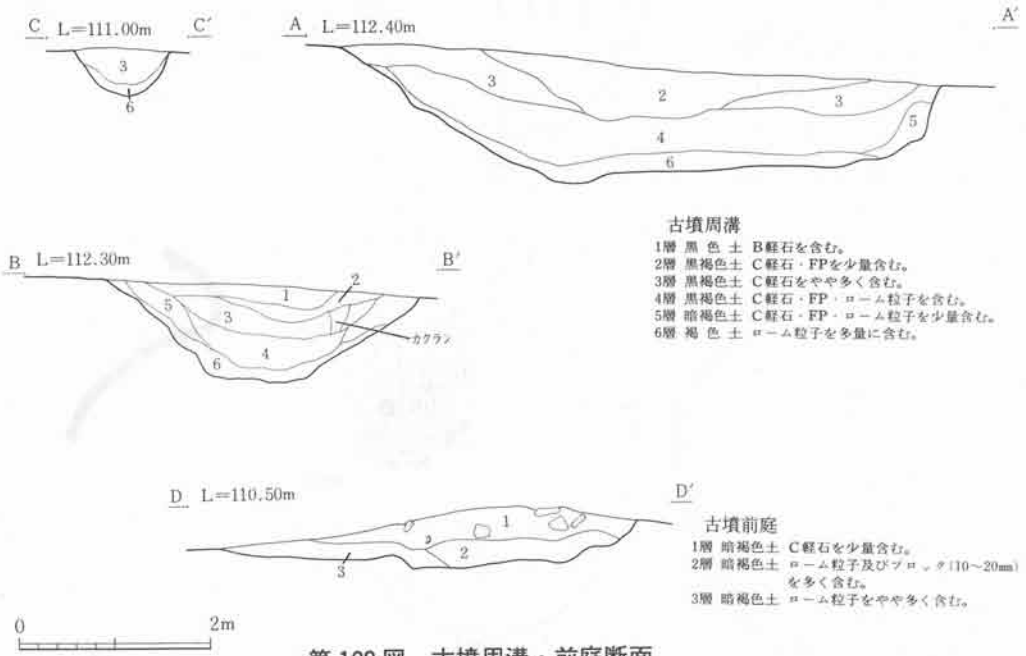
周溝は東側が調査区外になっており、不明であるが、北側の最大部分で6～7 m、南西側は1 m前後である。北側の掘り込みの両側にはブリッジ状の高まりが検出されている。掘り込みは北側の最大部で1 m～1m 50cm、南西側で50cm前後である。

前庭部は20～60cmの掘り込みで覆土中に石が散乱している。

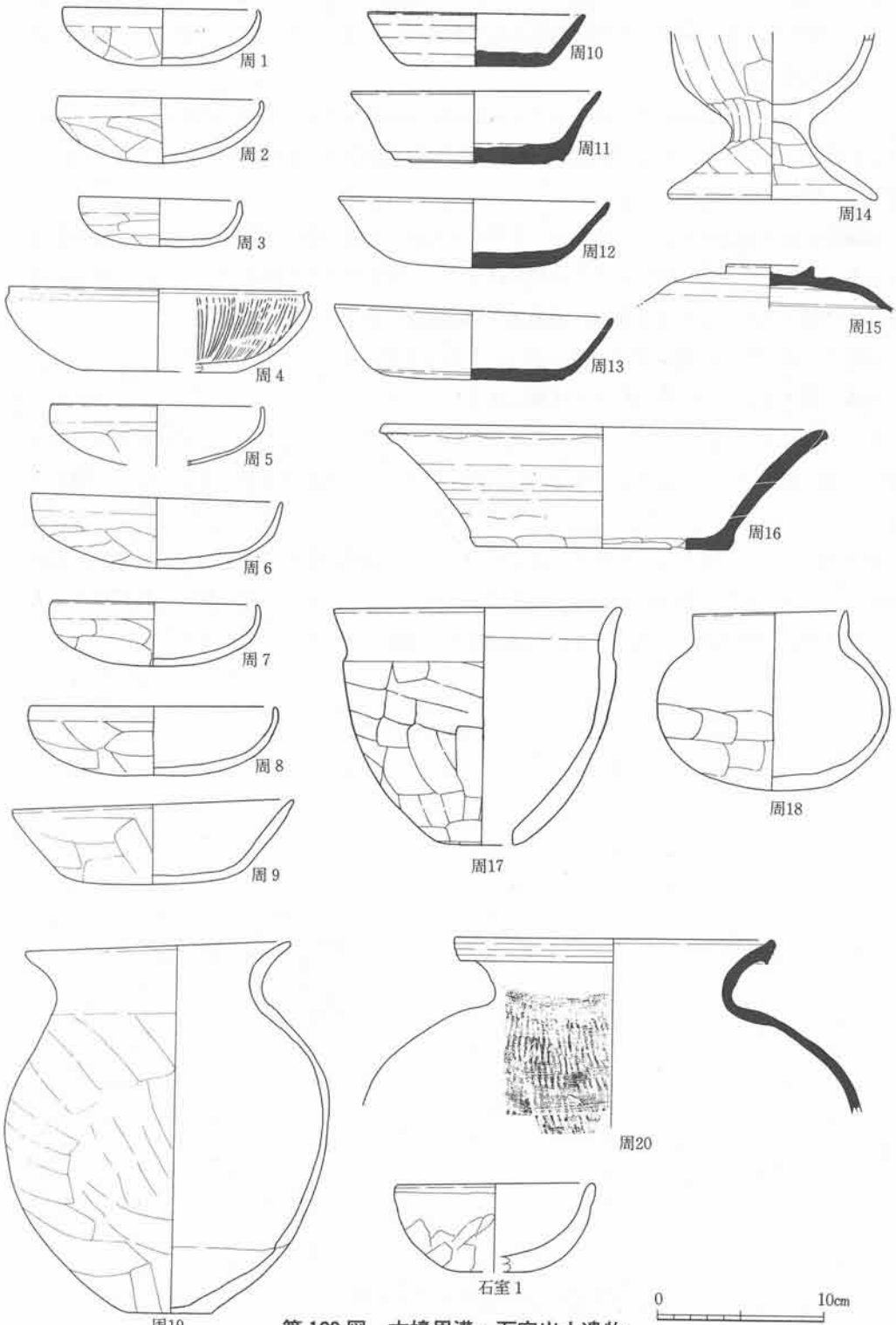
周溝の覆土上層には浅間B軽石が多量に含まれている。

出土遺物は石室内にはなく、前庭と周溝北側からやや多く出土している。前庭部出土の長頸壺と坏身と蓋のセットは北東側の中層から出土しており、周溝出土遺物は北側の覆土下層から出土している。

本古墳はドーム形を呈する胴張りが認められること、玄門に削り石を用いていること、前庭を有すること、石室を地下に落しこんだ築造をしていることなどから7世紀後半代の築造と考えられ、その出土遺物などから8世紀初頭前後まで機能していたと考えられる。



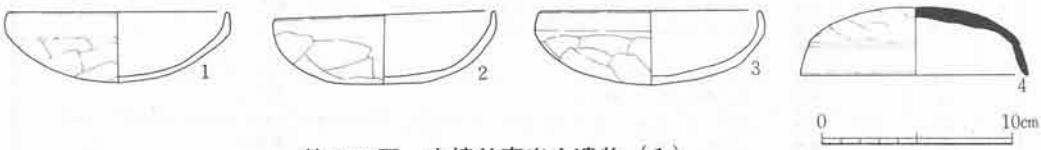
第128図　古墳周溝・前庭断面



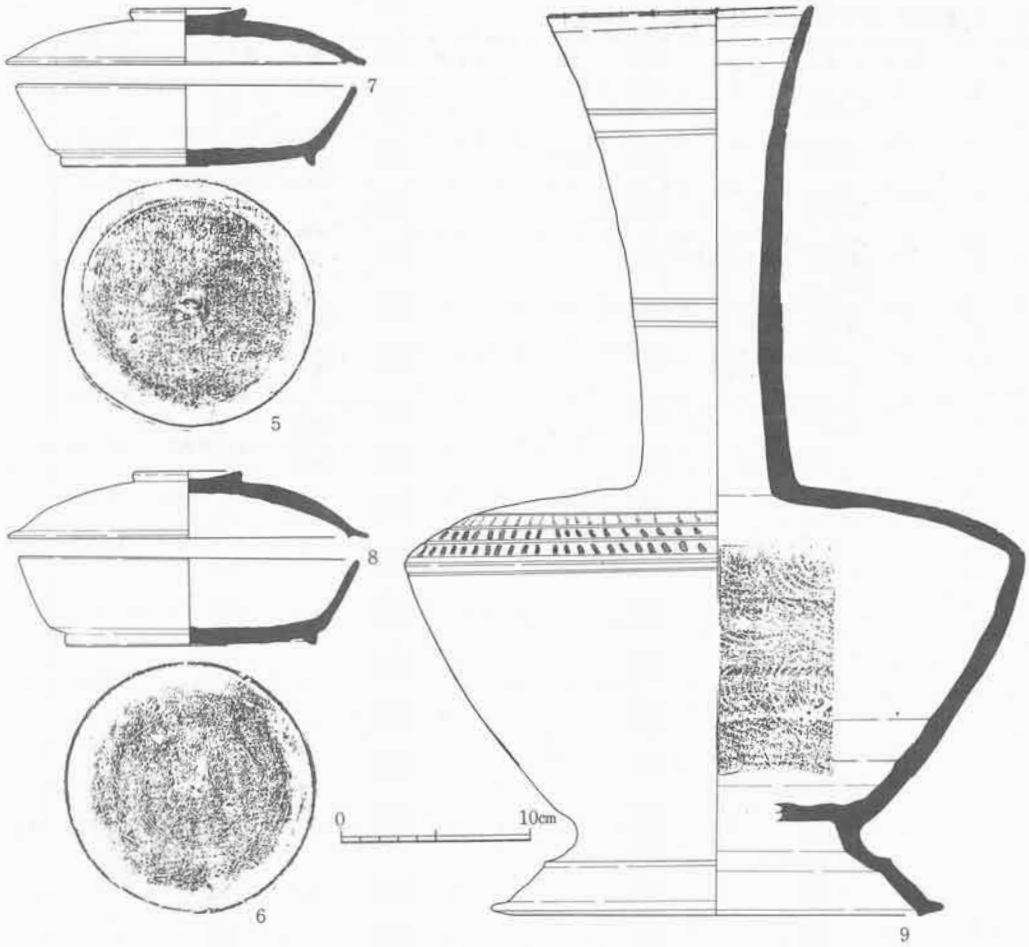
第129図　古墳周溝・石室出土遺物

表76　古墳周溝・石室出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	完形	口径 11.8 器高 3.4	丸底。口縁部内湾して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を含む。	良好	橙褐色	周溝北側
2	土師坏	完形	口径 12.2 器高 3.9	丸底。口縁部内湾して立ち上がり、口唇部内傾する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	石粒を含む。	良好	橙褐色	周溝北側
3	土師坏	ほぼ完形	口径 9.7 器高 3.0	丸底。口縁部内湾して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を含む。	良好	橙褐色	周溝北側。
4	土師坏	1/3	口径 18.1 器高 5.0 底径 9.1	平底。口唇部稜を持ち直立する。外面ヘラ削り後ミガキ。内面放斜状暗文。	緻密	良好	赤褐色	周溝北側
5	土師坏	2/3	口径 12.7 残存高 3.6	丸底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
6	土師坏	4/5	口径 15.1 器高 4.3	丸底。口縁部やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
7	土師坏	3/4	口径 12.3 器高 3.9	丸底。口縁部内湾して立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
8	土師坏	1/3	口径 14.9 器高 4.2	丸底。口縁部内湾して達ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
9	土師坏	3/4	口径 16.9 器高 4.8	ほぼ平底。口縁部直線的に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
10	須恵坏	2/3	口径 13.1 器高 3.2 底径 8.6	口縁部直線閣に外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。	石粒を含む。	やや不良	灰褐色	周溝北側
11	須恵坏	4/5	口径 15.1 器高 4.2 底径 8.2	口縁部強く外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ切り後、周縁部ヘラ削り調整。	緻密	良好	灰白色	周溝北側
12	須恵坏	3/4	口径 16.3 器高 4.1	口縁部外反する。底部回転ヘラ削り。内外面ナデ。	石粒・雲母を含む。	良好	灰白色	周溝北側
13	須恵坏	1/2	口径 17.0 器高 4.2 底径 11.3	口縁部外反する。ロクロ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を含む。	良好	灰白色	周溝北側
14	土師高坏	口縁部欠	残存高 10.1 底径 12.3	脚部八の字状に開く。坏部内湾ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。脚部下部ナデ。内面脚部上部ヘラ削り。脚部下部、坏部ナデ。	砂粒を含む。	良好	褐色	周溝北側
15	須恵蓋	1/2	残存高 2.5	つまみ大きく、かえりを有する。ロクロ整形。外面天井部中央回転ヘラ削り。	緻密	不良	淡灰褐色	周溝北側
16	須恵鉢	1/3	口径 26.8 器高 7.4	底部大形の孔(径10.2cm)を有する。口縁部強く外反する。ロクロ整形。外面底部ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	周溝西側
17	土師甕	完形	口径 17.3 器高 14.3	単孔。孔径3.7cm。口縁部短かく直立ぎみに立ち上がり、やや外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	橙褐色	周溝北側
18	土師小形甕	完形	口径 9.3 器高 10.8	口縁部短かく直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	周溝北側
19	土師甕	完形	口径 16.0 器高 22.4 底径 5.0	口縁部くの字状に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ、輪ずみの接合痕。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	周溝北側
20	須恵甕	口縁部 1/2	口径 19.2 残存高 10.4	肩部強く張る。口縁部折り返す。外面タタキ目。内面布あて痕。	緻密	やや不良	灰色	周溝北側
石室1	土師鉢	4/5	口径 12.0 器高 5.5	体部内湾して立ち上がり、口縁部外反ぎみになる。器肉厚い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒・雲母を含む。	良好	褐色	石室掘り方内



第130図　古墳前庭出土遺物（1）



第131図　古墳前庭出土遺物（2）

表77　古墳前庭出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
1	土師坏	3/4	口径 11.6 器高 3.7	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	前庭
2	土師坏	4/5	口径 11.6 器高 4.0	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	前庭
3	土師坏	4/5	口径 11.6 器高 3.9	丸底。口縁部内湾ぎみに立ち上がり、内傾する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	橙褐色	前庭
4	須恵蓋坏	3/4	口径 12.0 器高 3.6	口縁部稜を持ち外反する。天井部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少量含む。	良好	灰色	前庭南側覆土上層
5	須恵坏身	完形	口径 17.7 器高 4.4 底径 13.2	断面三角形の短かい高台。口縁部直線的に外反する。ロクロ整形。外面底部回転ヘラ切り後、付高台。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	前庭
6	須恵坏身	完形	口径 17.8 器高 4.8 底径 13.1	断面三角形の短かい高台。口縁部外反する。ロクロ整形。外面底部回転ヘラ切り後、付高台。	緻密	良好	灰白色	前庭
7	須恵蓋	完形	口径 19.0 器高 2.9	扁平。つまみ大きく、かえりを有す。ロクロ整形。天井中央部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰褐色	前庭
8	須恵蓋	完形	口径 18.9 器高 3.6	つまみ大きく、かえりを有す。ロクロ整形。天井中央部回転ヘラ削り。	石粒を少量含む。	良好	灰白色	前庭
9	須恵長頸壺	ほぼ完形	口径 14.2 器高 48.0 底径 24.0	台付。肩部張る。最大径38cm。頸部ラッパ状に広がる。内面タタキ目。	砂粒を少量含む。	良好	灰白色	前庭

第V章　ま　と　め

本遺跡検出の遺構・遺物は縄文時代から平安時代に及ぶ。

縄文時代

土坑14基と早期末から中期後半に至る土器片、石器類が検出された。土坑は2基が円形で貯蔵穴状を呈し、12基が楕円形で陥し穴状を呈する。本期の遺構は全面調査を行なっていないので全体の分布は不明である。本遺跡と南側に対峙した頭無遺跡で35基の陥し穴状の土坑が検出されており[注1]、この付近は狩猟の場であったと考えられる。

弥生時代

後期の土器片が数点検出されている。遺構は検出されていない。出土地点は調査区東側の古墳の周辺である。

古墳時代

住居址18軒と古墳1基が検出されている。住居址は後期後半と考えられる。カマドは東側に位置するものが多く、4軒は袖の先端に甕を利用している。分布は主に南側である。37・38・90号住居址はいずれも古墳の周溝と重複し、住居址の方が古い。古墳は前庭を有すること、石室が胴張りであること、出土遺物などから古墳時代末期の所産と考えられる。

奈良・平安時代

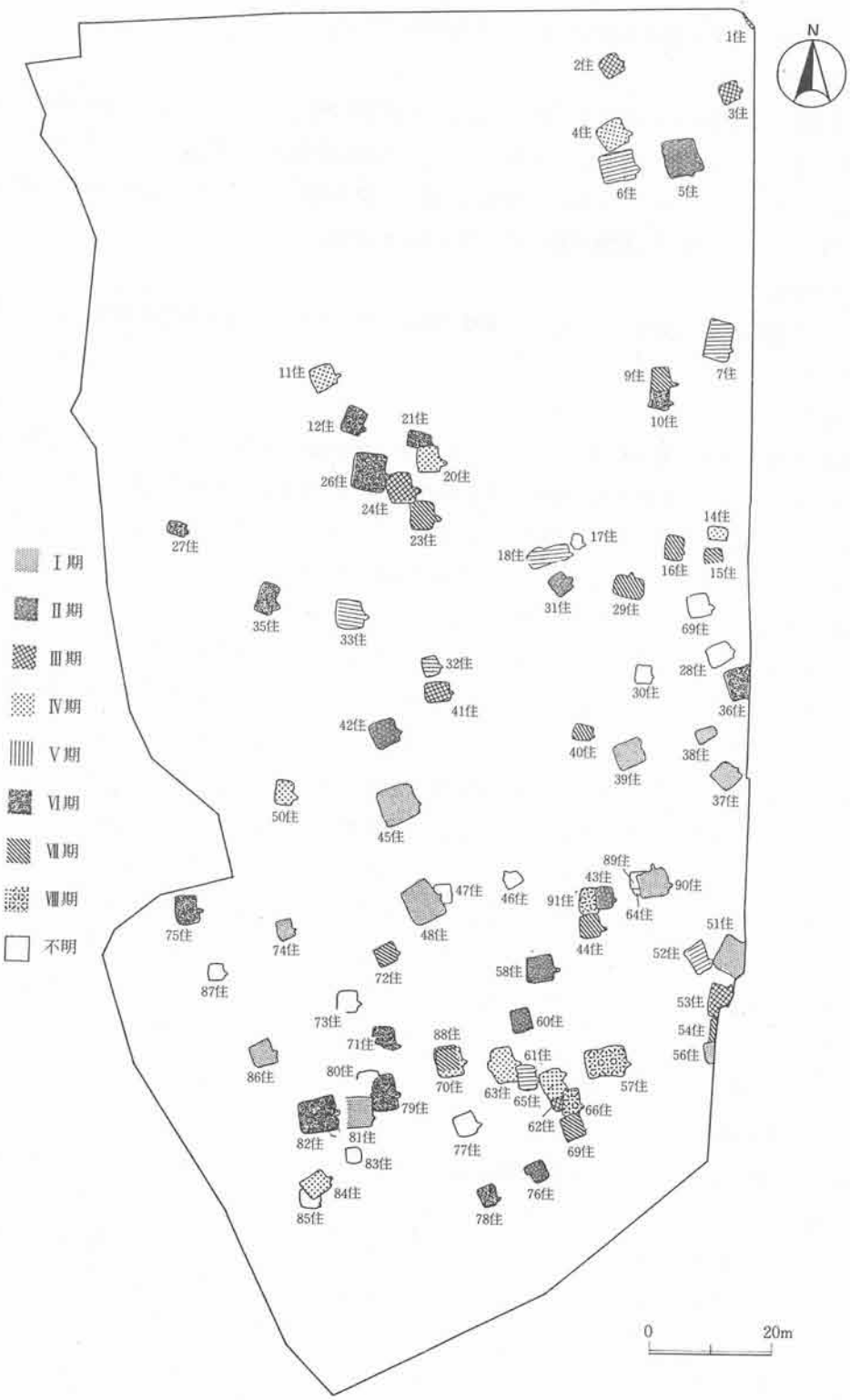
住居址49軒と掘立柱建物址13棟、井戸12基、炭窯1基、土坑、溝が検出されている。住居址は東側にカマドを持つものが多く、カマドの構築材として石が多く利用されている。掘立柱建物址は出土遺物がほとんどないが、9号掘立建物址が平安時代の住居址よりも古いことや、1～9号掘立柱建物址の柱穴内から8～9世紀代と思われる土師器の坏の細片が出土していることなどから、これら北側に位置する掘立址群は奈良時代後半から平安時代の初めにかけての所産と考えられる。また南側に位置する10・11・12号掘立址は時代がやや下るものと思われる。又1と2、3と4、5と8号掘立址は近接し、位置関係などから同一時期のの建物址と考えられる。井戸はその出土遺物から平安時代に併なうものが多いと考えられる。炭窯と1号溝は浅間B軽石を覆土中に含み、平安時代の所産と考えられる。土坑のうち明らかにこの時代に併うと思われるのは90号土坑1基である。90号土坑はその出土遺物から8世紀末葉から9世紀初頭にかけての所産と考えられる。

時代不明の遺構

住居址14軒、土坑73基、溝2条、柵列は出土遺物が少なく、時代不明である。住居址は古墳時代後期から奈良・平安時代のものと考えられる。土坑はそのほとんどが出土遺物がなく時代不明である。溝は2号溝が覆土や住居址との切り合い関係から中世以降、3号溝は近世以降と考えられる。柵列は時代不明であるが、ピットの覆土中に浅間C軽石を少量含むことから、集落址に併うと考えられる。

以上本遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落址が中心となる。

注1　前橋市教育委員会前原豊氏の御教示による。



第132図　集落変遷図

第Ⅵ章　考　　察

Ⅰ　集落の変遷について（第132図）

本遺跡では81軒の住居址を検出した。これらの住居址は７世紀の後半から10世紀初頭にかけての約２世紀半にわたり続いた集落と考えられる。ここではカマドの形態、出土遺物（変遷がたどりやすい土師器の甕と坏を中心とする。）から集落の変遷をさぐってみる。

第Ⅰ期の集落　37・38・39・45・48・51・56・74・81・86・90号住居址

分布は調査区中央からやや南寄りである。これらのうち39・48・81・86号住居址の４軒ではカマドの袖の先端部に長胴甕を利用している。カマドの位置は東側が10軒と多く、北側が１軒、不明が１軒である。煙道は90号住居址を除き短かく、急激に立ち上がる。袖の構築材は粘土を主体とする。

遺物（第133図１・９）口縁部が強く外反する長胴甕と稜を有する丸底の坏を指標とする。

第Ⅱ期の集落　5・31・42・43・58・60・76号住居址

分布は南東側を中心とする。カマドは２軒が北側で他は東側に位置する。煙道は急激に立ち上がるものが多い。構築材は粘土もしくは石を利用している。

遺物（第133図２・10）長胴甕はⅠ期と変化はさほどないが、頸部がややしまっているものが出現する。坏は丸底で稜を持たず口唇部が内湾するものが主体となる。

第Ⅲ期の集落　2・3・24・41・53・62号住居址

分布はバラツキがあるが２軒づつが一単位となっている。カマドは５軒が東側で１軒が北側である。構築材は粘土である。

遺物（第133図３・11）フットボール形の胴部と「く」の字状に外反する口縁部を有する甕と丸底で口唇部が直立又は内湾する坏が主体をなす。

第Ⅳ期の集落　1・4・11・14・20・50・63・70・84号住居址

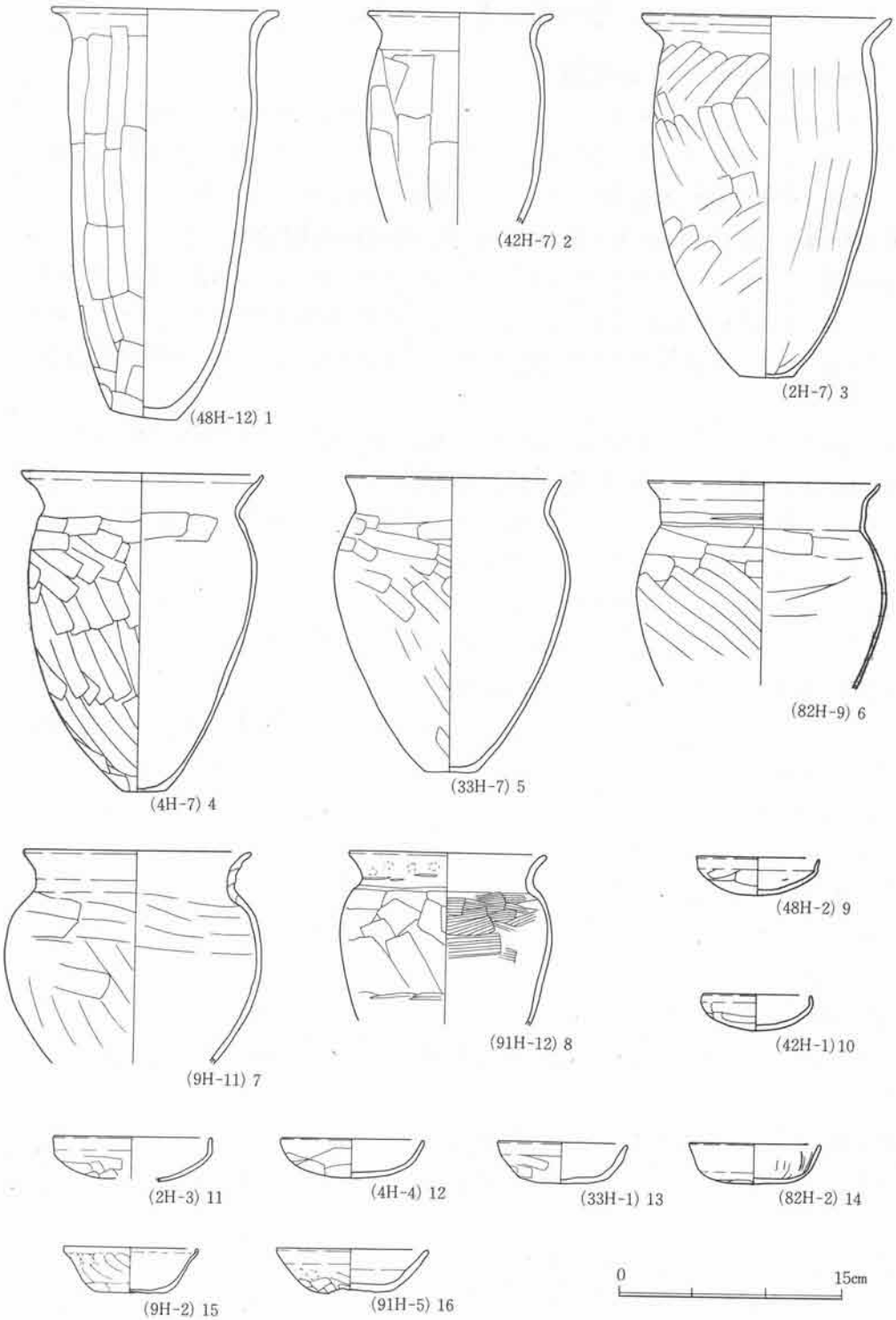
分布は北側と南側に分かれる。カマドは不明の２軒を除きすべて東側に位置する。構築材は粘土又は石である。

遺物（第133図４・12）甕は器肉が薄くなり、胴上半部がふくらむ。頸部はしまり一段と「く」の字状が強くなる。坏は平底に近い丸底で口縁部はやや外反する。墨書土器が出現する時期である。

第Ⅴ期　6・7・18・32・33・52・61号住居址

分布は北側と南側に分かれる。カマドの位置はすべて東側である。構築材は粘土又は石を利用している。

遺物（第133図５・13）甕は器肉が薄く、口縁部は「く」の字状がやや弱まり、「コ」の字状に近くなり、胴上半部に最大径をとる。。坏はほぼ平底で、口縁部の外反は直線的になる。90号土坑出土遺物はⅤ期と考えられる。



第133図　Ⅰ～Ⅷ期出土遺物

第Ⅵ期の集落　10・12・21・26・27・35・36・71・75・78・79・82号住居

分布は調査区中央をとりまく様に縁辺部に集まる。カマドは不明の1軒を除いてすべて東側に位置する。構築材は粘土又は石を利用している。大形の住居址（26・79・82号住居址）がやや多いのも特徴である。

遺物（第133図6・14）甕は「コ」の字状口縁を呈し、器肉は薄い。坏は平底で、口縁部の外反は直線的になる。

第Ⅶ期の集落　9・15・16・23・27・35・36・71・75・78・79・82号住居址

分布は東側に多い。カマドは東側に8軒、北側と南側が1軒、不明が1軒である。構築材は粘土又は石を利用している。

遺物（第133図7・15）甕は「コ」の字状を呈するが、器肉が厚くなっている。坏はやや薄手の平底で口縁部は外反するが、口唇部は直立気味となる。この時期から灰袖陶器が併う。

第Ⅷ期の集落　57・66・91号住居址

分布は南東側である。カマドは東側に位置し、構築材として石が利用されている。

遺物（第133図8・16）甕は「コ」の字状がくずれ器肉は厚い。坏はやや厚手の平底で、口縁部は直線的に外反する。又羽釜が出現する時期であり、3軒共に墨書土器が出土している。

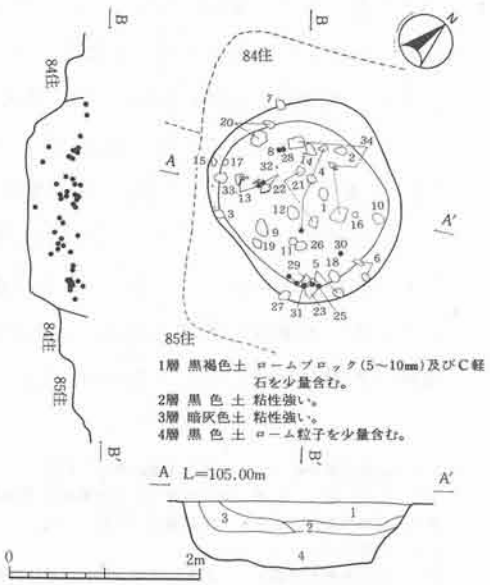
以上概略したが、Ⅱ期の集落は古墳時代から奈良時代への移行期、Ⅴ期の集落は奈良時代から平安時代への移行期にあたると考える。本遺跡西側の谷地では昭和61年度に浅間B軽石下の水田址の調査を行なったが、水田址は検出されなかった。本集落は構成する人々は10世紀頃にこの地を放棄し他へ移動したものと考えられる。

Ⅱ　墨書土器について（表78）

本遺跡では住居址、土坑、井戸から56点の墨書土器が出土した。そこで、墨書土器の文字の種類、器種と部位、出土状況、時期について整理してみたい。

文字の種類は「田」、「田部」・「田ß」、「大田」、「下田」、「上田口寺」、「若公」、「乙公」、「乙呂」、「泰」、「徳」、「目」、「木」、「二」、「存ヵ」、「刑ヵ」、「大ヵ」、「奠ヵ」、があり、「田」と関連する文字が種類、点数とも圧倒的に多い。また、65号住居出土の紡錘車には、「田」とその他、判読不明の文字が線刻されている。

器種は、土師器が43点、須恵器の坏が12点、埦が1点である。墨書の記されている部位は、体部外面が10点、体部内面が1点、底部外面が35点、底部内面が6点、底部内外面が2点、体部外面・底部内面が2点である。



第134図　90号土坑

同一遺構から同じ文字が出土しているのは、9号住

居の「存ヵ」、27号住居の「上田口寺」、75号住居の「田阝」、11号井戸の「田」、90号土坑の「田部」・「田阝」である。また、同時期あるいは、ほぼ同時期の遺構から同一文字が出土しているのは、52・61・75・82号住居、6・11号井戸、90号土坑の「田部」・「田阝」、12・26号住居の「下田」、91号住居、10号井戸の「木」である。特に、90号土坑は本遺跡で最も点数の多かった「田部」・「田阝」の記された墨書土器が多く出土している。ここで、90号土坑の遺物と出土状況について若干の説明を加えておく。

90号土坑（第122・123図、図版24、表73・74）は、遺跡南端の沖積地にあり、本址より古い84号住居と重複している。遺物は100点以上の土師器、須恵器片や細かい木片、種が出土した。土器の出土状況で注目される点は、ほとんどの土器が覆土上層より出土し、一括投棄されたと考えられる点である。さらに、須恵器の鉢1点以外は坏で、その中に墨書土器が11点含まれている。文字の種類は、「田部」・「田阝」、「二」の他、人名と思われる「若公」、「乙公」、「乙呂」の下に「田部」と記されている墨書土器がある。

墨書土器の時期は、Ⅳ期からⅧ期で、Ⅴ期が最も多い。文字の種類は、Ⅳ期が「大田」、Ⅴ期が「田」、「田部」・「田阝」、「二」、「泰ヵ」、Ⅵ期が「田部」・「田阝」、「下田」、「上田口寺」、「刑ヵ」、Ⅶ期が「存ヵ」、「大ヵ」、Ⅷ期が「徳」、「木」、「目」である。

上述したように、本遺跡出土の墨書土器は、「田」に関連した文字が多く、Ⅳ期からⅥ期に見られる。特に「田部」・「田阝」が多く、Ⅴ・Ⅵ期の調査区南側の沖積地とその周辺の遺構から出土し、柳久保水田址との関連を窺わせる。また、同水田址において、祭祀遺跡が検出され、5枚重ねの状態で出土した坏、墨画土器、馬の歯、ブタの橈骨が出土している。[注1] 時期の違いはあるが、90号土坑に投棄された土器も祭祀的性格を持ち、Ⅴ・Ⅵ期に見られる「田部」の墨書土器を有する集団が関与していたと思われる。その他、12・26号住居と同じ「下田」と記された坏が、B軽石下の溝から出土している。

また、本遺跡の北東約800mには上西原遺跡があり、8世紀後半から10世紀初頭頃まで機能したとみられる勢田郡衙跡と推定されている。同遺跡では、住居址を中心に、「大」、「㊤」や「寺」、「泰」、「目」、「田」、「部」などの墨書土器が多数出土している。[注2] さらに、堤東遺跡で「平」、「㐀」、[注3] 川皆籠戸遺跡で「寺」と記された墨書土器が、[注4] 大久保遺跡では「大田刀口罡子」と線刻された紡錘車が出土している。[注5] これらの遺跡では住居址が多数検出されており、[注6] 大集落を形成している。本遺跡の墨書土器は、このような集落の広がりの中で、郡衙跡と推定される上西原遺跡の影響を受けていたと考えられる。

注1　前橋市教育委員会　「柳久保遺跡群Ⅰ」1985
注2　松田　猛　「信濃」第38巻第11号通巻第443　群馬県における文字瓦と墨書土器――前橋市上西原遺跡の文字資料――
注3　群馬県教育委員会　「堤東遺跡」1985
注4　前掲注1
注5　群馬県教育委員会　「昭和58年度荒砥北部遺跡群発掘調査概報」1984
注6　前掲注3、注5
　　群馬県教育委員会　「昭和59年度荒砥北部遺跡群発掘調査概報」1985
　　群馬県教育委員会　「上西原・向原・谷津――昭和60年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告――」1986

表78 墨書土器一覧表

No.	遺構名	器種	器形	墨書部位	釈文	遺構年代
1	7住	土師	坏	底部外	「泰」	Ⅴ期
2	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
3	9住4	須恵	坏	体部外	「存ヵ」	Ⅶ期
4	〃 5	須恵	坏	体部外	「存ヵ」	〃
5	〃 6	須恵	坏	体部内	「存ヵ」	〃
6	〃	須恵	坏	体部外	「存ヵ」	〃
7	11住1	土師	坏	底部外	「大田」	Ⅳ期
8	12住2	須恵	坏	底部内外	「下田」(外)	Ⅵ期
9	16住	土師	坏	底部外	不詳	Ⅶ期
10	21住	土師	坏	底部内	不詳	Ⅵ期
11	〃	土師	坏	底部内外	「口」(外)	〃
12	26住2	土師	坏	底部外	「下田」	Ⅵ期
13	〃	須恵	坏	体部外	「刑ヵ」	〃
14	27住1	土師	坏	底部外	「上田口寺」	Ⅵ期
15	〃 2	土師	坏	底部外	不詳	〃
16	〃	土師	坏	底部外	「上田口寺」	〃
17	〃	土師	坏	底部内外	不詳	〃
18	44住	土師	坏	体部外	「大ヵ」	Ⅶ期
19	52住1	土師	坏	底部外	「口」	Ⅴ期
20	〃 5	土師	坏	底部外	「田部」	〃
21	57住2	土師	坏	体部外	不詳	Ⅷ期
22	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
23	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
24	〃	土師	坏	体部外	不詳	〃
25	61住1	土師	坏	体部外 底部内	「田部匚」(体) 「田」(底)	Ⅴ期
26	63住1	土師	坏	底部外	不詳	Ⅳ期
27	66住2	須恵	埦	底部内	「徳」	Ⅷ期
28	69住	土師	坏	底部外	「奠ヵ」	不明
29	75住1	土師	坏	底部内	不詳	Ⅵ期
30	〃 2	土師	坏	底部内	「田阝」	〃
31	75住3	土師	坏	体部外 底部内	「田阝」(体) 「田阝」(底)	Ⅵ期
32	82住4	土師	坏	底部外	「田部」	〃
33	91住1	土師	坏	体部外	「木」	Ⅷ期
34	〃 7	須恵	坏	底部内	「目」	〃
35	90土4	土師	坏	底部外	「田阝」	Ⅴ期
36	〃 10	土師	坏	底部外	「田部」	〃
37	〃 11	土師	坏	底部外	「乙呂」「田部」 「乙公」 「若公」	〃
38	〃 12	土師	坏	底部外	「田部」	〃
39	〃 16	土師	坏	底部外	「田阝」	〃
40	〃 22	須恵	坏	体部外	「田阝」	〃
41	〃 27	須恵	坏	底部外	「田阝」	〃
42	〃 31	須恵	坏	底部外	「田阝」	〃
43	〃 32	土師	坏	底部外	「二ヵ」	〃
44	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
45	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
46	6井1	土師	坏	底部外	「田部」	Ⅴ期
47	〃	土師	坏	〃	「田阝」	〃
48	〃	土師	坏	底部内	不詳	〃
49	10井1	須恵	坏	体部外	「木」	Ⅷ期
50	11井	土師	坏	底部外	「田」	Ⅴ期
51	〃	土師	坏	底部外	「田ヵ」	〃
52	〃	土師	坏	底部外	「田阝」	〃
53	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
54	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
55	〃	土師	坏	底部外	不詳	〃
56	13井	土師	坏	底部外	「田×」	不明

附　章　科学分析

中鶴谷遺跡出土の木片・種

ク　リ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.

3号井戸　Nos. 1−6　（6点）

13号井戸　No. 1　（1点）

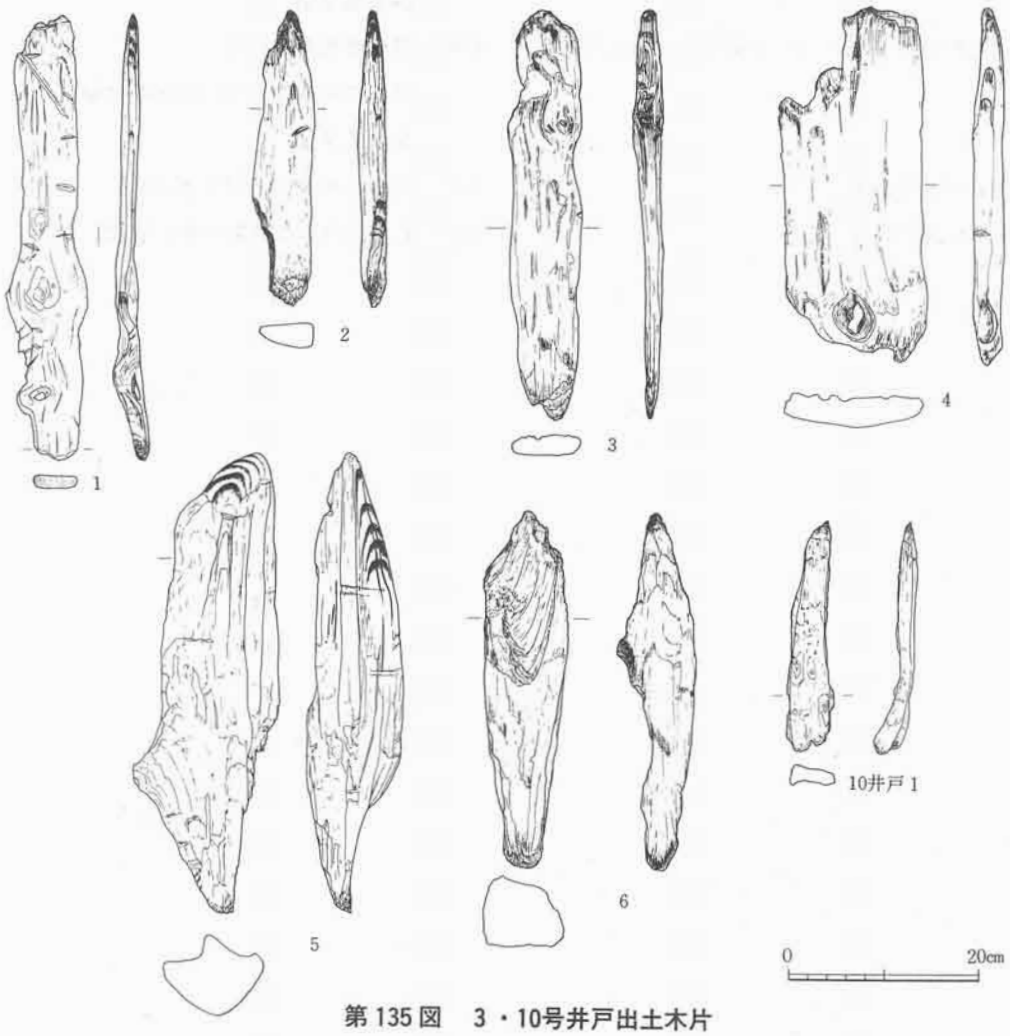
10号井戸　Nos. 1−3　（3点）

クヌギ　Quercus acutissima Carr.

81号住居址　Nos. 1−2　（2点）

タ　ネ　ヒョウタン属1種　Lagemaria sp.

90号土坑



第135図　3・10号井戸出土木片

引用参考文献

荒砥島原遺跡　1980　群馬県埋蔵文化財調査事業団

本宿・郷土遺跡　1981　富岡市文化財保護協会

清里・陣場遺跡　1981　群馬県埋蔵文化財調査事業団

荒砥北部遺跡群発掘調査概報　1984　群馬県教育委員会

芳賀団地遺跡群第Ⅱ巻　1984　前橋市教育委員会

堤東遺跡　1985　群馬県教育委員会

柳久保館跡群Ⅰ　1985　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

柳久保遺跡群Ⅱ　1985　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

三ッ寺Ⅲ・保渡田遺跡・中里天神場古墳　1985　群馬県教育委員会
日本鉄道建設公団　群馬県埋蔵文化財調査事業団

下佐野遺跡Ⅱ地区（2）平安時代・中・近世編　1986　群馬県教育委員会
日本鉄道建設公団　群馬県埋蔵文化財調査事業団

柳久保遺跡群Ⅲ　1986　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

柳久保遺跡群Ⅳ　1987　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

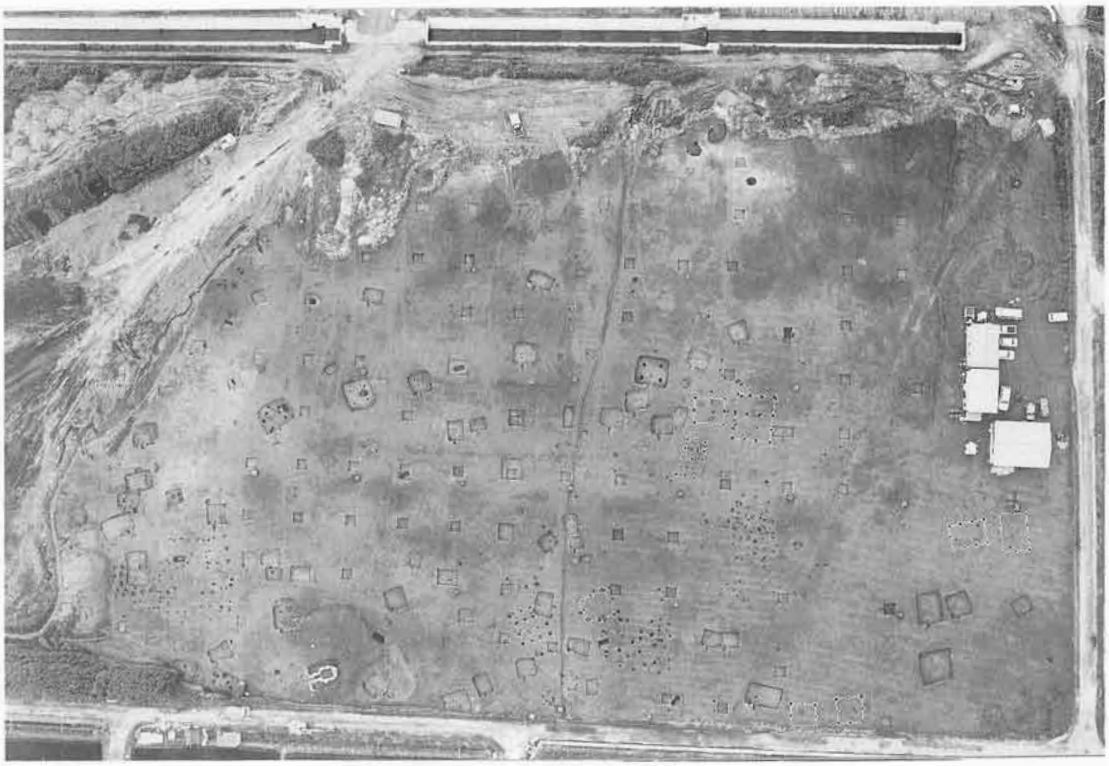
写真図版

1．調査前全景（南側から）

2．確認全景（南側から）

図 版 2

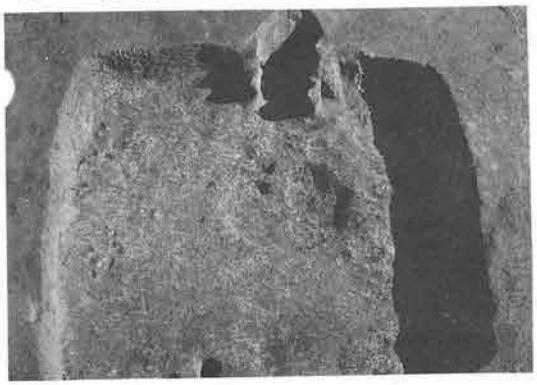
1．全景南側（東側から）



2．終了全景（空撮）

1．1号住居址

2．2号住居址

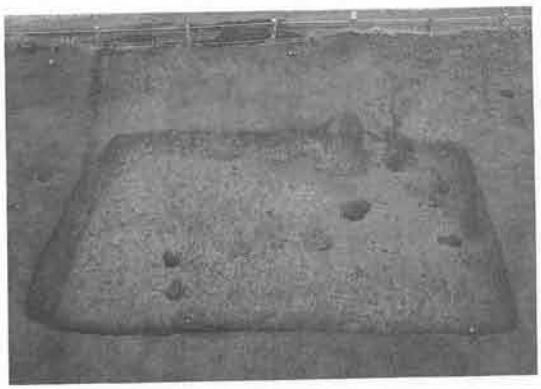


3．3号住居址

4．4号住居址

5．5号住居址

6．6号住居址



7．7号住居址

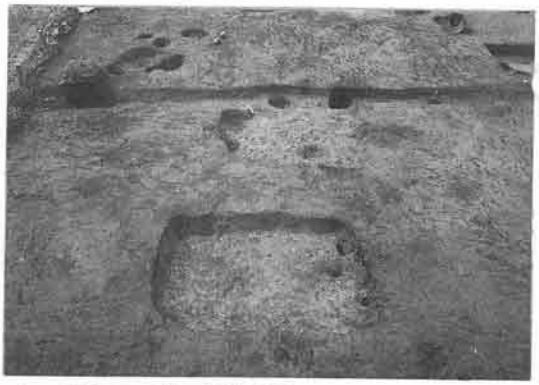
8．9号住居址

図 版 4

1．10号住居址

2．11号住居址

3．12号住居址

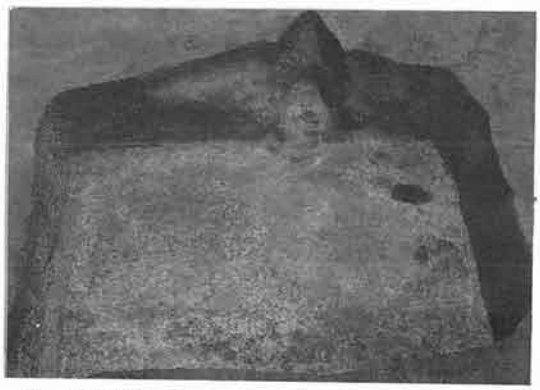


4．手前14、奥15号住居址

5．16号住居址

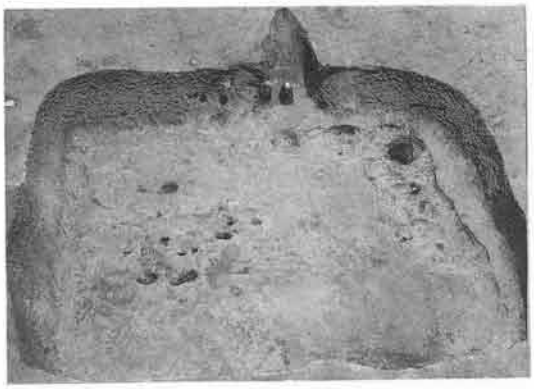
6．17号住居址

7．18号住居址



8．20号住居址

1．21号住居址



2．23号住居址

3．24号住居址

4．26号住居址

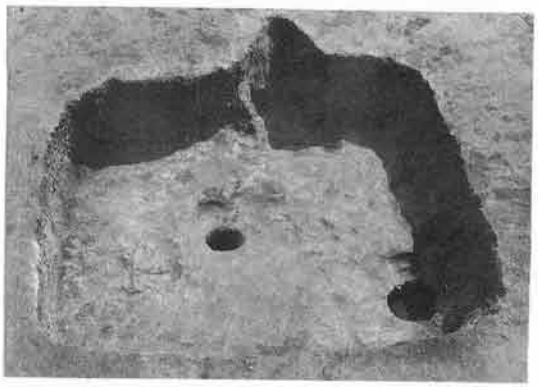
5．27号住居址

6．28号住居址

7．29号住居址

8．30号住居址

図 版 6



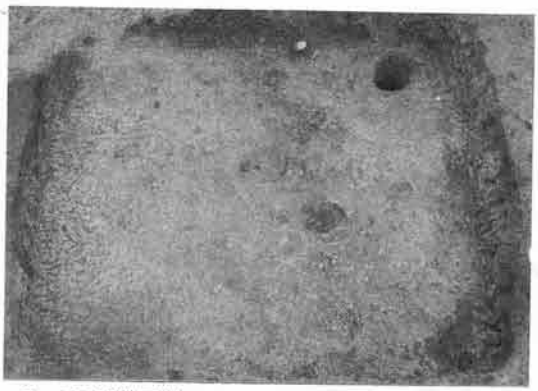
1．31号住居址

2．32号住居址

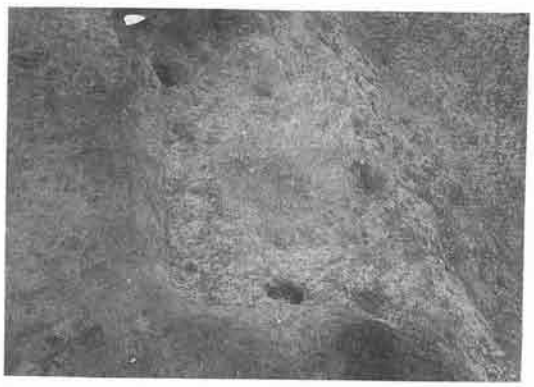
3．33号住居址

4．35号住居址

5．36号住居址



6．37号住居址



7．38号住居址

8．39号住居址

1．40号住居址

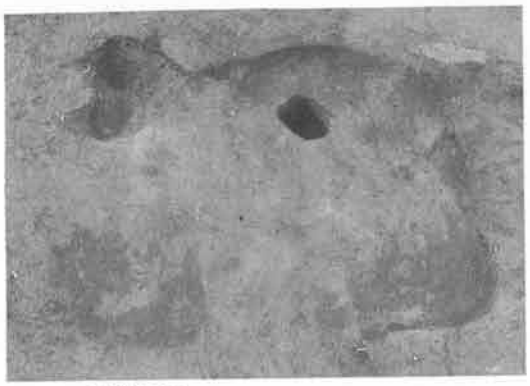
2．41号住居址

3．42号住居址

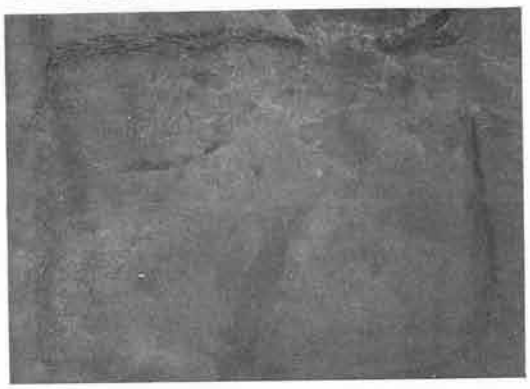
4．43号住居址

5．44号住居址

6．45号住居址



7．46号住居址



8．47号住居址

図 版 8

1．48号住居址

2．50号住居址

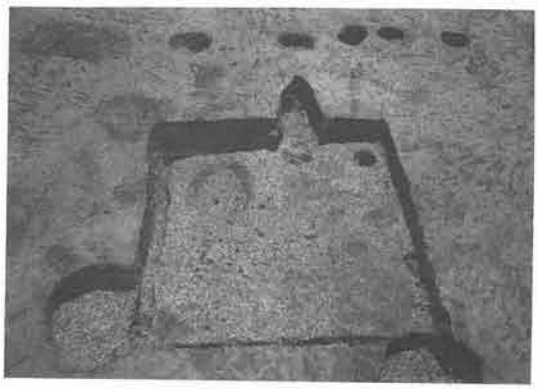
3．51号住居址

4．52号住居址

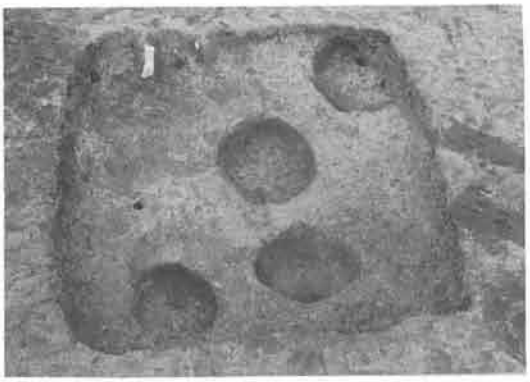
5．53号住居址

6．左54・右56号住居址

7．57号住居址



8．58号住居址



1．60号住居址

2．61号住居址

3．62号住居址

4．63号住居址

5．65号住居址

6．66号住居址

7．67号住居址

8．69号住居址

図 版 10

1．右70・左88号住居址

2．71号住居址

3．72号住居址

4．73号住居址

5．74号住居址

6．75号住居址

7．76号住居址

8．77号住居址

1．78号住居址

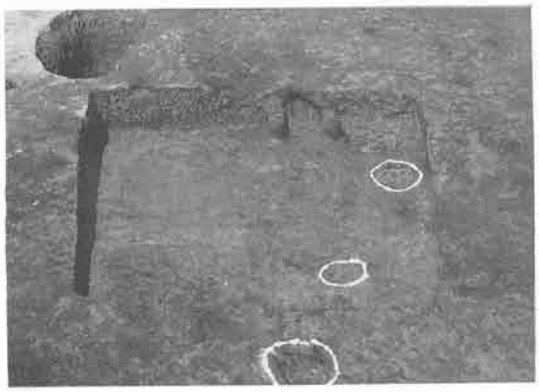
2．左80・上79号住居址

3．81号住居址

4．82号住居址

5．83号住居址

6．左84・右85号住居址



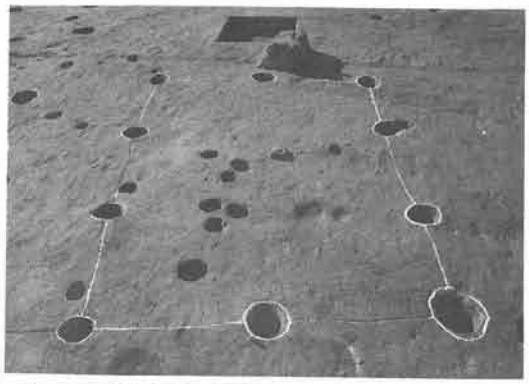
7．86号住居址

8．87号住居址

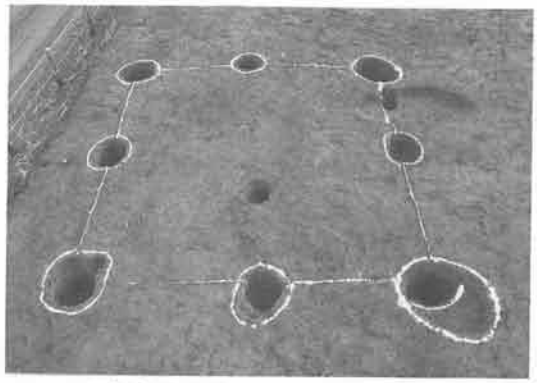
図 版 12

1．左上89・左下64・中央90号住居址

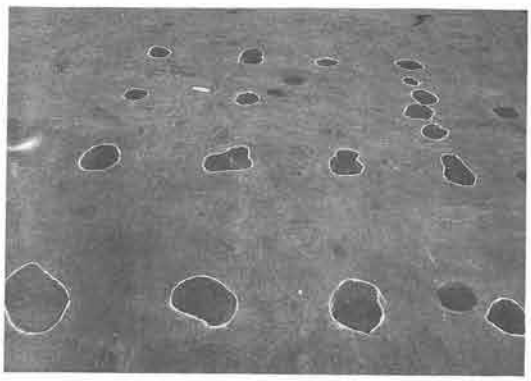
2．91号住居址



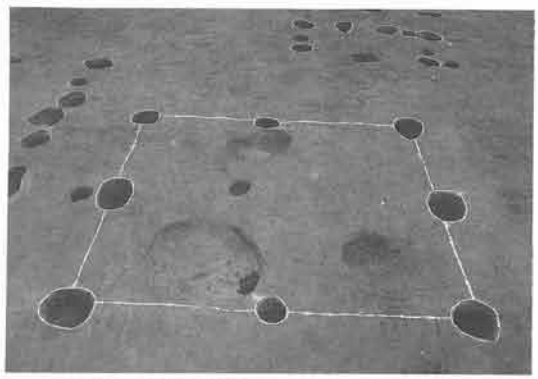
3．1号掘立柱建物址



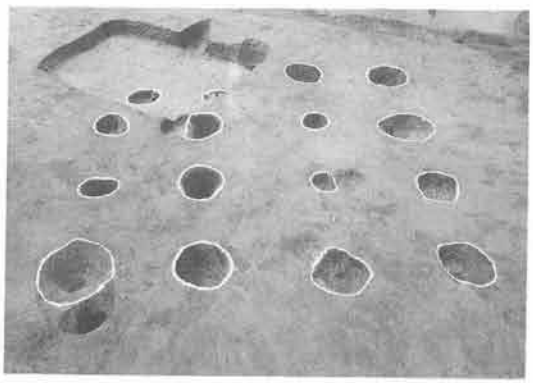
4．3号掘立柱建物址



5．5号掘立柱建物址



6．8号掘立柱建物址



7．9号掘立柱建物址

8．10号掘立柱建物址

1．1号井戸

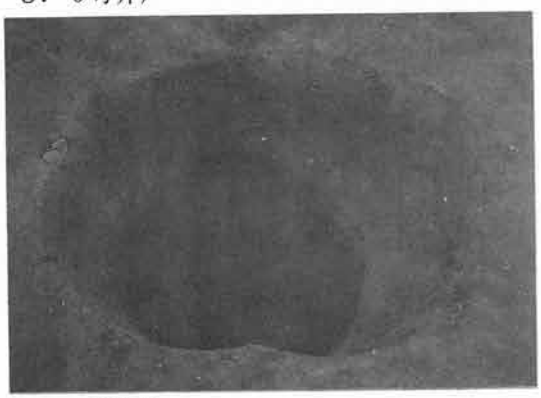
2．2号井戸断面

3．3号井戸

4．5号井戸

5．6号井戸

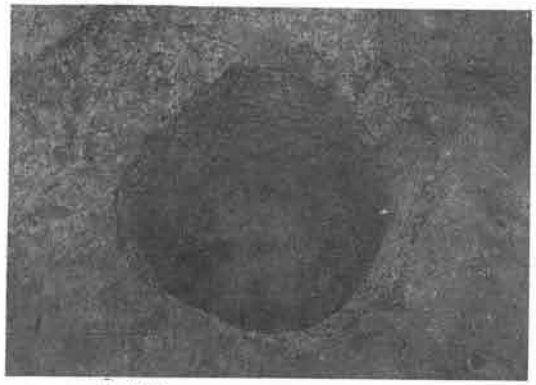
6．13号井戸



7．35号土坑

8．72号土坑

図 版 14

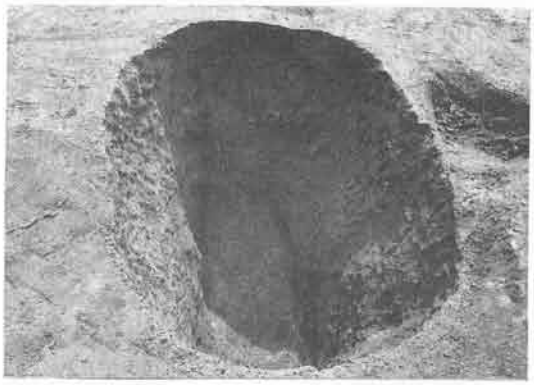


1．64号土坑

2．75号土坑

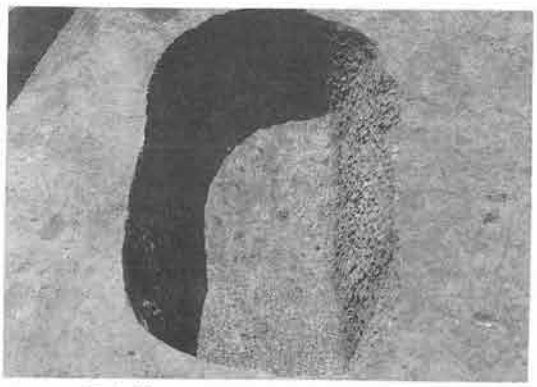
3．76号土坑

4．78号土坑

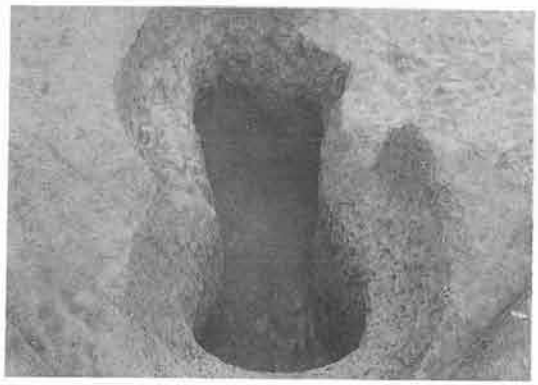


5．83号土坑

6．84号土坑



7．85号土坑



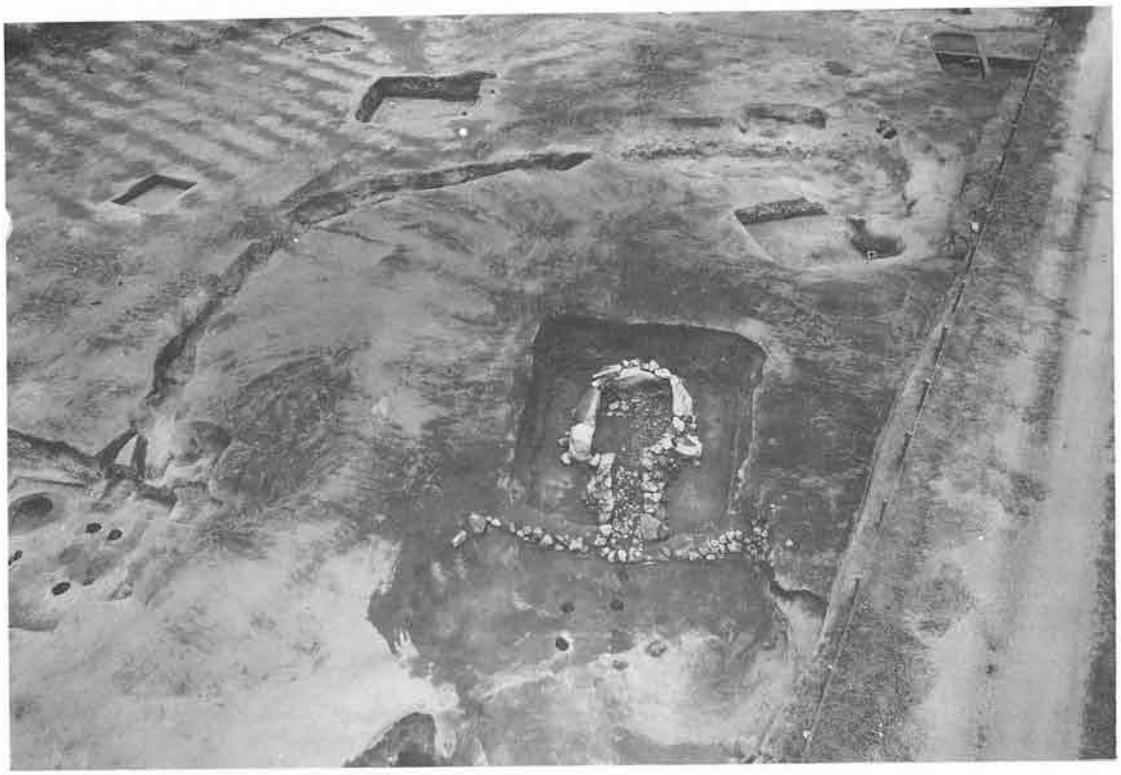
8．87号土坑

1．90号土坑遺物出土状況

1　2．90号土坑

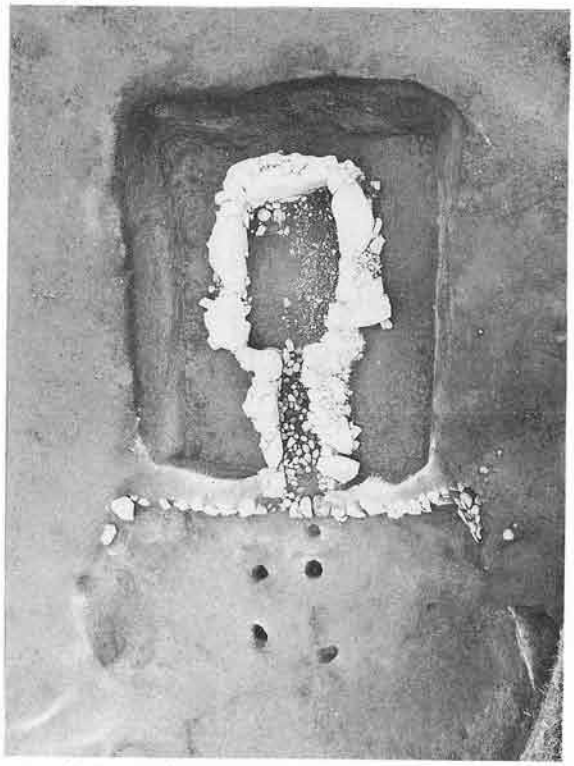
3．炭　窯

4．柵　列



5．古墳全景

図 版 16



1．古墳・石室

2．古墳・周溝北側断面

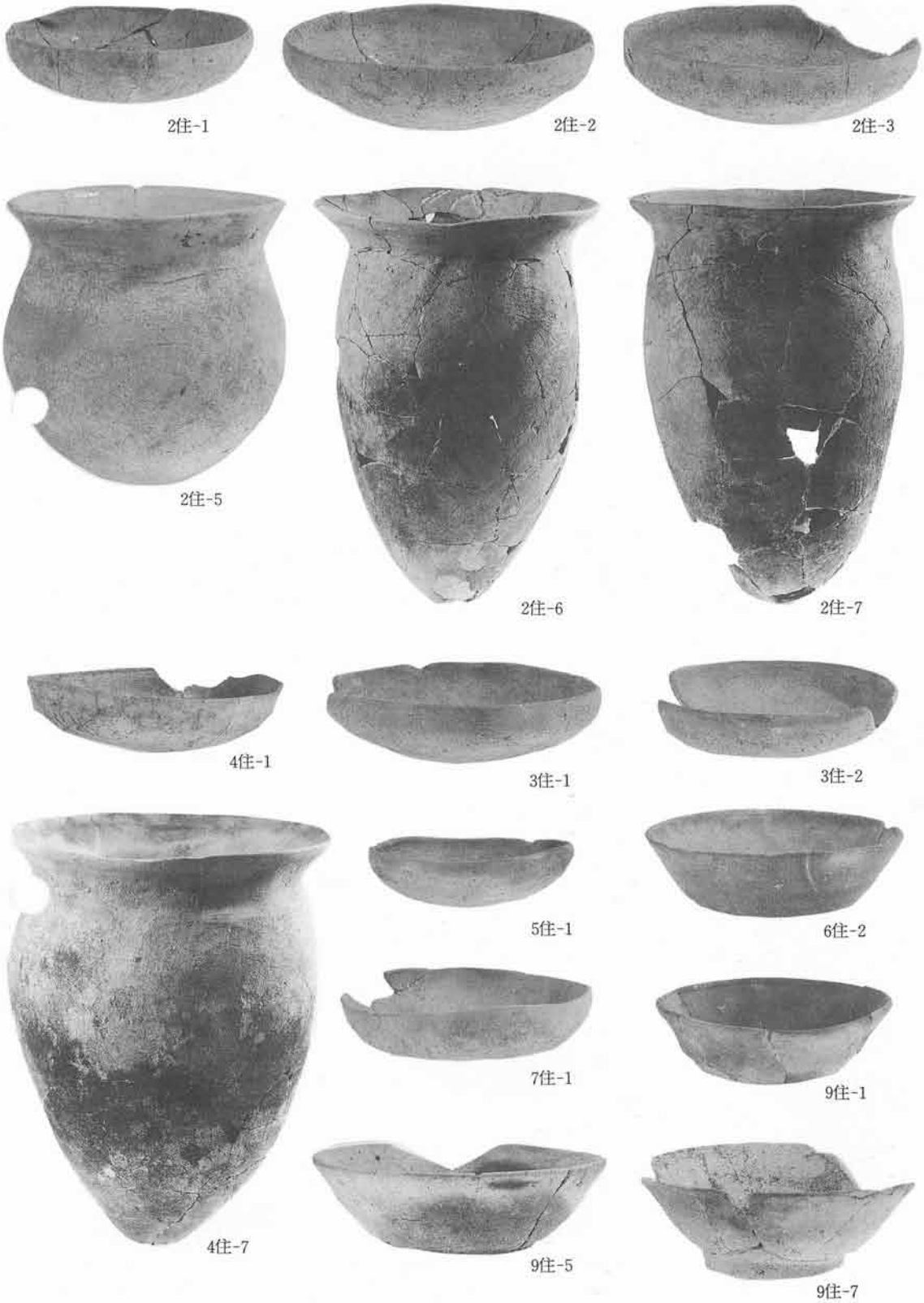
3．古墳・前庭断面

4．古墳・前庭遺物出土状況（1）

5．古墳・前庭遺物出土状況（2）

6．古墳・石室掘り方

7．古墳・石室奥壁



2・3・4・5・6・7・9号住居址出土遺物

図 版 18

11住-1

16住-1

16住-2

20住-1

20住-2

20住-4

21住-1

23住-1

24住-1

26住-1

26住-2

29住-1

33住-1

33住-2

33住-3

33住-5

35住-5

35住-6

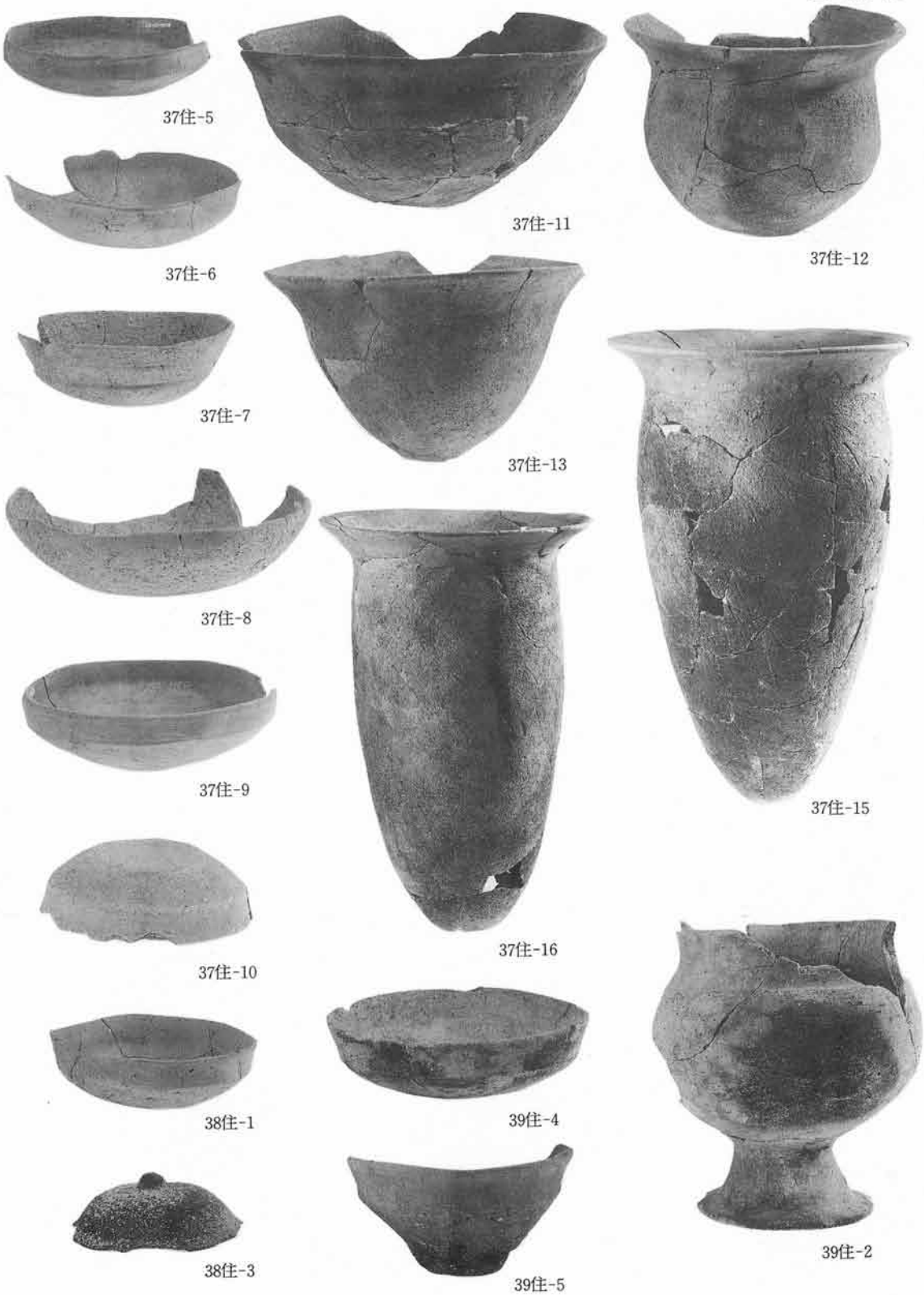
37住-1

37住-2

37住-3

37住-4

11・16・20・21・23・24・26・29・33・35・37号住居址出土遺物



37・38・39号住居址出土遺物

図 版 20

39住-6

39住-7

39住-8

39住-9

39住-11

39住-12

40住-3

41住-1

41住-2

41住-4

41住-7

41住-8

42住-1

44住-2

45住-1

39・40・41・42・44・45号住居址出土遺物

48住-6

48住-8

48住-12

48住-13

48住-9

48住-17

50住-1

52住-1

52住-5

52住-6

57住-3

60住-1

60住-2

60住-4

62住-1

62住-2

63住-3

48・50・52・57・60・62・63号住居址出土遺物

図 版 22

65住-1

65住-9

74住-1

65住-10

65住-11

74住-2

74住-3

86住-1

82住-4

75住-5

86住-3

79住-1

82住-6

86住-4

79住-2

82住-7

86住-5

91住-2

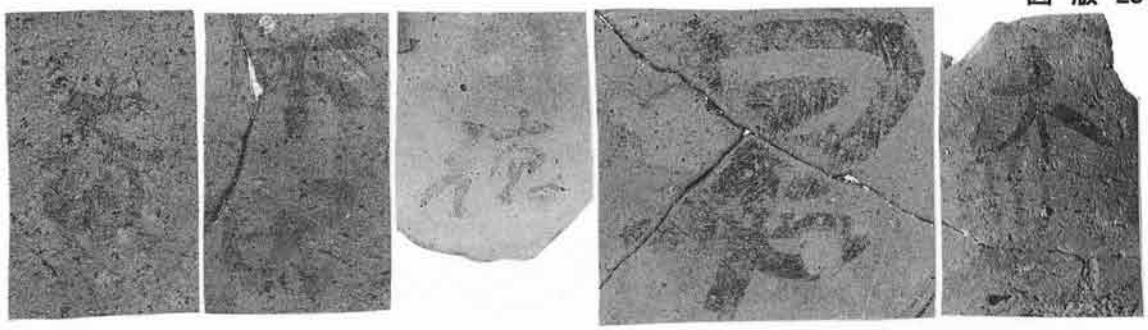
84住-1

86住-6

91住-8

84住-4

65・74・75・79・82・84・86・91号住居址出土遺物



11住-1　26住-2　66住-2　75住-3　91住-1

48住-20

57住-13

63住-5

65住-16

65住-17

66住-4

81住-7

65住-18

44住-4

48住-19

60住-6

62住-6

82住-9

57住-14

9住-14

20住-5

65住-19

81住-8

81住-9

35住-8

48住-18

住居址出土墨書土器・石製品・鉄製品・木製品

図 版 24

90土-4

90土-5

90土-6

90土-20

90土-23

90土-25

90土-26

90土-32

13井-1

2井-1

10井-1

90土-11

90土-12

90土-22

井戸・土坑出土遺物

古前-1

古前-2

古前-3

古前-7

古前-8

古前-5

古前-6

古前-9

古周-1

古周-2

古周-17

古周-18

古周-19

石室-1

古 墳 出 土 遺 物

図 版 26

87土-1

7-1

7-2

7-3

7-4

7-5

7-6

7-7

7-8

7-9

7-10

8-1

8-2

8-3

8-4

8-5

8-6

8-7

8-8

8-12

8-14

7-11

縄文土器・石器・弥生土器

群馬県前橋市柳久保遺跡群Ⅵ
発掘調査報告書

昭和63年3月25日

発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
　　前橋市教育委員会
編　集　山武考古学研究所
印　刷　㈱文化総合企画
TEL. 0476 (24) 1563